

## 香淳皇后実録 卷六

昭和二十八年（西曆一九五三年）

五十歳

### 一月

一日 木曜日 午前九時四十五分より天皇と共に新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に表拝謁の間において、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子の祝賀を、表北の間において内閣総理大臣・衆議院議長等の祝賀をお受けになる。午後、天皇と共に表北の間において参議院議長・最高裁判所長官・外国交際官等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、元皇族・元王族、宮内庁次長始め総代、側近奉仕者の拝賀をお受けになる。皇太子は不例のため参内を取りやめる。また、宮内庁長官田島道治も風気のため新年の諸行事を欠席する。この度初めて、宮中の公式行事において打掛が使用され、皇后及び宣仁親王妃・崇仁親王妃が白襟紋付の上に打掛をお召しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報、佐藤栄作日記

昭和十六年における新年の祝電交換国のうち、国交を回復したベルギー国・スペイン国・英国・ノル

昭和二十八年一月

ウエー国・オランダ国・スウェーデン国の元首に対し、天皇、あるいは天皇・皇后から新年の祝電をお送りになる。英国女王及びオランダ国女王との祝電の御交換は天皇・皇后との間で行われ、以後、英国女王とは昭和六十三年まで、オランダ国女王とは昭和三十四年まで御交換になる。○外交慶弔録、宮内庁庁報

二日 金曜日 天皇と共に宮内庁庁舎正面玄関上のバルコニーに午前二回・午後三回の計五回お出ましになり、庁舎前に参集した参賀者の祝賀にお応えになる。皇后は和服をお召しになる。なお、この年より一月二日に一般参賀者の新年参賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、朝日新聞、読売新聞

午前、天皇と共に表拝謁の間において、元奉仕者の拝賀をお受けになる。この年の拝賀者の範囲は、元宮内次官・元宮内府次長・元宮内庁次長、元侍従長・元侍従次長・元侍従、元侍医、元女官、元侍従武官長・元侍従武官等及び元皇后宮大夫である。なお、元奉仕者のみの新年拝賀はこの年が嚆矢となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三日 土曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇霊殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

天皇と共に表拝謁の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族の拝賀をお受けになる。引き続き、久邇侁子<sup>御</sup>・伏見朝子<sup>故博義</sup>・梨本伊都子<sup>故守正</sup>・北白川祥子<sup>故永久</sup>の拝賀をお受けになる。午後も同所において北白川房子<sup>故成久</sup>の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後八時頃、天皇と共に御文庫において、侍従入江相政より雍仁親王の容体についてお聞きになる。九時には、鵜沼の秩父宮別邸より帰京した元侍医頭八田善之進の拝謁をお受けになり、雍仁親王の容体についての報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

四日 日曜日 午前二時二十分、雍仁親王が鵜沼の秩父宮別邸にて薨去する。八時三十五分御出門、天皇と共に同邸に行啓される。御到着後、雍仁親王とお別れの対面をされ、午後零時五分還啓される。

天皇はこの日より三十日<sup>第一期十日、第二期二十日</sup>服喪され、皇后は十日服喪される。これに伴い、十二日に御予定の講書始の儀、十四日に御予定の歌会始の儀は御喪明けまで延期される。また、皇后は七日に予定されていた米国ラドガー大学教授セルマン・アブラハム・ワックスマン及び同夫人の御引見をお取りやめになる。

雍仁親王は、大正天皇の第二皇子で、母は貞明皇后である。明治三十五年六月二十五日に誕生し、幼少時の称号は淳宮である。大正十一年六月、成年に達し秩父宮の宮号を下賜され、十月二十五日には大勲位菊花大綬章を授けられる。また同年七月陸軍士官学校を卒業、十月陸軍歩兵少尉となり、以後累進して、昭和二十年三月陸軍少将に任じられる。この間、昭和三年に英国駐劄特命全權大使松平恒雄第一女子節<sup>勢津子と改名</sup>と結婚、九年に満洲国皇帝即位の慶賀のため同国に赴き、十二年には天皇の御名代として英国国王ジョージ六世の戴冠式に参列し、西欧諸国を歴訪する。また日英協会・日本陸上競技連盟等の総裁を務め、国際親善や体育振興などに力を注ぐ。十五年以降、胸部疾患により神奈川県三浦郡葉山町・静岡県駿東郡御殿場町・神奈川県藤沢市鵜沼の別邸にて長期療養中のところ、昨年十二月より容体が悪化し、この日薨去した。享年五十。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

昭和二十八年一月

故雍仁親王薨去関係書類、雍仁親王喪儀録、幸啓録、皇親録、贈賜録、謁見録、宮内庁庁報、官報、稲田周一関係資料、墓誌銘録

雍仁親王薨去につき、午後、天皇と共に御文庫において、宮内庁職員総代の侍従長・侍従次長より御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 月曜日 午前、天皇と共に御文庫において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。終わって、天皇及び皇太子・正仁親王と御昼餐を御会食になる。以後、この年も、皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

六日 火曜日 午前九時五分御出門になり、天皇と共に鶴沼の秩父宮別邸に行啓される。御到着後、雍仁親王の遺骸に御永訣になる。午後零時三十六分還啓される。なお、二時より御舟入の儀が行われる。儀に当たり、天皇・皇后から霊前に切り花・盛菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、故雍仁親王薨去関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

御文庫において、天皇及び正仁親王、雍仁親王薨去につき御機嫌伺いに参殿した池田厚子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

九日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、鷹司平通・同夫人和子と御対面になり、雍仁親王薨去につき御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

午後四時三分御出門になり、天皇と共に三番町の宮内庁分室故雍仁親王の  
霊柩を安置に行啓される。御到着後、正寝の間において天皇に続き故雍仁親王の霊柩に御拝礼になり、四時三十五分還啓される。なお、これに先立ち、同所において正寝移柩の儀が行われる。儀に当たり、天皇・皇后から霊前に盛菓子・榊を、皇后から切り花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、故雍仁親王薨去関係書類

類、幸啓録、宮内庁庁報

十日 土曜日 雍仁親王薨去につき、天皇・皇后の賜物使として侍従小畑忠を三番町の宮内庁分室に差し遣わされる。天皇・皇后より祭資を、皇后より白羽二重・櫛を故雍仁親王に御贈進になる。○女官

長日記、女官日誌、故雍仁親王薨去関係書類、皇親録

十一日 日曜日 午後三時四分御出門、天皇と共に三番町の宮内庁分室に行啓される。御到着後、正寝の間において故雍仁親王の靈柩に御拝礼になる。三時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、故雍仁親王薨去関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

夕刻、宮内庁分室において故雍仁親王靈代安置の儀が行われる。皇后宮使として侍従徳川義寛を差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より菓子を、皇后より切り花を靈前にお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、故雍仁親王薨去関係書類、宮内庁庁報

十二日 月曜日 この日、故雍仁親王斂葬の儀が行われる。これに先立ち、午前、三番町の宮内庁分室において斂葬当日柩前祭の儀が行われ、皇后宮使として侍従山田康彦を差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、豊島岡墓地において行われた葬場の儀には、皇后宮使として侍従次長稲田周一を差し遣わされ、玉串をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇親録、故雍仁親王薨去関係書類、慶弔録、宮内庁庁報、官報

十三日 火曜日 午後一時四十八分御出門、天皇と共に豊島岡墓地に行啓される。御到着後、天皇に続いて雍仁親王墓を御拝礼になる。二時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、故雍仁親王薨去関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

昭和二十八年一月

十四日 水曜日 故雍仁親王の喪儀終了につき、午前、天皇・皇后が御使として侍従長三谷隆信を高松宮邸に差し遣わされ、この度の喪儀に対する尽力に対する思召しを宣仁親王に伝達させられ、また、宣仁親王・同妃喜久子それぞれに洋服地を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、故雍仁親王薨去関係書類

この日午後に故雍仁親王の霊代を宮内庁分室より鶴沼の秩父宮別邸へ遷すに当たり、お見立てのため、天皇・皇后が御使として女官長保科武子を宮内庁分室へ差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、故雍仁親王薨去関係書類

二十日 火曜日 午後一時三十一分御出門、鶴沼の秩父宮別邸に行啓される。御到着後、故雍仁親王妃勢津子のお出迎えをお受けになる。御少憩後、権舎に御拝礼になる。四時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、故雍仁親王薨去関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 故雍仁親王二十日祭に当たり、終日御文庫においてお過ごしになる。また午前、権舎二十日祭の儀につき、天皇・皇后より権舎鶴沼の秩父宮別邸に盛菓子・切り花をお供えになる。午後、豊島岡墓地において墓所二十日祭の儀が行われる。祭典後、天皇・皇后が非公式の御使として侍従職御用掛今城誼子と同親王墓に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、故雍仁親王薨去関係書類

二十四日 土曜日 午前、内廷庁舎において日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになり、日本赤十字社の近況についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 午前、内廷庁舎において、新任のカナダ国特命全権大使ロバート・ウェリントン・メイヒュー及び同夫人、イスラエル国特命全権公使ジョゼフ・アイザク・リントン、ユーゴスラビア

国特命全権公使マクソン・バーチェ及び同夫人、ベネズエラ国特命全権公使カルロス・ロドリゲス・ヒメネスを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁序報

二十七日 火曜日 午前、天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、第一期

喪明けにつき同妃よりお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

故雍仁親王薨去関係書類

二十八日 水曜日 午前、天皇と共に謁見所において、フィリピン国代表代理トーマス・G・デ・カストロ及び同夫人、大韓民国代表公使金溶植及び同夫人、インドネシア国総領事ザイナル・アビディン及び同夫人、フィンランド国総領事ラグナル・スメールツルンド及び同夫人を順次御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

正午過ぎ、天皇と共に表拝謁の間において、皇太子の英国御差遣並びに欧州・米国・カナダ国旅行に随行する首席随員三谷隆信<sup>侍従</sup>及び随員の拝謁をお受けになる。この度、皇太子は、来る六月に挙行される英国女王エリザベス二世の戴冠式に天皇の御名代として出席するため、同国に差し遣わされることとなった。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 木曜日 午前、天皇及び皇太子と共に奥三の間において、皇太子の英国御差遣並びに米国・フランス国・スペイン国・イタリア国・バチカン国・ベルギー国・オランダ国・ドイツ連邦共和国・デンマーク国・ノルウェー国・スウェーデン国・スイス国旅行の際に、各国元首等へ御贈進になる品々を御覧になる。その際、首席随員三谷隆信及び随員松井明より説明をお聞きになる。○侍従日誌、賜

与録、外交贈答録、稲田周一関係資料、田島道治日記

昭和二十八年二月

天皇と共に表一の間において、米國極東軍總司令官マーク・ウェイン・クラーク陸軍大将及び同夫人をお招きになって午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

三十一日 土曜日 午前、謁見所において、今般帰国する故在本邦フィリピン國代表ホセ・P・メレンシオ夫人カルメンを御引見になる。御引見に際し、夫人より麻製卓上敷きの献上がある。皇后からは後日銀製写真立てを賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮内庁序報

午後、吳竹寮にお出ましになり、鷹司和子と御対面になる。ついで貴子内親王と御対面になり、神戸絢の指導によるピアノの稽古の様子を御覧になる。以後、この年も、しばしば清宮御仮寓所・吳竹寮にお出ましになり、神戸絢の指導によりピアノの稽古をされ、また内親王の各種稽古の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

## 二月

一日 日曜日 午前七時五分、東久邇成子が宮内庁病院において第三男子を出産する。天皇と共に御文庫において、東久邇聡子より同稔彦御父邦彦王の弟入院中のお仕向けについてのお礼言上をお受けになった後、侍医塚原伊勢松より成子の出産の様子をお聞きになる。夕刻、貴子内親王と共に宮内庁病院にお出ましになる。御到着後、東久邇盛厚稔彦王の王子及び同子女のお出迎えをお受けになり、産室において成子及び誕生した男子と御対面になる。この日、天皇・皇后より東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料

を、東久邇盛厚・同夫人成子それぞれに三種交魚代料を、また同夫妻に菓子を賜う。この日誕生した男子は、七日に真彦なまひこと命名される。命名当日に、天皇・皇后より御使として女官雪井よし子を宮内庁病院に差し遣わされ、東久邇盛厚・同夫人成子に鮮鯛代料・白羽二重等を、真彦に鮮鯛代料・産衣代料を賜う。また、天皇・皇后より東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を、久邇侘子に三種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二日 月曜日 午前、故雍仁親王の権舎三十日祭の儀につき、天皇・皇后より権舎鶴沼の秩父宮別邸に盛菓子を  
お供えになる。午後、墓所三十日祭の儀につき、天皇・皇后が豊島岡墓地の墓所に榊をお供えになる。

祭典後、天皇・皇后が非公式の御使として女官原田リツを同親王墓に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、故雍仁親王薨去関係書類

三日 火曜日 雍仁親王薨去のため延期されていた講書始の儀が行われ、午前十時、天皇と共に表西の間において、同儀に臨まれる。日本学士院会員小泉信三より「福沢諭吉の『文明論之概略』について」、東京大学教授仁井田陞より「魯迅の作品『藤野先生』と『阿Q正伝』」、東京大学教授萩原雄祐より「最近の宇宙進化説」と題する進講をお聴きになる。なお、進講の分野は、これまで国書・漢書・洋書とされていたが、時勢の推移に鑑みてこれを廃止し、この年から日本学術会議法の分類に準じて人文科学・社会科学・自然科学とされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、講書始録、宮内庁序報、官報

天皇と共に御文庫において、宣仁親王・同妃喜久子と御夕餐を御会食になり、この度の雍仁親王喪儀に尽力した同親王・同妃の労をねぎらわれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 木曜日 雍仁親王薨去のため延期されていた歌会始の儀が行われ、午前十時、天皇と共に表西の間における同儀に臨まれる。この年のお題は「船出」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

めづらしきさちを得ませといのりつつ葉山の海に御舟おくりつ

儀終了後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、預選者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、歌会始録、宮内庁序報、官報

六日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、来る九日の允恭天皇千五百年式年祭に先立ち、

国学院大学教授武田祐吉より允恭天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

天皇と共に表一の間において、新任のインド国特命全権大使モハメッド・アブドウル・ラウフ及び同夫人、タイ国特命全権大使サガー・ニルカムヘエング及び同夫人、スイス国特命全権公使ラインハルド・ホール及び同夫人、イスラエル国特命全権公使ジョゼフ・アイザク・リントンをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

夕刻、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

七日 土曜日 天皇と共に表一の間において、新任の中華民国特命全権大使董頭光及び同夫人、ベルギー国特命全権大使ギイ・ドウ・スクテート・ドウ・テルヴァレン及び同夫人、トルコ国特命全権大使イゼット・アクサルル及び同夫人、ドミニカ共和国特命全権公使レオンテ・グスマン・サンチェス

及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。なお、後日、董大使夫人より皇后に「No More Hiroshinus」の曲譜が献上される。これに対し、皇后から謝意を同夫人に伝えるよう御下命があり、二十三日付にて女官長より同夫人に伝達される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、

宮内庁庁報

八日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、宣仁親王妃喜久子と御対面になる。同妃は、昨日に行われた熾仁親王妃董子三十年祭に天皇・皇后からお供えがあったことに対するお礼言上のために参加した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

九日 月曜日 午前、允恭天皇千五百年式年祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十一日 水曜日 葉山御用邸に天皇と共に行啓のため、午後二時八分御出門、三時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 故雍仁親王四十日祭に当たり、午前十時六分葉山御用邸を御出門、天皇と共に鶴沼の秩父宮別邸に行啓される。御休所において故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面の後、天皇に続き権舎において故雍仁親王の霊代に御拝礼になる。十一時五十八分御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、雍仁親王喪儀録、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

十三日 金曜日 午後、天皇と共に元侍従長百武三郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。以後、この

昭和二十八年二月

年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓関係書類

十六日 月曜日 葉山御用邸より天皇と共に還啓のため、午後二時三十分御出門、三時五十五分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

啓録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 葉山御用邸に天皇と共に行啓のため、午後二時二分御出門、四時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午後、天皇と共に、皇太子英国御差遣の打合せのために帰国した英国駐劄特命全權大使松本俊一より同国事情等についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類綴

十九日 木曜日 午後、天皇と共に、元皇后宮大夫広幡忠隆の拝謁をお受けになる。広幡よりこの日の衆議院行政監察特別委員会に出席し証言したことについてお聞きになる。本件は、去る昭和十九年に政府が国民に貴金属の供出を命じた際、供出奨励の思召しにより皇太后<sup>貞明</sup>・皇后から下げ渡された

宝石等の所在が、戦後不明になったことが問題とされたことによる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、葉山行幸啓関係書類、稲田周一関係資料、国会会議録

タイ国王妃シリキットの御父ナカツト<sup>ラーマ五世の王子、同国枢密院顧問官</sup> 去る十一日薨去につき、天皇・皇后より同国王

ラーマ九世<sup>フミボン・アドゥ</sup>及び王妃へ弔電をお送りになる。これに対し、二十四日に天皇が答電をお受け

になる。○外交慶弔録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 葉山御用邸より天皇と共に還啓のため、午後二時三十一分御出門になり、三時五十分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

二十一日 土曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、侍従職御用掛今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 日曜日 故雍仁親王五十日祭に当たり、午前、皇后宮使として侍従入江相政を権舎五十日祭の儀が行われる鶴沼の秩父宮別邸へ差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后から権舎に盛菓子・榊のお供えがある。午後には、皇后宮使として侍従徳川義寛を墓所五十日祭の儀が行われる豊島岡墓地へ差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后から墓所に榊のお供えがある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、雍仁親王喪儀録、故雍仁親王薨去関係書類、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 天皇と共に表一の間において、新任のカナダ国特命全権大使ロバート・ウエリントン・メイヒュー及び同夫人、ユーゴスラビア国特命全権公使マクソ・バーチエ及び同夫人、ベネズエラ国特命全権公使カルロス・ロドリゲス・ヒメネスをお招きになって午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

社会福祉法人慈生会理事長フランシス・ヨゼフ・フロジャックより、雍仁親王の薨去を悼む旨の書簡一月三十日付が天皇・皇后宛てに寄せられる。併せて『ベタニアの家事業年鑑』第六号の献上がある。これに対し、天皇・皇后から謝意を同人に伝えるよう御下命があり、この日、式部官長より同人に礼状が送られる。○外交贈答録

昭和二十八年三月

二十七日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、故雍仁親王五十日祭が滞りなく終了したことのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職

日誌、内舎人日誌

この月 恒例により大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・水薬師寺・長福寺・善光寺に乾海苔料を賜う。○贈賜録

### 三月

二日 月曜日 午前、天皇と共に謁見所において、アカデミー・フランセーズ会員ジュール・ロマン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁報告子内親王の誕生日につき、夕刻、天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日誌

五日 木曜日 午前、御文庫において、退院後初参殿の東久邇成子と御対面になり、出産に伴う賜品等につきお礼言上をお受けになる。途中より天皇も加わられる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日誌

六日 金曜日 この日、満五十歳のお誕生日を迎えられる。

午前、表拝謁の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで表西の間において、皇太子始め皇族、元皇族、元王族、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、表拝謁の間において御縁

故者、続いて元皇太后宮女官等、元奉仕者、御学友・御同級生三名、元久邇宮侍女滝野繁尾、元東宮職侍女三名の拝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員等の奉拝を順次お受けになる。ついで旧御進講室において、元皇后宮女官・元侍女等と御談話になる。

夕刻、御文庫において、正仁親王・貴子内親王より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、儀式録、典式録、儀式記事集、宮内庁庁報

九日 月曜日 午前、天皇と共に謁見所において、米国アマースト大学総長チャールズ・W・コール

及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

十日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所において、フランス国元首相ポール・レイノー及び同夫人を

御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表北の間において、皇太子英国御差遣並びに欧州・米国・カナダ国旅行に係る各国の大使・公使をお招きになって午餐を催される。皇太子も陪席する。出席した者は、フランス国特命全権大使モーリス・ドジャン、英国特命全権大使エスラー・デニング、イタリア国特命全権大使ブラスコ・ランサ・ダイエツタ・デイ・トラビア及び同夫人、米国特命全権大使ロバート・ダニエル・マーフィー及び同夫人、オランダ国特命全権大使P・E・テッペマ及び同夫人、ベルギー国特命全権大使ギイ・ドウ・スクテート・ドウ・テルヴァレン及び同夫人、カナダ国特命全権大使ロバート・ウエリントン・メイヒュー及び同夫人、ローマ法王庁特命全権公使マキシミアン・ドウ・フルステンベルグ<sup>大司教</sup>、スウェーデン国特命全権公使カール・グスタフ・ラーゲフェルト及び同夫人、ノルウェー国特命全権公使クリスチャン・プラーレル・ロイシュ、スイス国特命全権公使ラインハルド・ホール及

昭和二十八年三月

び同夫人、ドイツ連邦共和国臨時代理大使ハインリッヒ・ノルテ及び同夫人、スペイン国臨時代理大使ホセ・アントニオ・バレンチャナ・イ・パテルナイン及び同夫人である。なお、招待者のうちデンマーク国特命全権公使ラーズ・P・テイリッツェ及び同夫人は欠席した。御食後、表東二の間において大使・公使等と御談話の節、皇后はオランダ国特命全権大使夫人とレース製法について御会話になる。翌十一日付にて、同大使より皇后に同大使夫人手製のティール・クロース、サーヴィエツト<sup>テーブル用、ナプキン</sup>レース製作用の糸巻が献上される。これに対し、皇后から謝意を伝えるよう御下命があり、十九日付にて式部官長から同大使に伝達される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、

謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 去る二月一日より開催中の「近代洋画の歩み——西洋と日本」展を御覧になるため、午後一時三十六分皇太子を伴われて御出門、京橋の国立近代美術館に行啓される。御到着後、四階使殿において同館館長岡部長景の拝謁をお受けになる。続いて通路にて評議員・運営委員の拝謁をお受けになる。ついで同館次長今泉篤男の説明により、一階にて彫刻、二階にて外国人の作品、三階にて日本人の作品を御鑑賞になる。三時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓

録、宮内庁庁報、国立近代美術館年報、近代洋画の歩み

十三日 金曜日 秩父宮・高松宮・三笠宮が主催する皇太子英国御差遣並びに欧州・米国・カナダ国旅行の歓送会に御臨席のため、午後四時五十一分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。皇太子及び正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子、東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司平通・同夫人和子が出席する。八時四十五分還啓される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十四日 土曜日 午前、御文庫において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、昨十三日の光輪閣行幸啓につきお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌

午後、貴子内親王と共に、この度同内親王が移居する清宮御仮寓所を御覧になる。○女官日誌

十七日 火曜日 夕刻、天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、海外旅行より帰国の挨拶のため参亭した大谷光暢・同夫人智子<sup>御妹</sup>及び同子女三名と御対面になる。ついで天皇及び大谷夫妻と御夕餐を御会食になる。大谷夫妻は昭和二十七年六月に欧米旅行へ出発し、途上、十二月二十七日に大谷光暢がローマ法王ピウス十二世に謁見した際、法王より天皇・皇后の御健康及び皇室と日本国民の繁栄を祈る旨が伝えられた。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、外交雑録

十九日 木曜日 午後、ヴァルター・ギーゼキングのピアノ演奏会に御臨席のため、皇太子・貴子内親王と共に楽部にお出ましになる。御到着後、演奏室においてギーゼキング及び同夫人に御握手を賜う。ついでブラームス作曲「三つの間奏曲」、ベートーヴェン作曲ピアノソナタ第十四番「月光」などをお聴きになる。終わって、御休所においてギーゼキング及び同夫人、並びにマネージャーにお言葉を賜う。また、ギーゼキングにお品を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、読売新聞

二十日 金曜日 午前、宮内庁庁舎において、日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、宮内庁庁報

この日、虎の門共済会館講堂において南方諸島戦没者追悼式が挙行されるにつき、天皇・皇后より生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

昭和二十八年三月

二十一日 土曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日

誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 日本赤十字社第一回通常代議員会に御臨席のため、午前十時十三分御出門、日本赤十字社本社に行啓される。御到着後、便殿において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、ついで厚生大臣山県勝見・東京都知事安井誠一郎・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長葛西嘉資の拝謁をお受けになる。終わって会場にお出ましになる。社長による開会の辞に続き、有功章受章者総代七名・特別社員章受章者総代六名にそれぞれ各章を御親授になる。終わって、次の令旨を賜う。

本日茲に日本赤十字社の第一回通常代議員会に臨んで博愛奉仕の志を同じうする多数の人々と会することはまことに嬉しく思います。

新しく社法によつて再発足を見た日本赤十字社は一層世界平和の確立と人類福祉の増進に貢献し国民の期待に副わなければならないと考えます。

社員及び役職員は益々社業の発展を期して今後一段の努力をせられるよう望んで止みません。ついで、社長の奉答をお受けになる。御退場後、記念写真の撮影をお受けになり、十一時十分還啓される。午後三時二十四分再び御出門、帝国ホテルに行啓され、日本赤十字社組織変更披露お茶会に御臨席になる。四時六分還啓される。なお、この日の代議員会において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃、崇仁親王・同妃百合子が同社名誉副総裁に推戴された。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 午前、天皇と共に御文庫において、東宮大夫野村行一及び東宮教育担当の参与小

泉信三より皇太子の諸事についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

去る二月一日に誕生した東久邇真彦の初参内につき、天皇と共に御文庫において、東久邇盛厚及び同夫人成子・同子女の文子・秀厚・真彦と御対面になる。ついで御昼餐を御会食になる。真彦の初参内につき天皇・皇后より東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を、東久邇盛厚・同夫人成子につき東久邇真彦に洋服地等を、東久邇成子に洋服地等を賜い、翌四月に小学校に入学する東久邇文子にお品を賜う。なお、拝謁に先立ち、真彦は賢所・皇靈殿・神殿に参拝する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

昨二十四日に英国太皇太后メアリーが崩御したことを受け、この日より二十九日まで五日の宮中喪が発せられる。また、天皇・皇后は英国女王エリザベス二世に弔電を發せられ、これに対し三十日に答電がある。二十六日には、皇后が弔問使として侍従職御用掛高木多都雄を英国大使館に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交慶弔録、慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十六日 木曜日 午後、旧御進講室において、近日結婚する三条西洋子御妹故信子の息女及びその母治子の拝謁をお受けになる。また、三条西公正及び同夫人治子に小浜縮緬及び万那料を、洋子に緋紋縮緬・万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二時十八分御出門、常盤松の東宮仮御所に行啓される。御到着後、皇太子及び先着の貴子内親王と御対面になり、ついで皇太子の外遊用荷物を御覧になる。四時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、稲田周一関係資料

昭和二十八年三月

二十七日 金曜日 皇太子英国御差遣並びに欧州・米国・カナダ国旅行につき、天皇と共に表西の間において、菊栄親睦会会員をお招きになり皇太子送別の午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、朝日新聞、毎日新聞

午後、天皇と共に表御座所において、参与小泉信三・皇子傳育官東園基文の拝謁をお受けになり、正仁親王の成績、及び来年度の同親王の寄宿舎入所に関してお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、稲田周一関係資料

二十八日 土曜日 常盤松の東宮仮御所に行啓のため、午後五時四十七分天皇と共に御出門になる。御到着後、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、鷹司平通・同夫人和子、池田隆政・同夫人厚子と共に、皇太子の送別の晩餐に臨まれる。八時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、宮内庁

庁報

還啓後、この日御文庫に設置されたテレビを天皇と共に御覧になる。なお、日本におけるテレビ放送は去る二月一日に日本放送協会<sup>NH</sup><sub>K</sub>により開始された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、昭和

三十日 月曜日 この日、皇太子が英国御差遣並びに欧州・米国・カナダ国旅行に出発するに当たり、旧御進講室において、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王、鷹司平通・同夫人和子、池田隆政・同夫人厚子と御昼餐を御会食になる。午後、天皇及び皇太子と共に宮内庁舎正面玄関において、新聞社による写真撮影をお受けになる。ついで皇太子をお見送りになる。

その後、天皇と共に御文庫において、皇太子が横浜港を出港する模様をテレビ放送にて御覧になる。

御夕餐後、首席随員三谷隆信より、領海を離れるに当たり皇太子からの天機並びに御機嫌奉伺を伝える旨の電報をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、皇太子殿下御旅行関係書類

天皇と共に御文庫において、翌三十一日と歌山県の旅行に出発する貴子内親王と御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

三十一日 火曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御座所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。同妃より、皇太子出発のお祝いと、昨日まで度々祝宴に招かれたことについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

この日、霞ヶ関のチャペル・センターにおいて故英国太皇太后メアリーの弔祭式が執行され、皇后の御名代として宣仁親王妃喜久子を差し遣わされる。夕刻、天皇と共に御文庫において、天皇の御名代を務めた宣仁親王、及び皇后の御名代を務めた宣仁親王妃と御対面になり、復命をお受けになる。また同日英国にて執行の葬儀に、天皇・皇后は柩前に花環をお供えになり、御使として英国駐劄特命全權大使松本俊一を参列させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、慶弔録、外交贈答録、外交慶弔録、賜与録、宮内庁庁報

#### 四月

一日 水曜日 午前、内廷庁舎において、この日侍従に任じられた穂積重道の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

昭和二十八年四月

二日 木曜日 午前、天皇と共に謁見所において、近く賜暇帰国するノルウェー国特命全権公使クリスチャン・プラール・ロイシュを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、近く離任するオランダ国特命全権大使P・E・テツペマ及び同夫人をお招きになつて午餐を催される。なお、三月十日に開催された午餐の後、同大使より同夫人手製のレースが献上されたことを受け、皇后より同夫人にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、贈賜録、宮内庁庁報

午後、旧北御車寄門内において、全国都道府県議会婦人議員会議に参会する議員に御会釈を賜う。

○女官長日記、女官日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

三日 金曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

四日 土曜日 昭和二十八年度植樹行事に御臨場のため、天皇と共に千葉県君津郡富津町に行啓される。午前十時二十分御出門、両国駅より青堀駅を経て、植樹行事会場である富津海岸の富津植栽地に御到着になる。お野立所に進まれ、天皇に続き、国土緑化推進委員会副委員長河井弥八参議院議員・千葉県知事柴田等の介添えにより、クロマツの苗三本をお手植えになる。午後四時三十七分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、河井弥八日記、疾風怒濤

七日 火曜日 御朝食前、天皇と共に御文庫において、外遊中の皇太子がホノルルに到着した旨を伝

えるラジオ放送をお聞きになる。以後、皇太子が帰国するまでの間、天皇及び皇族・元皇族等と共に、皇太子の動静を伝える各種メディアを実況、もしくは録画にて御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌

午後、正仁親王を伴われ花蔭亭にお出ましになり、花見にお招きになった伏見朝子・閑院直子・竹田光子・李方子守正王の王女と御歓談になる。その後、お揃いにて皇居内を御散策になり、義宮御殿においてお茶を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

正仁親王を伴われ、貴子内親王の御仮寓所にお出ましになる。なお貴子内親王はこの日呉竹寮から清宮御仮寓所に移転した。移転につき、貴子内親王に対し天皇・皇后から万那料が、皇后から御直筆の御歌の短冊及びバラを描いた色紙の掛額並びにお品が贈られる。○女官長日記、女官日誌、重要雑録

八日 水曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、花見にお招きになった久邇侁子・梨本伊都子・賀陽敏子恒憲王妃と御対面になる。その後、お揃いにて皇居内を御散策になり、義宮御殿にお戻りになる。ついで正仁親王も交え、お茶を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 金曜日 御昼餐前、天皇と共に御文庫において、この日退官の女官小倉満子及び新任の女官金城誼子元侍従職御用掛の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、贈賜録、宮内庁庁報

午後、ヨーゼフ・シゲテイのヴァイオリン演奏会に御臨席のため、楽部にお出ましになる。御到着後、シゲテイを御引見になる。その後、先着の正仁親王、久邇朝融御兄と共に、アンコールまでの演奏をお聴きになる。終わって、御休所において毎日新聞社社長本田親男及び同夫人の拝謁をお受けになる。

ついでシゲテイ及び伴奏者カルロ・ブツテイと御握手になり、お言葉を賜う。また、シゲテイ及びブツテイにそれぞれお品を賜う。○女官長日記、女官日記、内舎人日記、幸啓録、稲田周一関係資料

十一日 土曜日 虫垂炎のため岡山大学医学部附属病院に入院し手術を受けた池田厚子に対し、天皇・皇后よりお見舞いとして果物料を賜う。○贈賜録

十三日 月曜日 故雍仁親王百日祭につき、午前、皇后宮使として侍従徳川義寛を権舎百日祭の儀が行われる鶴沼の秩父宮別邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后から権舎に榊・盛菓子のお供えがある。午後、皇后宮使として侍従山田康彦を墓所百日祭の儀が行われる豊島岡墓地に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后から墓所に榊・果物のお供えがある。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、皇親録、故雍仁親王薨去関係書類、宮内庁序報

十四日 火曜日 午前、天皇と共に皇后宮御進講室において、竹田恒徳・同夫人光子の拝謁をお受けになる。日本スケート連盟会長である竹田はイタリア国にて開催される国際スケート連盟総会に出席するため、夫人を伴い翌十五日出発し、七月十日帰国する。なお、天皇・皇后より竹田恒徳に万那料を、同夫人にお品を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、贈賜録、菊と星と五輪

天皇と共に謁見所において、在本邦ポルトガル国代表ヴィルジリオ・アルマンド・マルティンス、在本邦フィリピン国代表公使ホセ・F・イムペリアルを順次御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、謁見録、典式録、宮内庁序報

午後一時五十分御出門、天皇と共に豊島岡墓地に行啓される。御到着後、天皇に続き祐子内親王墓を御拝礼になる。ついで天皇に続き雍仁親王墓を御拝礼になり、玉串をお供えになる。二時三十二分還

啓される。後刻、天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 午前、御進講室において、小泉信三よりソビエト共産主義の推移についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、稲田周一関係資料

十七日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、侍従次長稲田周一の拝謁をお受けになり、御文庫修繕工事を行う場合に呉竹寮を御仮寓所とされるのが適切である旨をお聞きになる。○女官日誌、侍従

日誌、稲田周一関係資料

二十日 月曜日 天皇と共に表一の間において、近く離任する米国特命全権大使ロバート・ダニエル・マーフィー及び同夫人・同息女をお招きになって午餐を催される。なお離任に際し、皇后は同夫人に御紋付銀製花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、

賜与録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 午前、御進講室において、小泉信三より英国の自然・スポーツ等に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十三日 木曜日 午前、謁見所において、フィリピン国陸軍中尉レイズ・ゴンサーレス及び同夫人ヴィクトリア・キリーノ・ゴンサーレス フィリピン国大統領エルビディオ・キリーノの息女 を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍

人日誌、謁見録、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 午前、両陛下御座所において、二条誓康、及び先般京都善光寺 得浄明院 法嗣として得度した伏見誓寛の拝謁をお受けになる。拝謁に当たり、両者にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日

昭和二十八年四月

誌、贈賜録

天皇と共に旧北御車寄門内において、松影会宮内省・宮内府・宮内庁  
元部局長以上の親睦会会員の拝謁をお受けになる。天皇に続き

お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

二十七日 月曜日 午前、謁見所において、近く離日する元東京芸術大学音楽学部備外国人教師ヘル

マン・ウーハー・ペニヒ及び同夫人イルマ武蔵野音楽  
大学教授を御引見になる。なお、同夫妻は御引見に先立ち、我

が国の音楽教育に力を尽くした功績により、それぞれ勲五等瑞宝章を授与される。○女官長日記、女官日

誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報、東京芸術大学百年史

天皇と共に謁見所において、北米基督教青年会Y M C A国際委員会会長ハーバー・シブレー及び同夫人を御

引見になる。同夫妻は、日本Y M C A同盟成立五十周年の祝賀のため同同盟の招待により来日した。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、日本Y M C A史

二十九日 水曜日 天皇誕生日につき、午前、表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、宣仁親王・

同妃喜久子始め皇族、元皇族・元王族、御縁故者の拝賀を、続いて元皇后宮女官等の拝賀をお受けに  
なる。ついで表御座所において、元東宮職侍女の拝賀をお受けになる。

正午、御進講室において内宴を催され、宣仁親王妃喜久子と御会食になる。午後四時、天皇と共に表

西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。宣仁親王・同妃始め皇族が陪席し、外国交際官等

が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報

五月

一日 金曜日 午前、表拝謁の間において、近く赴任のトルコ国駐箚特命全權大使上村伸一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

この日より実施される昭和二十八年年度赤十字募金運動を御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

五日 火曜日 東久邇真彦の初節句につき、天皇・皇后から東久邇盛厚・同夫人成子に三種交魚代料を、同子息真彦に御台人形代料・鯉料等を賜う。○女官長日記、贈賜録

六日 水曜日 地方状況等を御視察のため、天皇と共に千葉県に行啓される。午前九時御出門、両国駅より館山駅を経て、県立安房水産高等学校を御訪問になる。ついで安房郡乳牛展覽会場である神戸村富崎村組合立房南中学校の校庭において、乳牛を御覧になる。続いて野島崎灯台、千倉漁港、和田町花卉園を御視察になる。午後五時五分安房郡の御泊所吉田屋旅館に御到着になる。御夕食後には天皇と共に、町内有志による提灯行列にお応えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、千葉県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、千葉県立安房水産高等学校記念誌、天皇皇后両陛下下行幸啓記

七日 木曜日 この日は終日雨天となる。午前九時三十分御泊所吉田屋旅館を天皇と共に御出発、東京大学千葉県演習林事務所に御到着になる。ついで構内見本園・外国樹種見本林・演習林にて植物等を観察される。午後、天津漁港・東京水産大学小湊実験所を御視察になる。終わって安房小湊駅より八街駅を経て、五時四十分三里塚の御泊所下総御料牧場貴賓館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、千葉県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、山林、東京水産大学百年史

昭和二十八年五月

八日 金曜日 午前、天皇と共に馬車にお乗りになり、下総御料牧場内の種馬厩・農産班構内・鶴ヶ沢放牧場・木ノ根羊豚舎・子持沢養鶏舎・子持沢牡牛舎・蔬菜園・針ヶ沢西帰農地を順次御視察になる。午後二時三十分同牧場を御出発、五時七分皇居へ還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、千葉県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、下総御料牧場史

九日 土曜日 赤十字募金運動白い羽根募金運動に伴う赤十字興行を御覧になるため、午前十一時四十五分御出

門、歌舞伎座に行啓される。御到着後、日本赤十字社社長島津忠承の先導にて御休所に入られ、先着の宣仁親王妃喜久子・梨本伊都子と御対面になる。ついでお席に着かれ、「五重塔」を御鑑賞になる。

終わって御休所において松竹株式会社社長大谷竹次郎・同副社長城戸四郎・同常務取締役高橋年雄の拝謁をお受けになる。ついで再びお席に着かれ、御休憩を挟み「勸進帳」及び「比翼蝶夢廓」のうち二場を御鑑賞になる。午後四時四十三分皇居に還啓される。この興行は、松竹株式会社が白い羽根運動に協力するため、歌舞伎座の五月興行中に赤十字日として開催したもので、収益は日本赤十字社の事業資金に寄付される。なお、行啓に当たり、日本赤十字社に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、内

舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十日 日曜日 午後、内廷西玄関前において、東京都主催「母の日」大会参会者約千名に御会釈を賜う。母親代表で保育所推薦の高橋多美子より挨拶をお受けになり、またカーネーションの花束の献上をお受けになる。終わって、次のお言葉を賜う。

今日は皆様からの美しいお花をありがとう。

まだくすべての方面において困難な事が多いと思ひますからどうか身体を大事にして立派な母

となりこれからの日本を作つて行く健全な子供を育てて下さい。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十一日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。儀終了後、有

泉善三<sup>紅葉山御養蚕所主任</sup>及び助手四名にお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、内廷庁舎において、この度欧米各国へ外遊する参与小泉信三の拝謁をお受けになる。小泉は、戦後の西洋事情を視察し、皇太子教育の参考にするため来る十三日に出発し、皇太子の帰国に先立つ十月三日に帰国する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内庁庁報、小泉信三全集、毎日新聞

十二日 火曜日 午前、表拝謁の間において、在米国日本大使館在勤を命じられ近く赴任する特命全

權大使<sup>国際連合日本政府代表</sup>沢田廉三の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録

宮内庁庁報

旧御進講室において、この度結婚する鷹司庸子<sup>鷹司平通の妹</sup>・同母綏子の拝謁をお受けになる。鷹司庸子・同

綏子に対し、それぞれ万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十三日 水曜日 学制八十年記念式典に御臨席のため、午前九時五十四分御出門、天皇と共に千代田区の神田共立講堂に行啓される。十時三十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十四日 木曜日 午前、内廷庁舎において、近く帰国する明治学院大学教授ルース・エマーソン・ハナフォードを御引見になる。なお、同人は御引見に先立ち、勲五等瑞宝章を授与される。○女官長日記、

昭和二十八年五月

女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

午後、旧御進講室において徳川和子の拝謁をお受けになり、徳川実枝子威仁親王の王女の二十回忌に伴う賜品等につきお礼の申し入れをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十五日 金曜日 貞明皇后崩御二周年に当たる五月十七日に先立ち、天皇と共に多摩陵大正天皇陵及び多摩東

陵貞明皇后陵に行啓のため、午前十時四分御出門になる。御到着後、天皇に続いて両陵に御拝礼になる。御

昼餐後、両陵西側の山野における天皇の植物御採集に同行される。午後四時三十五分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

十六日 土曜日 第五十九回神宮式年遷宮に際し、天皇・皇后から神宮に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、神宮・明治百年史

十七日 日曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に御文庫において、貞明皇后山陵例祭に参列した故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、祭典録

十八日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、有泉善三紅葉山御養蚕所主任の説明により蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

二十一日 木曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎へお出ましの途中、正仁親王と御対面になり、御機嫌

伺いをお受けになる。同親王は、昨日修学旅行から帰京した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十二日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、去る四月に退職した元女官小倉満子の拝謁をお受けになる。夕刻にはお一方にて、女官候所において開催された同人の送別茶会にお出ましになる。

○女官長日記、女官日誌、恩賜録

二十三日 土曜日 午後、マリアン・アンダーソンアメリカの黒人霊歌の歌手の独唱会に御臨席のため、楽部にお出ま

しになる。先着の正仁親王・貴子内親王と御対面の後、アンダーソンによるシューベルト作曲「魔王」、パーレー編曲の黒人霊歌「深い川」などをお聴きになる。終わって御休所において、NHK会長古垣鉄郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。ついでアンダーソン及び伴奏者のフランツ・ルツプを御引見になり、それぞれお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、樂事録

二十六日 火曜日 去る十二日より開催中の「日本画の流れ―その系譜と展開」展を御鑑賞のため、午後一時三十五分御出門、京橋の国立近代美術館に行啓される。御到着後、同館館長岡部長景より同事業課長河北倫明の紹介があり、ついで河北事業課長の説明により、各展示室を御巡覧になる。終わって便殿において文部大臣大達茂雄・岡部館長の拝謁をお受けになる。三時十一分還啓される。○女官長

日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、国立近代美術館年報、東京国立近代美術館三〇年の歩み、日本画の流れ

二十八日 木曜日 常磐会総会に御臨席、併せて横河コレクション・東洋古陶磁展覧会を御覧になるため、午後一時十八分御出門、東京国立博物館に行啓される。同館別館御到着後、便殿において先着の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・東久邇成子・伏見朝子・閑院直子・梨本伊都子・久邇侁子と御対面になる。ついで会場にお出ましになり、常磐会総会に臨まれる。同会会長松平信子の挨拶、

昭和二十八年五月

会務報告に続き、会員によるコーラス、松永和風による長唄「新浦島」、彭城秀子による創作舞踊、「金剛石」の合唱を御鑑賞になる。その後、庭にお出ましになり、各売店を巡られ、芝生にて児童剣舞「白虎隊」を御覧になる。御同級生等と御歓談になった後、池の周辺を散策されつつ本館に移られ、技官田中作太郎の説明により東洋古陶磁展覧会場を第一室から第六室まで巡覧される。途中、故横河民輔〔横河コレクション〕の夫人に御会釈を賜う。五時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、東京国立博物館年報

二十九日 金曜日 午前、賢所通用門脇において、全国小学校婦人校長会全国大会に参会の婦人校長約八十名に御会釈を賜う。その際、今後とも初等教育のために尽力することを希望する旨のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表御座所において、宮内庁長官田島道治・侍従次長稲田周一の拝謁をお受けになり、正仁親王の学習院大学理学部化学科への進学をお許しになる。○女官日誌、侍従日誌、田島道治日記、稲田周一関係資料

三十日 土曜日 午前、内廷庁舎において東久邇稔彦と御対面になり、去る二月の同人生母の死去に伴う忌明けにつき、お礼言上をお受けになる。同人生母の葬儀に際し、皇后より盛菓子・切り花の賜りがあった。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、日本庭球協会・日本軟式庭球連盟主催のデビスカップ争奪戦出場選手壮行試合に御臨席のため、天皇及び鷹司和子と共にパレステニスコートにお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

楽部職員による管弦楽演奏を御鑑賞のため、鷹司和子と共に楽部にお出ましになる。御到着後、先着の貴子内親王と御対面になる。同部職員によるフランソワ・オーベル作曲の歌劇「ホルティチの啞娘」序曲等の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、楽事録

夕刻、天皇と共に御文庫において、東北五県の旅行にこの日夜出発する貴子内親王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

天皇と共に御文庫において、去る四月に退職した元女官小倉満子、元侍従長大金益次郎と御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

三十一日 日曜日 午前、天皇及び東久邇盛厚・同夫人成子・同子女信彦・文子・秀厚と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、養蚕状況を御覧になる。途中より正仁親王もこれに加わる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

## 六月

二日 火曜日 午前、内廷庁舎において、今般帰国する日本聖書神学校教師ローラ・J・モークを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

英国女王エリザベス二世の戴冠式挙行につき、天皇・皇后が同女王に祝電を發せられる。これに対し、六日に答電がある。なお、この日、皇太子がロンドンにて戴冠式に参列する。○外交慶弔録、宮内庁庁報

三日 水曜日 那須御用邸に天皇と共に行啓のため、午前九時六分御出門、午後零時五十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須

昭和二十八年六月

御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

午後、嚶鳴亭・池田道付近における天皇の植物御採集に同行される。那須御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十日 水曜日 皇太子が英国訪問を終えたことにより、滞在中に受けた款待に対し、天皇・皇后が英国女王エリザベス二世に礼電を發せられる。これに対し、十六日に答電がある。○宮内庁庁報、外交記録  
十五日 月曜日 那須御用邸より天皇と共に還啓のため、午後零時五十分御出門、四時五分皇居へ御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

翌十六日より約三箇月間にわたり御文庫の改修工事が行われるため、この日より内廷庁舎に天皇と共に御居住になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

十八日 木曜日 午前、内廷庁舎において、新任のオランダ国特命全権大使オット・ロイヒリン、米  
国特命全権大使ジョン・ムーア・アリソン及び同夫人、今般夫人が来日したベネズエラ国特命全権公  
使カルロス・ロドリゲス・ヒメネス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、  
謁見録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午後、内廷庁舎において松平信子の拝謁をお受けになる。その後、鷹司和子も交えて御歓談になる。○女官長日記、女官日誌

二十三日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。有泉善三<sup>紅葉山御養蚕所主任</sup>より、上蔟を終えた旨、

天蚕は五齡を迎えた旨の説明をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 水曜日 午前、天皇と共に謁見所において、故元米国大統領フランクリン・デラノ・ルーズヴェルト夫人アンナ・エレノア・ルーズヴェルトを御引見になる。その際、皇后は戦後日本における女性の地位と活動の変化について同夫人と御会話になり、天皇も話題に加わられる。同夫人は知的交流日本委員会の招致で来日した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、エ

リノア・ルーズヴェルト自叙伝、*Ambassador from the prairie or Allison Wonderland*

二十六日 金曜日 天皇と共に表一の間において、近く離任するパキスタン国特命全權大使ミアン・ジアウド・デインをお招きになって午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 午前、旧北御車寄門内において、全国婦人民生委員及び児童委員代表者協議会参加者である婦人民生委員及び児童委員等百五十二名に御会釈を賜う。鹿児島県婦人民生委員能勢トヨより挨拶をお受けになり、次のようなお言葉を賜う。

今日の社会の情勢におきましては、民生事業の活動に期待するところは大きいものがあり、特に婦人の役割は益々重きをくわえてまいりました。

いろいろむづかしい問題もありませうが関係者一同協力して使命の達成に努力されますよう希望します。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

三十日 火曜日 去る二十四日から二十九日にかけての豪雨により、九州北部・中部を中心に甚大な

昭和二十八年七月

被害昭和二十八年  
西日本水害が発生する。これを受け、この日、甚大な被害を受けた山口県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、御差遣録、宮内庁庁報、気象百年史

七月

一日 水曜日 皇室経済法の一部を改正する法律がこの日施行され寡婦について独立の生計を営むことの認定が可能になったことに伴い、皇室経済会議が開催され、故雍仁親王妃勢津子を独立の生計を営む親王妃として認定することが可決される。なお国会開会中のため、この度の会議は持ち回り形式で開催された。○皇室経済会議

この度の豪雨により甚大な被害を受けた福岡県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

二日 木曜日 午前、天皇と共に謁見所において、新任のビルマ連邦総領事ミヤット・タンを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

この度の豪雨により甚大な被害を受けた佐賀県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

三日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所へお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。儀終了後、有泉善二紅葉山御養蚕所主任の説明により天蚕の繭かけを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、紅葉山

御養蚕所八十年記念誌

四日 土曜日 この度の豪雨により甚大な被害を受けた熊本県・長崎県に対し、天皇・皇后より御救

恤金を賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

六日 月曜日 この度の豪雨により甚大な被害を受けた大分県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

八日 水曜日 午後、御文庫において北白川房子と御対面になり、昨七日の園祥子北白川房子の生母七回忌にお

ける天皇・皇后からの賜物についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録  
十日 金曜日 午前、旧北御車寄門内において、紅葉山御養蚕所産の御成繭を用いた絹糸の奉呈のため参内した東京農工大学繊維学部長小暮慎太始め三名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、稲

田周一関係資料

十一日 土曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎御車寄において、有泉善三紅葉山御養蚕所主任及び助手四名の拝謁を

お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十三日 月曜日 天皇と共に表一の間において、近く離任するフランス国特命全権大使モーリス・ドジャンのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表御座所において、欧州より帰国した竹田恒徳日本スケート連盟会長の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時四分御出門、十一時三十二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内

昭和二十八年七月

序序報

二十二日 水曜日 午後、天皇と共に、北海道に旅行のため帰京する正仁親王十九日と御対面になる。

○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人供奉日記、葉山行幸啓録

二十三日 木曜日 午前九時三十六分葉山御用邸を御出門になり、鵜沼の秩父宮別邸に行啓される。

御到着後、故雍仁親王妃勢津子のお出迎えをお受けになった後、権舎に御拝礼になる。午後零時九分、

葉山御用邸に還啓される。○女官長日記、女官日記、内舎人供奉日記、葉山行幸啓録、幸啓録

二十四日 金曜日 午後、忌明けの挨拶に参邸した木戸ツル元内大臣木戸幸一夫人の拝謁をお受けになり、同人の母

の死去に際してお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、葉山行幸啓録

去る十七日夜半から十八日朝にかけての豪雨により甚大な被害を受けた和歌山県及び奈良県に対し、

天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、葉山行幸啓録、御差遣録、宮内庁序報

二十五日 土曜日 厚生省講堂においてアツツ島戦没者追悼式が行われるに当たり、天皇・皇后より

生花を賜う。○賜与録、宮内庁序報

二十九日 水曜日 午前、天皇の海洋生物御採集に同行され、海上にお出ましになる。○女官長日記、女

官日記、侍従日記、内舎人供奉日記、葉山行幸啓録

午後、天皇と共に、東久邇成子及びこの日誕生日を迎えた同子息秀厚と御対面になり、天皇・皇后か

らの鮮鯛代料下賜についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、葉山行幸啓録、贈賜録

三十日 木曜日 午前、明治天皇例祭につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日

記、女官日記、侍従職日記、恒例祭祀録、典式録、葉山行幸啓録、祭典録、宮内庁序報

## 八月

一日 土曜日 皇太子がオランダ国訪問を終えるに当たり、滞在中受けた款待に対し、天皇・皇后より同国女王ユリアナへ礼電を發せられる。これに対し五日に答電がある。○宮内庁序報

八日 土曜日 午前、天皇の海洋生物御採集に同行され、海上にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午後五時二分御出門、六時二十八分皇居に御到着になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

十日 月曜日 先に天皇が皇太子に託されたデンマーク国王フレデリック九世への御贈進品及びお言葉が伝献されたことにつき、同国王・王妃から天皇に礼電が寄せられる。天皇・皇后は同国王・王妃に、皇太子が同国滞在中に受けた款待、及び皇太子に同国白象勲章を授与されたことに対し謝意を表する旨の答電を發せられる。○宮内庁序報、外交記録

十一日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、北白川房子の拝謁をお受けになる。北海道旅行より帰京し参内した正仁親王が同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 木曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓につき、午前九時十二分正仁親王を伴われ御出門、午後零時五十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報、栃木県庁所蔵資料

十六日 日曜日 午前、正仁親王と共に天皇の植物御調査に同行され、紅葉谷方面を御散策になる。以後、那須御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

昭和二十八年八月

内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

二十日 木曜日 午前、天皇と共に嚶鳴亭にお出ましになり、宮内記者会員と御談話になる。出席の記者のうち共同通信社田中徳・東京新聞社津田亮一の両名は、皇太子の渡欧に同行し先日帰国した。この度は主にこの両名より、皇太子の横浜出航から英国到着までの話、英国女王戴冠式の話、皇太子を迎えた在外邦人の話などをお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、天皇記者会見、那須御用邸管理事務所日誌

二十一日 金曜日 去る十四日から十五日にかけて発生した豪雨により甚大な被害を受けた京都府・三重県・滋賀県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、気象百年史

二十二日 土曜日 午後、天皇と共に、元王族李垠及び同夫人方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

二十五日 火曜日 先に天皇が皇太子に託されたスウェーデン国王グスタフ六世アドルフへの御贈進品及びお言葉が伝献されたことにつき、この日同国王・王妃より天皇・皇后に礼電が寄せられる。

○宮内庁庁報

二十八日 金曜日 午後、天皇と共に謁見所において、日本赤十字社長島津忠承より、先の九州・近畿地方を中心とする水害における救援措置、並びに中国大陸からの日本人引揚げ、在日華僑及びその遺骨の大陸への送還について進講をお聴きになる。なお、昭和二十五年より中断されていた在日華僑の中国大陸への送還は、この年六月から再開された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料、引揚げと援護三十年の歩み

九月

九日 水曜日 元内閣総理大臣阿部信行去る七日死去につき、天皇・皇后より賜物使として侍従徳川義寛を同人邸に差し遣わされ、祭装料及び花を賜う。○侍従職日誌、賜与録、那須行幸啓録、宮内庁庁報

十一日 金曜日 ナデシコ等の写生をもとに付立てにて描かれた御絵を、講評のため川合玉堂に送られる。○女官日誌

十二日 土曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午後零時二十一分御用邸を御出門になり、四時四分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十四日 月曜日 午前、天皇と共に謁見所において、米国聖公会主教会議長ヘンリー・ノックス・シエリル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、内廷庁舎において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、去る九日の誕生日等につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に改装工事中の御文庫にお出ましになり、工事の状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十五日 火曜日 午前、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と共に表西の間において、来る十月二日及び五日に行われる神宮式年遷宮にて奉納される、新たに調製された御神宝を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和二十八年九月

二十二日 火曜日 天皇と共に表一の間において、近く離任帰国する米國極東軍總司令官マーク・ウエイン・クラーク<sup>陸軍大将</sup>及び同夫人をお招きになって午餐を催される。なお、帰国につき、皇后から同夫人に銀製御紋付花瓶を賜う。これに対し、同夫人より二十四日付にて札状が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、贈賜録、宮内庁庁報

午後、楽部にお出ましになり、ソロモン・カットナーのピアノ演奏を御鑑賞になる。正仁親王・貴子内親王・宣仁親王妃喜久子・東久邇成子・同信彦・同文子・久邇朝融・伏見朝子・閑院直子・賀陽敏子が陪聴する。演奏終了後、英國特命全權大使エスラー・デニングの紹介にてソロモンを御引見になり、同人にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十三日 水曜日 午前、秋季皇靈祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

天皇と共に葉山御用邸へ行啓のため、午後三時五分御出門、四時五十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十六日 土曜日 午後、天皇と共に、山階芳麿及び同夫人寿賀子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十八日 月曜日 午前、天皇の海洋生物御採集に同行され、中深り海上にお出ましになる。翌日午後も、御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十九日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午後零時三十一分御出門、二時二十二分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓

録、宮内庁庁報

夕刻、改装工事が終了した御文庫に天皇と共に移られ、新装成った各部屋等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十日 水曜日 午前、表西の間において、今般夫人が来日したオランダ国特命全権大使オット・ロイヒリン及び同夫人、新任のセイロン国特命全権公使デーパル・スサンタ・デ・フォンセカ、エジプト国特命全権公使オスマン・アーメッド・エベイドを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

来る十月一日より昭和二十八年国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十月

二日 金曜日 夜、皇大神宮式年遷宮につき、御文庫ベランダにおいて御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

この度の台風十三号により、甚大な被害を受けた三重県・愛知県・京都府・和歌山県・福井県・滋賀県・大阪府に対し、それぞれ天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、気象百年史

三日 土曜日 午前、内廷庁舎において、インド国政府派遣訪日親善使節団の下院議員アムー・スワ

昭和二十八年十月

ミナダン、上院議員エズズ・ラスール、下院議員カムレンドウ・マテイ・シャーを御引見になる。御引見に際し、議員三名から手織りのインド・ショール、孔雀模様ハンドバッグ及び以上を載せたインド盆の献上がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

五日 月曜日 午前、天皇と共に表御座所において、参与小泉信三の拝謁をお受けになり、外遊中の皇太子の動静についてお聞きになる。小泉は皇太子帰国後の教育方針に寄与するため、去る五月十三日夫人を伴い出国し、英国・フランス国・イタリア国・ベルギー国・ドイツ連邦共和国・スウェーデン国・スイス国・米国を視察し、一昨三日帰国した。その間、英国・米国等において皇太子に同行した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、稲田周一関係資料、田島道治日記、小泉信三全集、朝日新聞、読売新聞

夜、豊受大神宮式年遷宮につき、御文庫前庭において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

九日 金曜日 天皇と共に表一の間において、新任のオランダ国特命全権大使オット・ロイヒリン及び同夫人、米国特命全権大使ジョン・ムーア・アリソン及び同夫人、セイロン国特命全権公使デイーパル・スサント・デ・フォンセカ、エジプト国特命全権公使オスマン・アーメッド・エベイドをお招きになって午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報  
夕刻、天皇と共に表拝謁の間において、神宮祭主北白川房子の拝謁をお受けになり、この度の神宮式年遷宮終了につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十日 土曜日 第十四回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に日本赤十字社名誉総裁として御

臨席のため、午前十時十二分御出門、港区の日本赤十字社本社に行啓される。御到着後、便殿において同社名誉副総裁である故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで厚生大臣山県勝見・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長葛西嘉資・同石坂泰三の拝謁をお受けになる。それより式場に移られ、御着席になる。社長挨拶に続いて、姫路赤十字病院看護婦監督藤本まきゑ・元日本赤十字社中央病院看護婦監督加藤きん・東北大学医学部附属病院嘱託山田タフの胸にお手ずから記章を付けられ、次のお言葉を賜う。

このたび、藤本まきゑ、加藤きん、山田タフの三人の方々が、看護婦として、世界最高の名誉の象徴である、フローレンス・ナイチンゲール記章を、赤十字国際委員会から贈られましたことは、本人の榮譽はもとより、わが国としても、まことに喜ばしいことであります。

どうか、これからも一層この道に尽されますとともに、すべての看護婦の皆さんも、これを模範として、その職に励み、教養を高め、広く内外から感謝と信頼を得られるよう希望して止みませ

ん。  
終わって、祝辞・答辞をお聞きになった後、御退場になる。一旦便殿に入られた後、総裁室において赤十字国際委員会駐日代表ハリー・アングスト及び同夫人始め赤十字関係外国人五名の謁見をお受けになる。十一時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本赤十字社  
社史稿

十二日 月曜日 この日、皇太子が英国御差遣並びに欧州・米国・カナダ国旅行より帰国するに当たり、午前、天皇・皇后の御使として侍従次長稲田周一が東京国際空港へ差し遣わされる。

正午過ぎ、天皇と共に謁見所において、皇太子と御対面になり、天皇の御名代として英国女王戴冠式に参列したことについての報告をお受けになる。引き続き、首席随員三谷隆信<sup>侍従</sup>の拝謁をお受けにな

る。その後、表拝謁の間において、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子・

宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子・東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司平通・同夫人和子・

池田隆政・同夫人厚子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東

宮侍従日誌、宮内庁庁報、福田周一関係資料、朝日新聞

十三日 火曜日 皇太子帰国につき、午前、天皇と共に表拝謁の間において、宮内庁長官・宮内庁次

長・侍従次長・東宮大夫より祝賀をお受けになる。続いて皇太子随員・随行者、さらに首席随員三谷

隆信の拝謁をそれぞれお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十四日 水曜日 皇太子帰国につき、表西の間において天皇及び皇太子と共に、菊栄親睦会会員と御

晚餐を御会食になる。これに先立ち、皇太子は賢所・皇霊殿・神殿において拝礼する。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 金曜日 天皇と共に表北の間において、皇太子が訪問した英国を始め十四箇国の大使・公使

夫妻をお招きになって午餐を催される。皇太子も陪席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 愛媛・高知・徳島・香川各県下において行われる第八回国民体育大会秋季大会に御

臨場、併せて四国各県並びに岡山県下の社会事業等を御視察のため、天皇と共に各県に行啓される。

午前九時御出門、東京駅より京都駅を経て、午後五時五分御泊所京都大宮御所に御到着になる。御到着後、天皇と共に、久邇静子故多嘉王妃の拝謁をお受けになる。続いて仙洞御所のお庭において、尼門跡・

旧堂上華族等に御会釈を賜う。御泊所にお戻りの後、天皇と共に九条道秀・大谷智子等の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、四国各県下並岡山県行幸啓関係書類、宮内庁庁報、官報

啓関係書類、宮内庁庁報、官報

二十日 火曜日 御泊所京都大宮御所御出発に先立ち、天皇と共に久邇静子の拝謁をお受けになる。

午前九時五分、天皇と共に御泊所京都大宮御所を御出門、京都駅より岡山駅を経て、午後零時五十分後樂園内の御泊所鶴鳴館に御到着になる。午後は御休養に充てられ、天皇と共に御泊所において池田隆政・同夫人厚子と御対面になり、御一緒に後樂園の庭園を御散策になる。ついで御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、四国各県下並岡山県行幸啓関係書類、宮内庁庁報、官報、岡山県庁所蔵資料

二十一日 水曜日 午前九時十分、天皇と共に御泊所鶴鳴館を御出発になり、宇野駅へ向かわれる。

宇野栈橋よりお召し船紫雲丸に御乗船になり、香川県の高松栈橋にて御下船になる。高松栈橋駅より松山駅を経て、午後五時十五分松山市の御泊所迎賓館旧久松邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、四国各県下並岡山県行幸啓関係書類、宮内庁庁報、官報

二十二日 木曜日 午前十時二十分、天皇と共に御泊所迎賓館を御出発になり、社会福祉法人愛媛慈恵会を御訪問になる。次に松山市堀之内競技場に移られ、第八回国民体育大会の開会式に御臨場にな

昭和二十八年十月

る。午後は同所において体操競技・馬術競技等を御覧になった後、市内の市営テニス場において国体軟式テニス競技を、県営ラグビー場において国体ラグビー競技を、市営野球場において国体軟式野球競技をそれぞれ御覧になる。次に県立松山豊学校を御訪問になる。続いて県立松山東高等学校において国体ソフトボール競技を御覧になる。午後四時四十五分、御泊所迎賓館に還御される。その後、天皇と共に御泊所の庭に愛媛県特産であるミカンの優良台木の種をお播きになり、またお手植えになる。

御夕食後、愛媛県知事久松定武<sup>御従兄</sup>・同母貞子<sup>御母久運の姉</sup>・元侍従久松定孝<sup>定武の弟</sup>の拝謁をお受けになる。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、四国各県下並岡山県行幸啓関係書類、宮内庁庁報、官報、松山豊学校創立五十年誌、愛豊タイムス

二十三日 金曜日 午前九時、天皇と共に御泊所迎賓館を御出発になり、松山駅よりお召し列車にて香川県、徳島県を経由して高知駅に御到着になる。午後四時三十五分、御泊所高知県知事公舎に御到着になる。その後、山内禎子<sup>貞愛親王の王女</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十四日 土曜日 午前九時十分、天皇と共に御泊所高知県知事公舎を御出発、こうちまち保育園を御訪問になる。次に高知市設相撲場において国体相撲競技を御覧になる。終わって高知駅より徳島駅を経て、徳島市の徳島県蔵本公園野球場に御到着になる。同所において国体硬式野球競技を御観覧になる。ついで同公園内の排球場に移られ、国体バレーボール競技を御覧になる。午後四時五十五分、小松島市の御泊所万野旅館に御到着になる。御夕食後、御泊所対岸の奉迎者による提灯行列に、天皇と共に提灯を振ってお応えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十五日 日曜日 午前九時五分、天皇と共に御泊所万野旅館を御出発になり、県立德島乳児院、ついで徳島市立内町保育所を御訪問になる。徳島駅より高松駅を経て、午後零時三十分、高松城内の御泊所披雲閣に御到着になる。御昼食後、高松第一高等学校に御到着になり、国体柔道競技を御覧になる。ついで屋島陸上競技場において国体陸上競技を御覧になる。四時十五分、御泊所披雲閣に還御される。その後、お一方にて旧高松藩主家当主松平頼明夫人香枝子の拜謁をお受けになる。御夕餐後、天皇と共に崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。ついで天皇及び崇仁親王と共に高松城南側の石垣の上にお出ましになり、市民による提灯行列に応えられる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人供奉日記、幸啓録、四国各県下並岡山県行幸啓関係書類、宮内庁庁報、官報、日本赤十字社社史稿、赤十字とくしま百年のあゆみ、新修高松市史、第八回国民体育大会会誌、たまも

二十六日 月曜日 午前十時二十分、天皇と共に御泊所披雲閣を御出発、高松市の県立斯道学園児童福祉法による

院を御訪問になる。次に栗林公園の園内を御巡覧になる。御少憩後、同園を御出発になり、高松棧橋駅に向かわれる。高松棧橋よりお召し船紫雲丸に御乗船になり、岡山県に向かわれる。船中にて御昼食の後、宇野棧橋に御到着になる。続いて玉野市海洋博物館及び隣接する岡山大学理学部附属臨海実験所を御視察になる。ついで岡山市の聖心愛子会岡山支部を訪問される。終わって午後五時二十分、後楽園内の御泊所鶴鳴館に御到着になる。その後、天皇と共に池田宣政・同夫人富貴子、池田隆政・同夫人厚子と御対面になる。御夕餐は池田隆政夫妻と御会食になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、岡山県庁所蔵資料、香川県立斯道学園所蔵資料、玉野市史、ふるさとの想い出写真集

昭和二十八年十一月

二十七日 火曜日 御朝餐後、天皇と共に御泊所鶴鳴館の前庭において、キクザクラをそれぞれ一本ずつお手植えになる。午前九時十五分、天皇と共に御泊所鶴鳴館を御出発、池田邸に御到着になる。

池田宣政及び同夫人富貴子・池田隆政・同夫人厚子の案内により、池田産業動物園を巡覧される。池田邸において御昼餐を御会食の後、同邸を御出発、岡山駅より京都駅を経て、午後五時十分、御泊所京都大宮御所に御到着になる。夕刻、天皇と共に、大谷光暢・同夫人智子及び同子女四名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、四国各県下並岡山県行幸啓関係書類、宮内庁庁報、官報、岡山県庁所蔵資料、入江相政日記、主婦之友

二十八日 水曜日 午前八時四十五分、天皇と共に御泊所京都大宮御所を御出発、京都駅より東京駅を経て、午後四時五十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、四国各県下並岡山県行幸啓関係書類、宮内庁庁報、官報

## 十一月

二日 月曜日 午前、表拝謁の間において、近く赴任のフィリピン国駐劄特命全権公使大野勝巳及び同夫人、ユーゴスラビア国駐劄特命全権公使広瀬節男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

四日 水曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、朝日新聞社主催の全日本健康優良児童表彰会で選ばれた健康優良児童並びに全日本健康優良学校の表彰校代表等に御会釈を賜う。同会会長村山長挙<sup>朝日新聞社取締役会長</sup>より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

五日 木曜日 天皇と共に園遊会を催される。午後二時二十三分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。戦前には同様の行事として観桜会・観菊会などが行われていたが、これらは昭和十二年四月の観桜会を最後に行われておらず、この度、戦後初めて園遊会として開催される。招待された者は、元皇族・元王公族のほか、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・国務大臣・国会議員・認証官・都道府県知事・各国外国交際官・各界功労者等及び以上の者の配偶者等である。御到着後、先着の皇太子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子を伴われて御苑にお出ましになり、招待された者に御会釈を賜いつつ仮御茶屋に向かわれる。同所において国務大臣、各国の大使・公使等と御歓談になる。ついで各喫茶所をお巡りになり、招待客と御歓談になる。三時二十六分還啓される。なお、内閣総理大臣は欠席した。○女官長日記、女官日誌、侍従日記、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、園遊会録、儀式記事集、楽事録、宮内庁庁報、官報、稲田周一関係資料、田島道治日記、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

六日 金曜日 午後、楽部にお出ましになり、糸竹会による演奏をお聴きになる。終わって御休所において、会員の久邇侃子と御対面になり、また他の会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

七日 土曜日 文部省芸術祭能楽公演を御鑑賞のため、午後零時四十七分御出門、水道橋能楽堂に行啓される。御到着後、御観覧席より喜多六平等による能「羽衣」、観世華雪による独吟「草子洗小町」、宝生九郎による「難波」、観世元正による「八島」、金春信高による「玉葛」の各仕舞、山本東

昭和二十八年十一月

次郎ほかによる狂言「寝音曲」を御覧になる。終わって御休所において、文部省芸術祭執行委員代表  
安倍能成<sup>学習</sup>・同執行委員<sup>能楽協会</sup>橋岡久太郎、芸術院会員の喜多六平太・観世華雪・川崎九淵、能楽宝  
生流家元宝生九郎・能楽観世流家元観世元正・能楽金春流家元金春信高の拝謁をお受けになる。再び  
御観覧席にお出ましになり、近藤乾三ほかによる能「安宅」を御覧になる。四時還啓される。○女官長  
日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、能

午後、御文庫食堂天井の漆喰の約七割が剥離し落下する。これを受けて御文庫の他の部屋の調査が行  
われ、この日の夜及び翌八日の天皇・皇后のお食事・御就寝には、安全が確認された謁見所が使用さ  
れることとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

九日 月曜日 御文庫の再工事のため、この日より十二月十九日まで、天皇と共に内廷庁舎において  
御起居になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十日 火曜日 日本赤十字社慈善興行の歌舞伎を御鑑賞のため、午後一時七分御出門、天皇と共に歌  
舞伎座に行啓される。四時三十四分還啓される。行啓に際し、天皇・皇后から日本赤十字社に金一封  
を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十二日 木曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、厚生大臣から表彰された社会福祉事業  
功労者等に御会釈を賜う。厚生大臣山県勝見より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、  
侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十三日 金曜日 午前、天皇と共に謁見所において、元米国國務次官補フランス・B・セイヤー<sup>立教</sup>  
大学

顧問兼講師及び米国エビスコバル派教会駐日代表

典式録、宮内庁序報

天皇と共に謁見所において、国際ロータリー会長ホアキン・セラトーサ・シビリス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

常磐会故人追悼会開催につき、花をお供えになり、女官長保科武子を差し遣わされ、拝礼させられる。

○女官日誌、贈賜録

**十五日** 日曜日 午後、米国大統領の特派親善使節として同国副大統領リチャード・ミルハウス・ニクソンが夫人同伴で来日につき、お出迎えのため、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌が東京国際空港へ差し遣わされる。なおニクソン副大統領は、国賓に準ずる賓客として接遇される。○外賓接待録、外交記録、儀礼軌範

**十六日** 月曜日 正午過ぎ、天皇と共に謁見所において、米国大統領の特派親善使節として来日した同国副大統領リチャード・ミルハウス・ニクソン及び同夫人パトリシアと御会見になる。終わって、表北の間において副大統領夫妻のため天皇と共に宮中午餐を催される。参内後の御答訪の御使は、副大統領の都合によりお取りやめとなる。なお、外国賓客のうち王族以外が夫人同伴で公式に参内したのはこれが初めてである。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、外賓参内録、外賓接待録、外交贈答録、宮内庁序報、外交記録

**十七日** 火曜日 風疹のため、御仮床に就かれる。よって午前の東京都美術館行啓はお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録

昭和二十八年十二月

二十日 金曜日 午前、米国副大統領リチャード・ミルハウス・ニクソン及び同夫人が帰国するに当たり、お見送りのため、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌が東京国際空港へ差し遣わされる。

○外賓接待録、儀礼規範

二十八日 土曜日 正仁親王の誕生日につき、午後、天皇及び同親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 日曜日 皇太子の帰国<sup>十月十日</sup>を祝う菊栄親睦会臨時大会に御臨席のため、午前十一時十分御出門、天皇と共に綱町三井倶楽部に行啓される。幹事の崇仁親王・伏見朝子・竹田恒徳・李方子始め皇族・元皇族・元王族その他約百十方が出席する。午後三時十五分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

## 十二月

一日 火曜日 皇太子が主催する内宴に御臨席のため、午後五時十二分御出門、天皇と共に常盤松の東宮仮御所に行啓される。貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子・東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司平通・同夫人和子が出席する。九時二十六分還啓される。

○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日記、幸啓録、宮内庁庁報

二日 水曜日 午後、内廷庁舎において、松平信子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従

職日誌

三日 木曜日 この度の神宮遷宮が滞りなく終了したことを受け、天皇と共に表拝謁の間において、神宮祭主北白川房子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 日曜日 秩父宮・高松宮・三笠宮が主催する皇太子帰国の祝賀晩餐会に御臨席のため、午後五時十九分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。皇太子・正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子・東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司平通・同夫人和子が出席する。八時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、宮内庁序報

七日 月曜日 午前、謁見所において、新任のフランス国特命全権大使ダニエル・レヴィ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録

天皇と共に表一の間において、近く離任するタイ国特命全権大使サガー・ニルカムへエング及び同夫人をお招きになって午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録  
天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後四時五分御出門、五時五十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁序報

十日 木曜日 東伏見周子の病氣お尋ねとして侍医西野重孝を御差遣になり、午後、復命をお聞きになる。続いて元皇后宮大夫広幡忠隆より、侍医御差遣につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、稲田周一関係資料

十一日 金曜日 歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○賜与録

十二日 土曜日 午後、エジプト国より一時帰国の同国駐箚特命全権公使与謝野秀の拝謁をお受けに

昭和二十八年十二月

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、拝謁録、典式録、葉山行幸啓関係書類、宮内庁序報

十三日 日曜日 午前、天皇の海洋生物調査に同行され、海上にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類

午後一時三十分葉山御用邸を御出門、天皇と共に鶴沼の秩父宮別邸に行啓される。御到着後、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、権舎に拝礼される。四時四十四分、葉山御用邸に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録

十四日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午前九時三十分御出門、十一時十九分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁序報

十五日 火曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

十六日 水曜日 午前、表拝謁の間において、近く赴任のメキシコ国駐箚特命全権大使久保田貫一郎及び同夫人、同じくスウェーデン国駐箚特命全権公使大江晃及び同夫人、インドネシア国出張駐在を命じられた特命全権公使倭島英二及び同夫人、在米国日本大使館在勤を命じられた特命全権公使島重信及び同夫人、近く赴任のセイロン国駐箚特命全権公使木村四郎七及び同夫人、並びに今般帰国した前スウェーデン国駐箚特命全権公使結城司郎次及び同夫人の拝謁をお受けになる。なお、大江はノルウェー国・デンマーク国駐箚を兼務する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内

庁序報、官報

表拝謁の間において、新任の宮内庁長官宇佐美毅及び前宮内庁長官田島道治の拝謁をお受けになる。  
なお田島に対し、天皇・皇后よりお品を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報、  
田島道治日記

**十七日** 木曜日 午前、表拝謁の間において、今般ソビエト連邦より帰国した日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。ついで天皇と共に同人より、ソビエト連邦からの日本人引揚げについての進講をお聴きになる。なお、昭和二十五年より中断されていた同地からの日本人集団引揚げは、この年十一月より再開された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、引揚げと援護三十年の歩み

**十八日** 金曜日 天皇と共に表一の間において、参与小泉信三<sup>侍従職御用掛</sup>・同安倍能成・同坪井忠二・同松平信子・同勝沼精蔵・同加藤武男ほかをお召しになり、御昼餐を御会食になる。なお、御昼餐に先立ち、皇后は表拝謁の間において加藤の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録

午後、表拝謁の間において、京都在住旧堂上華族総代飛鳥井雅信の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、稲田周一関係資料

表拝謁の間において、この日宮内庁次長に任命された瓜生順良の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報、官報

**十九日** 土曜日 去る十六日に御文庫の再改修工事が完了につき、夕刻、御文庫へ還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に御文庫において、前宮内庁長官田島道治・新宮内庁長官宇佐美毅のほか、侍従長・侍従次長・女官長・侍従徳川義寛と御夕餐を共にされる。天皇・皇后より田島前宮内庁長官にお品を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、稲田周一関係資料

来る二十一日から五日間にわたり、東京都下各医療施設の参加を得て歳末無料診察相談を実施する東京都に、金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十一日 月曜日 多摩陵及び多摩東陵に御参拝のため、午前十時御出門、天皇と共に両陵に行啓される。天皇に続き両陵を順次御拝礼になる。御昼餐後、陵所御休所周辺を御散策になる。午後二時四十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官・元女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、東宮録、宮内庁庁報

事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また、事業御補助のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十四日 木曜日 午前、内廷庁舎において、アルゼンチン国特命全権大使カルロス・A・キロス及び同夫人・息女、ノルウェー国特命全権公使スヴェン・ボルクマン・ヘルスレーブ・フォークト及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録

二十五日 金曜日 午前、大正天皇祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、

宮内庁庁報

午後、天皇と共に御文庫において、この日大正天皇祭山陵の儀に参列した故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、祭典録

二十六日 土曜日 午前、御文庫において故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。翌年の新年拝賀を遠慮するため、この日、本年中のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十八日 月曜日 午後、天皇と共に御文庫において、宮内庁長官・侍従長・東宮大夫・侍従職御用掛小泉信三東宮御教  
育参与の拝謁をお受けになり、皇太子についての奏上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、稲田周一関係資料

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、元皇族・元王族、続いて宮内庁長官始め総代、及び女官長始め女官、ついで元皇太后宮女官等より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

三十日 水曜日 午前、天皇と共に御文庫において、皇子傳育官東園基文の拝謁をお受けになる。○侍従日誌、侍従職日誌

天皇と共に御文庫において、宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この月 日本赤十字社病院及び恩賜財団済生会病院の救助收容患者合計六千六百四十五名に対し手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録、日本赤十字社社史稿

昭和二十九年（西曆一九五四年）

五十一歳

一月

一日 金曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に表拝謁の間において、皇太子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子の祝賀を、表北の間において内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・外国交際官等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、元皇族・元王族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者の拝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報

二日 土曜日 午前、天皇と共に、表拝謁の間において元宮内庁長官及び元側近奉仕者等の拝賀を、仮宮殿内において旧堂上華族総代の一条実孝・大原重明・今城定政の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録

新年参賀の儀につき、天皇と共に宮内庁庁舎正面玄関上のバルコニーに午前三回・午後四回の計七回お出ましになり、庁舎前に集まった一般参賀者に御会釈を賜う。午後二時二十分頃、皇居正門石橋上において参賀者の死傷事故が発生する<sup>二重橋事件</sup>。これを受け、天皇・皇后より事故の死亡者に生花と盛菓

子を、入院を要する負傷者に果物を賜うこととなり、この日夜から翌三日にかけて侍従職・総務課の事務官を病院あるいは各自宅に差し遣わされ、思召しを伝達させられる。なお、元駐日米国陸軍武官夫人より天皇・皇后宛てにお見舞電報が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、重要雑録、外交雑録、宮内庁序報

三日 日曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

午前、天皇と共に表拝謁の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等の拝賀をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

天皇と共に表拝謁の間において、北白川房子故成久 王妃・久邇倪子御母・伏見朝子故博義 王妃・梨本伊都子故守正 王妃・北白

川祥子故永久 王妃の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

四日 月曜日 天皇と共に御文庫において、正仁親王と御夕餐を御会食になる。この年も皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この日故雍仁親王一周年祭につき、皇后宮使として侍従山田康彦を藤沢市鶴沼の秩父宮別邸の権舎に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、皇后宮使として侍従穂積重道を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より権舎に榊及び菓子、墓所に榊のお供えがあり、皇后より写真に切り花及び果物のお供えがある。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、皇親録、重要雑録、

宮内庁序報

五日 火曜日 午前、天皇と共に御文庫において、新年につき参殿した池田隆政・同夫人厚子と御対

昭和二十九年一月

面になり、拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 水曜日 午前、表拝謁の間において、新任の皇宮警察本部長川合寿人及び前任の皇宮警察本部長武末辰雄の拝謁をお受けになる。武末は去る二日の二重橋事件の責任を負い、昨日付で退職した。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、官報

七日 木曜日 午前十一時十五分御出門、天皇と共に豊島岡墓地に行啓される。御着後、天皇に続き祐子内親王墓に拝礼される。ついで雍仁親王墓に拝礼され、玉串をお供えになる。故雍仁親王妃勢津子の挨拶をお受けになった後、正午、還啓される。なお、行幸啓に当たり、天皇・皇后より祐子内親王墓に菓子及び色花を、雍仁親王墓に野菜及び菓子を御供えになる。午後、天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、庁規例規朝儀諸綴、幸啓録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に表拝謁の間において、元皇后宮女官・元皇太后宮女官等の拝賀をお受けになる。終わって同所においてお一方にて、御学友・御同級生総代三名の拝賀をお受けになる。ついで元女官小倉満子・元内親王傳育掛大迫セイの拝賀をお受けになった後、既に拝賀を終えた元皇后宮女官・元皇太后宮女官等を再び召され、御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 金曜日 午前十時、天皇と共に表西の間において、講書始の儀に臨まれる。東京芸術大学長上野直昭より「レオナルド・ダ・ヴィンチの最後晚餐図について」、大阪市立大学長恒藤恭より「基本的人権の思想について」、東京都立大学長柴田雄次より「地球化学とその定義及び研究目的・本邦に於ける火山、温泉等の地球化学的研究の成果」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、講書始録、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に表拝謁の間において、東京大学教授日高孝次日本海洋学会会長より、米国及びフィリピン国において撮影されたスライドを用いた海洋学の進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

九日 土曜日 午前、天皇と共に御文庫において、今夕岡山に帰る池田隆政及び同夫人厚子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十一日 月曜日 午前、天皇と共に謁見所において、ギリシヤ国王族ピーター及び同妃アイアリーンと御会見になる。その際、同妃より皇后に首飾りの御贈進がある。後刻、御答礼のため、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌をその宿所に差遣される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓参内録、外賓接待録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に表拝謁の間において、渡米挨拶のため参内した元公族李清及びその母贅珠故李鐔公妃の拝謁をお受けになる。また、昭和二十年に李鐔公が薨去した際のお仕向けについてお礼言上をお受けになる。なお、渡米につき、天皇・皇后より李清にお品を賜う。また、韓国に帰国する贅珠には、皇后より反物等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十二日 火曜日 午前十時、天皇と共に表西の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「林」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

#### 皇后宮御歌

から松の林をゆけばめづらしく霧藻のかかる枝も見えけり

儀終了後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、預選者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、歌会始録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時三十分御出門、四時同邸に御到着になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓関係書類、宮内庁庁報

十五日 金曜日 翌日、雍仁親王の霊代を皇霊殿に遷すの儀が行われるため、天皇・皇后はこの日、御使として侍従小畑忠を鶴沼の秩父宮別邸に差し遣わされ、霊前に果物をお供えになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓関係書類、臨時祭祀録、祭典録

十六日 土曜日 午後、元侍従長百武三郎・元皇后宮大夫広幡忠隆の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓関係書類

二十日 水曜日 午後、天皇と共に、参邸の故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、去る十六日の雍仁親王霊代を皇霊殿に遷すの儀につきお礼言上をお受けになる。天皇が退出された後も、引き続き御会話になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類

二十四日 日曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午前十時御出門、午後零時一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓関係書類、

宮内庁庁報

二十五日 月曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、鷹司平通・同夫人和子と御対面になる。鷹司夫妻は、平通が来る二十七日渡米するに当たり、挨拶のため参殿した。渡米につき、天皇・皇后より平通にお品を賜う。なお、皇后は二十七日に事務官を羽田空港へ差し遣わされ、平通にお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十八日 木曜日 午前、内廷庁舎にエスター・ビドル・ローズ<sup>皇太子の家庭教師</sup>を召され、英語を学ばれる。

以後、昭和三十一年まで定期的に同人を召され、英語を学ばれる。この年は木曜日を中心に、四月二十二日まで行われる。○女官日誌、贈賜録

三十日 土曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

## 二月

一日 月曜日 この日、東久邇真彦<sup>御孫</sup>が初誕辰を迎える。これにつき、天皇・皇后より東久邇盛厚・

同夫人成子に五種交魚代料を、東久邇稔彦<sup>御父邦彦王の弟</sup>・同夫人聡子に三種交魚代料を、真彦に鮮鯛代料及

び御台人形代料を賜う。○女官長日記、贈賜録

二日 火曜日 午前、表拝謁の間において、新任のチリ国特命全権公使ロベルト・スアレス・パロス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

四日 木曜日 午後、旧御進講室において、この度結婚につき暇乞いのため参内した大谷美都子、同母の智子<sup>御妹</sup>と御対面になる。大谷美都子・同智子に対し、それぞれ万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

六日 土曜日 午後、清宮御仮寓所にお出ましになり、ピアノの稽古をされる。終わって、貴子内親

昭和二十九年二月

王と御歓談になる。この年もしばしば清宮御仮寓所・呉竹寮にお出ましになり、神戸絢の指導によるピアノの稽古を行われ、また内親王の各種稽古を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

七日 日曜日 この日、故雍仁親王妃勢津子が藤沢市の秩父宮別邸より千代田区の宮内庁長官公邸へ移転するにつき、天皇・皇后より同妃に万那料及び清酒等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、贈賜録、宮内庁庁報

八日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、前スウェーデン国駐劔特命全権公使結城司郎次より北欧三国の情勢についての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、進講録

天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御夕餐を御会食になる。御会食に先立ち、故雍仁親王妃より昨七日の居所移転につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

九日 火曜日 この日、侍従入江相政を川合玉堂の許に差し遣わされ、黄色のバラと紅葉の雪柳に鶴の御絵を玉堂に講評させられる。夕刻、入江侍従より復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十日 水曜日 天皇と共に表一の間において、新任のフランス国特命全権大使ダニエル・レヴィ及び同夫人、アルゼンチン国特命全権大使カルロス・A・キロス及び同夫人、ノルウェー国特命全権公使スヴェン・ボルクマン・ヘルスレーブ・フォークト及び同夫人、チリ国特命全権公使ロベルト・スアレス・パロス及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、旧御進講室において、久邇朝融<sup>御</sup>・同息女通子と御対面になる。昨昭和二十八年九月に成年に達した通子より、去る一月十五日の成人式に当たり参内の節、成年に伴う賜品拝受につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十五日 月曜日 午前、御文庫において、鷹司和子<sup>米国より帰国の鷹司平通と共に参殿</sup>と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十日 土曜日 これより先、天皇・皇后は米国の写真家ロバート・E・フランクより、皇太子が渡米中の昨年十月四日に訪問した午餐会場クレサップ・ブルース・ウェルトナー邸の写真帳の献上をお受けになる。この日、フランクに対し、天皇・皇后の謝意を伝達する侍従長名の書簡が發送される。

○外交贈答録

二十一日 日曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 昨年の皇太子訪米に際して接待に尽力したジョン・デイヴィソン・ロックフェラー三世及び同夫人来日につき、午後、天皇と共に謁見所において御引見になり、お茶を共にされる。皇后より夫人に切り花を賜う。なお、皇太子は病気休養のため、陪席を取りやめる。この度の御引見は、同夫妻の来日を機に、天皇・皇后が私的な茶会に御招待になる形式で行われた。また、この御引見に先立ち、日米親善の功勞により、同人に勲一等瑞宝章が贈られた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報、毎日新聞、読売新聞

二十六日 金曜日 午後、天皇と共に花蔭亭通用門外において、第十五回社会福祉法人中央共同募金

昭和二十九年三月

会評議員会に参会の同評議員に御会釈を賜う。同募金会会長中川望より挨拶をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

二十七日 土曜日 御夕餐後、天皇及び正仁親王と共に御文庫において、映画「川合玉堂」ブリヂストン美術館映画部製作

等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この月 恒例により大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・水薬師寺・長福寺・善光寺にそれぞれ乾海苔料を賜う。○贈賜録

### 三月

二日 火曜日 午前、表拝謁の間において、近く赴任のカナダ国駐劔特命全権大使松平康東、カンボ

ジア国駐劔特命全権公使吉岡範武及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

貴子内親王の誕生日につき、夕刻、天皇と共に内廷庁舎において、同内親王と御対面になる。ついで

天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元女官等の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三日 水曜日 午後、御進講室において、この度米国に帰国するカー夫人及び同道する植村環の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 金曜日 午後、ブダペスト弦楽四重奏団による演奏を御鑑賞のため、楽部にお出ましになる。

御到着後、御休所において伏見朝子・賀陽敏子・久邇朝融・同息女通子・閑院直子と御対面になる。

演奏室に移られ、ハイドン作曲弦楽四重奏曲「ひばり」の演奏をお聴きになり、さらにアンコールとしてチャイコフスキー作曲弦楽四重奏曲第一番第二楽章「アンダンテ・カンタービレ」をお聴きになる。終わって、御休所において第一ヴァイオリンのジョセフ・ロイスマン<sup>長</sup>、第二ヴァイオリンのジャック・ゴロデツキー及び同夫人、ヴィオラのボリス・クロイト及び同夫人、チェロのミツシャ・シユナイダー及び同夫人を順次御引見になり、それぞれにお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録  
元宮中顧問官石井国次去る三日死去につき、天皇・皇后より祭塗料を賜う。○恩賜録、贈賜録  
六日 土曜日 この日、満五十一歳のお誕生日を迎えられる。

午前、表拝謁の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで表西の間において、故雍仁親王妃勢津子始め皇族・元皇族・元王族、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、表拝謁の間において御縁故者、続いて元学習院女学教授佐野正造・元久邇宮侍女滝野繁尾、及び御学友一名、御同級生五名、元宮内庁長官及び元側近奉仕者の拝賀を、皇后宮御進講室において元皇后宮女官・元女官等の拝賀を、内廷西玄闔前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員等の奉拝をお受けになる。なお、御学友等の拝賀をお受けになった際、かねて御同級生から選定の願い出があった同級会の会名につき、皇后が御幼少であった御在学時に花印をお使いであったことから、後水尾天皇が京の花に賜った銘「あけぼの」を選ばれ、「あけぼの会」と御提案になる。

午後、御文庫において、女官長始め女官一同より、御成婚三十年のお祝いの品の献上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮内庁庁報

昭和二十九年三月

八日 月曜日 祐子内親王祥月命日につき、午前中はお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌

十日 水曜日 午前、旧御進講室において、大谷光暢・同夫人智子、大賀美都子御妹智子の息女、旧姓大谷・同夫君と御

対面になる。この度結婚式を終えた大賀夫妻より、お礼言上をお受けになる。この度の参内に際し、

大谷光暢に白羽二重及びお品を、同夫人智子に一越縮緬及びお品を、大谷夫妻に万那料を、大賀美都子に緋紋縮緬及びお品を、同夫君に白羽二重及びお品を、大賀夫妻に万那料を賜う。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、贈賜録

十一日 木曜日 カナダ国首相ルイ・ステファン・サン・ローランが国賓として来日につき、天皇と共に表北の間において、宮中午餐を催される。なお、昨昭和二十八年十二月に外務省・総理府・宮内庁三者による協議により国賓の待遇が定められて以降、この度初めての国賓の接遇となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外賓接待録、宮内庁庁報

十二日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、正仁親王を伴われ午前十時十分御出門、十一時四十三分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓

録、葉山行幸啓関係書類、宮内庁庁報

十九日 金曜日 元国務大臣前田米蔵昨十八日死去につき、天皇・皇后は賜物使・枢前使として侍従小畑忠を前田邸に差し遣わされ、祭送料及び花を賜う。○侍従職日誌、賜与録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午前十時五分御出門、十一時三十分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓関係書類、宮内庁庁報

二十一日 日曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 午前、元内匠寮工務部庭園課長福羽発三財団法人新宿御苑保存協会理事より、お庭のバラの剪定について指導をお受けになる。終わって、お一方にて剪定を行われる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 水曜日 学習院高等科卒業式に御臨席のため、午前九時二十分御出門、天皇と共に学習院に行啓される。正仁親王への卒業証書授与等を御覧になり、十一時三十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に御文庫において、皇子傳育官東園基文より正仁親王の修学状況に関する報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十五日 木曜日 午前、謁見所において、新任のタイ国特命全権大使ルアン・ピニット・アクソン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報  
午後、御文庫において、昨日御使として川合玉堂邸に差遣された侍従入江相政より復命をお受けになり、御絵のことについてお聞きになる。○女官日誌

天皇と共に御文庫において、この度学習院高等科卒業の正仁親王及び女子中等科卒業の貴子内親王と卒業祝いの御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 金曜日 正仁親王学習院高等科卒業につき、正午過ぎ、天皇と共に旧北御車寄門内において、同科長戸沢富寿以下教職員に御会釈を賜い、天皇に続きお礼のお言葉を賜う。ついで、天皇と共に戸沢より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

昭和二十九年三月

二十七日 土曜日 日本赤十字社第二回通常代議員会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時十分御出門、日本赤十字社本社に行啓される。御到着後、便殿において同社名誉副総裁である故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。ついで、参議院議長河井弥八・厚生大臣草葉隆円・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長葛西嘉資の拝謁をお受けになる。終わって、式場にお出ましになる。社長による開会の辞に続き、有功章受章者総代六名・特別社員章受章者総代六名にそれぞれ各章を御親授になる。終わって、次の令旨を賜う。

日本赤十字社の第二回通常代議員会に臨み、日ごろ、赤十字事業に尽力されて居る多数の人々と、お会いすることは、まことにうれしく思います。

日本赤十字社は、今後いよいよ社業を伸張し、各国の赤十字社と克く力を合わせ、その理想とする人道的任務を達成し、国民の期待に副わねばならないと考えます。

この際社員及び役職員の一段の努力を望んで止みません。

ついで、社長の奉答をお受けになる。御退場後、総裁室において、赤十字国際委員会関係者及び米国赤十字関係者計十名の謁見をお受けになり、お言葉を賜う。写真撮影場に充てられた玄関内広場において記念撮影をお受けになり、十一時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報、

日本赤十字社社史稿

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、侍従職御用掛小泉信三より、昨年の欧米旅行における見聞についての進講をお受けになる。進講は二日間にわたり行われ、この日は主として英国の状況について、翌三十日の午前はフランス国・スウェーデン国・ベルギー国・イタリア国・ス

イス国等の状況についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、稲田周一関係資料

三十日 火曜日 来る五月一日よりフィリピン国マニラにおいて開催の第二回アジア競技大会に日本代表選手団が参加するに当たり、御奨励のため、天皇・皇后より財団法人日本体育協会に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

#### 四月

二日 金曜日 常磐会慈善能を御鑑賞のため、午後零時四十一分御出門、水道橋能楽堂に行啓される。御到着後、常磐会会長松平信子の紹介にて、出演者の桜間弓川・橋岡久太郎・室生九郎・喜多実の拝謁をお受けになる。ついで御休所において故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子、久邇倪子・北白川房子・東久邇聡子・梨本伊都子と御対面になる。会場に進まれ、梅若実・川崎九淵等による能「隅田川」、野村万蔵・三宅藤九郎・野村万之丞による狂言「宗論」を御覧になる。終わって御休所前において、常磐会理事長伏見朝子の紹介にて出演者の梅若実・川崎九淵の拝謁をお受けになる。御休所において御少憩の後、再び会場にお出ましになり、幸祥光・観世鍊之丞による一調「笠之段」、室生九郎による仕舞「枕慈童」、喜多実による仕舞「玉之段」、橋岡久太郎による仕舞「山姥」、桜間弓川等による能「葵上」を御覧になる。四時五十三分還啓される。この慈善能は、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会を始めとする児童社会事業への援護資金を募集するため、常磐会の主催、能楽協会及び朝日新聞社の後援で開催された。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三日 土曜日 午前、神武天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

四日 日曜日 御文庫において天皇と共に、去る二日関西旅行より帰京の貴子内親王と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 月曜日 兵庫県において行われる昭和二十九年年度植樹行事に御臨場、併せて県下の産業施設等を御視察、並びに遷宮後の神宮御参拝のため、天皇と共に兵庫県・三重県に行啓される。午前九時御出門になり、東京駅より神戸駅を経て、午後六時五十分神戸市の御泊所舞子ヴィラに御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、庁規例規朝儀諸綴、宮内庁庁報、官報

六日 火曜日 午前十時五十分天皇と共に御泊所舞子ヴィラを御出発になり、植樹行事会場である神戸市の小東山植栽地に御到着になる。お手植地に進まれ、天皇に続き、国土緑化推進委員会最高顧問河井弥八参議院議長・兵庫県知事岸田幸雄・神戸市長原口忠次郎の介添えにより、クロマツの苗三本をお手植えになる。ついで御播種地に臨まれ、国土緑化推進委員会副委員長徳川宗敬の介添えにより、ヒノキの種をお手播きになる。天皇もクロマツの種をお手播きになる。終わって、一旦御泊所にお戻りになる。午後二時三十五分天皇と共に再び御泊所を御出発、明石市の大和製衡株式会社を御視察になる。ついで県立明石公園に向かわれ、公園内の明石城本丸跡に設けられた奏上所において、明石市長田口政五郎より戦災復興状況をお聞きになり、市内を御展望になる。四時十分御泊所舞子ヴィラに還御される。御着後、天皇と共に池田隆政・同夫人厚子と御対面になり、ついで御夕餐を御会食になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、兵庫県庁所蔵資料、みどりの兵庫行幸啓誌、神戸

新聞、神港新聞

ノルウェー国皇太子妃メルタ昨五日薨去につき、天皇・皇后より同国国王ホーコン七世に弔電をお送りになる。これに対し九日、答電がある。○外交慶弔録、典式録、宮内庁庁報

七日 水曜日 御朝餐後、池田隆政・同夫人厚子と御対面になる。午前九時五十分天皇と共に御泊所舞子ヴィラを御出発になる。須磨浦公園において、緑化運動の象徴として建設され去る三日に除幕式が行われた「みどりの塔」を御覧になる。次に神戸港第七突堤に向かわれる。御着後、神戸埠頭株式会社屋上の展望室において、神戸市長原口忠次郎より神戸港の状況をお聞きになり、ついで室外に移られ、港内外の状況を御展望になる。ついで県立日本真珠会館を御視察になる。御昼餐の後、館内の真珠交換場において、真珠の入札の模様を御覧になる。ついで同館二階の兵庫県輸出品展覧場を御視察になる。終わって、神戸駅より三重県の山田駅を経て、午後五時五十分御泊所の内宮齋館に御到着になる。御夕餐後、天皇と共に神宮祭主北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、兵庫県庁所蔵資料、みどりの兵庫行幸啓誌、神宮・明治百年史補遺、神戸新聞、神港新聞

八日 木曜日 神宮御参拝のため、午前九時三十分天皇と共に御泊所の内宮齋館を御出発になり、外宮齋館に到着される。天皇に続いて豊受大神宮に御拝礼になり、玉串を奉奠される。終わって、内宮齋館に向かわれる。同所において御昼食の後、天皇に続いて皇大神宮に御拝礼になり、玉串を奉奠される。なお、神宮御参拝に際して、天皇・皇后より皇大神宮・豊受大神宮・両宮別宮十四所にそれぞれ幣帛料及び神饌料を御奉納になる。その後、内宮齋館において神宮祭主北白川房子の拝謁をお受け

昭和二十九年四月

になり、同人にお品を賜う。同館を御出発の際、御車寄において、式年遷宮に尽力した神宮顧問総代に御会釈を賜う。山田駅より鳥羽駅を経て、午後五時、賢島の御泊所志摩観光ホテルに御到着になる。

その後、お一方にて、神宮大宮司佐佐木行忠夫人米子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、内舎人供奉日誌、臨時祭祀録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、伊勢志摩に両陛下をお迎えして、神宮・明治百年史補遺

九日 金曜日 有限会社御木本真珠会社を御視察のため、午前十時三十分お一方にて御泊所志摩観光ホテルを御出発になり、賢島棧橋よりお召し船に乗船され、新多徳島に向かわれる。同島付近では海女の水中作業を御覧になる。御木本棧橋にて御下船の後、御木本幸吉<sup>貞明皇后より拝領の杖を持参</sup>のお出迎えをお受け

になる。ついで同社工場内に移られ、アコヤガイへの核入れ作業から首飾りが完成するまでの各工程並びに真珠養殖事業について、各担当者の説明をお受けになりつつ御巡覧になる。その間、種々御下問になり、また励ましのお言葉を賜う。終わって、奏上室において御木本より、御木本真珠に対する皇室の恩沢、真珠養殖の過去と現在、及び御木本真珠の将来への抱負について言上をお受けになる。

その後、同人より首飾りの献上をお受けになる。また、第一回のニューヨーク万国博覧会に出品された「自由の鐘」を御覧になる。御木本棧橋より賢島棧橋を経て、十一時五十分御泊所志摩観光ホテルに還御される。その間、天皇は御泊所にて生物学者の進講をお聴きになる。午後は御静養に充てられ、天皇と共に御泊所の周辺を御散策になり、天皇の植物御調査に同行される。夕刻、御泊所において、養殖真珠の輸出と生産に関する図表、半円真珠加工工程を示す標本、真珠貝利用の頸輪・腕輪等の工芸品などを御覧になる。御夕食後、海女の作業に関する映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、伊勢志摩に両陛下をお迎えして

十日 土曜日 午前九時二十分天皇と共に御泊所志摩摩観光ホテルを御出発になる。鳥羽駅より東京駅を経て、午後七時皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、

幸啓録、宮内庁序報、官報

十一日 日曜日 午前、昭憲皇太后四十年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。また、併せて昭憲皇太后山陵四十年式年祭の儀が行われるにつき、京都事務所長石川忠に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、宮内庁序報

十二日 月曜日 午前、表拝謁の間において、新任の皇子傅育官竹田倭子貴子内、親王付及び前任の皇子傅育

官名取はなの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、宮内庁序報、官報

天皇と共に表三の間において、松影会宮内省・宮内府・宮内庁元部局長以上の親睦会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、奥三の間において、学習院女学部時代の教師六名及び御同級生三十九名の拝謁をお受けになる。続いてお茶を共にされ、各テーブルに順次御着席になり、御歓談になる。途中より貴子内親王も参加する。最後には、「金剛石」の歌を合唱される。なお、かねて御同級生から選定の願い出があった同級会の会名について、「あけぼの会」の名去る三月六日、御同級生よりお誕生日の拝賀をお受けになった際に御提案を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

十三日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、去る十一日昭憲皇太后四十年式年祭執行につき、東京大学教授久松潜一より昭憲皇太后の御事蹟についての進講をお受けになる。○女官長日記、女

昭和二十九年四月

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

午後、御文庫において、東伏見慈洽<sup>御弟</sup>の青蓮院座主就任に当たり晋山式に出席のため京都に赴く久邇  
侁子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。座主就任に際し、慈洽にお祝いの品を賜い、また侁子  
を通じて菓子等を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、鹿児島県知事重成格より、昨昭和二十八年  
十二月二十五日の奄美大島の日本復帰についての進講をお受けになる。御夕餐後、天皇及び貴子内親  
王・崇仁親王・同妃百合子と共に御文庫において、鹿児島県より献上された奄美大島に関する映画等  
を御覧になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

元侍医頭佐藤恒丸<sup>元宮中顧問官</sup>去る十六日死去につき、天皇・皇后より祭葬料を賜う。また別に天皇・皇后よ  
り菓子を、皇后より切り花を賜う。佐藤は、昭和二年侍医頭に任じられ、十二年宮中顧問官に転じ、  
二十年の官制改正による同職の廃官までその任にあつた。○女官長日誌、恩賜録、贈賜録

二十一日 水曜日 午後、御文庫において、東伏見慈洽と御対面になり、先般晋山式に当たりお品を  
拝領したことについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、内舎人日誌

二十二日 木曜日 午前、エスター・ビドル・ローズより、英語を学ばれる。近く帰国するローズに、  
出発前に皇后より金員の賜りがある。○女官長日誌、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、ウイルヘルム・バックハウスによるピアノ演奏を御鑑賞のため、楽部にお出ましになる。御到  
着後、崇仁親王妃百合子・東久邇聡子・同成子のお出迎えをお受けになる。それよりバッハ作曲「イ  
タリア協奏曲」、ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ第十四番「月光」」始め十一曲の演奏をお聴きにな

る。終わって御休所において、毎日新聞社社長本田親男・同夫人の拝謁をお受けになる。続いてウイ  
ルヘルム・バックハウス及び同夫人を御引見になり、お言葉を賜う。また、バックハウスに日本人形  
を、同夫人に菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、外交雑録

二十六日 月曜日 天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員と午餐を御会食になる。○女官長日  
記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録

午後、天皇と共に御文庫において、この月より学習院大学政経学部聴講生として通学する皇太子の修  
学状況につき、侍従職御用掛小泉信三・東宮大夫野村行一より言上をお受けになる。○女官長日記、女官  
日誌、侍従日誌、内舍人日誌、学習院大学五十年史

二十七日 火曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門前において、厚生大臣から表彰された身体障害者  
で自立更生し他の模範となる者及び身体障害者更生援護事業功労者等に御会釈を賜う。厚生大臣草葉  
隆円の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人  
日誌、宣召録、典式録、宮内庁序報

天皇と共に表西の間において、日本画家横山大観の制作した宮殿用絵画「富士」を御覧になる。○侍従  
日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁序報

二十八日 水曜日 午前、謁見所において、初代セイロン国特命全権公使ディー・パール・スサンタ・デ・  
フォンセカ及び今般来日した同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁序報

二十九日 木曜日 天皇誕生日につき、午前、表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、皇太子始  
め皇族、元皇族・元王族、御縁故者の拝賀を、続いて安藤幸<sup>ウァイオ、</sup>リニスト、元皇后宮女官等の拝賀をお受け

昭和二十九年五月

になる。

正午、旧皇后宮御進講室において内宴を催され、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御会食になる。正仁親王・貴子内親王が同席する。天皇誕生日宴会の儀終了後、皇太子が同所に参上し、御一緒に元側近奉仕者の拝謁をお受けになる。午後四時、天皇と共に表西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、外国交際官等が出席する。なお、天皇誕生日に当たり、皇后より天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、重要雜録、宮内庁庁報

## 五月

一日 土曜日 この日より実施される昭和二十九年度赤十字募金運動を御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

四日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所において、カリフォルニア大学教授ハーバート・マクリーン・

エヴァンス 解剖学者、胎生学者 及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式

録、謁見録、宮内庁庁報、朝日新聞

七日 金曜日 午前、内廷庁舎において、近く赴任のイラン国駐劔特命全権公使門脇季光の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

八日 土曜日 京都市右京区の長福寺において護摩堂 光格天皇の皇后新清和院欣子内親王の発願により建立 の改修を終え、この日入仏供

養並びに皇室安泰の祈禱を修するに当たり、香華料を賜う。○贈賜録

九日 日曜日 天皇と共に御文庫において、皇太子・正仁親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。

母の日につき、皇太子・正仁親王・貴子内親王より皇后にそれぞれお品が贈られる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌

午後、内廷西玄閣において、東京都主催「母の日」大会参列者約千名に御会積を賜う。母親代表五名より挨拶をお受けになり、また未亡人団体推薦の内藤キミよりカーネーションの花束の献上をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。儀終了後、還御の際に、同所主任有泉善三始め奉仕の者にお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十一日 火曜日 午前、内廷庁舎において、この度帰国する九州女学院理事マリアン・E・パッツを御引見になる。パッツは大正十年六月の来日以来女子教育や社会事業に尽力し、今般勲五等に叙され瑞宝章を授けられた。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午前、天皇と共に謁見所において、ナショナル・シテイ・バンク・オブ・ニューヨーク取締役会長ハワード・コットレル・シェパード及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

ナイチンゲール百年記念の年に際し、また昭和二十九年度の赤十字運動実施中につき、名誉総裁として看護婦の近況をお聞きになるため、午後、フローレンス・ナイチンゲール記章受章者十六名をお招きになり、表三の間においてお茶の席を設けられる。同社名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子、並びに日本赤十字社社長島津忠承、同副社長葛西嘉資が陪席する。

昭和二十九年五月

○女官長日記、女官日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十三日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、木原敏隆始め明治四十一年以来の御養蚕所奉仕者約百名の奉拝をお受けになり、お言葉を賜う。その後、去る十日に掃立てを終えた蚕の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

十四日 金曜日 多摩陵<sup>大正天皇陵</sup>及び多摩東陵<sup>貞明皇后陵</sup>に御参拝のため、午前十時四分御出門、天皇と共に両

陵に行啓される。御着後、天皇に続き両陵を順次御拝礼になる。御休所において御昼食の後、隣接する林業試験場浅川支場内で採集された植物を御覧になる。午後二時十八分還啓される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、幸啓録、宮内庁庁報

十五日 土曜日 午前、天皇と共に謁見所において、昨十四日より来日中の米国防長官チャールス・

アーウィン・ウィルソン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、外交記録、朝日新聞

午後、天皇と共に御文庫において、今般退職の侍従職御用掛名取はな<sup>元皇子傅育官</sup>の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、贈賜録

十七日 月曜日 貞明皇后三年式年祭につき、午後、天皇と共に御文庫において、元皇后宮女官・元女官等の拝謁をお受けになる。夕刻、天皇と共に花蔭亭において、皇太子、正仁親王、貴子内親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、北白川房子、東久邇聡子、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司和子と御夕餐を御会食になる。花蔭亭には、貞明皇后の写真が飾られる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十八日 火曜日 午後、内廷庁舎において、マリー・シモーヌ・ルヌーイ<sup>日仏会館館長</sup>・ルヌーイ<sup>夫人</sup>を相手にフランス語を学ばれる。以後、昭和三十一年まで定期的に、同人を相手にフランス語を学ばれる。○女官長日記、

女官日誌

十九日 水曜日 午前、花蔭亭において、御同級生総代一名の拝謁をお受けになる。同人は先般あけぼの会に下賜された御歌に、元女子学習院教授松島彝により曲が付されたことから、楽譜を御覧に供するため参内した。拝謁の後、楽部職員による同曲のピアノ演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十一日 金曜日 午前、天皇と共に表御座所において、侍従職御用掛小泉信三より渡米の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌  
紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

この日より銀座松坂屋において開催の日本バラ会主催「春のばら展」に、御文庫前庭にて御栽培のバラ<sup>フランス種ピース・ルクセンブルク種グラン</sup>ラ<sup>ドデュッセスシャロット・米種コロンビヤ</sup>の切り花を御出品になる。昨昭和二十八年に日本バラ会より献上され、お植え付けになったもので、福羽発三が手入れに参内の節、御出品を願ひ出たものである。翌二十二日には、女官長保科武子・侍従職御用掛河合よう子・女官今城誼子等が同所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、日本ばら会創立四〇周年記念誌

二十四日 月曜日 午後、内廷庁舎において、徳川為子<sup>御母</sup>より同夫君頼貞死去後の忌明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

昭和二十九年五月

二十六日 水曜日 去る九日より十日にかけて暴風雨雪により甚大な被害を受けた北海道に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、読売新聞

二十七日 木曜日 午後、糸竹会例会に御臨席のため、楽部にお出ましになる。御到着後、御休所において糸竹会会員の久邇侘子と御対面になる。ついで会場にお出ましになり、久邇侘子始め糸竹会会員、並びに楽部職員による「迎陵頻」・「胡飲酒」・「陵王」、貞明皇后御歌「糸竹」の演奏をお聴きになる。終わって、御休所において久邇侘子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。また、二条恭仁子御父邦彦王の弟の息女の拝謁をお受けになる。続いて両者を伴われ、二階より舞楽「陪臚」を御覧になる。○女

官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録

二十八日 金曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後一時四分御出門、港区の綱町三井倶楽部に行啓される。御到着後、便殿において先着の宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで会場にお出ましになり、常磐会会長松平信子の挨拶に続き、「花すみれ」の合唱、学習院長安倍能成による素謡「摂待」、会員による常磐津「子宝三番叟」・清元「青海波」・長唄「藤娘」の各舞踊、社団法人才能教育研究会の幼児によるヴァイオリン演奏、「金剛石」の合唱を御鑑賞になる。終わって一同が前庭に移動した後、会場に残る御同級生による、御歌「あけぼの」の合唱をお聴きになる。便殿にて御少憩の後、宣仁親王妃・崇仁親王妃と共に前庭にお出ましになり、御同級生等が出品する模擬店を廻られながら、随時御歓談になる。両親王妃とお茶を共にされた後、四時五分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十一日 月曜日 午前十時一分御出門、天皇と共に目黒の農林省林業試験場及び白金の国立自然教

育園に行啓される。順次御視察になった後、午後四時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

## 六月

二日 水曜日 午後、故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子を伴われ奥二の間において、常磐会會長松平信子・同理事長伏見朝子始め同会役員十九名の拝謁をお受けになる。ついで、奥三の間においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

三日 木曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の飼育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

四日 金曜日 午前、天皇と共に表西の間において、安田鞞彦<sup>文化勲章受章者</sup>の作製した宮殿用絵画を御覧になる。○侍従日誌、入江相政日記

義宮御殿にお出ましになり、昨日より風気にて静養中の正仁親王をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌

五日 土曜日 午後、女官候所において、元皇后宮女官津軽理喜子の拝謁をお受けになる。それより、天皇と共に同人をお招きになり、御夕餐を共にされる。津軽は今年満八十歳につき御相伴に招かれ、紅葉山産一越縮緬・万那料・お品を拝領する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 月曜日 病気のためこの日帰国するセイロン国特命全権公使ディー・パール・スサンタ・デ・フオンセカ夫人に対し、切り花を賜う。これに対し、同日付にて同公使より礼状がある。○女官長日記、贈賜

昭和二十九年六月

録、外交贈答録

八日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所において、この度長期にわたり賜暇帰国するブラジル国特命全権大使ジュリオ・アウグスト・バルボーズ・カルネイロ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁序報

内廷庁舎において、初代カンボジア国特命全権公使カントル・ノロドムを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁序報

九日 水曜日 午後、この度退職する侍従職御用掛名取はな<sup>元皇子  
傳育官</sup>の拝謁をお受けになり、ついで同人の送別茶会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌

十日 木曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十一日 金曜日 去る五月三十日の東久邇成子内着帯につき、この日、天皇・皇后よりそれぞれ東久邇盛厚・同夫人成子に三種交魚代料を賜う。また、天皇・皇后より東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十二日 土曜日 天皇と共に御文庫において、この度退職の元侍従職御用掛名取はなをお招きになり、御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録

十六日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時一分御出門、三時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓関係書類綴、

宮内庁序報

十八日 金曜日 午前、天皇と共に船にて荒崎にお出ましになり、磯にて御採集になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類綴

十九日 土曜日 昨十八日にスペイン国特命全権大使フランシスコ・ホタ・デル・カステイヨが死去したことを受け、この日弔問使として、侍従職御用掛河合りよう子を同国大使館に差し遣わされる。

二十一日には千代田区の聖イグナチオ教会において同大使の弔祭式が執行され、御名代として宣仁親王妃喜久子を差し遣わされる。また、天皇・皇后より花環のお供えがある。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、葉山行幸啓関係書類綴、典式録、外交慶弔録、御差遣録、外交贈答録、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

二十日 日曜日 午前、天皇及び正仁親王昨十九日参邸と共に、朝香孚彦鳩彦の子息の拝謁をお受けになる。○侍従日

誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類綴

正仁親王、貴子内親王この日参邸を伴われ、天皇と共に名島干潟において御採集になる。○女官長日記、女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類綴

二十一日 月曜日 午後、日本赤十字社社長島津忠承より、第二十三回赤十字社連盟理事会における原子核、毒ガス及び細菌戦に関する決議日本国・インド国・スウェーデン国原案についての進講をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類綴、日本赤十字社社史稿

二十四日 木曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午前十時一分御出門、十一時三十分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓関係

昭和二十九年七月

書類綴、宮内庁序報

二十八日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、中央气象台長和達清夫より氣象観測についての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録  
天皇と共に表一の間において、この度離任のカナダ国特命全権大使ロバート・ウエリントン・メイヒュー及び同夫人、ユーゴスラビア国特命全権公使マクソ・バーチエ及び同夫人、新任のタイ国特命全権大使ルアン・ピニット・アクソン及び同夫人、カンボジア国特命全権公使カントル・ノロドムのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

## 七月

二日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、米国から帰国した侍従職御用掛小泉信三より、コロンビア大学名誉文学博士号授与式の模様、元皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニングとの会見など、現地で見聞したことについての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、小泉信三全集

三日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に御臨席になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

五日 月曜日 午前、御養蚕納の儀が行われる。皇后はお出ましにならないこととされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

九日 金曜日 午前、天皇と共に花蔭亭通用門内において、紅葉山御養蚕所主任有泉善三及び助手二

名の拝謁をお受けになる。この度退職の有泉にお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

十日 土曜日 午前、東京農工大学繊維学部部長北尾淳一郎ほか一名の賜謁があり、花蔭亭横にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十二日 月曜日 午前、表拝謁の間において、この度退職した有泉善三の拝謁をお受けになる。明治四十一年の東宮職御養蚕所主任拝命より永年奉仕した同人に真綿<sup>紅葉山御養蚕所産</sup>及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌

十三日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、近く帰国の関東学院大学理事長ウイリアム・アキスリング及び同夫人を御引見になる。なお、アキスリングは明治三十四年にキリスト教伝道者として米国より来日し、四十年の東北地方の飢饉に際して救済事業に従事し、宮内省より銀杯を授与された。その後も多くの社会事業に貢献し、この年五月十四日には勲二等瑞宝章を授けられた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、天蚕の發育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌  
午後、内廷庁舎において、近く帰国の故スペイン国特命全権大使フランシスコ・ホタ・デル・カステイヨ夫人を御引見になる。昨六月の大使死去に心を寄せられ、お品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、贈賜録、宮内庁庁報

十四日 水曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時十五分御出門、午後零時五十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、

昭和二十九年七月

宮内庁庁報

二十六日 月曜日 正午前、貴子内親王<sup>二十二</sup>を御同伴にて附属邸にお出ましの際、通用門脇において

日参邸

那須婦人会連絡協議会会長鈴木トウほか四十名に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、

栃木県関係者等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

二十七日 火曜日 午前、貴子内親王を伴われ、紅葉谷・天狗岩方面にお出ましになる。林野庁指導部猟政調査課長葛精一の説明にて鳥の声をお聴きになりつつ、御散策中の天皇と合流され、引き続きお揃いにて御散策になる。翌二十八日の午前には、天皇と共に、葛の説明にて鳥の声をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌

二十九日 木曜日 天皇と共に那須御用邸より一時御帰京のため、午後零時二十一分御出門、四時四

分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、

幸啓録、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

天皇と共に花蔭亭通用門外において、全国保育事業大会で厚生大臣から表彰された優良保育施設代表者等に御会釈を賜う。厚生大臣草葉隆円より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、宮内庁庁報

この日、崇仁親王妃百合子の内着帯につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃に万那料を御贈進になる。

○女官長日記、贈賜録

三十日 金曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

三十一日 土曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時十四分御出門、午後零時五十三分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

## 八月

二日 月曜日 午前、広谷地方面における天皇の植物御調査に同行される。途中より皇太子八月一日参邸も加わる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、東宮侍従日誌、栃木県庁所蔵資料

三日 火曜日 午後、天皇及び皇太子と共に、参邸した東宮教育担当の参与小泉信三侍従職御用掛の拝謁をお受けになる。○侍従日誌、那須行幸啓録、東宮侍従日誌

四日 水曜日 午後、皇太子の運転する車にて宮内庁養魚場にお出ましになり、マス釣りを行われる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録、東宮侍従日誌、栃木県庁所蔵資料

六日 金曜日 北海道地方事情御視察並びに第九回国民体育大会御臨場のため、天皇と共に北海道に行啓される。午前九時三十分那須御用邸を御出門、黒磯駅より盛岡駅を経て、午後六時十五分、御泊所松尾鋳業株式会社葛西荘に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、宮内庁庁報、官報、栃木県庁所蔵資料、岩手県庁所蔵資料、北海道行幸啓誌

七日 土曜日 午前九時二十九分天皇と共に御泊所松尾鋳業株式会社葛西荘を御出発、盛岡駅より御乗車になり、青森駅にて御降車になる。なお、途中尻内駅停車時には、学習院女学部時代の教師今井

昭和二十九年八月

熊太郎元女子学  
習院講師の車窓拝謁をお受けになり、お言葉を賜う。青森駅より青森棧橋に向かわれ、同所より

お召し船洞爺丸青函連  
絡船に御乗船になり、函館棧橋にて御下船になる。午後七時五分、湯の川の御泊所若

松旅館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、

入江相政日記、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌

八日 日曜日 午前九時四十七分天皇と共に御泊所若松旅館を御出発になる。函館市奉迎場千代ヶ岱公  
園野球場に

おいて市民等の奉迎をお受けになった後、函館製網船具株式会社五稜郭工場に御到着になる。御視察

の後、開催中の北洋漁業再開記念北海道大博覧大会第一会場に向かわれ、会場内の北海道物産展示館・

函館物産館を御覧になる。ついで、社会福祉法人函館共愛会中央保育所を御訪問になる。御昼食後に

同所を御出発になり、函館駅より大沼駅を経て、亀田郡の七飯村奉迎場大沼公  
園広場に御到着になる。雨の中、

同所において村民等の奉迎をお受けになる。降雨のため、大沼公園での御散策はお取りやめになり、

午後二時五分大沼の御泊所山水旅館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供

奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌、国民の象徴北海道御巡幸記念、

済寧、北海道新聞、北海タイムス

九日 月曜日 午前九時三十一分天皇と共に御泊所山水旅館を御出発になり、大沼駅より虻田駅へ向

かわれる。途中、森駅・八雲駅・長万部駅において下車され、それぞれの駅前において近隣村民等の

奉迎をお受けになる。なお、皇后は本行幸啓中、御風気等でお出ましを控えられた場合を除き、途中

停車駅において天皇と共に、車窓から、もしくは構内や駅前奉迎場において近隣住民等の奉迎をお

受けになる。午後零時三十二分、虻田駅に御到着になる。虻田町の洞爺湖見晴台にて湖の景観を御展望の後、壮瞥村の北海道立昭和南山資料館を御見学になる。ついで伊達町奉迎場<sup>伊達小</sup>において町民等の奉迎をお受けになる。伊達紋別駅より東室蘭駅を経て室蘭市奉迎場<sup>室蘭栄高等学校</sup>に御到着になり、同所において市民等の奉迎をお受けになる。ついで室蘭市宮埠頭より室蘭海上保安部の巡視船「てるづき」に御乗船になり、室蘭港内の諸施設を海上より御展望になる。御上陸後、富士製鉄株式会社室蘭製鉄所を御視察になり、六時二十六分幌別郡幌別町の御泊所登別温泉グランドホテルに御到着になる。御夕餐前、天皇と共に御泊所バルコニーより町民の奉迎にお応えになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報、虻田町役場所蔵資料、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌、壮瞥村史

十日 火曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所登別温泉グランドホテルを御出発、登別温泉地獄谷展望所において景観を御覧になった後、登別駅より苫小牧駅を経て、苫小牧市奉迎場<sup>東小</sup>に御到着になり、市民等の奉迎をお受けになる。ついで王子製紙工業株式会社苫小牧工場を御視察になる。苫小牧駅より夕張駅を経て、北海道炭礦汽船株式会社夕張鉱業所に御到着になる。模擬坑道にお入りになって御視察の後、夕張市奉迎場<sup>北炭夕張野球場</sup>において市民等の奉迎をお受けになる。午後三時十九分御泊所北海道炭礦汽船株式会社鹿の谷クラブに御到着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌、登別町史

十一日 水曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所北海道炭礦汽船株式会社鹿の谷クラブを御出発になる。栗山町奉迎場<sup>栗山中学校</sup>、栗沢町奉迎場<sup>男飛ヶ丘グランド</sup>、岩見沢市奉迎場<sup>岩見沢農業高等学校</sup>においてそれぞれ近隣市町

昭和二十九年八月

村民等の奉迎をお受けになる。岩見沢駅より御乗車になり、砂川駅を経て、砂川町奉迎場砂川小  
学校に御到着になり、町民等の奉迎をお受けになる。続いて東洋高圧工業株式会社北海道工業所において化学肥料の製造過程等を御視察になる。終わって、砂川駅より旭川駅を経て旭川市奉迎場常盤  
公園に御到着になり、

市民等の奉迎をお受けになる。続いて福祉法人旭川隣保会を御訪問になり、保育園児の遊戯や工作の模様及び母子寮を御視察になる。ついで北紡株式会社旭川工場、さらに隣接する全道綿羊共進会を御視察になる。旭川市立東五条小学校を御訪問になった後、五時二十八分旭川市の御泊所ニュー北海ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、三井

東圧化学北海道工業所蔵資料、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌

**十二日** 木曜日 皇后は数日來の御風氣に加え、御疲労の様子につき、御用心のため、この日の行事へのお出ましをお取りやめになる。行幸主務官曾我部久より本件が発表され、併せて、皇后より、皆さんにお目にかかれたいのは大変残念なことであるが、どうかよろしく伝えてもらいたい旨の仰せがあったことも発表される。天皇がお一方にて御泊所ニュー北海ホテルを御出発の後、皇后はホテル内においてアイヌ絵巻などの物産陳列を御覧になる。午前十時五分御泊所ニュー北海ホテルを御出発、東旭川駅に御到着後、車内にて御休息になる。御視察を終えた天皇の同駅御到着に際してもお出ましにならず、列車が北見駅に向け出発の後、御座所にて天皇をお迎えになる。途中上川駅・遠軽駅・留辺蘂駅停車の際、各奉迎場へのお出ましを控えられ、車内にてお過ごしになる。天皇と共に北見駅にて御降車になり、午後三時四分御泊所市川旅館に御到着になる。皇后は御泊所にて御静養になり、天皇は再び御出発になり、御視察を続けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、

幸啓録、宮内庁庁報、官報、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌、北見市史

**十三日 金曜日** 御朝餐後、天皇と共に、奉送のため参集した市民に御泊所の窓よりお応えになる。

これは昨日皇后のお出ましがなかったため、北見市の奉迎者がいたく嘆いたことを受けて行われる。

午前九時三十分、天皇と共に御泊所市川旅館を御出発、北見駅より網走駅を経て網走市奉迎場市営ケラウンドに

御到着になり、同所において市民等の奉迎をお受けになる。網走市立郷土博物館を御見学の後、十一時五十七分御泊所ホテル山水閣に御到着になる。午後は公式日程はなく、皇后はお出ましを控えられて御静養になり、天皇はお一方にて濤沸湖畔の原生花園を御訪問になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、

内舎人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報、北海道庁所蔵資料、網走郷土博物館所蔵資料、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌、北見市史

**十四日 土曜日** 皇后は御風気のため、この日の行事にはお出ましにならず、途中停車駅での奉迎へのお出ましも控えられる。午前十時十分天皇と共に御泊所ホテル山水閣を御出発、網走駅を経て弟子屈駅に御到着になる。皇后は御視察に御出発の天皇を車内より見送られ、ついでお一方にて御降車になる。阿寒村の阿寒双湖台にてペンケトー・パンケトー両湖等の風景を御展望になつた後、午後三時十二分御泊所阿寒湖荘に御到着になる。その後は御泊所において御静養になる。○女官長日記、女官日記、

侍従日記、侍従職日記、内舎人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌

**十五日 日曜日** この日は公式日程はなく、皇后は御泊所阿寒湖荘において終日御休養になる。天皇は阿寒湖のマリモについて識者の進講をお受けになり、また同湖の御遊覧などにて過ごされる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報

昭和二十九年八月

十六日 月曜日 皇后は御風気のため、この日の行事にはお出ましにならず、途中停車駅での奉迎へのお出ましも控えられる。午前十時天皇と共に御泊所阿寒湖荘を御出発になり、弟子屈駅を経て釧路駅に御到着になる。お一方にて降車され、引き続き御視察に向かわれる天皇をお見送りになる。午後二時十二分御泊所六園荘に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、

宮内庁庁報、官報、昭和二十九年北海道行幸啓誌

十七日 火曜日 皇后は御風気のため、この日の行事にはお出ましにならず、途中停車駅での奉迎へのお出ましも控えられる。午前九時二十五分天皇と共に御泊所六園荘を御出発、釧路駅を経て帯広駅に御到着になる。皇后は、御視察に御出発の天皇を車内より見送られた後、お一方にて御降車になり、午後一時四十二分音更町の御泊所十勝川温泉ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十八日 水曜日 午前八時五十分天皇と共に御泊所の十勝川温泉ホテルを御出発になり、帯広駅より御乗車にて富良野駅に向かわれる。なお、皇后は御風気御用心のため御予定をお取りやめになり、富良野駅御到着後、富良野町での奉迎及び御視察のため御出発の天皇を車内よりお見送りになり、そのまま車内にて御帰還をお待ち受けになる。天皇御帰還の後、列車は小樽駅に向け富良野駅を出発する。赤平・滝川・岩見沢・札幌各駅に停車の際、天皇と共に車窓より奉迎をお受けになる。小樽駅にて降車され、午後六時二十八分御泊所和光荘に御到着になる。なお、この夜、行幸主務官曾我部久より、皇后が平熱に戻られ、翌日より公式行事にお出ましになる旨が発表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌、天皇陛下皇后陛下

下奉迎誌、読売新聞

十九日 木曜日 午前十時十七分天皇と共に御泊所和光荘を御出発、雨の中、小樽市の社会福祉法人小樽育成院を御訪問になる。ついで小樽市奉迎場小樽公園グランドにおいて、市民等より奉迎をお受けになる。

小樽商科大学短期大学部を御視察の後、北海製缶株式会社小樽工場に臨まれる。天皇が場内を御視察の間、皇后は便殿にお残りになる。その後、御視察を終えた天皇と合流され、御一緒に御昼食をお召し上がりになった後、小樽港を御展望になる。終わって同工場を御出発、小樽駅より俱知安駅を経て虻田郡の俱知安町奉迎場町営グラウンド、ついで狩太町奉迎場狩太小学校に御臨場になり、それぞれ近隣町村民等の奉迎をお受けになる。午後三時四十三分御泊所の昆布温泉のニセコ観光ホテルに御到着になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌

二十日 金曜日 この日は公式日程はなく、御休養日に充てられ、天皇と共に御泊所ニセコ観光ホテル内にてお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十一日 土曜日 午前九時三十五分天皇と共に御泊所ニセコ観光ホテルを御出発、狩太駅より余市駅を経て、余市町奉迎場黒川小学校に御到着になり、町民等の奉迎をお受けになる。ついで北海道大学農学部附属余市果樹園を御視察になる。この際、皇后はお手ずからリンゴの実をおもぎになる。次に水産庁北海道区水産研究所・北海道立水産試験場を御訪問、天皇の場内御視察の間、便殿において御少憩になる。終わって天皇と共に同所を御出発になり、余市駅より札幌駅を経て北海道庁に御到着になる。便殿において知事田中敏文の拝謁をお受けになり、北海道開発や北方領土問題についての言上をお聞

昭和二十九年八月

きになる。続いて議事堂にお出ましになり、道選出国會議員・道議會議員等の奉迎をお受けになる。

ついで札幌市奉迎場大通西七丁目広場において市民等の奉迎をお受けになる。引き続き、札幌高等裁判所及び同

高等検察庁を視察される。次に株式会社北海道新聞社を御訪問になる。天皇の御視察の間は、便殿に充てられた社長室にて御少憩になり、同社より献上の写真帳を御覧になる。午後四時五十八分、天皇と共に御泊所札幌グランドホテルに御到着になる。その後、天皇と共に、御泊所五階より奉迎の市民にお応えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、札幌高等裁判所蔵資料、北海道立水産試験場所蔵資料、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌

二十二日 日曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所札幌グランドホテルを御出発、札幌郡の琴似町

奉迎場琴似中学校に御到着になり、町民等の奉迎をお受けになる。続いて北海道整肢学院、さらに北海道身

体障害者更生指導所・公共職業補導所を御視察になる。それより札幌市内に戻られ、円山総合グラウンドにおける第九回国民体育大会開会式に御臨場になる。終わって御昼食の後、便殿において池田隆政・同夫人厚子と御対面になる。午後二時二十分御泊所札幌グランドホテルに戻られる。皇后は御都合により以後の行事へのお出ましをお取りやめになり、同所にて休養され、天皇は引き続きお一方にて北海道大学その他に行幸される。夕刻、天皇が御泊所に還御された後、池田隆政及び同夫人厚子をお召しになり、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌

二十三日 月曜日 御朝食前、池田隆政及び同夫人厚子と御対面になる。午前九時三十三分天皇と共

に御泊所札幌グランドホテルを御出発になる。豊平町奉迎場月寒中において町民等の奉迎をお受けになる。

ついで農林省北海道農業試験場畜産部を御視察になる。続いて千歳町奉迎場北栄小において町民等の奉迎をお受けになった後、千歳飛行場に向かわれる。同飛行場より日本航空機DC6Bシテイ・オ

ブ・トウキョウ号にて御出発になる。なお、天皇・皇后の飛行機の御利用はこれが初めてとなる。東京国際空港に御到着の後、お出迎えの正仁親王と御対面になり、内閣総理大臣吉田茂、参議院議長河

井弥八以下の奉迎をお受けになる。同所を御出発になり、午後三時一分皇居に還啓される。なお、行

幸啓を終えるに際し、天皇の御感想が発表され、その中で、皇后が体調を崩して一部同行できなかったことを残念に思う旨が述べられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、

幸啓録、宮内庁序報、官報、昭和二十九年北海道行幸啓誌、北海道行幸啓誌

二十四日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、北海道知事田中敏文の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

表拝謁の間において、大谷光紹御妹智子の子息の拝謁をお受けになり、帰国の挨拶をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、内舍人日誌

内廷庁舎において、御同級生一名総代の拝謁をお受けになり、あけぼの会に下賜された御歌「あけぼの」

に曲を付けた楽曲の楽譜の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 金曜日 午後、天皇及び正仁親王と共に御進講室において、この度米国留学より帰国した伏見博明及びその母朝子の拝謁をお受けになり、お茶を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

昭和二十九年九月

従職日誌、内舍人日誌

二十九日 日曜日 午前、御文庫において天皇と共に、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、還幸啓につき御機嫌奉伺をお受けになる。なお、故雍仁親王妃より、雍仁親王の遺作となる陶芸作品の図録の御贈進をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、玉葉流芳、三峰窯の思い出

三十日 月曜日 東久邇成子第二女子出産につき、この日、天皇・皇后より東久邇盛厚・同夫人成子にそれぞれ三種交魚代料・菓子をも、東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を賜う。この日誕生した女子は、七夜に当たる九月五日に優子ゆうこと命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より東久邇盛厚・同夫人成子に鮮鯛代料・白羽二重等を、優子に鮮鯛代料・産衣代料を、東久邇稔彦・同夫人聡子に鮮鯛代料・三種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

三十一日 火曜日 午前、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、東久邇成子をお見舞いになる。成子及び同息女優子、東久邇聡子と御対面になる。成子に果物等を賜い、また、去る二十九日の入院より退院までの間、思召しにより食事を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

## 九月

一日 水曜日 午後、宮内庁病院にお出ましになり、東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌

二日 木曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時十三分御出門、午後零時五十四分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録

宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

五日 日曜日 御夕餐後、天皇と共に、川合玉堂等を取り扱った美術映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

六日 月曜日 午前、正仁親王去る四日に参邸を伴われ、水源地方面における天皇の植物御調査に同行される。

翌日も正仁親王を伴われ、天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

八日 水曜日 天皇と共に正仁親王を伴われて那須御用邸より還啓のため、午後零時二十二分御出門、四時三分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

正仁親王及び貴子内親王を伴われて宮内庁病院にお出ましになり、東久邇成子をお見舞いになる。同息女優子とも御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

九日 木曜日 朝、侍従入江相政を川合玉堂の許に差し遣わされ、那須にて御写生になった「松虫草」及び「竜胆」の各御絵を、玉堂に講評させられる。夕刻、入江侍従より復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、入江相政日記

十日 金曜日 午前、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、この日退院する東久邇成子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

十三日 月曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のインド国特命全権大使モハメッド・アブドゥル・ラウフ及び同夫人、デンマーク国特命全権公使ラース・P・ティリツツェ及び同夫人のた

昭和二十九年九月

め、午餐を催される。なお、デンマーク国公使については、同人が長期にわたって本邦に駐筈し両国の友好親善に尽くした功績から、天皇・皇后より同夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報

二十日 月曜日 午前、謁見所において天皇と共に、オーストラリア国参謀総長ヘンリー・ウェルズ陸軍中将及び同夫人を御引見になる。ウェルズは韓国派遣英連邦軍司令官よりオーストラリア国参謀総長に

転任につき、近く帰国する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 午前、天皇と共に表御座所において、東宮大夫野村行一及び東宮教育担当の参与

小泉信三侍従職御用掛の拝謁をお受けになり、夏期における皇太子の様子についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十二日 水曜日 午前、御進講室において、今般米国より帰国した高橋たねの進講をお受けになる。

高橋はエリザベス・グレイ・ヴァイニングの秘書を務めたことから、同人の去就等についてお尋ねになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十三日 木曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 午後、楽部にお出ましになり、同部職員によるロッシーニ作曲歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲、モーツァルト作曲「小夜曲」等の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、楽事録

二十五日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 月曜日 午前九時四十八分御出門、学習院女子部に行啓される。御到着後、貴子内親王等のお出迎えをお受けになり、続いて本館二階の便殿において学習院長安倍能成、学習院女子短期大学学長小宮豊隆、女子高等科長古賀軍治、女子中等科長鈴木謙一郎、中等科長猿木恭経及び常務理事二名の拜謁を順次お受けになる。その際、安倍院長・小宮学長及び各科長に対し、日頃の感謝をお伝えになる。安倍院長の先導にて、貴子内親王が所属する学習院女子高等科一年東組の授業<sup>英</sup>を始め、同中等科・高等科・学習院女子短期大学の各授業を御巡覧になる。新館の便殿において御少憩の後、午後零時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、学習院女子中等科女子高等科一二年史、学習院百年史

二十八日 火曜日 元学習院教授飯島忠夫昨二十七日死去につき、天皇・皇后より祭葬料を賜う。○恩賜録、贈賜録

二十九日 水曜日 町村合併推進本部ほか主催する町村合併新市紹介地方自治総合大覧覧会を御覧になるため、午前九時十七分御出門、天皇と共に日本橋三越本店に行啓される。十一時四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

台風十五号の影響により去る二十六日青函連絡船の沈没事故発生につき、天皇・皇后より運輸省に御救恤金を賜う。さらにこの台風により甚大な被害を受けた北海道に対し、御救恤金を賜う。これとは別に、北海道岩内郡岩内町において火災被害発生につき、北海道へ御救恤金を、また今夏の数次にわたる台風により甚大な被害を受けた鹿児島県・愛媛県・高知県・岡山県・香川県・徳島県・宮崎県・大分県・熊本県・広島県・山口県・兵庫県に対し、それぞれ御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

昭和二十九年十月

三十日 木曜日 午後、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

来る十月一日より昭和二十九年国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

## 十月

一日 金曜日 午後、旧御進講室において、侍従入江相政より『源氏物語』の進講をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

四日 月曜日 午前、表拝謁の間において、今般帰国のインド国駐箚特命全権大使西山勉の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

十一日 月曜日 昭和二十九年国民たすけあい共同募金運動を御奨励の思召しにより、都内の社会事業を御視察のため、午前九時三十二分天皇と共に御出門になる。始めに練馬区社会福祉法人みかえり大泉寮及び同敷地内のみかえり大泉診療所・奎徳保育園を御視察になった後、養護施設の都立石神井学園、社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会が経営する新宿区の戸山母子寮、国立身体障害者更生指導所を順次御訪問になる。午後一時五十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十二日 火曜日 午後、楽部にお出ましになり、同部職員によるトマ作曲歌劇「ミニョン」序曲、チャイコフスキー作曲組曲「白鳥の湖」等の演奏をお聴きになる。貴子内親王、マリー・シモーヌ・ルヌー

が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、樂事録

元国務大臣衆議院名譽議員尾崎行雄去る六日死去につき、天皇・皇后より賜物使・柩前使として侍従永積寅彦を築地本願寺に差し遣わされ、焼香させられる。また、祭糝料及び生花を賜う。翌十三日の葬儀には葬場使として侍従山田康彦を同所に差し遣わされ、焼香させられる。○女官長日記、女官日誌、賜与録、宮内庁庁報

十五日 金曜日 この日より銀座松坂屋において開催の日本バラ会主催「秋のぼら展」に、御文庫前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、日本ばら会創立四〇周年記念誌

十七日 日曜日 午前、神嘗祭につき、御文庫において神宮を御遙拝になる。ついで、賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午後、天皇と共に謁見所において、前国際連合総会議長シュリマティ・ヴィジャヤ・ラクシュミー・パンデイトを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 靖国神社秋季例大祭第二日祭に当たり、御参拝のため、午前十時五分御出門、天皇と共に靖国神社に行啓される。御到着の後、天皇に続き本殿の御拝座において御拝礼になる。同五十分還啓される。なお御参拝に際し、天皇・皇后は幣帛料及び神饌料を御奉納になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、庁規規規朝儀諸綴、恒例祭祀録、宮内庁庁報、靖国神社社務日誌、靖国神社百年史

午後、旧北御車寄門内において、全国婦人民生委員児童委員代表者研究協議会参会者の婦人民生委員

昭和二十九年十月

及び同児童委員約二百名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宣召録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 この日、大聖寺において同寺二十二世清浄心院宮靈元天皇皇女二百年御忌法要執行につ

き、御供養料及び菓子をお供えになる。○贈賜録

二十三日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、

内舍人日誌

二十四日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、東久邇盛厚・同夫人成子、同子女信彦・文子・

秀彦秀厚か  
ら改名・真彦・優子、鷹司和子と御対面になる。ついで正仁親王・貴子内親王も加わり、御昼餐を

御会食になる。なお、去る八月に誕生した東久邇優子はこの日が初参内につき、天皇・皇后より東久

邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を、盛厚夫妻に五種交魚代料を、優子に御所人形代料・鮮鯛代料

及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、旧皇族各家戸籍謄本

二十六日 火曜日 東京国立博物館及び朝日新聞社共催の「フランス美術展」を御覧になるため、午

前九時二分御出門、天皇と共に東京国立博物館に行啓される。十一時十分還啓される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京国立博物館百年史、朝日新聞

二十七日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、来る三十日の後光明天皇三百年式年祭に

先立ち、東京大学教授森末義彰より後光明天皇の御事蹟についての進講をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

天皇と共に内廷庁舎において、賢所・皇靈殿・神殿の初参拝を終えた東久邇優子、及び同成子と御対

面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、賢所諸件

午後、楽部にお出ましになり、ウイルヘルム・ケンプによるピアノ独奏をお聴きになる。貴子内親王、マリー・シモーヌ・ルヌー、神戸絢が陪聴する。終わって、ウイルヘルム・ケンプ及び同夫人を御引見になり、ケンプにお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十八日 木曜日 午後、内廷庁舎において、松平信子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 金曜日 午後、天皇と共に皇居広庭において、園遊会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、園遊会録、典式録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 午前、後光明天皇三百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報

## 十一月

一日 月曜日 午後、御文庫において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、九条道秀・同夫人成子の拝謁をお受けになり、兵庫県の伊弉諾神宮宮司拝命につきお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より同夫妻にそれぞれ万那料を、道秀に白羽二重を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、朝日新聞社主催の全日本健康優良児童学校表彰会で選ばれた健康優良児並びに健康優良校代表等に御会釈を賜う。同会会長村山長峯朝日新聞社取締役会長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮

昭和二十九年十一月

内庁庁報、朝日新聞

四日 木曜日 日本赤十字社近畿七府県支部連合社員大会に名誉総裁として御臨席等のため、滋賀県・京都府・奈良県に行啓される。午前九時、静岡県に行幸される天皇と共に御出門になり、東京駅より御乗車になる。三島駅にて御下車の天皇をホームよりお見送りになり、再び御乗車にて京都駅に向かわれる。京都駅にて御下車になり、午後四時五十五分御泊所京都大宮御所に御到着になる。御着後、京都府知事蜷川虎三、京都府会議長八木重太郎、京都市長高山義三、京都市会議長石田芳之助、京都事務所長石川忠の拝謁をお受けになる。終わって、久邇静子故多嘉王妃と御対面になり、続いて九条良政・同夫人始子、大谷絃子貞明皇後の妹、大橋寿枝子九条良政の息女の拝謁をお受けになる。ついで飛鳥井雅信始め旧堂上華族、大聖寺門跡の石野慈栄始め尼門跡等の拝謁をお受けになる。御夕餐は、参内の池田隆政・同夫人厚子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、沼津行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

五日 金曜日 午前十時御泊所京都大宮御所を御出門、滋賀県の天津赤十字病院に行啓される。御休所において、先着した日本赤十字社名誉副総裁の宣仁親王妃喜久子・崇仁親王と御対面になり、続いて厚生大臣草葉隆円、滋賀県支部長の滋賀県知事服部岩吉、日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになる。ついで院長千葉忠恕より病院の概要について説明をお受けになった後、院内を御視察になる。終わって大津市立中央小学校に向かわれ、校庭において青少年赤十字奉仕活動を御覧になる。次に日本赤十字社近畿七府県支部連合社員大会会場の滋賀会館に御臨場になる。謁見所において滋賀県支部長を除く四府県支部長の拝謁をお受けになる。御休所において御昼食の後、式場にお出ましにな

る。宣仁親王妃喜久子・崇仁親王が同席する。式中、有功章受章者・特別社員章受章者総代計十四名に記章及び章記を御親授になり、社長表彰に続いて、次の令旨を賜う。

日本赤十字社近畿七府県支部連合社員大会に臨み、日ごろ、赤十字の事業に尽力されている多数の人々と、お会いすることは、まことにうれしく思います。

関係七府県支部の事業は、年々拡充せられつゝありますが、国民の期待に副つて赤十字の使命を果すためには、更に、一般の深い理解と支援とを得て事業の発展を期してゆかなければならぬと考えます。

この際関係者の一段の努力を望んで止みません。

終わって、御休所において七府県支部長・副支部長より報告をお受けになる。その後、茶会第一会場、第二会場にお出ましになる。ついで物産陳列所を御覧の後、滋賀県庁前に移られ、参会者との写真撮影に臨まれる。午後四時、御泊所京都大宮御所に還御される。直ちに、服部滋賀県知事、滋賀県議会議長吉川孫右衛門、滋賀県警察本部長榎野勇、京都府警察本部長村井順等の拝謁をお受けになる。終わって、門跡・寺院管長等の拝謁をお受けになる。続いて大聖寺門跡の石野慈栄、道明寺門跡の六条照伝の拝謁をお受けになる。その後、甘露寺受長<sup>掌典</sup>・同夫人満子<sup>能久親王の王女</sup>の拝謁をお受けになった後、東伏見慈洽・同夫人保子と御夕餐を御会食になる。終わって、東山御文庫に納められた貞明皇后の遺品等を御覧になる。

この日、侍従を通じ、滋賀県訪問に際し県民の熱心な歓迎を受けたこと、多勢の大会出席者に会うことができたこと、また、大会の機会に赤十字事業の一端を視察することができたことは幸いなことで

あり、かつ湖都の面影をしのぶこともできて深い印象を受けた旨の御感想が発表される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

六日 土曜日 御出門前、仙洞御所を御一巡され、久邇静子と御対面になる。午前九時三十分御泊所  
京都大宮御所を御出発、桂離宮に行啓される。京都事務所長石川忠の説明により、御殿内の各所を御  
覧になる。途中より大谷智子が同道する。引き続き庭園を巡られ、月波楼・笑意軒・松琴亭等を御覧  
になる。御昼餐を御会食の後、お一方にて同所を御出発、奈良県の正倉院に向かわれる。御到着の後、  
御休所において奈良県知事奥田良三、奈良県議会議長服部安司、正倉院事務所長和田軍一、京都府知  
事蜷川虎三の拝謁をお受けになる。続いて和田所長の説明をお受けになりつつ、聖武天皇・光明皇后  
ゆかりの品を納めた北倉を始め、中倉・南倉、さらに新宝庫を御視察になる。中倉では勅封の開扉状  
況を、新宝庫では古裂類を御覧になる。終わって同所を御出発、奈良公園に立ち寄り、鹿寄せの様  
子を御覧になり、お手ずから餌をお与えになる。午後四時十五分、御泊所奈良ホテルに御到着になる。  
その後、奈良市長高椋正次、奈良市議会議長紺木久兵衛の拝謁をお受けになる。中宮寺門跡の一条尊  
昭、法華寺門跡の久我高照、円照寺門跡の山本静山、柳沢保承・同夫人尚子等の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

昨五日徳川多恵子 成久王妃房子  
内親王の息女 死去につき、天皇・皇后より切り花及び野菜を賜う。九日の葬儀には、天

皇・皇后より霊前に盛菓子<sup>成久王妃房子</sup>を賜う。○女官長日記、重要雑録、贈賜録

七日 日曜日 御泊所御出発前、御泊所奈良ホテルのベランダより奈良県知事奥田良三の説明により  
春日山・三笠山・若草山を御覧になる。午前九時十五分御泊所奈良ホテルを御出発、奈良駅より沼津

駅を経て、午後三時四十五分沼津御用邸に御到着になる。この間、停車駅にて車窓より奉迎送者の拝謁をお受けになる。御用邸御到着後、同邸内において静岡県副知事吉岡恵一、沼津市長高木恵太郎、沼津市議会議長清水清二の拝謁をお受けになる。五時二十五分、沼津御用邸に御到着の天皇と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

八日 月曜日 天皇と共に沼津御用邸より還啓のため、午後一時五分御出門、三時二十八分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、沼津行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

九日 火曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、厚生大臣から表彰された社会福祉事業功労者等に御会釈を賜う。厚生大臣草葉隆円より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十日 水曜日 産業教育七十周年記念式典に御臨席のため、午前十時五十六分御出門、天皇と共に日比谷公会堂に行啓される。十一時四十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十一日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、侍従職御用掛小泉信三よりジョージ五世伝ハロルド・ニコルソン著についての進講をお受けになる。なお、同進講は翌十二日及び十五日にも行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

午後、内廷庁舎において、新任のスペイン国特命全権大使ペラヨ・ガルシア・オライ、カナダ国特命全権大使トーマス・クレイトン・デイヴィス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内

昭和二十九年十一月

舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

十二日 金曜日 表拝謁の間において、近く赴任のコロンビア国駐劔特命全權公使根道広吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

十三日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。終了後、参会者とお茶を共にされる。○女官長日誌、女官日誌、内舍人日誌

この日、常磐会例会において同会会員物故者慰霊祭を執行につき、盛花をお供えになる。○贈賜録

十四日 日曜日 午後、パレス乗馬倶楽部主催の東京馬術大会に御臨席のため、天皇と共に皇太子・正仁親王・貴子内親王を伴われ皇居内馬場にお出ましになる。各種馬術競技を御覧になった後、天皇と共に還御される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

十五日 月曜日 天皇と共に表一の間において、新任のスペイン国特命全權大使ペラヨ・ガルシア・オライ、カナダ国特命全權大使トーマス・クレイトン・デイヴィス及び同夫人、離任のスイス国特命全權公使ラインハルド・ホール及び同夫人のため、午餐を催される。なお、スイス国公使夫人に対し、皇后から御紋付銀製花瓶の下賜がある。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

この日、故雍仁親王妃勢津子が千代田区紀尾井町の宮内庁長官公邸から港区赤坂の大宮御所内表町御殿へ移転につき、天皇・皇后より同妃に万那料及び清酒等を御贈進になる。また翌十二月には、天皇・皇后より同妃にお品及び万那料を御贈進になる。○女官長日誌、贈賜録、宮内庁庁報、官報

十七日 水曜日 午後、内廷庁舎において、マリー・シモーヌ・ルヌーよりフランス語を学ばれる。

ついで楽部にお出ましになり、ピエール・フルニエによるチェロ演奏をお聴きになる。ルノーが陪聴する。演奏会に際し、フルニエ及び伴奏者にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録

十九日 金曜日 午後、御進講室において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、入江相政日記

宮内庁職員総合美術展覧会を御覧になるため、庁舎講堂にお出ましになる。皇太子が皇后を写したポルトレート「朝のひとつとき」を始め、展示作品を御巡覧になる。なお途中、貴子内親王が同所に到着し、御一緒に鑑賞される。○女官長日記、女官日誌、読売新聞

元皇太后宮女官長清水谷英子昨十八日死去につき、天皇・皇后より祭葬料を賜う。また別に天皇・皇后より盛菓子、皇后より盛花・果物を賜う。これより先、入院中の清水谷に皇后から果物等の下賜がある。清水谷は大正二年に皇太后宮職の雇となった後、大正八年には権典侍に任じられ、昭和二十二年五月三日から皇太后宮女官長となり、同職が廃職となる二十六年十二月三十一日まで務めた。○

女官長日記、恩賜録、贈賜録

二十二日 月曜日 この日、侍従入江相政を川合玉堂の許に差し遣わされ、御絵を玉堂に講評させられる。二十四日には入江の復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 木曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、全国更生保護大会に参加の更生保護功労者等に御会釈を賜う。東京保護司会連盟会長河野勝齋の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、翌二十七日の孝徳天皇千三百年式年祭に

昭和二十九年十一月

先立ち、東京大学教授坂本太郎より孝徳天皇の御事蹟についての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十七日 土曜日 午前、孝徳天皇千三百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十八日 日曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に表御座所において同親王と御対面になる。ついで天皇及び同親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元女官・元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十九日 月曜日 午前、表拝謁の間において、京都旧堂上会総代清岡長言の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、楽部にお出ましになり、同部職員によるモーツァルト作曲交響曲第三十九番等の演奏をお聴きになる。貴子内親王が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録

三十日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所において、オーストラリア移民及び開発計画審議会会長ジョン・スタンレー・ストーリー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後五時三十九分御出門、天皇と共に東宮仮御所に行啓される。皇太子及び先着の正仁親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になり、八時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

十二月

三日 金曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のイタリア国特命全權大使ブラスコ・ランサ・ダイエツタ・デイ・トラビア及び同夫人・同息女のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、内廷庁舎において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

五日 日曜日 午後、天皇及び貴子内親王写真撮影のため午前中より参内と共に御文庫において、宣仁親王妃喜久子と御対面になる。先日来の風気に当たりお尋ねがあったことを受け、同妃よりお礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 月曜日 午前、御文庫において、この日誕生日を迎えた東久邇成子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌

八日 水曜日 崇仁親王妃百合子着帯につき、天皇・皇后より三笠宮に万那料を御贈進になる。○女官長日記、贈賜録

十三日 月曜日 天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員と午餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録

十五日 水曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 天皇と共に表一の間において、参与の小泉信三東宮教育関係・安倍能成東宮学問関係・坪井忠二東宮学問関係・

昭和二十九年十二月

松平信子<sup>東宮教  
育関係</sup>・勝沼精蔵<sup>内廷医  
事関係</sup>・加藤武男<sup>内廷財  
政関係</sup>、並びに宮内庁長官・宮内庁次長・侍従長・侍従次長・

侍従永積寅彦・女官長・女官小川梅子・東宮大夫と午餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録

午後、内廷庁舎において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお受けになる。○女官長日

記、女官日誌、内舍人日誌

十七日 金曜日 多摩陵及び多摩東陵に御参拝のため、午前十時二分御出門、天皇と共に両陵に行啓される。天皇に続き両陵を御拝礼になる。午後二時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、幸啓録、宮内庁庁報

十八日 土曜日 セイロン国首相ジョン・コテラワラが国賓として来日につき、天皇と共に表北の間において、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同国首相より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には銀製蝋燭立が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外賓

接待録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に参加される。○女官長日記、女官日誌

来る二十日より五日間にわたり、東京都下各医療施設の参加を得て歳末無料健康相談を実施につき、

東京都に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十日 月曜日 午前、表拝謁の間において、侍従職御用掛の職を解かれた東京医科歯科大学学長長尾優の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

表拝謁の間において、近く赴任のレバノン国駐箚特命全権公使古内広雄及び同夫人の拝謁をお受けに

なる。○女官長日記、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また、事業御補助のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、日本赤十字社社史稿

二十三日 木曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元女官等の拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に御文庫において、皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 歳末につき、日本赤十字社病院及び恩賜財団済生会病院の救助収容患者合計六千四百三十名に対し手拭い一筋ずつを下賜される。○贈賜録、日本赤十字社社史稿

二十五日 土曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

二十六日 日曜日 天皇と共に御文庫において、歳末の御機嫌奉伺のため参殿した皇太子・正仁親王、東久邇盛厚・同夫人成子、同子女の信彦・文子・秀彦・真彦・優子、及び鷹司和子と御対面になり、引き続き御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、供御日録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

二十七日 月曜日 午前、謁見所において、新任のスイス国特命全権公使マクス・トレンドレ及び同夫人、イラン国特命全権公使モウツサ・ヌーリー・エスファンディアリーを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

午後、御文庫において、北白川房子の拝謁をお受けになり、同息女徳川多恵子死去に際してのお仕向

昭和二十九年十二月

けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

歳末につき、寒冷地にある生活困窮者で救護の手が充分に行き届いていない人々に対し、お手許の材料にて真綿のチョッキ等を御調製になり、この日、女官始めの名義にて日本赤十字社本社に対し、北海道災害義捐品として御贈呈になる。○女官長日記、贈賜録

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、元皇族・元王族、続いて侍従長以下総代、及び女官長始め女官より歳末の祝詞言上をお受けになる。なお、宮内庁長官宇佐美毅は病により参内せず、翌三十日宮内庁病院に入院する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

この日、崇仁親王妃百合子第三王子を出産につき、天皇・皇后より三笠宮に三種交魚代料を御贈進になる。誕生の親王は七夜に当たる昭和三十年一月四日、憲仁のりひとと命名される。命名当日、天皇・皇后より三笠宮に鮮鯛代料を、憲仁親王に産衣を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜

録、宮内庁庁報、官報

三十日 木曜日 午前、天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃勢津子及び宣仁親王・同妃喜久子より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この月 歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○賜与録

一月

一日 土曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に表拝謁の間において皇太子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王の祝賀を、表北の間において内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・外国交際官等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、元皇族・元王族・御縁故者、宮内庁次長以下部局長等及び侍従長始め側近奉仕者の拝賀を天皇と共にお受けになる。また、寡婦である元皇族の新年拝賀も、他の皇族・元皇族と同じく例年の一月三日からこの日に変更してお受けになり、以後恒例とされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報

二日 日曜日 新年参賀につき、天皇と共に皇居広庭北西隅のお立台にお出ましになり、午前三回・午後六回の計九回、皇居広庭に集まった一般参賀者に御会釈を賜う。一回目の一般参賀の後、天皇と共に仮宮殿において、元宮内庁長官及び元側近奉仕者・元部局長等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、典式録、宮内庁庁報、官報

三日 月曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表拝謁の間において、宣仁親王始め未成年の皇族・元皇族等から新年の拝賀をお受けにな

昭和三十年一月

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

この日、御文庫と内廷庁舎の御往復に際し、天皇と共に皇太子運転による自動車にお乗りになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌

四日 火曜日 昭和二十八年薨去の雍仁親王祥月命日につき、御代拝のため天皇・皇后より女官今城

誼子を豊島岡墓地内の同親王墓所に差し遣わされ、菓子・果物をお供えになる。なお、この年から豊

島岡墓地の年始の御拝礼が、一月八日からこの日に改められる。併せて多摩陵<sup>大正天皇</sup>並びに多摩東陵<sup>貞明皇后</sup>

の年始の御拝礼も一月八日からこの日に改められ、天皇・皇后より女官原田リツに御代拝を仰せ付

けられ、菓子・果物をそれぞれにお供えになる。○女官長日記、侍従職日誌、典式録

五日 水曜日 午前、天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日の雍仁

親王祥月命日についてのお礼言上をお受けになる。この日岡山県より上京の池田隆政・同夫人厚子と

御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 木曜日 午後、清宮御仮寓所にお出ましになり、貴子内親王・鷹司和子・池田厚子並びに久邇

通子<sup>御兄朝融の息女</sup>・英子<sup>同</sup>・典子<sup>同</sup>と御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

七日 金曜日 午後、天皇と共に表拝謁の間において、津軽理喜子ほか元皇后宮女官等より新年の拝

賀をお受けになり、ついで表御座所に移られ、天皇と共に元侍女鈴木タカ以下三名の拝賀をお受けに

なる。それよりお一方にて表拝謁の間において、御学友・御同級生の拝賀をお受けになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に御文庫において、皇太子・正仁親王・貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子及び子女四方、

池田隆政・同夫人厚子と御夕餐を御会食になる。この年も皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 土曜日 午前十時、天皇と共に表西の間において、講書始の儀に臨まれる。日本学士院会員金田一京助より「内地のアイヌ語地名」、同本庄栄治郎より「西洋経済学の伝来」、同亀山直人より「カーバイドと石灰窒素について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、講書始録、宮内庁庁報、官報

九日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、寒中御機嫌奉伺のため参殿の北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 月曜日 午後、御文庫において、新年並びに寒中の御機嫌奉伺のため参殿の元皇后宮女官関松の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌

十一日 火曜日 元枢密院副議長潮恵之輔去る九日死去につき、この日勅使・皇后宮使として侍従穂積重道をその邸に差し遣わされ、祭装料及び花を賜い、焼香させられる。潮は昭和六年に貴族院議員となり、広田内閣において内務大臣兼文部大臣を務める。同十三年に枢密顧問官となり、同二十一年六月からは枢密院副議長を廃官となる翌二十二年五月まで務めた。○侍従日誌、侍従職日誌、賜与録、典式録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午前十時、天皇と共に表西の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「泉」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

### 皇后宮御歌

昭和三十年一月

おひしげるを草わけつつわきいづる岩間の清水立ちよりて見つ

儀終了後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、預選者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮内庁序報、官報

十三日 木曜日 午前、天皇と共に謁見所において、国際商業会議所第十五回総会の準備のために来日した国際商業会議所名誉会長ロルフ・フォン・ハイデンシュタム及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時三十分御出門、四時三分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁序報

十五日 土曜日 夕刻、天皇と共に、参邸の山階芳麿・同夫人寿賀子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類

二十日 木曜日 午前九時五十八分葉山御用邸を御出門になり、十一時二十七分天皇と共に皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁序報

午後、表拝謁の間において、英国より帰国の特命全權大使松本俊一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁序報

二十二日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、新年歌会に御臨席になる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 月曜日 昨年十一月に完成した港区赤坂表町の秩父宮邸に天皇と共に行啓のため、午前十

一時三十四分御出門になる。御着後、故雍仁親王妃勢津子より新築の披露をお受けになり、崇仁親王も加わり御昼餐を御会食になる。邸内を御巡覧になり、午後二時四十分還啓される。御夕餐後、天皇と共に御文庫において、お礼言上のため参殿の故雍仁親王妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁序報

二十五日 火曜日 第十九回展「現代の眼―日本美術史から―」を御覧になるため、午前十時御出門になり、京橋の国立近代美術館に行啓される。御到着後、館長岡部長景の先導にて、一階では明治大  
学教授堀口捨己の説明により建築写真・庭園写真を、二階では文部技官東京国立博物館三木文雄の説明により

埴輪・古代土器を、文部技官文化財保護委員会小山富士夫の説明により陶磁器を御覧になる。三階では文部技官

東京国立博物館岡田譲の説明により漆器・染織・金工を、文部技官文化財保護委員会松下隆章の説明により絵画を御観覧に

なる。また、特別陳列の俵屋宗達筆「紙本金地着色源氏物語図屏風」国宝・尾形光琳筆「紙本金地着色

風神雷神図屏風」重要文化財等の作品も御覧になり、十一時三十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁序報

午後、内廷庁舎において、マリー・シモーヌ・ルヌー日仏会館館長ルイ・ルヌー夫人より、フランス語の進講をお受けに

なる。以後、この年もしばしば同人よりフランス語の進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍

人日誌

二十六日 水曜日 午後、内廷庁舎において、今般米国より帰国のエスター・ビドル・ローズ英語の御進講者と

お茶を共にされる。貴子内親王・鷹司和子も陪席する。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

昭和三十年一月

二十八日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、竹田恒徳の拝謁をお受けになる。この度の拝謁は、同人が日本スケート連盟会長として、ソビエト連邦モスクワ市において開催される世界スピードスケート選手権大会に参加のため、翌二十九日に日本を出発することによる。なお、天皇・皇后より同人に洋酒を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

正午過ぎ、表二の間において、新任のデンマーク国特命全権公使カルル・クルーゼ及び同夫人を御引見になる。引き続き、新任のデンマーク国公使夫妻、スイス国特命全権公使マクス・トレンドレ及び同夫人、イラン国特命全権公使モウツサ・ヌーリー・エスファンディアーリーのため、天皇と共に表一の間において午餐を催される。なお、鳩山一郎内閣総理大臣の就任に当たって、同人の体調等を考慮し、新任及び離任の外国大使を招いて催される午餐に鳩山首相夫妻は招待せず、これ以降の首相も新任及び離任の外国大使を招いての午餐には陪席しないこととなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

二十九日 土曜日 午後、清宮御仮寓所にお出ましになり、貴子内親王及び鷹司和子と御対面になり、神戸絢よりピアノの指導をお受けになる。この年もしばしば清宮御仮寓所・呉竹寮にお出ましになり、神戸よりピアノの指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

三十日 日曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

二月

一日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三十一分御出門、正午御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

三日 木曜日 午後、エスター・ビドル・ローズより英語の進講をお聴きになる。この年もしばしば

同人より英語の進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類

四日 金曜日 宣仁親王・同妃喜久子の結婚満二十五年に当たするため、天皇・皇后より鮮鯛及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十日 木曜日 午後一時五十九分葉山御用邸を御出門になり、三時三十分天皇と共に皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

十一日 金曜日 宣仁親王・同妃喜久子の結婚満二十五年に際し、天皇と共に祝宴を催される。宣仁親王・同妃のほか、皇太子・正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王、北白川房子・東久邇聡子・東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司平通・同夫人和子を招待され、表一の間において御夕食を御会食になる。ついで表三の間に移られ、余興の手品や宣仁親王・同妃によるウェディングケーキ入刀などを御覧になる。御歓談の際、皇后は「ホームスイートホーム」の独唱を披露される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、入江相政日記

十三日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、去る十一日の祝宴についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十四日 月曜日 午前、天皇と共に謁見所において、オーストラリア国内務大臣兼建設大臣ウィルフ

昭和三十年二月

リッド・セルウイン・ケント・ヒューズ及び同夫人を御引見になる。ヒューズは、翌年開催されるメルボルン・オリンピックの組織委員長として、日本のオリンピック委員との会談などを目的に訪日した。なお後日、夫妻から天皇・皇后に、オーストラリアの動物に関する書籍及びカモノハシの模型の献上をお受けになる。これに対し、天皇・皇后から謝意を同人に伝達するように式部官長松平康昌に御下命があり、二十六日に式部官長より同国特命全権大使エドワード・ロナルド・ウォーカーにこの旨が通知される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報

十五日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、この日退職する侍医宮崎肇ほか側近奉仕者二名の拝謁をお受けになる。引き続き同所前廊下においても、同じく退職する侍従職職員四名に御会釈を賜う。また二十二日の午前にも、天皇と共に奥三の間において、退職した宮内庁職員二十一名の拝謁をお受けになり、天皇に続き慰労のお言葉を賜う。なおこの度の退職は、去る昭和二十八年十一月一日から施行された特別待命制度に伴うもので、待命期間が満了したことによる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、典式録、重要雑録、宮内庁庁報

午後、清宮御仮寓所にお出ましになり、貴子内親王のお茶の稽古を御覧になる。以後、しばしば同所にお出ましになり、内親王の稽古を御覧になる。○女官長日記、女官日記、内舎人日記

十八日 金曜日 午後、楽部にお出ましになり、今般武蔵野音楽大学に招致されたウインフリード・ウォルフのピアノ独奏をお聴きになる。終わって御休所において同人を御引見になり、お言葉を賜う。また、賜品がある。ついで、同行の同大学学長福井直秋の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、

内舎人日記、幸啓録

二十一日 月曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十二日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、北白川房子<sup>神宮祭主</sup>の拝謁をお受けになり、神宮祈年祭滞りなく終了につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

去る十七日に横浜市の社会福祉法人聖母会聖母の園養老院において火災が発生し、多数の死者が出る。翌二十三日に藤沢市の湘南白百合学園講堂においてその合同慰霊祭が執行されるに当たり、この日天皇・皇后より同養老院に生花を賜う。皇后よりも罹災者に手拭い一筋ずつを下賜される。さらに二十五日には状況視察のため女官長を養老院へ差し遣わされ、奥において作らせた小褥・羽織下各五十名分を匿名にて下賜される。○女官長日記、女官日誌、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、毎日新聞

二十三日 水曜日 午前、表拝謁の間において、近く赴任のポルトガル国駐劄特命全權公使神田襄太郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報

内廷庁舎において、新任バキスタン国特命全權大使オマル・ハヤット・マリクを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、時間外勤務控簿、宮内庁庁報

午後、楽部にお出ましになる。先着の貴子内親王・鷹司和子と御対面になり、楽部職員の演奏によるシューベルト作曲「ロザムンデ」序曲等をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録

この月 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・水薬師寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

三月

二日 水曜日 貴子内親王の誕生日につき、夕刻、天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日誌

三日 木曜日 午前、表拝謁の間において、今般帰国のベルギー国駐劄特命全權大使荒川昌二及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁序報

節句に当たり、衣裳人形沙・フランス人形を戸山母子寮・同保育園に、衣裳人形藤を財団法人浴風会浴風園に、衣裳人形白拍子・同黒田節を石神井学園に賜う。いずれもこれまで慰問のため行啓された施設にて、

身寄りのない子供などの慰めの思召しによる。○女官長日記、贈賜録、毎日新聞、読売新聞

四日 金曜日 この日東伏見周子死去につき、天皇・皇后より弔問使として侍従永積寅彦を神奈川県葉山町の東伏見邸に差し遣わされ、皇后より霊前に切り花をお供えになる。また、観梅等のため翌五日に予定されていた大宮御所への行啓はお取りやめになる。七日には賜物使として侍従山田康彦を同邸に差し遣わされ、天皇・皇后より祭資及び榊を賜う。十二日には皇后より柩前に果物・切り花をお供えになる。さらに十四日には霊柩が千代田区三番町の宮内庁分室へ移されるにつき、天皇・皇后より盛菓子、皇后より盛花を賜う。十五日の葬儀当日には、御使として侍従穂積重道を宮内庁分室に差し遣わされる。この葬儀に当たり、天皇・皇后より葬場並びに墓所に榊をお供えになる。さらに天皇・皇后より盛菓子を賜い、皇后より盛花をお供えになる。

東伏見周子は明治九年に公爵岩倉具定の第一女子として誕生し、同三十一年に依仁親王と結婚する。

大正十三年には愛国婦人会総裁に就任する。昭和二十二年十月に皇族の身分を離れ、東伏見姓を名乗る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、東伏見周子葬儀録、幸啓録、墓誌銘録

六日 日曜日 この日、満五十二歳のお誕生日を迎えられる。

午前、表拝謁の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで表西の間において、皇太子始め皇族・元皇族・元王族、続いて参議院議長・最高裁判所長官等及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、表拝謁の間において御縁故者・元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授松島彝・元東京音楽学校教授神戸絢及び御学友・御同級生六名、続いて元宮内庁長官・元側近奉仕者の拝賀を、皇后御進講室において元皇后宮女官・元女官等の拝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の奉拝を、内廷庁舎廊下において女嬬・雑仕、元女嬬等の奉拝をお受けになる。

午後、天皇と共に御文庫において、御昼餐御会食に参殿した皇太子・貴子内親王のほか、お祝いのため参殿した東久邇成子及び同子女五名、鷹司和子も加わり、御家族の団欒を楽しまれる。正仁親王は風気のため参殿せず、十一日、天皇・皇后が義宮御殿にお出ましになり、正仁親王をお見舞いになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報

九日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、東京大学名誉教授坪井誠太郎及び東京大学助教授久野久より「昭和新山について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十五日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、特命全権大使荒川昌二より前任地ベルギー

国の事情についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十六日 水曜日 天皇と共に表一の間において、ブラジル国特派大使ジュリオ・アウグスト・バルボーズ・カルネイロ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、楽部にお出ましになり、貴子内親王と共に、楽部職員による定期演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録

十七日 木曜日 午前、表拝謁の間において、近く任地へ赴くブラジル国駐劔特命全権大使安東義良及び同夫人、ベルギー国駐劔特命全権大使兼ルクセンブルク国駐劔特命全権公使武内竜次及び同夫人、ビルマ国駐劔特命全権大使太田三郎及び同夫人、イラン国駐劔特命全権大使山田久就及び同夫人、オーストリア国駐劔特命全権公使大野勝巳及び同夫人、さらにブラジル国から帰国の特命全権大使君塚慎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

十九日 土曜日 この日、日本青年館において厚生省主催により南東方面英豪地域戦没者追悼式挙行につき、天皇・皇后より生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十一日 月曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、日本麻紡績協会会長山田西藏より「我が国麻紡績に関して」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

天皇と共に表一の間において、この度離任の米國極東軍總司令官兼國際連合軍司令官ジョン・エドウィン・ハル及び同夫人のため、午餐を催される。なお午餐に先立ち、ハルに、表二の間において外務大臣重光葵より勲一等旭日大綬章が交付される。御食後、ハル夫人に表三の間において皇后より御紋付銀製花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、贈賜録、宮内庁序報

二十四日 木曜日 日本赤十字社第三回通常代議員会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時十五分御出門、日本赤十字社本社に行啓される。御到着後、便殿において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になり、衆議院議長益谷秀次・参議院議長河井弥八・最高裁判所長官田中耕太郎・厚生大臣川崎秀二・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長葛西嘉資の拝謁をお受けになる。それより式場にお出ましになる。開会后、有功章受章者總代五名・特別社員章受章者總代五名に各章と章記を御親授になり、次のお言葉を賜う。

第三回通常代議員会に臨み、赤十字の事業に尽力されている人々とお会いすることのできましたことは、まことにうれしく思います。

日本赤十字社は、これまで数多くの事業をとおして、人道的任務の達成に力をつくしてきましたが、今後ますます社業の進展を計り、各国の赤十字社と克く力を合わせて、世界の平和と人類の福祉に貢献してゆかなければならないと考えます。

この際社員並びに役員は、一層の努力をつくし、国民の期待に副われるよう望んで止みません。ついで社長の奉答をお受けになる。御退場後、総裁室において國際赤十字關係の外国人十一名の謁見をお受けになる。便殿にて御少憩後、前庭にお出ましになり、この日除幕式が行われた日本赤十字社

創立者・初代社長佐野常民の胸像を御覧になり、佐野家遺族・胸像制作者渡辺義知に御会釈を賜う。

それより写真場において記念撮影をお受けになり、十一時十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内

舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本赤十字社史稿

二十六日 土曜日 夕刻、御文庫において、翌朝より近畿・中国地方へ旅行する貴子内親王と御対面

になり、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十九日 火曜日 文化財保護委員会及び財団法人演劇研究会の共催による国家指定芸能特別鑑賞会

に御臨席のため、午後六時二十分御出門、天皇と共に歌舞伎座に行啓される。観覧席において重要無

形文化財保持者喜多六平太<sup>十四</sup>を始め十四名より舞台上からの挨拶をお受けになり、喜多六平太・幸

祥光等による能「高砂」、豊竹山城少掾・竹本綱大夫<sup>八</sup>等による義太夫「加賀見山旧錦絵<sup>草履打の段</sup>」、井上

八千代<sup>世四</sup>・富崎春昇等による京舞「長刀八島」を御鑑賞になる。八時八分還啓される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

三十日 水曜日 午前、表拝謁の間において、近く任地へ赴くセイロン国駐節特命全権大使結城司郎

次及び同夫人、フランス国駐節特命全権公使松井明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に内廷西玄関前において、全国戦没者遺族代表大会へ参加の遺族代表等に対し、御会釈を賜

う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

午後二時一分御出門、大宮御所に行啓される。御到着後、東久邇成子の子女及び遅れて参集の鷹司和

子と共にツクシをお摘みになる。夕刻には東久邇成子、ついで故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子も参殿し、御一緒にお茶をお召し上がりになる。四時十九分還啓される。それより天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃・宣仁親王妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

#### 四月

二日 土曜日 正仁親王がこの日夜の四国地方旅行出発に先立ち御文庫に参殿のため、天皇と共に御夕餐を御会食になる。なお、正仁親王は十四日に帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

三日 日曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

五日 火曜日 午前、御文庫において天皇と共に貴子内親王と御対面になる。同内親王は近畿・中国地方を旅行し、途中岡山の池田厚子夫妻邸を訪問、この日の朝帰京した。これにつき、「花だより」と題する次の御歌がある。

岡山の花のたよりもききにけり旅を終へたる末のみこより

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、あけぼの集

宮城県において行われる昭和三十年度植樹行事に御臨場、併せて同県下の産業施設等を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前九時五十分御出門、東京駅より水戸駅・仙台駅・新松島駅を経て、小雨のなかを五時十分御泊所の松島パークホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、緑化の宮城行幸啓誌

六日 水曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所松島パークホテルを御出発になり、仙台市の工業技術院産業工芸試験所東北支所を御視察になる。第一展示室では南部の紫紺染、秋田の銀細工品を始めとする東北の特産物を御覧になり、また第二展示室では皇后は静岡県の卵殻塗にお足を止められて御覧になる。それより宮城県庁に立ち寄られ、県下の学校植林状況に関する展示を御覧の後、黒川郡大衡村平林山に設けられた植樹会場に臨まれる。御着後、天皇の御植樹に続き、宮城県知事宮城音五郎・国土緑化推進委員会委員長益谷秀次・同会最高顧問河井弥八の介添えによりアカマツ三本をお手植えになる。ついで、御播種地の宮城県宮黒川苗圃に向かわれる。御着後、天皇は国土緑化推進委員会副委員長徳川宗敬の介添えによりスギの種子を、皇后は林業功労者佐々木君五郎の介添えにてアカマツの種子をお播きになる。次に黒川郡吉岡町の吉岡中学校に御到着になり、第九回宮城県わら工品製作競技大会に参加の各地区代表男女及び農業高等学校生徒等による縄・俵・筵などの製作競技を御覧になり、校舎内において、わら工品展示室を御覧になる。午後四時四十分、御泊所松島パークホテルにお戻りになる。その後、御泊所より松島町婦人会有志による「大漁唄い込み」「松島音頭」など郷土舞踊を、御夕餐後には花火と灯籠流しを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、産業工芸試験所行幸啓記念誌、緑化の宮城行幸啓誌

七日 木曜日 午前十時天皇と共に御泊所松島パークホテルを御出発になり、塩竈市の水産庁所属東北海区水産研究所を御視察になる。それより研究所前の岸壁に特設された仮栈橋からお召し船「あさゆき」にお乗りになり、代ヶ崎水道を進まれ、地藏島・馬放島・多聞山を御眺望、ついで外洋から再び内湾をお進みになり、松島湾の景観を御覧になる。松島海岸岸壁宮城郡松島町に御到着後、観瀾亭にお立ち

寄りになり、午後零時二十分御泊所松島パークホテルに戻られる。午後は御休養に充てられ、二時天皇と共に御泊所をお発ちになり、自然の植物公園と称される福浦島を散策される。御泊所にお戻りの後、天皇が東北地方に関する進講をお聴きになる間、皇后は三時二十分御泊所を御出発、お一方にて雄島に向かわれる。島南端の展望所において、松島町長伊藤政治の説明により松島湾の景勝を御覧になる。その際、雄島の名称の由来や伝説の有無などについてお尋ねになる。同所において御少憩後、傍らにある妙覚庵主頼賢の碑のほか、松尾芭蕉の句碑なども御覧になる。ついで瑞巖寺を御訪問になる。前庭において執事三浦希玄の説明により、伊達政宗由来の紅梅・白梅・南蛮鉄灯籠を御覧になる。

奥庭においては、天皇が皇太子時代の大正七年七月にお手植えのアスナロ、大正天皇が皇太子時代の明治四十一年十月にお手植えのタラヨウ等を御覧になる。御成門前にて住職三浦承天に労りのお言葉を賜い、四時二十分御泊所松島パークホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、内舎人供奉

日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、緑化の宮城行幸啓誌、公民館報松島

**八日 金曜日** 御泊所御出発に先立ち、天皇と共に付近を御散策になり、かつて貞明皇后も御利用の白鷗楼を訪ねられ、見晴台から湾内を御眺望になる。午前十一時、天皇と共に御泊所松島パークホテルを御出発、新松島駅より東京駅を経て、午後六時二十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日記、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、緑化の宮城行幸啓誌

**九日 土曜日** 去る二日、タイ国王ラーマ九世<sup>プミポン・アドゥンヤデート</sup>の王女誕生につき、この日、天皇・皇后より同国王・王妃シリキットに祝電を寄せられる。これに対し、十二日に答電がある。○外交慶弔録、宮

内庁庁報、官報

昭和三十年四月

十一日 月曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中は御文庫においてお慎みになる。○女官長日記、

女官日誌

十二日 火曜日 午前、御進講室において、元女子学習院教授松島彝及び御学友加藤貞の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十三日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、東洋紡績株式会社取締役会長関桂三より日本の綿紡績に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十四日 木曜日 午後、宮内庁庁舎において、新任のインド国特命全権大使B・R・セン及び息女を御引見になる。続いて、ペルー国特命全権公使フリオ・フェルナンデス・ダヴィラを御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

十五日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、日本スケート連盟会長竹田恒徳の拝謁をお受けになる。同人は先にソビエト連邦において開催された世界スピードスケート選手権大会に日本選手団団長として参加し、この度帰国した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に旧北御車寄門内において、松影会宮内省・宮内府・宮内庁  
元部局長以上の親睦会春季会に参集の元図書頭池田秀吉始め同

会員に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

天皇と共に表一の間において、新任のパキスタン国特命全権大使オマル・ハヤット・マリク、インド国特命全権大使B・R・セン、ペルー国特命全権公使フリオ・フェルナンデス・ダヴィラのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

十七日 日曜日 天皇及び正仁親王・貴子内親王と共に御文庫において、御夕餐を御会食になり、つ

いでイタリア大使館より提供の記録映画「青い大陸」等を御一緒に御覧になる。「青い大陸」は後日イタリア大使館より天皇に献上され、らい病療養所の患者や職員慰問のため財団法人藤楓協会に貸し下げられる。以後、全国の療養所において順次上映され、七月二十一日、天皇と共に御文庫において、同映画を鑑賞した療養所患者等による謝辞の録音をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交贈答録、藤楓協会創立三十周年誌、読売新聞

この日国賓としてタイ国首相プレーク・ピブソクラム及び同夫人が来日するため、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を東京国際空港に差し遣わされる。○外賓接待録、宮内庁庁報、外交記録

二十日 水曜日 午前、御進講室において、参内の故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。ついで御一緒に旧北御車寄門内において、日本赤十字社社長島津忠承の説明により、同社巡回診療車年賀はがき記念号を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、日本赤十字社史稿

二十一日 木曜日 天皇と共に表北の間において、タイ国首相プレーク・ピブソクラム及び同夫人のため、宮中午餐を催される。この度の来訪に際し、首相夫妻より天皇・皇后に献上があり、皇后には金銀製ハンドバッグが贈られる。なおこの日、首相夫妻離日につき、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、御進講室において、今般中宮寺門跡を拜命の六条照伝の拜謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十二日 金曜日 午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮元宮内府御用掛よりこの年最初の漢

昭和三十年四月

文の進講をお受けになる。この年も、金曜日を中心に同人より漢文の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、加藤虎之亮関係資料

お茶の水女子大学名誉教授倉橋惣三昨二十一日死去につき、この日、盛菓子を賜う。倉橋は昭和九年十一月から十二年六月まで皇后に対する定例進講に奉仕し、また皇太子・正仁親王・貴子内親王の保育に関する事項の諮問者を務めた。○女官長日記、贈賜録

二十五日 月曜日 午後、久邇<sup>御</sup><sub>親子</sub>、松平<sup>御</sup><sub>充子</sub>の姉・徳川<sup>御</sup><sub>正子</sub>の妹・島津<sup>御</sup><sub>忠重</sub>の弟・同夫人伊楚子・島津

康久<sup>御</sup>の弟・徳川<sup>御</sup><sub>為子</sub>の妹・松平<sup>御</sup><sub>元子</sub>の息女をお招きになり、花蔭亭においてお茶の席を設けられる。○女官

長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十七日 水曜日 午前、謁見所において、新任のオーストリア国特命全権公使フランツ・ライトナーを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

夕刻、楽部にお出ましになる。御到着後、先着の貴子内親王と御対面の後、楽部職員による洋楽演奏をお聴きになる。エスター・ビドル・ローズが陪聴する。終わって、貴子内親王及びローズと共に呉竹寮に移られ、飾られた御台人形を御覧になり、お茶を共にされる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録

二十八日 木曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、身体障害者福祉法施行五周年記念大会の開催に際し厚生大臣から表彰を受けた身体障害者で自立更生した者、及び身体障害者更生援護事業功労者等に御会釈を賜う。その際、厚生大臣川崎秀二より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

御進講室において、聖園テレジア聖心愛子  
会会長ほか二名の拝謁をお受けになり、同人より病氣全快の挨拶を

お受けになる。○女官長日記、女官日誌

憲仁親王箸初につき、天皇・皇后より三笠宮に五種交魚代料を、憲仁親王に鮮鯛代料を御贈進になる。

○女官長日記、贈賜録

二十九日 金曜日 天皇誕生日につき、午前、表拝謁の間において宮内庁長官始め総代、皇太子始め皇族、元皇族・元王族、御縁故者の拝賀をお受けになる。

正午、御進講室において内宴を催され、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御会食になる。正仁親王・貴子内親王が同席する。後刻、皇太子も加わる。午後四時、天皇と共に表西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、外国交際官等が出席する。なお、天皇誕生日に当たり、皇后より天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、重要雑録、典式録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 常磐会主催の救らい慈善能を御観覧のため、午後零時五十三分御出門、観世会館に行啓される。御到着後、御休所において会長松平信子の拝謁をお受けになる。御観覧席にお出ましの途中、御休所前廊下において、理事長伏見朝子より出演の観世元正・金剛巖二・桜間弓川の紹介をお受けになる。それより御着席になり、能「鉢木」・狂言「呼声」を御覧になる。故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪覧し、途中より貴子内親王も同席する。一旦御休所に戻られる途中、伏見理事長より、出演の喜多六平太・宝生九郎・川崎九淵・幸祥光の紹介をお受けになる。御少憩後、再び御観覧席に戻られ、仕舞「弱法師」「富士太鼓」「殺生石」・能「道成寺」を御覧になる。四時五十六分

昭和三十年五月

還啓される。なお、この度の行啓に際し、常磐会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

翌五月一日から昭和三十年度赤十字募金運動を実施する日本赤十字社に、天皇・皇后より御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

## 五月

五日 木曜日 御夕餐後、天皇及び正仁親王・貴子内親王と共に御文庫において、日本赤十字社社長島津忠承の説明により、同社作成の血液銀行や日本赤十字の歩みについての記録映画を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

憲仁親王初節句につき、天皇・皇后より三笠宮に三種交魚代料、憲仁親王に御台人形代料及び鯉料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

六日 金曜日 日本赤十字社輸血研究所及び同社産院を御視察のため、午前九時四十八分御出門、渋谷区の輸血研究所に天皇と共に行啓される。所内を御視察になり、それより隣接する産院を御訪問になる。院内において未熟児室・乳児院を視察され、その際、皇后は乳児院の幼児ベッドの側に立ち上がる子供にお手を伸ばしてあやされる。十一時四十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

午後、御文庫において、侍従入江相政より『源氏物語』に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、入江相政日記

八日 日曜日 午後、内廷西玄関前において、東京都主催「母の日」大会の参加者代表約七百名に御会釈を賜う。代表の諸橋たけ深川婦人団体  
連合会会長より挨拶とカーネーションの花束贈呈をお受けになり、次のようなお言葉を賜う。

皆さんからの心のこもったお花を有難度う

今日の意義深い日を機会に更に心を新にして健康に気を付け立派な母となり次の時代を背負う健全な子供を育てて下さい

なお、母の日につき、皇太子より皇后に『新仏和中辞典』が贈られる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、

東宮侍従日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

九日 月曜日 午後、天皇と共に謁見所において、英国陸軍少将フランシス・スチュワート・ギルデロイ・ピゴット及び同息女を御引見になる。続いてお茶の席を設けられる。ピゴットは、大正十年皇太子時代の天皇が御渡英の際、英国接伴員として尽力し、また一昨年の皇太子渡英に際しても種々幹旋、接待に尽力した。この度の来訪につき、天皇・皇后よりピゴットに蒔絵硯箱草花  
模様を、同息女に蒔絵

宝石簞笥富士  
之図を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁

報、外交記録

十日 火曜日 東京国際見本市協会主催の日本国際見本市を御視察のため、午前九時四十三分天皇と共に御出門、初めに千代田区の第一会場東京都立産業会館に行啓される。各展示会場において重要輸出品などを御覧になる。次に中央区の第二会場東京港晴海埠頭に臨まれ、国産の工作機械・化学機械・

昭和三十年五月

酪農機械などのほか、各国出品物等も御覧になる。十一時五十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十一日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女

官日誌、内舍人日誌

十三日 金曜日 去る十一日香川県高松港沖合において宇高連絡船紫雲丸が貨車航送船第三宇高丸との衝突により沈没し、多数の犠牲者を出したため、天皇・皇后より運輸省に御救恤金を賜う。○賜与録、

宮内庁庁報

十四日 土曜日 午前、先般佐賀錦とゆかり染を献上の井上静子佐賀錦 製作者・貝島百合子ゆかり染 作者・考案者につき、

奥一の間横の廊下において御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌

十六日 月曜日 午前、御文庫において、皇子傅育官竹田倭子の拝謁をお受けになり、貴子内親王の近況をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、奥三の間において久邇家経済顧問の山梨勝之進・栄木忠常・高橋真男・河上弘一、鷹司家経済顧問の入間野武雄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十七日 火曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

翌十八日賀陽章憲恒憲の子息結婚につき、天皇・皇后より恒憲に清酒及び鮮鯛代料、章憲に白羽二重を賜う。

○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

十八日 水曜日 多摩陵並びに多摩東陵に御参拝のため、午前九時五十一分御出門、天皇と共に両陵

に行啓される。御少憩の後、天皇に続き両陵を御拝礼になる。その間に到着した皇太子も続いて拝礼する。雨天につき、午後に予定されていた日蔭沢付近の御散策はお取りやめとなり、天皇と共に農林省林業試験場浅川分室に立ち寄られる。庭上に陳列された植物や温室を御覧になり、午後三時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内序序報

十九日 木曜日 正午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

午後、御文庫において、岡山県より上京の池田厚子と御対面になる。御一緒に呉竹寮にお出ましになり、貴子内親王のお茶の稽古を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十日 金曜日 午後、御文庫において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

この日より銀座松坂屋において開催される日本バラ会主催のバラ展に、天皇・皇后御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、産経新聞

二十一日 土曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、岡山県より上京の池田隆政及び同夫人厚子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十二日 日曜日 菊栄親睦会春季大会に御臨席のため、午前十時五十三分御出門になり、天皇と共に港区の綱町三井倶楽部に行啓される。この度の大会は、宣仁親王・同妃喜久子が銀婚の年を迎えたことを慶祝するとともに、会員・親族の親睦を図るために催され、出席者は皇太子始め皇族・元皇族・御親族など百余名に上る。会場において、崇仁親王より宣仁親王・同妃の銀婚を祝う旨の挨拶をお聞

きになり、ついで徳川夢声の漫談並びに西崎緑と若葉会による舞踊を御鑑賞になる。余興終了後、模擬店において立食にてお食事をお召し上がりになりつつ、一同と御談話になる。午後三時十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 憲仁親王が賢所・皇靈殿・神殿の初参拝を終えて初参内したため、午前、表拝謁の間において天皇と共に御対面になる。併せて容子内親王とも初めて御対面になる。崇仁親王妃百合子が同席する。これに伴い、天皇・皇后より三笠宮に五種交魚代料を、憲仁親王に御所人形代料並びに鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

午後、池田厚子を伴われて楽部にお出ましになり、定期演奏をお聴きになる。終わって御一緒に清宮御仮寓所に移られ、風気の貴子内親王をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録

二十五日 水曜日 午前、内廷庁舎において、フィリピン国社会福祉委員会委員長パシタ・マドリガル・ウオンズを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

日本赤十字社関東山静支部連合社員大会に名誉総裁として御臨場のため、午後一時十六分御出門、日比谷公会堂に行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。ついで厚生大臣川崎秀二・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長葛西嘉資・同東京都支部長安井誠一郎・同茨城県支部長友末洋治・同栃木県支部長小平重吉・同群馬県支部長北野重雄・同埼玉県支部長大沢雄一・同千葉県支部長川口為之助・同神奈川県支部長内山岩太郎の拝謁をお受けになる。それより大会会場に出御される。大会中、有功章受章者総代九名・特別社員章受章者総代九名に各章並びに章記を御親授になり、次のお言葉を賜う。

日本赤十字社関東山静支部連合社員大会に臨み、日ごろ、赤十字の事業に尽力されている多数の人々にお会いできましたことは、まことに喜ばしいことであります。

赤十字の使命は、国の内外を通じ、いよいよ重要性を加えつつありますが、各地方においても、更に多くの人々の深い理解と支援とを得て、一段と博愛奉仕の事業を充実せねばならないと考えます。

この際、関係者の一層の努力によつてその目的を達成するよう希望いたします。

ついで安井東京都支部長の奉答をお受けになる。御退場の後、お茶の会に御臨席のため日比谷公会堂を御出発、帝国ホテルに移られる。御到着後、御少憩のために御休所にお入りになり、ついで同じ中三階に設けられた言上の間において各支部長の言上をお受けになる。終わつて、お茶会会場にお出ましになり、一同と茶菓を共にされる。三時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、

宮内庁庁報、官報、日本赤十字社史稿

夕刻、この日岡山県に帰る池田隆政・同夫人厚子参殿につき、天皇と共に御文庫において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十六日 木曜日 午後、内廷庁舎において、善光寺住職の大宮智栄、同副住職の一条智光、付弟鷹司誓玉より御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、贈賜録

財団法人結核予防会主催「特別慈善試写会」に御臨席のため、午後六時二十二分御出門、正仁親王を伴われ日比谷東京宝塚劇場に行啓される。御到着後、故雍仁親王妃勢津子同会総裁のお出迎えをお受けになる。会場に入られ、先着の皇太子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王と御対面になる。会長島津忠承

昭和三十年五月

の挨拶に続き、米国映画「スター誕生」を御覧になる。終わって、九時十八分還啓される。この試写会は秩父宮記念病棟建設資金募集のために開催されたもので、行啓に際し、皇后より結核予防会に金一封を下賜される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 第十五回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に名誉総裁として御臨席のため、午前十時十二分御出門、日本赤十字社本社に行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、続いて衆議院議長益谷秀次・参議院議長河井弥八・厚生大臣川崎秀二・日本赤十字社社長島津忠承・同副社長葛西嘉資・同石坂泰三の拝謁をお受けになる。ついで式場にお出ましになり、島津社長の挨拶に続き、受章者の日本赤十字社中央病院看護婦副監督谷本竹野・東京都立松沢病院看護事務嘱託石橋ハヤの両人の胸にお手ずから記章を付けられる。ついで次のお言葉を賜う。

このたび、谷本、石橋両看護婦に対して、赤十字国際委員会から、看護婦として、世界最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章がおくられましたことは、本人の榮譽はもとより、わが国としても、まことに喜ばしいことであります。

どうか、今後も一層この道に尽されますとともに、すべての看護婦の皆さんも、これを模範として、その職に励み、広く内外の人々の信頼と感謝を得られることを希望して止みません。

衆参両院議長、厚生大臣、日本看護協会会長林塩の祝辞の後、受章者谷本竹野の答辞をお受けになる。御退場後、御休所において米国赤十字極東地区事業部長ソルベ・ルードの謁見をお受けになり、前任者のH・L・ジェーンウエーに対し、八年の長きにわたり日本赤十字社のために尽力したことにつき

感謝のお言葉を述べられ、同人への御伝言を託される。十一時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本赤十字社社史稿

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 土曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後一時七分御出門、明治記念館に行啓される。御到着後、御休所において故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子及び元皇族と御対面になる。ついで会員による「君が代」「金剛石」の奉唱をお聴きになり、前庭に設けられた各模擬店を巡られ、会員と御団欒になる。途中、「白雪姫」「舌切り雀」などの児童舞踊を御覧になり、また、金魚すくいにも参加される。会員の「花すみれ」斉唱に御唱和の後、御休所に入られ、四時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十日 月曜日 午前、天皇と共に謁見所において、この度米国より来日の社会福祉事業家ヘレン・アダムス・ケラーを御引見になる。通訳<sup>指話</sup>兼介添人ポリ・トムソンが同席する。その際、皇后は、ケラーが崇高な仕事に献身しているので、いつも若さを保っている旨を述べられ、同人の健康を祝福される。また、アジアにおける視覚障害者教育の現状、日本人の視覚障害者教育の進歩振りなどを話題とされる。なお、ケラーの御引見は昭和十二年及び二十三年に続き三度目となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

三十一日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所において、この度離任帰国の米国極東軍總司令官マックスウェル・ダヴェンポート・テイラー<sup>陸軍大将</sup>及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

昭和三十年六月

六月

一日 水曜日 午前、御進講室において東伏見慈治と御対面になり、故東伏見周子の葬儀終了につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

表拝謁の間において、近く赴任の英国駐節特命全権大使西春彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

二日 木曜日 午前、内廷庁舎において、エスター・ビドル・ローズより英語の進講をお聴きになる。

その後、ローズと共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、同所を御案内になる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌

午後、天皇と共に謁見所において、病氣療養のため来日中のフィリピン国前大統領エルピディオ・キリーノ及び同息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮

内庁庁報

御夕食後、天皇と共に御文庫において、正倉院事務所長和田軍一の説明により正倉院宝物の天然色スライドを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時二十四分御出門、午後一時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、宮内庁

報

午後、天皇と共に附属邸付近にお出ましになり、天皇の植物御調査に同行される。御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

九日 木曜日 梨本伊都子を始め常磐会旅行部の有志四十三名参邸につき、邸内において梨本伊都子・伏見朝子・閑院直子・李方子の、ついで御車寄内広間にて伊集院芳子故男爵伊集院彦吉夫人を始め三十九名の拝謁をお受けになる。それより会員一同と嚶鳴亭にお出ましになり、茶菓を共にされる。○女官長日記、女

官日記、侍従日記、内舍人供奉日記、那須行幸啓録

十一日 土曜日 故東伏見周子百日祭につき、天皇・皇后より霊殿に盛菓子を、墓所に榊を、皇后より霊殿に野菜をお供えになる。なお葉山の東伏見邸における霊殿祭、及び豊島岡墓地における墓所祭が終わる時刻まで、お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、東伏見周子葬儀録

十二日 日曜日 午後、御機嫌奉伺に参邸のマリー・シモーヌ・ルヌー及び同夫君・子女三名を御引見になる。○女官長日記、女官日記、那須行幸啓録

十三日 月曜日 午後零時五十五分那須御用邸を御出門になり、四時三十四分天皇と共に皇居に還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舍人日記、内舍人供奉日記、那須行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 午前、表拝謁の間において、近く任地へ赴くインド国駐劄特命全権大使吉沢清次郎及び同夫人、国際連合日本政府代表部長特命全権大使加瀬俊一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舍人日記、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報

謁見所において、今般夫人来日のインド国特命全権大使B・R・セン及び同夫人、新任のカンボジア国特命全権大使ニエック・トゥロン、ドイツ連邦共和国特命全権大使ハンス・クルル及び同夫人、ユーゴスラビア国特命全権公使ラザール・ラチノヴィチ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舍人日記、謁見録、典式録、宮内庁庁報

昭和三十年六月

十六日 木曜日 皇太子並びに正仁親王の教育に参与した小泉信三に対し、天皇・皇后より金一封と洋服地を賜う。○恩賜録

十七日 金曜日 午前、謁見所において、九州女学院名誉院長マーサ・B・エカードを御引見になる。

エカードは大正三年来日以來、我が国の教育事業・社会事業に尽力し、今般米国に帰国する。○女官長

日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

謁見所において、イラン国法務大臣アリ・アミニの夫人バトゥール・アミニを御引見になる。○女官長

日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、新任のカンボジア国特命全権大使ニイエク・トゥロン、ドイツ連邦共和国特命全権大使ハンス・クロル及び同夫人、オーストリア国特命全権公使フランチ・ライトナー、ユーゴスラビア国特命全権公使ラザール・ラチノヴィチ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十日 月曜日 明治神宮に天皇と共に御参拝のため、午前九時三十四分御出門になる。御到着後、

天皇に続き拝殿前の御拝座において御拝礼になる。終わって御苑内を御散策になり、ハナシヨウブを御覧になる。十一時二十七分還啓される。なお、天皇・皇后より同神宮に幣帛料及び神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 午後、鷹司和子を伴われ楽部の定期演奏に御臨席になり、ビゼー作曲「カルメン組曲」、ハイドン作曲交響曲第百番「軍隊」その他をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録

啓録

二十三日 木曜日 正午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、同所主任宮崎清の説明により天蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十四日 金曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎において、近く帰国する国際基督教大学教授エミール・ブルンナー及び同夫人を御引見になる。後日、ブルンナーより天皇・皇后及び皇太子それぞれに著書『社会における正義と自由』の献上がある。これに対し、天皇・皇后から謝意を同人に伝達するよう宮内庁長官に御下命があり、十一月十七日付にて長官より同人にこの旨が通知される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報

表御座所において、新任のイタリア国特命全権大使マルチェロ・デル・ドラゴ・デイ・アントワーニ及び同夫人、ベトナム国特命全権大使グエン・ゴック・トーを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十六日 日曜日 御夕食後、天皇と共に御文庫において、正仁親王と御対面になり、同親王より学習院大学理学部学生達との沼津旅行についての話をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十七日 月曜日 天皇と共に表一の間において、今般離任のトルコ国特命全権大使イゼット・アクサルル及び同夫人、新任のイタリア国特命全権大使マルチェロ・デル・ドラゴ・デイ・アントワーニ及び同夫人のため、午餐を催される。なお、この日出席予定の新任のベトナム国特命全権大使グエン・ゴック・トーは、先般旅行先にて脚部を負傷したため欠席する。同人には翌二十八日、天皇・皇后よりお見舞いとして果物を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答

昭和三十年七月

録、宮内庁庁報

二十八日 火曜日 夕刻、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に御臨席になる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、来る八月二十九日の近衛天皇八百年式年祭に先立ち、書陵部編修課長土井弘より近衛天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、進講録、時間外勤務控簿

## 七月

一日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

午後、御文庫において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

四日 月曜日 午前、表拝謁の間において、近く赴任のオーストラリア国駐箚特命全権大使鈴木九万の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、官報

六日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後四時四分御出門になり、五時三十一分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

七日 木曜日 御昼餐後、天皇と共に鮫島の磯にお出ましになり、天皇の海洋生物御採集に同行され

る。以後、御用邸御滞在中、天皇の御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

九日 土曜日 午後、天皇と共に、山階芳麿及び同夫人寿賀子の拝謁をお受けになる。同人は、天皇が那須山中にて発見された鳥の卵の調査依頼を受け、この日、参考標本を持参し報告する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十二日 火曜日 午後、天皇と共に、東宮大夫野村行一・参与小泉信三より、皇太子の近状についての報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十三日 水曜日 去る三日及び四日の豪雨により甚大な被害を受けた北海道に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 午後三時二分葉山御用邸を御出門になり、四時三十分天皇と共に皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

この日ビルマ国首相ウ・ヌ及び同夫人が国賓として来日につき、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を東京国際空港に差し遣わされる。○外賓接待録、外交記録

二十日 水曜日 午後零時三十分、天皇と共に表北の間において、国賓のビルマ国首相ウ・ヌ及び同夫人のため、宮中午餐を催される。この度の来日に際し、同首相より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には銀白粉入れが献上される。後刻、首相夫妻の訪問に対する御答礼のため、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を宿舎の白金迎賓館に差し遣わされる。また二十二日には首相夫妻帰国につき、天皇・皇后の御使として松平式部官長を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍

昭和三十年七月

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、外交贈答録、外賓接待録、外交雜録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 夕刻、天皇と共に生物学御研究所にお出ましになり、農林省農業技術研究所長盛永俊太郎よりイネの原種についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十二日 金曜日 貴子内親王が北海道への旅行に先立ち挨拶のため御文庫に参殿につき、天皇及び同内親王と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十五日 月曜日 長野県北佐久郡軽井沢町において御静養のため、天皇と共に同地に行啓される。

午前十時十五分御出門になり、原宿駅より軽井沢駅を経て、午後二時十分御泊所の軽井沢プリンスホテルに御到着になる。御泊所玄関において、去る二十三日より滞在中の皇太子のお出迎えをお受けになる。御夕餐後、天皇及び皇太子と共に門前にお出ましになり、軽井沢町沓掛区住民の提灯行列による奉迎をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、東宮侍従日誌、

幸啓録、長野県行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 火曜日 午前十時、天皇及び皇太子と共に御泊所軽井沢プリンスホテルを御出門、群馬県吾妻郡嬭恋村の黒豆河原に御到着になる。それより鬼押し出し岩窟ホールを訪ねられる。次に浅間家畜育成牧場事務所に御到着になり、御昼食後、第一展望台及び第二展望台において周囲を御展望になる。ついで軽井沢町の東京大学地震研究所浅間火山観測所を御見学になる。午後二時二十五分御泊所軽井沢プリンスホテルに戻られる。その後、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宜仁親王・容子内親王の訪問をお受けになる。天皇及び皇太子と共にペランダにおいて御対面になり、ついで食堂においてお茶を共にされた後、皇太子の案内によりお庭を御散策になる。御夕餐後、天皇と共に、東京大学助教

授原寛より群馬県献上の腊葉標本等についての説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、長野県行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十七日 水曜日 午前十時二分御泊所軽井沢プリンスホテルを御出門、天皇及び皇太子と共に軽井沢町内の三笠宮別邸を御訪問になる。崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宜仁親王・容子内親王・憲仁親王と御歓談になる。次に碓氷峠の見晴台に臨まれ、妙義山・赤城山・榛名山・八ヶ岳などの景観を御展望になる。午後零時十分御泊所にお戻りになる。一時三十三分、再び天皇及び皇太子と共に御出門になり、地蔵ヶ原における高山地帯の植物御採集に同行される。御採集の途中、軽井沢飛行場において読売新聞社及び学生航空連盟主催によるグライダー夏期合宿訓練を御覧になる。三時二十一分御泊所軽井沢プリンスホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、長野県行幸啓録、宮内庁庁報、官報、軽井沢町報

二十八日 木曜日 午前、皇太子の案内にて天皇と共に、御泊所軽井沢プリンスホテルに隣接する千ヶ滝養魚場付近を御散策になる。皇太子と共にマス釣りをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、東宮侍従日誌、長野県行幸啓録

天皇と共に還啓のため、午後零時四十五分御泊所軽井沢プリンスホテルを御出発になり、軽井沢駅より原宿駅を経て、四時二十五分皇居に御到着になる。途中、車中にて天皇と共に崇仁親王と御対面になり、昨日の三笠宮別邸御訪問並びにこの日の列車便乗のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、長野県行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十九日 金曜日 川合玉堂に御絵をお見せになるため、去る二十六日同人宅へ御使として差し遣わ

昭和三十年八月

された侍従入江相政より、午前、御文庫において復命をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

三十日 土曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

## 八月

一日 月曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時二十分御出門になり、午後一時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、宮内

庁序報

二日 火曜日 午前、天皇との植物御採集に同行され、御用邸敷地外の池田湿地帯付近にお出ましになる。以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

五日 金曜日 午前、天皇と共に御乗馬口において、ニジマス献上のため参邸の水産庁日光養魚場長田中甲子郎ほか二名に御会釈を賜う。○女官長日記、侍従日誌、那須行幸啓録

午後、天皇と共に東京外国語大学学長沢田節藏及び同夫人の拝謁をお受けになり、先般の賜物についてのお礼言上をお受けになる。沢田は去る三日に天機奉伺のため参邸し、その際野菜を拝領した。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録

八日 月曜日 午前、御散策にお出ましになる際に、天皇と共に御車寄脇において、椎茸の献上及び天機奉伺のため参邸した前橋営林局長武藤博忠ほか三名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

那須行幸啓録

十一日 木曜日 午前、天皇と共に御車寄前庭において、共同通信社員田中徳ほか七名の宮内記者会  
会員に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録

十三日 土曜日 午前、天皇と共に間ノ谷から嚶鳴亭へ御散策の途中、近くに熊二頭が出没したため、  
警護の巡査により安全が確認されるまで暫時お待ちになる。その後嚶鳴亭に臨まれ、御昼食をお召し  
上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、稲田周一関係資料、旧奉仕者会  
会報

十五日 月曜日 終戦十周年に当たり、御用邸内において静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日  
誌、那須行幸啓録、静岡新聞

二十七日 土曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午後零時五十八分御出門になり、四時三  
十三分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那  
須行幸啓録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 午前、近衛天皇八百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、  
女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報

鷹司和子内着帯の儀につき、天皇・皇后より鷹司信輔・同夫人綏子に三種交魚代料を賜う。これとは  
別に、天皇・皇后より鷹司平通・同夫人和子それぞれに紅白絹を賜う。また、皇后より同夫妻に三種  
交魚代料を、久邇倪子に三種交魚代料を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

三十日 火曜日 この日満一歳の誕生日を迎える東久邇優子に、天皇・皇后より鮮鯛代料及び御台人

昭和三十年九月

形代料を賜う。また、東久邇盛厚・同夫人成子に五種交魚代料を、東久邇稔彦・同夫人聡子に三種交魚代料を賜う。○女官長日記、贈賜録

## 九月

一日 木曜日 午前、表拝謁の間において、新任の侍医杉村昌雄、及び退任の侍医小島憲の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、官報

四日 日曜日 午前、清宮御仮寓所にお出ましになり、貴子内親王と新築の御湯殿を御覧になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

九日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、天皇・皇后からの鮮鯛代料下賜についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

社会福祉法人恩賜財団母子愛育会主催の特別慈善試写会に御臨席になるため、午後六時四十八分御出門、日比谷のスカラ座東京宝塚劇場四階に行啓される。御到着後、総裁崇仁親王妃百合子・厚生大臣川崎秀二・

母子愛育会副会長新居善太郎ほかのお出迎えをお受けになり、御観覧席に着席される。上映に先立ち、今般映画を無償提供した二十世紀フォックス映画極東総支配人ウイリアム・サリバンに対し、総裁崇仁親王妃より感謝状と記念品が贈られる。終わって米国映画「足ながおじさん」を御覧になる。正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王が陪覧する。九時二十分還啓される。なお、この度の行啓に際し、母子愛育会に金一封を下賜される。○女官長日記、女官日誌、内

舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

この日、御絵ひるがほ・りんど  
う・とりかぶとを川合玉堂に御發送になる。○女官長日記、女官日誌

十三日 火曜日 午前、御進講室において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。その際、同妃が岡山旅行中に対面した池田厚子の様子をお聞きになる。後刻、天皇も御同席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に御文庫において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十五日 木曜日 午前、表拝謁の間において、皇宮警察本部長代理山口喜雄警察庁警備部長の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 金曜日 午前、奥三の間において、皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選に臨まれる。議員に故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王、予備議員に宣仁親王妃喜久子・崇仁親王が当選する。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇室会議皇族議員互選録

午後、天皇と共に御文庫において、宮内庁長官宇佐美毅の拝謁をお受けになる。長官より、十一月の正仁親王成年式に関する決定事項についての説明をお聞きになる。○侍従日誌、内舎人日誌、稲田周一関係資料  
十七日 土曜日 午前、内廷庁舎において、新任のブラジル国特命全権大使ロベルト・メンデス・ゴンサルヴェス及び同夫人、コロンビア国特命全権公使エドワード・ロドリゲス・カスチリョ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に御臨席になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十九日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時一分御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類、宮内

庁序報

二十二日 木曜日 第十回国民体育大会夏季大会の水泳競技を御覧になるため、午前九時三十分葉山御用邸を御出門になり、天皇と共に鎌倉市営プールに行啓される。御到着後、学校教員の三百メートルメドレーリレー、高校生の四百メートル自由形などを御覧になる。十一時三十分御帰邸になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類、宮内庁序報、官報

二十三日 金曜日 第十回国民体育大会夏季大会のヨット競技を御覧になるため、午前十時二十二分葉山御用邸を御出門になり、天皇と共に葉山ヨットハーバーに行啓される。御到着後、ヨットハウス屋上のお席より、一般女子府県對抗レースのヨット競技を御覧になる。ついで、お召し艇うらなみに御乗船になり、前甲板に設けられたお席より、一般男子府県對抗レースを御覧になる。十一時三十九分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類、幸啓録、宮内庁序報、天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午後三時御出門になり、四時二十九分皇居に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類、宮内庁序報

二十四日 土曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

午後、御進講室において大谷暢順御妹大谷智子の子息の拝謁をお受けになり、今般渡仏につき、暇乞いの挨拶をお受けになる。なお、天皇・皇后より暢順にお品及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、贈賜録

二十六日 月曜日 午前、内廷庁舎において、今般夫人来日のカンボジア国特命全権大使ニイエク・トゥロン及び同夫人、同じく今般夫人来日のオーストリア国特命全権公使フランツ・ライトナー及び同夫人を順次御引見になる。続いて北陸学院保育短期大学長アイリン・ライザーを御引見になる。ライザーは大正九年来日以来、我が国の教育事業に尽力し、今般米国に帰国する。後日、ライザーより著書『盆栽の松』の献上がある。これに対し、皇后から謝意を同人に伝えるよう式部官長に御下命があり、十一月十七日付にて式部官長よりライザーにこの旨が通知される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十七日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所において、米國極東軍總司令官ライマン・ルイス・レムニツァー陸軍大將及び同夫人を御引見になる。レムニツァーは、朝鮮戦争中に在韓第七歩兵師団長を務め、この年六月に米國極東軍總司令官兼國際連合軍司令官に就任した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 午前、内廷庁舎において、近く夫人帰国のベルギー国特命全権大使ギイ・ドウ・スクテート・ドウ・テルヴァレン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録

元公族李垠去る八月十七日死去につき、この日、皇后より喪中お尋ねとして、李垠及び桃山虔一元公族李鍵公にそれぞれ果物を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十九日 木曜日 日本赤十字社主催の慈善特別映画会に名誉総裁として御臨席のため、午後六時五

昭和三十年十月

十三分御出門、産経ホールに行啓される。御到着後、御観覧席に着かれ、皇太子・正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王と共にイタリア映画短編「ピカソ」、及びブラジル・イタリア合作映画「緑の魔境」を御覧になる。九時二十分還啓される。なお、この度の行啓につき、日本赤十字社に金一封を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、

宮内庁序報

三十日 金曜日 午前、表拝謁の間において、先に米国より帰国した元国際連合日本政府代表部長特命全権大使沢田廉三の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、

典式録、宮内庁序報

午後、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になり、天皇・皇后からの鮮鯛代料のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録  
来る十月一日より昭和三十年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁序報

## 十月

三日 月曜日 午前、表拝謁の間において、今般任地より帰国の元アルゼンチン国駐箚特命全権大使大久保利隆及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、

宮内庁序報、官報

去る一日に発生した火災により新潟市で甚大な被害が生じたため、この日、天皇・皇后より新潟県に

御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

四日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所において、ネパール国王族ヒマラヤ・ビル・ビクラム・シャー及び同妃と御会見になる。御会見後、同王族・同妃参内の御答礼のため、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を宿舍の帝国ホテルに差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外賓接待録、典式録、宮内庁庁報

六日 木曜日 台風二十二号により甚大な被害を受けた鹿児島県・宮崎県それぞれに対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

七日 金曜日 日本伝統工芸展を御覧になるため、午前九時四十三分御出門、天皇と共に日本橋三越本店に行啓される。御到着後、列立の重要無形文化財保持者九名に御会釈を賜い、天皇に続きお言葉をお賜う。ついで会場を巡られ、陶芸・染織・漆芸・金工・人形・木竹工等の各作品を御覧になる。十一時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十日 月曜日 午後、御文庫において、元林業試験場長長谷川孝三の拝謁をお受けになる。長谷川より、北海道にて熊に遭遇した者の体験談をお聞きになり、その際熊に噛まれたアルミ製弁当箱などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌

十二日 水曜日 日墨文化協定成立を記念してメキシコ芸術院・読売新聞社・東京国立博物館が共催するメキシコ美術展を御覧になるため、午前九時五分御出門、天皇と共に東京国立博物館に行啓される。御到着後、展示室に進まれ、古代の民芸品及び近代の絵画・彫刻等を御覧になる。十一時四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京国立博物館百年史

昭和三十年十月

十四日 金曜日 この日より銀座松坂屋において開催される日本バラ会主催のバラ展に、天皇・皇后御栽培のバラの切り花を御出品になる。十六日にもバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、毎日新聞

十六日 日曜日 午後、宮内庁職員懇親運動会を御覧になるため、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と共に旧主馬寮広場にお出ましになる。テント内に御着席になり、職員及び家族等によるくす玉割り・長下駄リレー競走等の各競技を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

十七日 月曜日 午前、神嘗祭につき、御文庫において神宮を御遙拝になる。ついで賢所において、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社秋季霊璽奉安祭に参列した沖繩を含む各都道府県代表の軍人遺族等に御会釈を賜う。これ以降、毎年同社祭典参列の代表遺族に対し、皇居において御会釈を賜うことが恒例となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、靖国神社百年史

十九日 水曜日 午前、謁見所において、元東京基督教女子青年会副総幹事エマ・R・カフマンを御引見になる。カフマンは、明治四十四年の来日より昭和十五年の帰国まで約三十年間にわたり我が国の社会教育並びに社会事業に尽力し、今般同女子青年会創立五十周年式典に参列のため来日した。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十三日 日曜日 午後、パレス乗馬倶楽部主催の東京馬術大会を御覧になるため、天皇及び皇太子・

正仁親王・貴子内親王と共に旧主馬寮広場にお出ましになる。日本馬術連盟会長竹田恒徳の説明により、この度初めて公開されるインドア・ポロゲームなどの馬術競技を御覧になる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、宮内庁序報

この日、光輪閣において学習院同窓会館建設募金バザー開催につき、桜友会・常磐会に帛紗百二枚、及び蘭花・菊花等を下賜される。この帛紗は、紅葉山御養蚕所製の生糸で織られ、皇后御自身が染色される。また、同バザーに女官長及び女官小川梅子を差し遣わされる。○女官長日記、女官日記、贈賜録、常磐会創立百年年表

この日多磨霊園において野口幽香<sup>元女子学  
習院教授</sup>の納骨式施行につき、霊前にお花料・菓子を賜う。同人は昭和

十七年から二十二年にかけての皇后への進講その他に奉仕した。○女官長日記、贈賜録、野口幽香の生涯

二十六日 水曜日 午後、楽部にお出ましになり、貴子内親王と共に洋楽演奏をお聴きになる。○女官

長日記、女官日記、内舍人日誌、幸啓録

御夕食後、天皇及び貴子内親王と共に御文庫において、来る三十一日の社会福祉法人エリザベス・サ  
ンダース・ホームへの行幸啓を前に、同ホームより献上された記録映画「サンダース・ホーム」その  
他を御覧になる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十日 日曜日 神奈川県において開催される第十回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて県内の  
産業及び社会福祉の諸施設を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前九時五十分御出門に  
なり、横浜市の三ツ沢公園陸上競技場に御到着、開会式に臨まれる。御昼餐を御会食の後、再度御臨  
場になり、横浜市内の小中高等学校生徒によるマスケムなどの演技を御覧になる。なお、「三ツ沢

昭和三十年十月

国体開会式場」と題し、次の御歌がある。

ちぎれとびて柄のみとなりし日の丸をなほふりかざす学び子のとも

競技場をお発ちになり、神奈川県により戦災後計画的に住宅建設が進められた浦島ヶ丘住宅地区を視察され、続いて横浜市街並びに横浜港を御展望になる。次に古河電気工業株式会社横浜電線製造所を御視察になり、午後四時五分葉山御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、神奈川県下行幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報、官報、朝日新聞、東京新聞

三十一日 月曜日 午前九時五十分葉山御用邸を天皇と共に御出門になり、平塚市営競輪場において国体自転車競技を御覧になる。次に横浜護謄製造株式会社平塚工場を御視察になる。同所にて御昼食後、大磯町の社会福祉法人エリザベス・サンダース・ホームを御訪問になる。同ホームは、主に占領軍軍人と日本人女性との間に生まれ孤児となった子供達の養育施設であり、御視察中、皇后は絵を描く小学生の後ろから覗かれるようにしてお声をかけられ、皇后がお手にしていた襟巻に眼を留めた子供たちがキツネかタヌキかを話題にした際には、襟巻を動かしてお戯れになる。ついで小田原市の県立小田原婦人公共職業補導所に向かわれる。御到着後、御休所において同市在住の閑院春仁・同夫人直子の拝謁をお受けになり、御一緒に職業補導の状況を御視察になる。終わって箱根路を進まれ、午後三時十五分宮城野村強羅の御泊所環翠楼に御到着になる。御夕餐後、宮城野村民による大文字焼・花火を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、神奈川県下行幸啓録、葉山

行幸啓録、宮内庁庁報、官報、横浜ゴム株式会社所蔵資料

十一月

一日 火曜日 午前十時三十分御泊所環翠楼を御出発になり、天皇と共に足柄下郡宮城野村の県立箱根養老院を御訪問になる。この御訪問に寄せて次の御歌がある。

迎へまつる人のあはれささち薄き老のまなこに涙たたへて

一旦御泊所環翠楼にお戻りになり、御昼食をお召し上がりになられた後、午後一時天皇と共に御出発、金田村健民館を御訪問になる。館内の生活改善等の展示品等を御覧になり、同館前において村民のバレーボール競技を御覧になる。ついで藤沢市秩父宮記念体育館において国体都道府県対抗剣道団体試合二回戦を御覧になる。なお、試合御覧に先立ち、体育館内の秩父宮記念室において故雍仁親王の写真・胸像・剣道防具等を御覧になる。四時三十五分葉山御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、神奈川県下行幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

二日 水曜日 午前十時、葉山御用邸を天皇と共に御出門、横浜市の県営富岡射撃場において国体射撃競技を御覧になる。それより川崎市に向かわれ、日本鋼管株式会社川崎製鉄所を御視察になる。次に川崎市立川崎公民館において、国体重量挙競技を御覧になる。終わって、午後三時二十分天皇と共に皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、神奈川県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報

三日 木曜日 午前、天皇と共に表一の間において、日本芸術院会員前田青邨画の「石橋」を御覧になる。なお、前田はこの日、文化勲章を授与される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

四日 金曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、全日本健康優良児童学校表彰会朝日新聞社主催に

昭和三十年十一月

て特選児童に選出された健康優良児及び全日本健康優良学校の表彰校代表等に御会釈を賜う。同会長

村山長挙朝日新聞社  
取締役会長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、朝日新聞

五日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、増築の御殿を御覧になる。ついで黄心樹歌会に御

臨席になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

六日 日曜日 この度義宮御殿が増築改装を終えたため、午後、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内

親王と御一緒に御徒歩にて同御殿にお出ましになる。御殿内の各部屋を御覧になり、お茶を共にされ

る。なお、義宮御殿増築につき、天皇・皇后より正仁親王にお品及び万那料を御贈進になる。また、

翌年三月九日にもお品を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、贈賜

録、宮内庁庁報

八日 火曜日 昨日来の御風気につき、朝より御仮床に就かれる。そのため、この日の園遊会へのお

出ましはお取りやめになる。以後、十日より御予定の埼玉県行啓をお取りやめになり、十二日の社会

福祉事業功労者への御会釈にお出ましはなく、十五日の普通選挙三十周年及び婦人参政十周年記念式

典への御臨席もお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、埼玉県

下行幸書類、宣召録、官報

十三日 日曜日 去る一日、北海道赤平市の雄別炭礦鉄道株式会社茂尻礦業所において爆発事故が発

生し、多数の犠牲者が出たため、この日、同礦業所において合同慰霊祭が執り行われる。よって、天

皇・皇后より同社にお花料を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十五日 金曜日 午前、天皇と共に謁見所において、米國コロンビア大学総長グレイソン・ルイス・カーク及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

正午過ぎ、表拜謁の間において、今般イタリア国より帰国の特命全權大使原田健及び同夫人の拜謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宮内庁序報

天皇と共に表北の間において、日本政府の賓客として来日中のイタリア国外務大臣ガエターノ・マルチーノ及び同夫人のため、宮中午餐を催される。この度の来日に際し、同大臣より天皇・皇后に献上品があり、皇后には音楽レコード二十枚が贈られる。これに対し、同大臣参内の際、謝意をお伝えになる。なお、政府の賓客に対して午餐を催されることは極めて稀であるが、この度は昭和二十八年の皇太子訪伊及び昭和二十九年内閣総理大臣吉田茂の訪伊に対する返礼の意味をもって、国賓に準じて催された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁序報、外交記

録、儀礼軌範

二十六日 土曜日 午後、清宮御仮寓所にお出ましになり、石坂みちより御機嫌伺いをお受けになる。

石坂は皇子傳育官竹田倭子の姉にて、久邇宮家の花御殿において御結婚前の良子女王に作文・漢文を進講した。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十七日 日曜日 午前、義宮御殿にお出ましになる。それより正仁親王と共に内廷庁舎奥二の間に移られ、翌日成年式に臨む正仁親王の束帯姿を御覧になる。御夕餐後、天皇と共に御文庫において、翌日の成年式で正仁親王が使用する冠を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十八日 月曜日 この日、正仁親王成年式が行われる。午前十時、御小桂・御切袴をお召しの上、天皇<sup>御直</sup>衣と共に表西の間において、正仁親王成年式加冠に臨まれる。皇太子始め皇族・御親族が参列する。加冠の座に着いた正仁親王開腋袍、空頂黒幘に賜冠が加えられた後、御前に参進した同親王の敬礼を天皇と共に受けになる。ついで天皇と共に御退出になる。それより御小桂にて天皇モーニンと共に表拝謁の間において、皇族・御親族の拝賀をお受けになる。その後、皇后お一方にて再び表拝謁の間において、御学友・御同級生より祝詞言上をお受けになる。午後零時十五分、天皇と共に両陛下御座所において、賢所皇靈殿神殿に謁するの儀を終えた同親王縫腋袍と御対面になる。その後、御桂にお召し替えになり、御進講室において御昼餐を御会食になる。

二時、御小桂・御切袴をお召しの上、天皇と共に表西の間において、正仁親王成年式朝見の儀に臨まれる。式中、正仁親王通常服より謝恩の辞をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。ついで天皇に続いて皇后も御盃を執られ、御一献の後、御盃を親王に賜う。続いて天皇・皇后が御台盤に御箸をお立てになり、親王がこれに倣う。終わって、天皇及び正仁親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、側近奉仕者、元側近奉仕者の拝賀を、続いて鷹司信輔・同夫人綏子・池田宣政・同夫人富貴子等の拝賀をお受けになる。その後、天皇より正仁親王燕尾服に大勲位菊花大綬章の御親授があり、皇后は御座所において勲章佩用の親王よりお礼言上をお受けになる。

正仁親王成年式に当たり、天皇より蠟色七宝菊松蒔絵柵・御紋付梨子地松桜山水蒔絵文台硯箱を、皇后より陶器彫金漆器花鳥文様嵌入四曲屏風・御懐紙・写真帖を、天皇・皇后より柳樽・昆布・鮮鯛を

正仁親王に賜う。

この度の成年式の次第は、概ね昭和二十七年十一月十日に行われた皇太子成年式に準じて行われたが、国の儀式とはされなかった。正仁親王の成年式に寄せて、次の御歌をお詠みになる。

ひおほぢのみかどののりし秋空をこころにとめて仰ぎませみこ

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、正仁親王成年式要録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

二十九日 火曜日 正仁親王成年式につき、夕刻、皇太子始め菊栄親睦会会員をお召しになり、天皇と共に内宴を催される。天皇及び正仁親王と共に表三の間において皇族等よりお祝いの挨拶をお受けになった後、表西の間において御夕餐を御会食になる。終わって再び表三の間において、会員と御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

## 十二月

二日 金曜日 この日容子内親王着袴につき、午後、天皇と共に表拝謁の間において、崇仁親王及び容子内親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子に五種交魚代料を、容子内親王に鮮鯛代料・御台人形代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈録

天皇と共に謁見所において、米国アマースト大学教授ウイラード・ロング・ソープ及び同夫人を御引見になる。同人は、経済学を専門とし、*Economic problems in a changing world* 等の著者として知られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

三日 土曜日 午前、御進講室において、伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになり、同人より正仁親王の神宮参拝の様子についてお聞きになる。御昼餐は御文庫において天皇及び正仁親王と御会食になる。同親王は、成年を迎えたことの奉告のため、皇大神宮・豊受大神宮・神武天皇陵に参拝し、この日帰京、さらに多摩陵・多摩東陵の参拝を終えて参殿した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

四日 日曜日 この日、国賓のカンボジア国前国王ノロドム・シハヌーク同国首相が王妹ラシミ・ソパンを

伴い来日につき、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌が東京国際空港に差し遣わされる。○外資接待録、宮内庁序報、外交記録

六日 火曜日 午前、表拝謁の間において、近く任地へ赴く中華民国駐劄特命全権大使堀内謙介及び同夫人、アフガニスタン国駐劄特命全権大使三浦和一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拜謁録、典式録、宮内庁序報

午後、天皇と共に謁見所において、国賓のカンボジア国前国王ノロドム・シハヌーク及び王妹ラシミ・ソパンと御会見になる。その後、天皇と共に表北の間において宮中午餐を催される。今般の訪日に際し、前国王より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には銀製水鉢が贈られる。後刻、前国王及び王妹参内の御答礼のため、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を白金迎賓館に差し遣わされる。なお、外国王族の公式参内は戦後初めてのことであり、参内の次第は非公式王族参内の例を斟酌して作成される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、典式録、外交贈答録、宮内庁序報

去る三日鹿児島県名瀬市が火災により甚大な被害を受けたため、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜

う。○賜与録、宮内庁庁報

九日 金曜日 午後、天皇と共に御文庫において、参与小泉信三・東宮大夫野村行一より皇太子の教育に関する説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

歳末に当たり生活困窮者への義捐品として、お手許の材料で綿入羽織下百枚を御調製になり、この日侍従職女子職員一同の名をもって日本赤十字社に贈呈される。○女官長日記、贈賜録

十日 土曜日 カンボジア国前国王ノロドム・シハヌーク及び王妹ラシミ・ソパンこの日御帰国につき、午前、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を東京国際空港に差し遣わされる。○外賓接待録、宮内庁庁報

十一日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 月曜日 天皇と共に表一の間において、参与の小泉信三・安倍能成・松平信子・勝沼精蔵・

加藤武男をお召しになり、午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録

十五日 木曜日 賢所御神楽につき、夕刻、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、日本のロータリークラブ視察のため来日中の国際ロータリー会長A・Z・ベーカー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後より御風気のため御仮床に就かれる。二十日の帝国劇場における日本赤十字社資金募集映画試写会への行啓、並びに二十一日の多摩陵及び多摩東陵の御参拝をそれぞれお取りやめになる。葉山御用邸御滞在中の二十九日まで御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録

十七日 土曜日 来る十九日から五日間にわたり都下各医療施設の参加を得て、歳末無料健康相談を実施する東京都に、金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 この日、日本赤十字社主催の日赤資金募集映画試写会に天皇の行幸がある。この度の資金募集に対し、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。○幸啓録

タイ国太皇太后ソムデット去る十七日崩御につき、この日、天皇・皇后より同国王ラーマ九世<sup>プミポン・アドゥン</sup>及び同王妃シリキットに弔電を発せられる。これに対し、二十六日に答電がある。○外交慶弔録、宮

内庁庁報、官報

二十二日 木曜日 事業御補助のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。また、皇后より財団法人結核予防会に御奨励金を賜う。このほか歌道御奨励の思召しにより、向陽会に恒例の賜金がある。さらに、日本赤十字社病院及び恩賜財団済生会病院の救助収容患者合計七千四百三十名に対し、手拭い一筋ずつを賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、日本赤十字社社史稿

二十三日 金曜日 正午前、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた皇太子と御対面になる。なお、御風気のため、拝賀はお受けにならないこととされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十五日 日曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 天皇と共に表一の間に於いて、この度離任のオーストラリア国特命全權大使エドワード・ロナルド・ウオーカー及び同夫人、フランス国特命全權大使ダニエル・レヴィ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、入院中の鷹司和子をお見舞いになる。その際、病室前において鷹司信輔・同夫人綏子・鷹司平通ほかのお出迎えをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、読売新聞

葉山御用邸に行啓のため、午後三時三十四分天皇及び正仁親王・貴子内親王と共に御出門になり、五時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 憲仁親王初誕辰に当たり、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子に五種交魚代料を、憲仁親王に鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、贈賜録

三十日 金曜日 午前十時三十四分葉山御用邸を御出門になり、正午天皇と共に皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に表拝謁の間において、伏見朝子始め元皇族等より歳末の祝詞言上をお受けになる。続いて宮内庁長官始め総代四名より、また女官長始め女官等より、それぞれ歳末の祝詞言上をお受けになる。さらに、鷹司信輔・同夫人綏子より歳末の祝詞言上並びに去る二十六日の鷹司和子お見舞いのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和三十年十二月

三十一日 土曜日 午前、天皇と共に御文庫において、鷹司平通より歳末の挨拶をお受けになる。ついで故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子より歳末の祝詞言上を、天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和三十一年（西曆一九五六年） 五十三歳

一月

一日 日曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀が行われる。天皇と共に表拝謁の間において皇太子、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に表北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・外国交際官等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、元皇族・元王族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者の拝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮内庁序報、官報

二日 月曜日 新年参賀につき、旧侍医寮前広庭<sup>皇居</sup>の北西隅において、午前三回と午後六回の計九回、

天皇と共に新年の一般参賀をお受けになる。第一回の一般参賀の後、天皇と共に表三の間において元側近奉仕者・元部局長等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典

式録、宮内庁序報、官報

三日 火曜日 午前、元始祭につき、女官長保科武子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、恒例祭祀録

新年につき、天皇と共に表拝謁の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、天皇・皇后からの万那料贈賜についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録

四日 水曜日 雍仁親王三年式年祭につき、皇后宮使として、靈殿に侍従穂積重道を、墓所に侍従徳川義寛を差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より靈殿に盛菓子及び榊を、墓所に榊をお供えになり、故雍仁親王妃勢津子に菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、皇親録、贈賜録

五日 木曜日 午前、内廷庁舎において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨四日の雍仁親王三年式年祭についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

六日 金曜日 新年につき、午後、天皇と共に表拝謁の間において、元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついでお一方にて、御学友・御同級生の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 土曜日 午前、御文庫において、北白川房子の拝謁をお受けになり、新年の祝詞をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

八日 日曜日 天皇と共に御文庫において、皇太子・正仁親王・貴子内親王・東久邇盛厚・同夫人成子・同子女等と御昼餐を御会食になる。以後、この年も皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、供御日録

九日 月曜日 午前十時、天皇と共に表西の間において、講書始の儀に臨まれる。東北大学長高橋里

美より「文化の根本動機としての愛の諸形態について」、早稲田大学総長大浜信泉より「株式会社制度の功罪」、日本学士院会員藪田貞治郎より「微生物の利用に関する最近の研究」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、講書始録、典式録、宮内庁序報、官報

秩父宮・高松宮・三笠宮の主催による正仁親王成年式祝賀会に御臨席のため、午後四時四十九分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。御着後、皇太子・正仁親王・貴子内親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、東久邇盛厚・同夫人成子と共に御夕餐を御会食にする。八時四十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、供御日録、東宮侍従日誌、宮内庁序報

十日 火曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、レントゲン診療自動車アサヒクリニック「文学座号」を御覧になる。日本赤十字社社長島津忠承より朝日新聞厚生文化事業団理事長加藤祇文<sup>朝日新聞社取締役</sup>・文学座<sup>劇団</sup>代表杉村春子その他の紹介をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

御進講室において、参内の聖園テレジア<sup>聖心愛子会会長</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十一日 水曜日 午前、内廷庁舎において、この度帰国した前中華民國駐劄特命全權大使芳沢謙吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁序報

十二日 木曜日 午前十時、天皇と共に表西の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「早春」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

昭和三十一年一月

### 皇后宮御歌

春あさみ風はさゆれど日だまりにはやもえたり菊の若芽は

儀終了後、天皇と共に旧北御車寄門内において、預選者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、歌会始録、典式録、宮内庁庁報、官報

十三日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分御出門になり、十一時三十分御

到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、宮

内庁庁報

十八日 水曜日 午前九時三十分御出門、天皇と共に江ノ島水族館に行啓される。同館御着後、魚類

の水槽、水槽循環装置、二階標本室の展示等を御覧になる。終わって午後零時三十分御帰邸になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録

二十日 金曜日 午後、参邸の国分峰元久邇宮宮務監督国分三亥夫人の松岡鎮枝国分三亥の妹の拝謁をお受けになり、巻物のお貸

し下げをお許しになる。翌月十三日、両名はお礼に参邸する。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

天皇と共に拝謁の間において、横浜国立大学教授酒井恒よりアカテガニの産卵習性についての説明を

お聞きになり、ついで学習研究社製作の教育映画「カニの誕生」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十四日 火曜日 午前十時三分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時三十一分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午前、御文庫において、宮内庁病院を退院後初参殿の鷹司和子と御対面になり、

正午過ぎに還御の天皇と共に御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、供御日録

二十八日 土曜日 午後、御文庫において皇太子と御対面の後、御同車にて楽部にお出ましになる。

先着の正仁親王・貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子及び同子女二方、鷹司和子と御対面になり、ウィーン少年合唱団の合唱を御鑑賞になる。ブラームス作曲「子守歌」、オーストリア民謡「野ばら」、ヨハン・シュトラウス二世作曲円舞曲「美しく青きドナウ」等をお聴きになる。終わって、御休所において日本放送協会会長古垣鉄郎及び同夫人、オーストリア国特命全権公使フランツ・ライトナー及び同夫人、指揮者ゲルハルト・トラツク始め合唱団員の拝謁をお受けになり、御握手を賜う。終わって、呉竹寮にお立ち寄りになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、樂事録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

三十日 月曜日 午前、孝明天皇例祭につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 展覧会「現代の眼―アジアの美術史から―」を御覧になるため、午前九時五十分天皇と共に御出門、国立近代美術館に行啓される。御着後、アジアの絵画・彫刻・陶磁器・金属器・土器・染織などを御巡覧になり、十一時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。お席に着かれ、昭和女子大学教授木俣修ほか一同の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

元国務大臣緒方竹虎去る二十八日死去につき、天皇・皇后より侍従永積寅彦を渋谷区松濤町の緒方邸に差し遣わされ、祭筵料及び花を賜う。○侍従職日誌、賜与録、宮内庁庁報、官報

二月

一日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三十分御出門、正午同邸に御到着になる。この日より二十三日まで滞在される。なお、天皇は十六日まで滞在される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報

四日 土曜日 午後、天皇と共に、元内大臣木戸幸一・同夫人ツルの拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

七日 火曜日 午後、マリー・シモーヌ・ルヌー日仏会館館長ルイ・ルヌーイ夫人よりフランス語の進講をお聴きになる。

この年はルヌーの進講を、五月一日までお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

九日 木曜日 午前、エスター・ビドル・ローズより英語の進講をお聴きになる。この年も英語についてはローズより進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

十六日 木曜日 エスター・ビドル・ローズ及び侍従職御用掛高木多都雄をお召しになり、御昼餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、供

御日録

十七日 金曜日 午後、参邸の山階寿賀子元侯爵山階芳麿夫人の拝謁をお受けになり、しばし御談話になる。○女

官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

二十一日 火曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 午後二時二十九分葉山御用邸を御出門、四時三分皇居に還啓される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報

この日神戸殉死去につき、切り花を賜う。二十五日には霊前に菓子をお供えになる。なお去る一月三十一日には、病氣お尋ねとして果物を賜う。神戸は大正八年東京音楽学校教授在職中に良子女王のピアノの講師となり、昨年十一月五日まで奉仕した。また、成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王も指導した。○女官長日記、女官日誌、賜与録、贈賜録、東京朝日新聞、読売新聞

二十四日 金曜日 午前、表西の間において、この度エジプト国に赴任する特命全権大使土田豊の拝謁を、ついで米國駐劄特命全権大使谷正之夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のメキシコ国特命全権大使マヌエル・マプレス・アルセ及び同夫人、ベルギー国特命全権大使ギイ・ドウ・スクテート・ドウ・テルヴァレン、スウェーデン国特命全権公使カール・グスタフ・ラーゲフェルト及び同夫人、新任のブラジル国特命全権大使ロベルト・メンデス・ゴンサルヴェス及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、贈賜録、供御日録、宮内庁庁報

二十九日 水曜日 午前、御進講室において、日本赤十字社社長島津忠承の拝謁をお受けになり、同社有功章贈与規則についての説明をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、日本赤十字社社史稿

昭和三十一年三月

三月

二日 金曜日 貴子内親王の誕生日につき、午後、天皇と共に内廷庁舎において、同内親王と御対面になる。ついで天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 月曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。○女官長日誌、女官日誌

六日 火曜日 満五十三歳のお誕生日を迎えられる。

午前、表拝謁の間において、宮内庁長官始め各部署長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。

ついで表西の間において、皇太子始め皇族、元皇族・元王族、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長等及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、表拝謁の間において御縁故者、続いて元宮内庁長官及び元側近奉仕者の拝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の奉拝を、皇后御進講室において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の拝賀をお受けになる。

午後、花蔭亭にお出ましになり、お祝いに参じた元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授松島彝・元東京音楽学校教授安藤幸及び御学友・御同級生七名に茶菓を賜い、御歓談になる。その後、午前に拝賀した元女官等も参入し、松島のピアノ伴奏にて御歌「あけぼの」の合唱が何回も行われる。さらに、安藤のヴァイオリン演奏、松島のピアノ演奏をお聴きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、供御日録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

七日 水曜日 午後、侍従入江相政より、十一月二十八日より開催される宮内庁職員総合美術展に、御絵を出品いただくことの希望をお聞きになり、これをお許しになる。なお、同美術展に御絵「鷺草」

「岩タバコ」「泰山木」の三点が、初めて出品される。○女官日誌、入江相政日記、読売新聞

九日 金曜日 午前、天皇と共に謁見所において、米国ハースト系新聞連合主宰者ウィリアム・ランドルフ・ハースト・ジュニア及び同夫人を御引見になる。後日、同夫妻より皇后に携帯用ラジオセツトが献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報  
午後、表拝謁の間において、この度帰国の前米国駐劄特命全權大使井口貞夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

天皇と共に表拝謁の間において、竹田恒徳第七回オリンピック冬季競技大会日本選手団団長の拝謁をお受けになり、帰国の挨拶、及び

日本選手の活躍状況をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に御文庫において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、同妃より、この月末に高松宮邸内シルクギャラリーで展示会を行う旨の説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

十二日 月曜日 午前、天皇と共に謁見所において、国際航空輸送協会会長ジュアン・テリ・トリッ

パン・アメリカン航空会社社長及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時四分御出門、三時三十分同邸に御到着になる。この日より二十六日まで滞在される。なお、天皇は二十日まで滞在される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩

昭和三十一年三月

寺・水薬師寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○女官長日記、贈賜録

十七日 土曜日 この日、原宿社会事業会館において厚生省主催のビルマ方面戦没者追悼式執行につき、天皇・皇后より同省に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官雪井よし子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 去る二十日から翌二十一日にかけて発生した秋田県能代市における火災の損害に対し、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜う。○賜与録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 午後二時三十分葉山御用邸を御出門、四時皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十七日 火曜日 皇太子の学習院大学聴講終了につき、午前、天皇と共に表御座所において、参与小泉信三侍従職御用掛・東宮大夫野村行一より皇太子の近況及び学校課程終了後の勉学修養の方針等をお聞きになる。ついで天皇と共に皇太子を伴い表一の間において、学習院長安倍能成、学習院教授舞出長五

郎・同石上太郎・同磯部忠正、参与小泉信三・同松平信子等に御慰労の思召しをもって午餐の御陪食を賜う。また学校法人学習院に対し、天皇・皇后より金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、典式録、宣召録、賜与録、供御日録、宮内庁庁報、学習院大学五十年史

二十八日 水曜日 午前、内廷庁舎において、全国未亡人研修協議会に参加の都道府県未亡人代表者に御会釈を賜う。その際お言葉を賜う。全国未亡人団体協議会副会長守田厚子の挨拶をお受けになり、次のお言葉を賜う。

このごろの世の中では皆さんもいろいろ苦勞がおありのことと思ひますがお互にはげまし合つて  
明るい気持で毎日を働きお国の為<sub>に</sub>に尽していただきたくと思ひます

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

**三十日** 金曜日 財団法人シルクロード・ソサエティが主催する高松宮邸内シルクギャラリーを御覧  
になるため、午前十時十八分御出門、天皇と共に同邸に行啓される。御着後、光輪閣御休所において  
故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。ついでシルク  
ギャラリーに展示された絹織物等を御覧になる。終わつて高松宮御殿に移られ、皇族方との御昼餐御  
会食の後、午後二時十五分還啓される。その後、天皇と共に御文庫において、お礼言上のため参殿の  
宣仁親王妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、供御日録、宮内庁庁  
報、官報

#### 四月

**二日** 月曜日 午後、表二の間において、シュツツトガルト室内合奏団の演奏を御鑑賞になる。鷹司  
和子と共に御着席になり、ハイドン作曲交響曲第四十五番「告別」等をお聴きになる。終わつて指揮  
者カール・ミュンヒンガー及び同夫人に御会釈を賜う。なお、同楽団に御紋付花瓶を賜う。○女官長日  
記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、賜与録、供御日録

**三日** 火曜日 午前、神武天皇祭皇靈殿の儀につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。夕刻、  
皇靈殿御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恒例祭祀

録、典式録、宮内庁庁報

五日 木曜日 山口県において開催される昭和三十一年度植樹行事に御臨場、併せて産業施設等御視察のため、天皇と共に山口・岡山両県に行啓される。午前九時三十分御出門、東京駅より京都駅に向かわれる。午後五時三十分御泊所京都大宮御所に御到着になる。直ちに謁見所において京都府知事蜷川虎三ほかの拝謁をお受けになり、ついで久邇静子御叔母、故多嘉王妃の拝謁をお受けになる。続いて仙洞御所御庭において旧堂上華族、門跡及び御由緒寺院住職、神宮司その他に御会釈を賜う。終わって、再び謁見所において大谷光暢及び同夫人智子御妹と御対面になり、また御縁故者の拝謁をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、庁規例規朝儀諸綴、宮内庁庁報、官報

六日 金曜日 午前九時二十分天皇と共に御泊所京都大宮御所を御出門、京都駅より山口県に向かわれる。途中の岡山駅において、池田隆政・同夫人厚子を車中に招かれ御対面になる。山口県に入られ、三田尻駅を経て、午後六時御泊所毛利邸に御到着になる。天皇と共に拝謁の間において、毛利元道旧山口藩

主家及び同夫人誠子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、

官報

七日 土曜日 午前十時四十分天皇と共に御泊所毛利邸を御出発、矢筈ヶ岳の麓植樹行事並びに国土緑化大会会場にお着き

になり、お野立所前において、国土緑化推進委員会委員長益谷秀次衆議院議長・同会最高顧問河井弥八・山

口県知事小沢太郎の介添えをお受けになり、天皇に続いてアカマツ三本をお手植えになる。午後零時三十分御泊所毛利邸にお戻りになる。庭内の御播種会場において、天皇はマツの種を、皇后は林業功

労者長井徳次郎山口市宮野財産区議会議長の介添えをお受けになり、ヒノキの種をお播きになる。御昼食後、毛利邸を

天皇と共に御出発、柏木体温計株式会社三田尻工場、協和醗酵工業株式会社防府工場、日本専売公社防府製塩試験場、山口県農業試験場を御視察になる。四時五十四分御泊所山水園に御到着になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

八日 日曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所山水園を御出発、山口県庁を御訪問になる。その後、株式会社黒岩農具製作所、小野田セメント株式会社小野田工場、日産化学工業株式会社小野田工場を視察され、午後三時御泊所毛利邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

九日 月曜日 午前十時二十分天皇と共に御泊所毛利邸を御出発、東洋鋼板株式会社下松工場、株式会社日立製作所笠戸工場、八幡製鉄株式会社光製鉄所を視察され、山口県での日程を終えられる。午後一時四十五分光駅をお発ちになり、岡山駅を経て、六時五分御泊所鶴鳴館に御到着になる。御少憩の後、天皇と共に池田宣政隆政の父・池田隆政・同夫人厚子と御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東洋鋼板株式会社下松工場所蔵資料、行幸啓誌、鋼板ニュース、日立笠戸、笠戸工場史、ひかり、広報おかやま

十日 火曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所鶴鳴館を御出発、池田邸を御訪問になる。池田宣政並びに池田隆政・同夫人厚子の案内により、同邸敷地内の池田産業動物園を御覧になる。邸内において御昼餐を御会食、しばし御歓談になる。その後、児島湾締切堤塘、倉敷レイヨン株式会社岡山工場を御視察になる。午後三時五分御泊所鶴鳴館にお戻りになる。ついでお一方にて同十五分お発ちにな

昭和三十一年四月

り、大原美術館を御訪問になる。先着の池田厚子と共に、館長武内潔真の奏上をお受けになり、館長の説明にてポール・ゴーギャン、ポール・セザンヌ、アンリ・ド・トゥールーズ・ロートレック、クロード・モネなどの絵画を御巡覧になる。最後に、玄関脇におかれたオーギュスト・ロダン作の彫刻について御質問になり、五時三十七分御泊所にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、山陽新聞

十一日 水曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中は外出を控えられる。天皇と共に御泊所において池田厚子と御昼食を御会食になり、午後一時天皇と共に御泊所鶴鳴館を御出発、山陽町西山地区果樹園を御視察になり、ついで津高村・横井村組合立香和中学校において奉迎のため参集した高齢者等に御会釈を賜う。その後、温室葡萄園を御視察になる。四時五分御泊所鶴鳴館に還御される。御夕食は天皇と共に池田隆政・同夫人厚子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十二日 木曜日 午前八時四十五分天皇と共に御泊所鶴鳴館を御出発になる。池田隆政・同夫人厚子ほかの奉送の中、岡山駅を出発され、大阪駅・伊丹飛行場・東京国際空港を経て、午後二時二十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十四日 土曜日 午前、表拝謁の間において、毛利誠子の拝謁をお受けになり、先般の山口県行幸啓の節のお礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌  
午後、御進講室において、梨本伊都子・李方子と共に雛人形とその御道具類を御覧になる。御道具類

の一部は兩名旧蔵のものであり、終戦間もなき頃、皇后に献上された。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌  
十六日 月曜日 午前、天皇と共に表三の間において、松影会宮内省・宮内府・宮内庁  
元部局長以上の親睦会 会員の拝謁をお受けに  
なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十七日 火曜日 午前、天皇と共に御文庫において、京都大学カラコルム・ヒンズークシ學術探検  
隊長木原均京都大  
学教授・同副隊長今西錦司京都大  
学講師より中央アジアのカラコルム山系に関する記録映画の概略を

お聞きになり、引き続き同映画を御覧になる。上映後、一同と共に花蔭亭に移られ、木原・今西より  
調査に関する進講を座談会形式にてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、  
進講録

十八日 水曜日 日本赤十字社第五回通常代議員会に御臨席のため、午前十時十三分御出門、日本赤  
十字社本社に行啓される。便殿において、名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇  
仁親王妃百合子と御対面になり、衆議院議長益谷秀次以下の拝謁をお受けになる。それより名誉総裁  
として式場講堂に臨御され、社長島津忠承の開会の辞に続いて、有功章受章者総代六名、特別社員章受  
章者総代六名にそれぞれ各章を御親授になる。社長表彰に続き、次のお言葉を賜う。

第五回通常代議員会に臨み、日ごろ赤十字の事業に尽力している人々に親しく接することのでき  
ましたことは、まことにうれしく思います。

日本赤十字社は、これまで海外同胞の引揚げをはじめ、数多くの事業をとおして人道的任務の達  
成に力を尽してきましたが、今後ますますその基礎を強固にして、事業の進展に力を尽し、各国

昭和三十一年四月

の赤十字社とよく力を合わせて世界の平和と人類の福祉に貢献しなければならぬと考えます。社員並びに役職員は、赤十字の使命を果すために一層努力して国民の期待に副うよう望んで止まません。

島津社長の奉答をお受けになり、厚生大臣小林英三の挨拶の後、御退場になる。便殿において御少憩の後、総裁室にて赤十字国際委員会駐日代表ハリー・アングスト及び同夫人始め外国人十一名に御会釈を賜い、門内広場において記念撮影に臨まれる。終わって十一時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本赤十字社社史稿

この日、日本親善訪問団团长張道藩<sup>中華民國立法院長</sup>より天皇・皇后にミスズラン・コチョウランが献上される。

○女官長日記、女官日誌、外交贈答録

十九日 木曜日 午前、天皇と共に謁見所において、ドイツ連邦共和国アーヘン工業大学名誉教授カール・チーグラール及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 午前八時五十分天皇と共に御出門、恩賜上野動物園に行啓される。本園・分園を御巡覧の後、午後零時四十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、上野動物園百年史

二十一日 土曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社春季靈璽奉安祭に沖縄を含む各都道府県代表として参列の遺族等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

午後、御文庫に参殿の鷹司和子を同伴され、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。○  
女官長日記、女官日誌

二十三日 月曜日 なでしこ会主催「ウイーン・フィルハーモニー管弦楽団の慈善演奏会」に御臨席のため、午後一時五十二分御出門、東京宝塚劇場に行啓される。御着後、なでしこ会会員の奉迎をお受けになり、同会会長宣仁親王妃喜久子の先導にて場内のお席に進まれて、先着の皇太子・正仁親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・崇仁親王妃百合子以下のお出迎えをお受けになる。御着席後、シュベルト作曲「ロサムンデ」始め三曲の演奏を御鑑賞になる。終わって、休憩のため御休所に入られ、朝日新聞社主村山長挙及び同夫人、オーストリア国特命全権公使フランツ・ライトナー及び同夫人、楽団指揮者パウル・ヒンデミット及び同夫人等に御会釈を賜う。後半は、メンデルスゾーン作曲「真夏の夜の夢」始め五曲をお聴きになり、またアンコールのヨハン・シュトラウス二世作曲「南国のパラ」の演奏もお聴きになる。四時三十九分還啓される。五時過ぎ、天皇と共に御文庫において、宣仁親王妃よりお礼言上をお受けになる。この度の行啓に際し、なでしこ会に金一封を賜う。なお、なでしこ会は、宣仁親王妃が女子学習院時代の同級生に呼びかけて昭和二十八年に創設した癌撲滅のためのチャリティー活動団体で、同妃のお印である撫子から「なでしこ会」と名付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 花蔭亭にお出ましになり、近く帰国予定のマリー・シモーヌ・ルヌーと御昼餐を共にされる。ルヌーに押絵石田鶴子作元禄風俗女黒塗蒔絵、月に雲・御色紙文庫伊集院清子作・日本人形花嫁姿伊集院清子作を賜う。ルヌーのフランス語進講後、御文庫とお庭において、記念写真の撮影に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、供御

昭和三十一年四月

日録

二十五日 水曜日 午前、表西の間において、この度タイ国へ赴任する特命全権大使渋沢信一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

表拝謁の間において、新任の皇宮警察本部長原田章及び前任の皇宮警察本部長川合寿人の拝謁を、続いて新任の東宮侍医星川光正及び前任の東宮侍医佐分利六郎の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

天皇と共に表御座所において、侍従職参事東園基文より、正仁親王の前年度までの学業報告及び新年の修学についての方針等をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

去る二十三日福井県坂井郡芦原町において発生した火災により同町が甚大な被害を受けたため、天皇・皇后より福井県に対し御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に早春亭にお出ましになり、身体障害者福祉法施行六周年記念大会開催に当たり厚生大臣から表彰された身体障害者で自立更生し他の模範となる者、及び身体障害者の更生援護に功労のあつた者等に御会釈を賜う。厚生大臣小林英三の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

表拝謁の間において、新任のフランス国特命全権大使アルマン・ベラール及び同夫人、メキシコ国特命全権大使ハヴィエル・ロホ・ゴメス及び息女、オーストラリア国特命全権大使アラン・スチュワート・ワット及び同夫人を、それぞれ御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁

庁報

二十八日 土曜日 午前、謁見所において、カンボジア国特命全権大使ニイエク・トゥロンを御引見になる。同国王より御贈進のカンボジア大綬章及び勲記を御受納になり、しばし対談される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、御進講室において、御機嫌伺いに参内の斎藤春子故元内閣総理大臣元内大臣齋藤実夫人と同伴の静子実の嗣子の齊の夫人の拝謁をお受けになり、御談話になる。○女官長日記、女官日誌

ドン・コサク合唱団の合唱を御鑑賞のため、楽部にお出ましになる。お招きの東久邇盛厚及び同夫人成子とその子女、鷹司和子と御対面の後、合唱をお聴きになる。なお、同合唱団に御紋付銀花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、賜与録

二十九日 日曜日 天皇誕生日につき、午前、表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、皇太子始め皇族、元皇族・元王族、御縁故者の拝賀を、続いて元女官等の拝賀を順次お受けになる。

正午、御進講室において内宴を催され、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御会食になる。正仁親王・貴子内親王が同席する。後刻、皇太子も加わる。午後四時、天皇と共に表西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、外国交際官等が出席する。なお、天皇誕生日に当たり、皇后より天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、供御日録、宮内庁庁報、官報

三十日 月曜日 昭和三十一年度赤十字募金運動の実施に当たり、御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

昭和三十一年五月

五月

一日 火曜日 午後、内廷庁舎において、過日拝領した和服を着て参内のマリー・シモーヌ・ルヌーよりフランス語の最終進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二日 水曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任の中華民國特命全權大使董顕光及び同夫人、新任のフランス国特命全權大使アルマン・ベラール及び同夫人、メキシコ国特命全權大使ハヴェイル・ロホ・ゴメス、オーストラリア国特命全權大使アラン・スチュワート・ワット及び同夫人のため、午餐を催される。なお去る四月二十七日のメキシコ国大使御引見時、同大使より皇后にシヨール、天皇・皇后に鶏の銀製置物が献上されたため、午餐の際、同大使に謝意を表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、供御日録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に御進講室において、高松宮邸内シルクギャラリーに出品する織物の件で参内した宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌  
参議院議員宇垣一成去る四月三十日死去につき、天皇・皇后より侍従小畑忠を宇垣邸に差し遣わされ、祭送料及び花を賜う。○侍従職日誌、賜与録、宮内庁庁報

四日 金曜日 午前、花蔭亭脇において、山口県連合婦人会勤勞奉仕団の一員として上京した毛利誠子に御会釈を賜い、その際お言葉を賜う。○女官日誌

日赤資金募集特別試写会日本赤十字社主催に御臨場のため、午後一時五十二分天皇と共に御出門、東京宝塚劇場に行啓される。御着後、日本赤十字社社長島津忠承、映画製作者レオナルド・ボンツイの挨拶をお受

けになり、ついで記録映画「失われた大陸」イタリアフィルム配給 他を御覧になる。上映後、赤十字国際委員会極

東派遣員代表ウイリアム・ミツチエル並びにユーセンス・ウエックの挨拶をお受けになる。終わって四時五分還啓される。なお行幸啓に当たり、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

七日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。儀終了後、同所主任宮崎清始め奉仕者にお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に表拝謁の間において、この月十三日に帰国予定のマリー・シモーヌ・ルヌー及び配偶者の日仏会館館長ルイ・ルヌーを御引見になる。マリーは、昭和二十九年五月より去る日まで定期的フランス語の進講を務めた。この日、マリーに御署名入りお写真及び金一封を賜い、ルイにもお品を賜う。なお、マリーより自筆日本画扇面の内おひめ様横掛仮表装の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、賜与録、贈賜録

十一日 金曜日 午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮元宮内府御用掛の漢文の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、加藤虎之亮関係資料

十三日 日曜日 午前、お庭のバラをお切りになり、花瓶無色カッタグラスも添えられ、宮内庁御用掛河合りょう子を通じ、この日フランス国に帰国するマリー・シモーヌ・ルヌーの一家に贈られる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

母の日につき、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。お子様方より皇后

昭和三十一年五月

に二十九枚のレコードが贈られる。午後には内廷西玄関において、東京都主催「第八回母の日大会」

参会者に御会釈を賜う。代表者の挨拶とカーネーションの花束をお受けになり、お言葉を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、典式録、宣召録、供御日録、宮内庁庁報、読売新聞

東宮仮御所に行啓のため、午後四時二十二分天皇と共に御出門になる。御到着後、東宮御座所において御歓談の後、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と共に、昨日皇太子が購入したテレビジョンを御覧になりつつ御夕食を御会食になる。御食後、レコード音楽を鑑賞され、御歓談になる。八時四

十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、供御日録、宮内

庁庁報

**十五日** 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、掃立て後の蚕の状態を御覧になる。○女官

日誌、内舎人日誌

**十六日** 水曜日 夕刻、昨年十月増築改装した義宮御殿に天皇と共にお出ましになり、皇太子・正仁親王・貴子内親王及びこの日上京の池田厚子を交えて御夕食を御会食になる。御食後、正仁親王の旅  
行等のスライドを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、供御日録、東宮侍

従日誌、宮内庁庁報

**十七日** 木曜日 午前、貞明皇后五年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報

貞明皇后五年式年祭につき、花蔭亭に貞明皇后の写真をお手ずからお持ちにてお出ましになり、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子、北白

川房子、東久邇聡子・東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司平通・同夫人和子、池田厚子と共に御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、供御日録

十八日 金曜日 午前九時一分天皇と共に御出門、多摩陵<sup>大正天皇</sup>並びに多摩東陵<sup>真明皇</sup>に行啓される。御到着後、天皇に続き両陵を御拝礼になる。終わって午後零時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、幸啓録、宮内庁庁報

御進講室において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十日 日曜日 午前、御文庫前庭で御栽培のバラの切り花を日本バラ会に下賜される。なお、切り花は銀座松坂屋で開催中の同会主催「バラ展」に出品される。○女官長日記、女官日誌、毎日新聞

午後、天皇と共に済寧館にお出ましになり、皇宮警察創立七十周年記念武道大会を御覧になる。まず柔道・剣道の試合を、ついで弓道会場において射礼並びに競射を御覧になる。それより皇宮警察学校の展覧会場に移られ、扁額「済寧館」<sup>有栖川宮熾仁親王筆</sup>及び皇宮警察本部職員・学生による書画・彫刻・服装装備等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、済寧

二十二日 火曜日 午前、内廷庁舎において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、先頃風気の折にお尋ねを賜わったことへのお礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

菊栄親睦会発足十年に当たり、皇太子始め皇族・元皇族等二十八方を招待され、正午より天皇と共に表一の間において午餐の御陪食を賜う。続いて表三の間において茶菓を供される。会員退出の折、お手ずから切られた御文庫お庭のバラを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、

昭和三十一年五月

典式録、菊栄親睦会録、供御日録、東宮侍従日誌、宮内庁序報

二十五日 金曜日 午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。『孟子』について学ばれる。進講後、加藤の進講三十年の記念として、同人にお品を賜う。○

女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、加藤虎之亮関係資料

二十六日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の生育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 月曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後一時三分御出門、椿山荘に行啓される。御到着後、御休所において、先着の皇族・元皇族と御対面になる。ついで式場に臨まれ、会長松平信子のお礼言上をお受けになり、お言葉を賜う。松平会長の挨拶に続き、余興を御覧になる。まず謡曲独調「放下僧」、仕舞「玉の段」「花筐狂の段」、木琴独奏「ハレルヤ」「ルニエツト」「カルメン」抜を御鑑賞に

なり、「花すみれ」合唱の後、同所御発、御休所において御少憩になる。その後、前庭にお出ましになり、余興の続きとして、藤間節子による日本舞踊「祝唄」「松島音頭」「田植唄」ほかを御覧になる。

終わって庭内を御散策になり、御同級生その他と御談笑になる。御帰路、茶室にお立ち寄りになり、会員の献茶をお受けになった後、椿山荘御発、四時十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

この日、タイサンボク及びバラの御絵を侍従入江相政に託され、御使として日本画家川合玉堂の許に遣わされる。翌日、入江の復命をお受けになる。以後、数回にわたり入江を川合の許に遣わされ、御絵の講評をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、来る六月七日の聖武天皇千二百年式年祭に先立ち、正倉院事務所長和田軍一より聖武天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。その際、正倉院宝物のスライドを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

三十日 水曜日 社会福祉法人恩賜財団済生会の創立四十五周年記念式典に御臨席、併せて同会施設御視察のため、午前九時五十二分御出門、港区の済生会に行啓される。御着後、御休所において、同会総裁宣仁親王と御対面になり、済生会会長赤木朝治、同理事長武井群嗣、東京都済生会会長安井誠一郎、済生会中央病院院長小山武夫の拝謁をお受けになる。ついで式場に臨御され、赤木会長の式辞に続いて、次のお言葉を賜う。

済生会創立四十五周年記念式典に臨み、日ごろ済生会の事業に尽力している皆さんに、親しく接することのできましたことをうれしく思います。

最近、医療に関する保険や保護の制度も次第に整い、施設もようやく備わったように見えますが、まだ世の中には治療も十分にうけられない人や、よるべのない病人も少くありません。これらのふしあわせな人々の上に思いをよせると、まことに胸がせまる思いがします。

済生会は社会の情勢にに応じて、先に事業の内容と運営を更新し、次第に実績をあげていますが、更に一層協力して、これらの気の毒な人々のために、心からの同情と誠意をもつて、あたたかい手をさしのべ、ますます創立の精神を発揮することを望みます。

会長の奉答をお受けになり、厚生大臣の祝辞<sup>厚生事務次官木村忠二郎代読</sup>の後、式場御発、中央病院附属乳児院に向かわれる。御到着後、三階保育室より二階、一階と御巡覧になり、調理室を経て民生病院を小山院長の

昭和三十一年六月

説明にて御覧になる。終わって、十一時十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

ニュージールランド国首相シドニー・ジョージ・ホランドが国賓として夫人を伴いこの日来日につき、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を東京国際空港に差し遣わされる。○侍従日誌、典式録、外賓接待録、宮内庁庁報

三十一日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、同所主任宮崎清より蚕の發育状況をお聞きになり、御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌

去る四月のモノコ国大公レーニエ三世とグレース・ケリーの結婚につき、天皇・皇后から祝意を同大公に伝えるよう御下命があり、この日、宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。○上奏モノ控簿、外交慶弔録

## 六月

一日 金曜日 天皇と共に表北の間において、国賓のニュージールランド国首相シドニー・ジョージ・ホランド及び同夫人のため、宮中午餐を催される。後刻、同首相夫妻参内の御答礼のため、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を白金迎賓館に差し遣わされる。また、六日には同首相夫妻帰国につき、天皇・皇后の御使として松平式部官長を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、供御日録、宮内庁庁報、外交記録

御進講室において、侍従入江相政より『源氏物語』の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎

人日誌

二日 土曜日 あげぼの会御同級生招待にかかるクラス会に御臨席のため、午後一時三十二分御出門、港区の国際文化会

館に行啓される。御到着後、玄関脇において、幹事ほか六名のお出迎えをお受けになる。御休所に入られ、伏見朝子始め幹事のみ挨拶をお受けになる。その後、階下広間の会場にお出ましになり、参集の一同と共に記念撮影をお受けになる。引き続き会場において、高野耀子によるシューマン作曲「謝肉祭」、シヨパン作曲「夜想曲」のピアノ演奏をお聴きになる。しばし一同と御歓談になり、元女子学習院教授松島彝のピアノ演奏にて、一同による御歌「あげぼの」の合唱をお聴きになる。四時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

四日 月曜日 午後、内廷庁舎において画家山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

五日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

七日 木曜日 午前、聖武天皇千二百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

八日 金曜日 結核予防会全国大会に御臨席のため、午前九時四十八分御出門、東京会館に行啓される。御到着後、総裁故雍仁親王妃勢津子・大会委員長安井誠一郎・結核予防会会長島津忠承・結核予防会副会長石坂泰三・同勝俣稔・結核予防会専務理事隈部英雄のお出迎えをお受けになる。島津会長の先導にて三階へ上がられ、御休所までの廊下において、本部役員・東京都支部役員・県支部長等の奉迎をお受けになる。御休所において、総裁故雍仁親王妃と御対面になり、ついで安井大会委員長・

昭和三十一年六月

島津会長・石坂副会長・勝俣副会長・隈部専務理事の拝謁をお受けになる。終わって四階の式場に臨御される。大会委員長挨拶、会長挨拶に続き、次のお言葉を賜う。

結核予防会全国大会に臨み、日ごろ結核予防事業に尽している皆さんに、親しく接することのできましたことをうれしく思います。

近年結核の予防と治療は著しく進みましたが、なおこの病は国民生活の上に大きな脅威となつています。

結核予防会の人々は申すに及ばず、関係者のたゆまぬ努力によつて、いよいよその成果をあげるよう切に望みます。

終わって会長の奉答をお受けになる。ついで総裁による功労者への表彰状授与、会長による事業についての代表者への感謝状贈呈、寄付についての代表者への感謝状贈呈の後、式場を御退場になり、十時三十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時三十分御出門、四時同邸に御到着になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報、官報

九日 土曜日 午前、天皇と共に笠島にお出ましになり、海洋生物を御採集になる。立石御茶屋において御昼食後、御帰邸になる。これ以降、御用邸御滞在中は、しばしば海岸などにお出ましになり、海洋生物等を御採集になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、供御日録

十三日 水曜日 午前、聖園テレジアの拝謁をお受けになる。終わって随行者二名の拝謁をお受けに

なる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

十八日 月曜日 午後二時三十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時五十九分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 午後、表拝謁の間において、新任のベトナム共和国特命全権大使ブイ・ヴァン・ティン及び同夫人、中華民国特命全権大使沈觀鼎及び同夫人、アフガニスタン国特命全権大使アブドル・マシットを順次御引見になる。引き続き、天皇と共に奥二の間において、ベトナム共和国大使夫妻、中華民国大使夫妻、アフガニスタン国大使、この度離任のイラン国特命全権大使モウッサ・ヌーリー・エスファンディアリー、イタリア国特命全権大使マルチェロ・デル・ドラゴ・デイ・アントウーニのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、贈賜録、供御日録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、この度離任のニュージーランド国代理公使ルーベン・ライオネル・グローヴァー・チャリスを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、御進講室において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、加藤虎之亮関係資料

二十三日 土曜日 第七回錦江会島津家関係者の親睦会に御出席のため、午後一時四十六分御出門、光輪閣に行啓される。車寄において代表の島津忠重及び幹事黒田長礼のお出迎えをお受けになり、黒田幹事の先導にて御休所に御着になる。久邇御俣子母、同朝融御兄と御対面になり、御一緒に広間大食において会員の拝謁

昭和三十一年六月

をお受けになる。ついで島津代表の挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。引き続き新食堂に移られ、会員一同とお茶を召された後、広間にて記念写真の撮影をお受けになり、会員と共にシルクギャラリを御覧になる。また、会員有志が持参したバラの献上をお受けになり、倪子・朝融と写真撮影に応じられる。終わって一同の見送りをお受けになり同所を御発、四時一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、供御日録、宮内庁庁報、しらゆき

二十五日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、来る八月十六日よりセイロン国建国二千年五百年記念祭典に参列のため同国を訪問する崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。引き続き首席随員奥村勝蔵前外務事務次官、随員黒田実・天羽美代の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 水曜日 午前、天皇と共に奥三の間において、来る七月二十七日の鳥羽天皇八百年式年祭に先立ち、東京大学教授宝月圭吾より鳥羽天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 午前、表拝謁の間において、故九条恵子去る五月八日死去、貞明皇后の義姉の忌明けのお札に参内の九

条道秀及び同夫人成子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

午後、謁見室において、侍従入江相政より『源氏物語』の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、

内舍人日誌

七月

二日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。午後、同所主任宮崎清始め奉仕者の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭通用門にお出ましになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、紅葉山御養蚕所八十年記念誌

四日 水曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、インド国保健大臣アムリット・カウルを御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、典式録、謁見録、宮内庁庁報

この日、港区麻布のオーストリア国公使館において、同国特命全権公使フランツ・ライトナーより、ウイーン・フィルハーモニーから献上の THE GREAT ORCHESTRA 『大管弦楽団』ウイーン・フィルハーモニー史 一部が、式部官長

松平康昌に伝達される。○外交贈答録

九日 月曜日 葉山御用邸に行啓のため、午後二時三十四分天皇と共に御出門、四時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、内舎人供奉日記、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報

十一日 水曜日 午後、天皇と共に名島にお出ましになり、海洋生物を採集される。これ以降御用邸御滞在中、折に触れ、海洋生物の御採集、植物等の御写生にて過ごされる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人供奉日記、葉山行幸啓書類綴

二十日 金曜日 午前、山口玉糸より指導をお受けになり、長者ヶ崎方面の景色を写生される。午後も御写生を続けられる。○女官長日記、女官日記、葉山行幸啓書類綴

二十六日 木曜日 午後三時一分天皇と共に葉山御用邸を御出門、四時二十九分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、内舎人供奉日記、葉山行幸啓書類綴、幸啓録、宮内庁庁報

昭和三十一年七月

二十七日 金曜日 午前、鳥羽天皇八百年式年祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

天皇と共に奥三の間において、この度離任のアルゼンチン国特命全権大使カルロス・A・キロス及び同夫人、新任のコロンビア国特命全権公使エドワルド・ロドリゲス・カスチリヨのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、贈賜録、供御日録、宮内庁

庁報

二十八日 土曜日 天皇と共に御文庫において、来る八月十六日セイロン国へ出発の崇仁親王・同妃百合子をお招きになり、送別の御晚餐を催される。ほかに皇太子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・正仁親王・貴子内親王が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、供

御日録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報、儀礼軌範

三十日 月曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。午後、天皇と共に御文庫において、明治天皇例祭に参列した北白川房子・東久邇聡子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 那須御用邸に行啓のため、午前九時二十三分天皇と共に御出門、原宿駅より皇太子を伴われ、黒磯駅を経て、午後一時御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、内舎人供奉日誌、東宮侍従日誌、那須行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

八月

一日 水曜日 午前、天皇と共に池田湿地にお出ましになり、種々の植物、特にサギソウを御覧になる。これ以降、御用邸御滞在中、折に触れて御用邸敷地内及び周辺を散策される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録

六日 月曜日 この日、新待賢門院<sup>孝明天皇の生母藤原雅子</sup>墓所百年式年祭につき、午前中は邸内においてお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁序報

十一日 土曜日 午後、フィリピン国へ赴任の特命全権大使朝海浩一郎及び同夫人、ニュージールランド国へ赴任の特命全権公使島津久大及び同夫人、イラク国へ赴任の特命全権公使石黒四郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、儀式録、拝謁録、典式録、宮内庁序報

十二日 日曜日 天皇と共に、来る十六日セイロン国訪問に出発につき暇乞いのため参邸した崇仁親王・同妃百合子と、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、供御日誌

十三日 月曜日 午前、参邸の山口玉糸の拝謁をお受けになる。ついで同人を伴われ、御写生のため千篠園、紅葉谷方面にお出ましになる。午後は御用邸において、引き続き同人の指導にて御写生を続けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、贈賜録、栃木県庁所蔵資料

十六日 木曜日 午前十時十五分天皇と共に御出門になり、那須郡那須町の那須極超短波無線中継所を御視察になる。正午御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、

昭和三十一年八月

栃木県庁所蔵資料

この日崇仁親王・同妃百合子セイロン国訪問に出発につき、天皇・皇后の御使として侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十一日 火曜日 去る十八日秋田県大館市において火災により甚大な被害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 台風九号による突風・高潮等のため甚大な被害を受けた長崎県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

この日、千代田区公会堂において西部ニューギニア及びボルネオ方面戦没者追悼式厚生省・海外戦没者慰霊委員会・日本宗教連盟・日本遺族会が執行されるに当たり、天皇・皇后より生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、読売新聞

二十五日 土曜日 この日、終戦後侍従職において保管されていた皇后御下賜の繻帯の残部を、日本赤十字社・済生会病院・宮内庁病院・侍従職医務係に下賜される。○女官長日記、贈賜録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 昨二十九日渋谷区の日本赤十字社中央病院に入院した久邇侘子に、この日、果物を御贈進になる。また、お見舞いのため、女官長保科武子を同病院に遣わされる。○女官長日記、久邇侘子薨去関係書類

三十一日 金曜日 久邇侘子にスープ・シャーベットを御贈進になる。これ以降、九月九日まで毎日、侘子にスープ・シャーベットを御贈進になり、九月一日より隔日にてパンをお届けになる。また、同三日より適宜、切り花を侘子の許にお届けになる。○女官長日記、久邇侘子薨去関係書類

この日、セイロン国より崇仁親王妃百合子帰国につき、天皇・皇后の御使として女官長保科武子を東

京国際空港に差し遣わされる。なお、崇仁親王は、引き続きイラン国・イラク国を訪問する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、那須行幸啓録、宮内庁庁報

## 九月

九日 日曜日 夜、日本赤十字社中央病院に入院中の久邇倪子危篤の連絡をお受けになり、同病院への行啓を御準備中のところ、午後九時四十五分、死去した旨の報をお聞きになる。そのため急遽お一方にて、十一時十分那須御用邸を御出門、翌十日午前四時三十五分同病院に御到着になる。直ちに倪子の遺骸と御対面になる。

倪子は、明治十二年に公爵島津忠義の第七女子として誕生、同三十二年に邦彦王と結婚し、朝融王・邦久王・良子女王・信子女王・智子女王・邦英王の三男三女を儲ける。昭和九年、恩賜財団愛育会が創立されるとその総裁に推戴される。戦後、同二十二年に皇室典範第十四条第一項の規定により皇族の身分を離れる。この日午後、皇太子・正仁親王・貴子内親王の見舞いを受けた後、夕刻より容体が急変し死去した。享年七十六。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、久邇倪子葬儀録、久邇倪子薨去関係書類、皇親録、墓誌銘録、宮内庁庁報、官報

久邇倪子死去に伴う皇后の御服喪の期間は、この日より九十日第一期二十日、第二期三十日、第三期四十日とされ、また、皇太子・

正仁親王・貴子内親王の服喪の期間は、この日より三十日とされる。○皇親録、慶弔録、久邇倪子葬儀録、宮内庁庁報

十日 月曜日 午前五時三十分日本赤十字社中央病院より御文庫に還御され、先着の正仁親王・貴子

内親王と御対面になる。また、女官長保科武子始め女官一同より御機嫌伺いをお受けになる。天皇は、午後零時五十六分那須御用邸を御出門、四時三十四分皇居に還幸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、久邇侘子薨去関係書類、供御日録、宮内庁庁報

久邇侘子死去につき、久邇邸の霊前に果物・野菜をお供えになる。また、天皇・皇后より盛花をお供えになる。○女官長日記、侍従職日誌、皇親録、久邇侘子薨去関係書類

十一日 火曜日 午前、御文庫において、久邇侘子の葬儀等について侍従次長稲田周一より説明を聞きになる。正午頃、御文庫において、池田厚子と御対面になり、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、供御日録、稲田周一関係資料

午後七時三十分御出門、久邇邸に行啓される。翌日午前零時五分からの御舟入の儀に先立ち、皇太子・正仁親王・貴子内親王と共に故久邇侘子と御永訣になる。九時還啓される。御舟入の儀には皇太子・正仁親王・貴子内親王が参列する。なお、御舟入の儀に際し、女官長保科武子を遣わされ、また天皇・皇后より霊前に盛菓子・切り花を供えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、久邇侘子薨去関係書類、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午後一時より久邇邸において移霊祭が行われ、故久邇侘子の霊前に切り花をお供えになる。また、天皇より野菜を、天皇・皇后より盛菓子をお供えになる。ついで侘子の柩が久邇邸より千代田区三番町の宮内庁分室に移される。三時二十四分天皇と共に御出門になり、宮内庁分室に行啓される。御着後、久邇邦昭<sup>御甥</sup>・東伏見慈治<sup>御弟</sup>・大谷智子<sup>御妹</sup>・龍田正子<sup>御姪</sup>と御対面になる。ついで天皇に続き柩前にて御拝礼になる。終わって同四十七分還啓される。なお、賜物使として侍従山田康彦を

宮内庁分室に差し遣わされ、天皇より白羽二重・神饌・櫛を、皇后より白羽二重・櫛を賜う。また、天皇・皇后より祭資を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、幸啓録、久邇倪子葬儀録、久邇倪子薨去関係書類、宮内庁庁報

去る十日富山県魚津市において火災<sup>魚津大火</sup>により甚大な被害発生につき、この日、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜う。また、長崎県において台風十二号により損害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十三日 木曜日 午前、御文庫において、大谷智子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌  
午後四時五十五分天皇と共に御出門、千代田区三番町の宮内庁分室に行啓される。故久邇倪子の柩前にて天皇に続き御拝礼の後、約二十分間御着床になり、祇候される。終わって五時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、久邇倪子葬儀録、久邇倪子薨去関係書類、皇親録、宮内庁庁報

久邇倪子死去につき、昨十二日カンボジア国王ノロドム・スラマリット及び同王妃コッサマン・ヌアリラより寄せられた弔電に対し、この日、天皇・皇后より答電を寄せられる。このほか十月中旬にかけて各国の外国交際官等より寄せられた弔意に対し、宮内庁長官あるいは式部官長名にて、皇后又は天皇・皇后の謝意が伝達される。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十四日 金曜日 故久邇倪子本葬の儀につき、午前九時三十二分御出門、千代田区三番町の宮内庁分室に行啓される。御着後、勅使三谷隆信<sup>侍従長</sup>に続き、御拝礼になる。皇太子・正仁親王・貴子内親王のほか、久邇家の親族等がそれに続く。なお、本葬の儀に際し、霊前に菓子をお供えになる。同五十五

昭和三十一年九月

分還啓され、その後は終日、静かにお過ごしになる。午後五時から豊島岡墓地の久邇家墓所において行われる墓所祭には、女官長保科武子を差し遣わされる。なお後日、侘子墓所建設につき、灯籠一對を寄進される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、幸啓録、慶弔録、久邇侘子葬儀録、久邇侘子薨去関係書類、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

病気の久邇朝融に、この日、鉢物・スープ・缶詰を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

十五日 土曜日 故久邇侘子墓所に御拝礼のため、午前九時四十九分天皇と共に御出門、豊島岡墓地に行啓される。御到着後、葬儀委員長山梨勝之進の先導により久邇家墓前のお席に着かれる。ついで御拝座に進まれ、司祭長坊城俊良の奉仕により、天皇に続き御拝礼になる。なお、天皇・皇后より墓所に野菜をお供えになる。終わって喪主久邇邦昭より挨拶をお受けになる。十時二十七分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、久邇侘子葬儀録、久邇侘子薨去関係書類、皇親録、幸啓録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 午後、侍従次長稲田周一の拝謁をお受けになり、午前に宮内庁長官室で皇后の御予定につき協議した結果をお聞きになり、御服喪中ではあるが除喪して国民体育大会に行啓されることについて御同意になる。○女官日誌、稲田周一関係資料

先般外務省を通じて天皇・皇后に献上された米国人アン・フィッシャーの自著『失われた鳩』が披露された旨が、この日、式部副長より外務省に通知される。○外交贈答録

十八日 火曜日 故久邇侘子十日祭が行われ、久邇邸の霊前に果物を、豊島岡墓地の墓所に菓子をお供えになる。○女官長日記、久邇侘子薨去関係書類

二十日 木曜日 カンボジア国王族シソワット・モニポン同国王  
妃の弟 去る八月三十一日薨去につき、天皇・

皇后より同国王・王妃に弔電を発せられる。これに対し、九月二十六日に答電が寄せられる。○外交

慶弔録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

二十三日 日曜日 この日、秋季皇霊祭及び同神殿祭が行われる。御服喪中につき、御拝礼・御代拝は共になしとされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、恒例祭祀録

二十五日 火曜日 この日、安康天皇千五百年式年祭が行われる。御服喪中につき、御拝礼・御代拝は共になしとされる。○女官長日記、女官日誌、臨時祭祀録

二十九日 土曜日 この日、第一期御喪明けとなる。○女官長日記、女官日誌、久邇侘子薨去関係書類

天皇と共に御文庫において、崇仁親王妃百合子のセイロン国訪問の慰労のため、御夕餐を御会食になる。御食後、同妃撮影の映画及び写真帳等を御覧になりつつ、同妃より旅行談をお聞きになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、供御日録

来る十月一日より昭和三十一年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 日曜日 正午前、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になる。ついで皇太子・正仁親王も交え、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、贈賜録、供御日録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

十月

三日 水曜日 天皇と共に表北の間において、国賓として来日のインド国副大統領サルヴェ・パリ・ラダクリシュナンのため、宮中午餐を催される。御食後、副大統領より皇后に献上された銀製宝石管・錦織卓被が披露される。ついで副大統領より暇乞いの挨拶をお受けになり、天皇と共に同間出口までお見送りになる。なお、この宮中午餐以降、御喪明けまで、外国賓客との御会食、国民体育大会への行啓等の場合には、その都度除喪される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、皇親録、贈賜録、外賓参内録、外賓接待録、外交贈答録、供御日録、宮内庁庁報

六日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

八日 月曜日 故久邇侘子三十日祭につき、午前十時十分御出門、久邇邸に行啓される。霊殿において御拝礼になり、久邇朝融始めと御対面になる。十一時十分還啓され、直ちにお清めになる。同祭につき、天皇・皇后より霊殿へ盛菓子、墓所に榊をお供えになる。また皇后より霊殿にちらし鮎が供えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、久邇侘子墓去関係書類、皇親録、宮内庁庁報

九日 火曜日 故久邇侘子の初月命日につき、霊前に菓子・切り花をお供えになる。○女官長日記、久邇侘子墓去関係書類

十日 水曜日 去る六月中旬より八月下旬まで続いた低温寡照の気候により各種農作物に多大な被害が出た北海道に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十一日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、マラヤ連邦・ペルリス州藩主サイド・ブート

ラ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、皇親録、宮内庁庁報

来る十一月二十二日よりオーストラリア国メルボルン市で開催される第十六回オリンピック競技大会に日本代表選手団が参加するに当たり、天皇・皇后より財団法人日本体育協会へ御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、読売新聞

十二日 金曜日 ネパール国首相タンカ・プラサド・アチャリヤ及び同夫人が国賓として来日につき、天皇・皇后の御使として式部官後藤鑑尾を東京国際空港に差し遣わされる。○外賓接待録、典式録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 午前、表拝謁の間において、新任のポルトガル国特命全権公使エミリオ・パトリシオ、ニュージーランド国特命全権公使ジョン・スタンホープ・リード及び同夫人、スウェーデン国特命全権公使ターゲ・ホルム・フレデリク・グリョーンヴァル及び同夫人、フィリピン国特命全権大使フェリノ・ネリ及び同夫人、ベルギー国特命全権大使レイモン・エルマンスを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、皇親録、宮内庁庁報

この日崇仁親王セイロン国・イラン国・イラク国訪問から帰国につき、天皇・皇后の御使として侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、宮内庁庁報

この年一月一日、新潟県西蒲原郡弥彦村の弥彦神社境内において、新年の餅撒きに殺到した初詣客と臨時列車にて帰ろうとする者とで混雑し石の玉垣が崩れ、百八十二名に及ぶ死傷者を出す。来る二十一日、弥彦神社・弥彦村・日本赤十字社新潟県支部・新潟日報社の共催により同社境内において合同

慰霊祭を執行につき、この日、天皇・皇后より弥彦神社にお花料を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、読売新聞

十六日 火曜日 天皇と共に表北の間において、国賓として来日のネパール国首相タンカ・プラサド・アチャリヤ及び同夫人のため、宮中午餐を催される。後刻、同首相夫妻参内の御答礼のため、天皇・皇后の御使として式部官長松平康昌を白金迎賓館に差し遣わされる。またこの日、同夫妻の帰国に際し、天皇・皇后の御使として式部官後藤鑑尾を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、外交贈答録、贈賜録、供御日録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に御文庫において、昨十五日セイロン国・イラン国・イラク国訪問より帰国した崇仁親王と御対面になる。なお、これに先立ち、表拝謁の間において、随員の式部官黒田実の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

十七日 水曜日 この日、神嘗祭につき、神宮御遙拝及び賢所の儀が行われる。御服喪中につき、御拝礼・御代拝は共になしとされる。○女官長日記、女官日誌、恒例祭祀録

十八日 木曜日 午後、天皇と共に早春亭にお出ましになり、靖国神社秋季霊璽奉安祭に参列の沖繩を含む各都道府県代表遺族等に御会釈を賜う。その際、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 天皇と共に、去る十五日セイロン国・イラン国・イラク国訪問より帰国した崇仁親王、及び同妃百合子、皇太子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、東久邇成子、鷹司和子と御夕餐を御会食になる。御食後、貴子内親王も加わり、セイロン国の映画及びスライドを御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、供御日録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 日本バラ会にバラの切り花を賜う。○女官長日記

二十四日 水曜日 午前、表拝謁の間において、初代ラオス国特命全権大使ティアオ・カマオを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、皇親録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のインド国特命全権大使B・R・セン及び同夫人・息女、新任のフィリピン国特命全権大使フェリノ・ネリ及び同夫人、ニュージーランド国特命全権公使ジョン・スタンホープ・リード及び同夫人、スウェーデン国特命全権公使ターゲ・ホルム・フレデリク・グリーションヴァル及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、皇親録、供御日録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午前、天皇と共に賢所通用門脇において、全国私立学校審議会第十回総会に参会の各都道府県代表委員等に御会釈を賜い、会長児玉九十の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

翌二十七日より兵庫・大阪両府県行啓につき、二十八日の故久邇侏子五十日祭に先立ち、午後一時三十分御出門、豊島岡墓地の久邇家墓所に行啓される。御到着後、久邇朝融及び同息女の英子・典子、東伏見慈洽及び同夫人保子と御対面になる。ついで故久邇侏子の墓前において拝礼され、果物をお供えになる。二時十四分還啓され、直ちにお清めになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、久邇侏子薨去関係書類、宮内庁庁報

二十七日 土曜日 兵庫県で開催される第十一回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて兵庫・大阪両府県内の産業及び社会福祉の諸施設等を御視察のため、天皇と共に両府県に行啓される。午前九時

昭和三十一年十月

御出門、東京駅より神戸駅を経て、午後五時五十五分御泊所オリエンタルホテルに御到着になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十八日 日曜日 午前十時四十分天皇と共に御泊所オリエンタルホテルを御出発、神戸市王子陸上競技場において第十回国民体育大会秋季大会開会式を御覧になる。午後、社会福祉法人神戸婦人情会を御視察になり、王子弓道場において国体弓道競技を御覧になる。次に神戸市立水上児童寮、川崎重工業株式会社を御視察になる。終わって四時十分御泊所オリエンタルホテルにお戻りになる。その後、押絵作家石田はるの拝謁をお一方にてお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

この日故久邇侁子五十日祭につき、久邇邸における権舎祭並びに豊島岡墓地における墓所祭に、皇后宮使として侍従徳川義寛を差し遣わされ、天皇・皇后より霊殿に盛菓子・榊を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、久邇侁子薨去関係書類、皇親録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 午前九時四十分天皇と共に御泊所オリエンタルホテルを御出発、日本毛織株式会社グラウンドにおいて国体ハンドボール競技を御覧の後、同社加古川工場を御視察になる。午後は宗教学法人西秀寺保育園を御訪問になり、ついで姫路市の市立姫路高等学校グラウンドにおいて国体ソフトボール競技を御覧になり、富士製鉄株式会社広畑製鉄所を御視察になる。五時西宮市の御泊所播半に御到着になる。御夕食後、天皇と共に池田厚子岡山市よ  
り参上と御対面になり、この日と翌日の二泊を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

三十日 火曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所播半を御出発になる。芦屋市宮庭球場において国

体庭球競技を、甲子園野球場において国体高等学校野球競技を、武庫川学院体育館において国体体操競技を順次御覧の後、三菱電機株式会社を御視察になる。午後は尼崎市宮相撲場において国体相撲競技を御覧になり、尼崎防潮堤を御視察の後、三時四十分御泊所播半にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

三十一日 水曜日 御泊所播半において、天皇と共に池田厚子と御対面の後、午前十時十分天皇と共に御泊所を御出発、自動車にて大阪府にお入りになり、大阪府立工業奨励館を御視察になる。ついで大阪府庁を御訪問になり、御展望のため屋上に行かれるが、驟雨が強く直ちに入御される。午後、大阪城・社会福祉法人無憂園・住友金属工業株式会社製鋼所を御視察になり、大阪ガス株式会社北港貯炭場岸壁よりお召し船に乗船され、船上より防潮堤及び大阪港を御視察になる。四時五十分御泊所国際見本市会館ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

## 十一月

一日 木曜日 午前九時、天皇と共に御泊所国際見本市会館ホテルを御出発になり、吹田市所在の大阪市立弘済院、高槻市の松下電子工業株式会社高槻工場を御視察になる。ついで大阪市の鐘淵紡績株式会社淀川工場において御昼食の後、同工場を視察される。その後、社会福祉法人大阪整肢学院、住江織物株式会社住吉工場を御視察になり、午後五時五分御泊所国際見本市会館ホテルにお戻りになる。

○女官長日記、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、大阪市役所所蔵資料、大阪市立弘済院附属病院所蔵資料、

昭和三十一年十一月

鐘淵紡績株式会社所蔵資料、大阪府行幸啓記念誌、弘濟院六十年の歩み、私たちの喜び、住江織物六十年史、松下電子時報

二日 金曜日 午前八時五十五分天皇と共に御泊所国際見本市会館ホテルを御出発になり、大阪駅御発、原宿駅を経て、午後五時五十五分皇居に還啓される。○女官長日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日誌、内

舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、大阪府行幸啓記念誌

三日 土曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、全日本健康優良児童学校表彰会朝日新聞社主催、文部省・厚生省

で特選児童に選ばれた健康優良児並びに全日本健康優良学校の表彰校代表等に御会釈を賜う。同

会長村山長挙朝日新聞社取締役会長の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、侍従日記、侍従職日記、

内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

五日 月曜日 午前、表拝謁の間において、新任のイタリア国特命全権大使クリストフォロ・フラカッ

シー・ラッテイ・メントーネ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、侍従職日記、内舎人日誌、典式録、謁見

録、宮内庁庁報

六日 火曜日 午後、天皇と共に皇居広庭において、園遊会を催される。○女官長日記、侍従日記、侍従職日

誌、内舎人日誌、園遊会録、典式録、皇親録、庁規例規朝儀諸綴、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

八日 木曜日 日本赤十字社主催の赤十字奉仕団全国大会に御臨場のため、午後零時五十九分御出門、

新宿区の日本青年館に行啓される。御到着後、御休所において、同社名誉副総裁故雍仁親王妃勢津子、

同崇仁親王妃百合子と御対面になり、名誉総裁として式場に臨まれる。同社社長島津忠承の式辞に続

き、壇上より、優良奉仕団として特別表彰の長野県長野市・新潟県新潟市・岩手県盛岡市・東京都武

蔵野市・鹿児島県鹿児島市・香川県高松市の赤十字奉仕団の委員長六名に表彰旗を御親授になる。社長表彰の後、次のお言葉を賜う。

赤十字奉仕団全国大会に臨み、日ごろ赤十字の事業に尽力している皆さんに親しく接することのできましたことは、まことにうれしく思います。

赤十字奉仕団は、これまで災害救護、保健衛生、社会福祉などのことに数多くの奉仕活動をつけ、明るい住みよい社会を築くために陰の力となつて尽してきましたが、今後ますますその基礎を固めて奉仕の実をあげ、世界の平和と人類の福祉に貢献しなければならぬと考えます。

全国の団員は、堅く手をつないで、赤十字の使命を果たすために一層努力し、国民の期待に副うよう望んでやみません。

赤十字奉仕団中央委員会委員長代田朝義の奉答をお受けになり、奉仕活動の事例発表、厚生大臣小林英三の祝辞の後、三階観覧席に移られ、日本赤十字社看護課長林塩ほかによる家庭看護法解説と実演、及び同社安全課長小森栄一ほかによる救急法解説と実演を御覧になる。二時二十一分皇居に還啓される。○女官長日記、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本赤十字社社史稿

九日 金曜日 午前、表拝謁の間において、この度オランダ国より帰国の特命全権大使岡本季正及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

午後、奥三の間において、久邇幌子の死去に際し諸事尽力につき、久邇家顧問山梨勝之進・高橋真男・栄木忠常の拝謁をお受けになる。ついで山本董子故侯爵久邇邦久の元夫人の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、

内舎人日誌、久邇幌子薨去関係書類

学習院同窓会館建設募金バザーを開催する常磐会に、切り花<sup>約百七十本</sup>を賜う。○女官長日記、贈賜録

十二日 月曜日 午前、表拝謁の間において、新任のイラン国特命全權大使ホセイ・ゴーズ・ナカを御引見になる。○女官長日記、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

十三日 火曜日 午前九時五十二分天皇と共に御出門、日比谷公会堂に行啓され、共同募金運動十周年記念「全国社会福祉事業大会」に御臨席になる。十時三十九分還啓される。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十六日 金曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、エチオピア国臨時代理公使山津善衛より同国事情についての進講をお聴きになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午前十時三十五分より天皇と共に謁見所において、昨日御来日のエチオピア国皇帝ハイレ・セラシエ一世と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にはシバ女王勲章頸飾が贈られる。

午後七時三十分より天皇と共に表西の間において、宮中晚餐を催される。御食後、表北の間において、皇帝始め両国皇族・諸員等と共に舞楽を御覧になる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、皇親録、供御日録、宮内庁庁報、官報、外交記録

二十一日 水曜日 エチオピア国皇帝ハイレ・セラシエ一世をお招きになり、午後四時三十分より天皇と共に表北の間において、宮中茶会を催される。なおこの日、天皇・皇后より皇帝に七宝花瓶を、同国皇后に華錦を御贈進になる。

七時四分天皇と共に御出門、光輪閣に行啓され、エチオピア国皇帝御主催の晚餐会に御出席になる。

食堂において御会食になり、御休所において御歓談の後、九時五十一分還啓される。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、幸啓録、供御日録、宮内庁庁報、官報

二十四日 土曜日 この日、先頃岡山に一週間ほど滞在した元内親王傳育掛名取はなより、池田厚子の様子などをお聞きになる。○女官長日記

二十六日 月曜日 午前、内廷庁舎において、伊勢より帰京の北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになる。

○女官長日記

午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記

二十七日 火曜日 翌二十八日御帰国のエチオピア国皇帝ハイレ・セラシエ一世をお招きになり、天皇と共に表一の間において、告別の宮中午餐を催される。御食後、表三の間において御歓談になる。

その際、皇帝より皇后に御贈進の金細工ハンドバッグが披露される。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、贈賜録、供御日録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報、贈るころ・受けとられた美、外国からのごあいさつ

二十八日 水曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に表御座所において、同親王と御対面になる。ついで天皇と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された厚生省関係功労者等に御会釈を賜い、厚生大臣小林英三の挨拶をお受けになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

典式録、宣召録、宮内庁庁報

昭和三十一年十二月

三十日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。午後、天皇と共に新お召し船「はたぐも」に御乗船になる。船室において海上保安庁長官島居辰次郎の拝謁をお一方にてお受けになる。ついで甲板に並ぶ船長中島欣以下乗組員に天皇と共に御会釈を賜い、船内を御巡覧になる。終わって、白根・カキ根付近の海上において海洋生物を御採集になる。これ以降御用邸御滞在中、折に触れ、御採集・御散策にお出ましになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

## 十二月

一日 土曜日 夕刻、本日付にて自治庁総務参事官付に転任の前侍従穂積重道の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、恩賜録、宮内庁庁報

七日 金曜日 午後二時二分天皇と共に葉山御用邸を御出門になり、三時二十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

八日 土曜日 この日、御喪明けとなる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十日 月曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十二日 水曜日 午前、表拝謁の間において、御機嫌奉伺のため参内した京都在住の旧堂上会総代西四辻公利の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

天皇と共に謁見所において、米国輸出入銀行総裁サミュエル・クラーク・ウォー及び同夫人を御引見

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

十四日 金曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のイラン国特命全権大使ホセイ・ゴーツ・ナカイ及び同夫人を御引見になる。引き続き天皇と共に表一の間において、新任のベルギー国特命全権大使レイモン・エルマンズ、イタリヤ国特命全権大使クリストフォロ・フラカッシー・ラツティ・メントーネ及び同夫人、イラン国大使夫妻のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、供御日録、宮内庁庁報

天皇と共に表拝謁の間において、去る十一月一日御視察の大阪府の住江織物株式会社より献上された絨毯を御覧になる。○侍従日誌

十五日 土曜日 来る十七日から五日間にわたり、都下各医療施設等の参加を得て歳末無料健康相談を実施する東京都に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十六日 日曜日 午後、御文庫において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、来る二十五日大正天皇三十年式年祭皇霊殿の儀において皇后の御名代を務める件につき、種々お話しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十七日 月曜日 故久邇侘子百日祭につき、午前、女官長保科武子始め女官の御機嫌奉伺をお受けになる。この日、皇后宮使として、久邇邸の権舎に侍従山田康彦を、豊島岡墓地内の墓所に侍従徳川義寛を差し遣わされ、天皇・皇后より霊殿に盛菓子・榊を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、久邇侘子薨去関係書類、皇親録

十八日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、東宮大夫野村行一・参与小泉信三侍従職御用掛の拝謁

昭和三十一年十二月

をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員に午餐の御陪食を賜い、続いて表三の間において茶菓を供される。皇太子始め二十四方が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、供御日録、東宮侍従日誌、宮内庁庁報

午後二時三十分御出門、久邇邸に行啓される。御到着後、故久邇倪子の権舎を拝礼される。また、靈前に菓子をお供えになる。五時十分還啓される。なお、倪子の遺品が皇后に献上される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、久邇倪子薨去関係書類、宮内庁庁報

二十日 木曜日 天皇と共に表一の間において、参与安倍能成・同坪井忠二・同松平信子・同加藤武男等十二名に対し、午餐の御陪食を賜う。続いて表三の間においてお茶を供される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、供御日録

午後、御文庫において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十一日 金曜日 午後、天皇と共に奥二の間において、この度オーストラリア国より帰国の国際オリンピック委員会委員東竜太郎・メルボルン大会派遣日本代表団団長田畑政治・同総務浅野均一・同清川正二より、オリンピック大会についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

夕刻、御文庫において、この度自治庁に転出した元侍従穂積重道の拝謁をお受けになる。ついで天皇及び御相伴に召された穂積と御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、供御日録

二十二日 土曜日 天皇と共に、エチオピア国皇帝御来訪の御慰労のため、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王をお招きになり、御夕餐を御会食になる。正仁親王・貴子内親王も同席する。なお、崇仁親王妃百合子は風気のため欠席する。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、供御日録

この日、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また、日本赤十字社病院及び恩賜財団済生会病院救助収容患者合計七千五百九十三名に、手拭い一筋ずつを賜う。さらに、天皇・皇后より日本赤十字社に御奨励金を賜う。なおこの月、歌道御奨励のため、皇后より向陽会に対して恒例の賜金がある。○女官長日記、例規録、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、日本赤十字社史料稿

二十三日 日曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。午後、天皇及び皇太子と共に御文庫において、元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記

二十五日 火曜日 大正天皇三十年式年祭山陵の儀につき、午前八時五十三分御出門、天皇と共に多摩陵に行啓され、天皇に続いて御拝礼になる。午後零時十九分還啓される。また、この日午前、大正天皇三十年式年祭皇霊殿の儀につき、天皇の御名代として宣仁親王が、皇后の御名代として宣仁親王妃喜久子が拝礼する。夕刻、大正天皇三十年式年祭御神楽の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。

○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、典式録、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 午前、表拝謁の間において、この度フランス国から帰国の特命全権大使西村熊雄及び同夫人、パキスタン国から帰国の同山形清及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

午後、義宮御殿にお出ましになり、正仁親王と御対面の後、村田百合子の拝謁をお受けになり、御持参のアフリカスマイレの手入れ法につきお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昨二十五日大正天皇三十年式年祭終了につき、天皇と共に御文庫において、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、北白川房子、東久邇聡子と御夕餐を御会食になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、供御日録

舞鶴地方引揚援護局において海外抑留同胞救出国民運動総本部主催による在ソ物故者慰霊祭が行われるに当たり、天皇・皇后より盛菓子をお供えになる。○賜与録、宮内庁庁報

二十七日 木曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、天皇及び正仁親王と共に黄心樹歌会に御臨席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 土曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、故雍仁親王妃勢津子始め皇族・元皇族等より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで宮内庁長官始め総代その他より同じく歳末の祝詞言上を

お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

昭和三十三年（西曆一九五七年）

五十四歳

一月

一日 火曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に表拝謁の間において、皇太子・正仁親王・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子の祝賀をお受けになり、引き続き、表北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・外国交際官等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、元皇族・元王族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者の拝賀を天皇と共に受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報、官報

二日 水曜日 皇居広庭において、新年の一般参賀を天皇と共に受けになる。午前三回、午後六回の計九回お出ましになる。第一回の一般参賀の後、表三の間において元側近奉仕者並びに元部局長の拝賀を、続いて天皇と共に表拝謁の間において、参与松平信子の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、参賀関係書類、宮内庁庁報、官報

三日 木曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

天皇と共に表拝謁の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録

四日 金曜日 豊島岡墓地の初拝礼に当たり、女官今城誼子を遣わされ、前年死去の故久邇侘子<sup>母</sup>の墓所も合わせて拝礼させられる。○女官長日記、女官日誌、典式録

六日 日曜日 式部官長松平康昌去る四日死去につき、天皇・皇后の賜物使として侍従山田康彦を松平邸に差し遣わされ、祭料を賜う。また天皇・皇后より霊前に盛菓子及び切り花を賜う。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

七日 月曜日 午前、表拝謁の間において、この度パキスタン国へ赴任の特命全権大使成田勝四郎及び同夫人、フランス国へ赴任の特命全権大使古垣鉄郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

表拝謁の間において、新任の侍従小池昌雄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に表拝謁の間において、元女官その他より新年の拝賀をお受けになる。ついでお一方にて御学友・御同級生より新年の祝賀をお受けになり、しばし御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 火曜日 午前十時、天皇と共に表西の間において、講書始の儀に臨まれる。東京大学教授山本達郎より「東南アジア史の特質」、同我妻栄より「親子関係についての民法の規定の変遷について」、東京理科大学長真島正市より「応用物理学と計測工学」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、講書始録、宮内庁庁報、官報

十日 木曜日 午前、内廷庁舎において、エスター・ビドル・ローズより英語の進講をお聴きになる。

なお、この年のローズの進講は、四月まで各月二回行われ、中断の後、十月から再開される。○女官長

日記、女官日誌

午後、山口玉糸より指導をお受けになり、宝珠をお描きになる。○女官長日記、女官日誌

十一日 金曜日 午前十時、天皇と共に表西の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「ともしび」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

#### 皇后宮御歌

大磯かはた茅が崎かやみの夜を海のあなたに光るともしび

儀終了後、天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、預選者に御会積を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、歌会始録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

十三日 日曜日 御文庫において、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。

午後は、天皇と共に義宮御殿にお出ましになり、皇太子・正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子・北白川房子・東久邇聡子・同成子・鷹司和子・北白川祥子・同道久・同肇子・朝香孚彦とカルタに興じられる。以後、この年も皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、供御日録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分御出門、十一時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁

庁報

十五日 火曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、元内大臣木戸幸一・同夫人の拝謁をお受けに

昭和三十三年一月

なる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、供御日録

十九日 土曜日 午後、天皇と共にお召し船はたぐもにて甘鯛場に向かわれ、ドレッジにて海洋生物を御採集になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十二日 火曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十四日 木曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任の米國特命全權大使ジョン・ムーア・アリソン及び同夫人、新任のポルトガル國特命全權公使エミリオ・パトリシオのため、午餐を催される。なお去る二十二日、アリソン大使の功績表彰のため同夫人に御紋付銀製花瓶を賜っており、この日大使夫妻よりお礼言上をお受けになる。後日、アリソン大使から宮内庁長官宛ての礼状が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、外交贈答録、供御日録、宮内庁庁報

二十五日 金曜日 第十二回国民体育大会冬季大会に御臨場のため、天皇と共に栃木県日光市に行啓される。午前九時二十分御出門、午後零時三十五分日光市の御泊所金谷ホテルに御到着になる。御昼食の後、日光市営細尾スケートリンクにおいて、国体スピードスケート競技を御覧になり、四時二十分御泊所金谷ホテルに還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、日光行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 土曜日 午前十時十分天皇と共に御泊所金谷ホテルを御出発、東照宮山内スケートリンクにお着きになる。御観覧席において世界フィギュア・スケート選手権大会来る二月二十六日より米國コロラド州において開催に出場の

杉田秀男・西倉幸男・上野純子・荒木祐子の模範演技を御覧になる。ついで古河電工スケートリンクに移動され、国体アイスホッケー競技を御覧になる。終わって御泊所に還御される。御昼食後、御泊所金谷ホテルを御出発になり、午後四時四十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、日光行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十八日 月曜日 前外務大臣重光葵去る二十六日死去につき、天皇・皇后より侍従入江相政を重光邸に差し遣わされ、祭料及び榊を賜い、玉串をお供えになる。○女官長日記、侍従職日誌、典式録、賜与録、宮内庁庁報、官報

三十日 水曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

## 二月

一日 金曜日 午後、表拝謁の間において、本日付で新たに式部官長に任じられた原田健の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

四日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時三十一分御出門、三時五十九分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

七日 木曜日 終日、参邸の山口玉糸の指導にて農村風景を描かれる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

九日 土曜日 午前、参邸の侍従入江相政の拝謁をお受けになり、去る六日日本画家川合玉堂邸への御使についての復命をお受けになり、皇后の絵画に対する川合の批評をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

十一日 月曜日 元宮中顧問官小早川四郎元侍従次長 昨日死去につき、天皇・皇后より祭葬料を賜う。翌日

は切り花を、また天皇・皇后より菓子・野菜を霊前に賜う。○女官長日記、恩賜録、贈賜録

十五日 金曜日 午後二時葉山御用邸を天皇と共に御出門、三時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午前、表西の間において、ソビエト連邦へ赴任の特命全権大使門脇季光、チリ国へ

赴任の特命全権公使矢口麓蔵及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

天皇と共に表御座所において、去る十六日結婚した久邇邦昭御甥・同夫人正子、及び久邇朝融御兄、邦昭の父と御

対面になる。ついでお一方にて正子の両親である弘世現・同夫人芳子の拝謁をお受けになる。なお、

結婚当日、天皇・皇后より邦昭・正子に白羽二重及びお品を、朝融に生鯛料等を賜う。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、賢所諸件、贈賜録

二十日 水曜日 日本赤十字社主催の日赤資金募集特別試写会に名誉総裁として御臨席のため、午後六時四十七分御出門、帝国劇場に行啓される。御着後、同社社長島津忠承の先導にて二階貴賓室に入られ、故雍仁親王妃勢津子の挨拶をお受けになる。ついで御観覧席に着席され、写真撮影の後、映画「世界の七不思議」を御覧になる。九時十九分還啓される。この度の行啓に際し、日本赤十字社に金

一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、日本赤十字社社史稿

二十一日 木曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十三 日 土曜日 午後、天皇と共に御文庫において、翌日よりデンマーク国・スウェーデン国・ノルウェー国への訪問に出発する崇仁親王・同妃百合子の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十五 日 月曜日 午前、謁見所において、新任のビルマ国特命全権大使タン・シェイン、キューバ

国特命全権公使ホセ・ガルシア・モンテス・イ・アングロ及び同夫人、ラオス国特命全権大使テイア

オ・カマオ<sup>王</sup>及び同妃を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

御進講室において、忌明けにつき御礼に参内の松平綾子<sup>故前式部官長 松平康昌夫人</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 水曜日 菊栄親睦会に御臨席のため、午後六時二分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。御食堂において、宣仁親王より、久邇邦昭・同夫人正子が去る十六日に結婚し、今般ロンドンに赴任する旨の紹介をお受けになり、挙杯の後、祝福される。ついで御会食になる。皇太子以下皇族・元皇族・元王族等二十八方が出席したほか、弘世現・同夫人芳子も招かれる。八時二十三分還啓される。なお、渡英につき、天皇・皇后より邦昭にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、贈賜録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

昭和三十三年二月

三月

二日 土曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に御文庫において、同内親王と御対面になる。ついで天皇及び同内親王と共に表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

四日 月曜日 午後、内廷庁舎において、来る六日の皇后誕生日に先立ち祝賀のため参内の聖園テレジア<sup>聖心愛子</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

五日 火曜日 午前、謁見所において、新任のソビエト連邦特命全権大使イワン・フォードロヴィチ・テヴオシヤン、米国特命全権大使ダグラス・マッカーサー二世及び同夫人・息女を順次御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

去る二月十六日に結婚した久邇邦昭・同夫人正子のため、天皇と共に表一の間において御晚餐を催される。同夫妻のほか、久邇朝融、東伏見慈治<sup>御弟</sup>・同夫人保子、東久邇成子、鷹司和子、池田厚子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、供御日録

六日 水曜日 この日、満五十四歳のお誕生日を迎えられる。

午前、表拝謁の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで表西の間において、皇太子始め皇族、元皇族、元王族、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、表拝謁の間において御縁故者、続いて元宮内庁長官及び元側近奉仕者の拝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の奉拝を、再び表拝謁の間において元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授松島彝

及び御学友・御同級生七名の拝賀を、皇后御進講室において元皇后宮女官・元女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、賜与録、宮内庁庁報

七日 木曜日 午前、天皇と共に謁見所において、ベネズエラ国訪日親善使節団長リヨベラ・パエス<sup>交通大臣</sup>及び同夫人を御引見になる。その際、同団長を通じ、同国大統領より天皇にはリベルタドル勲章

頸飾が、皇后にはスズラン型ブローチ<sup>金製、ダイヤ入り</sup>が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報、外交記録

天皇と共に表一の間において、新任のラオス国特命全権大使ティアオ・カマオ<sup>王族</sup>及び同妃、ビルマ国特命全権大使タン・シェイン、ソビエト連邦特命全権大使イワン・フョードロヴィチ・テヴォシヤンのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、供御日録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた池田厚子、及び皇太子、正仁親王、貴子内親王、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司平通・同夫人和子と御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、供御日録、宮内庁庁報

八日 金曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵画の進講をお受けになる。この日より、貴子内親王も山口より同様の進講を受けることとなる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に謁見所において、この度帰国する北米外国宣教連盟日本委員会委員長ポール・S・メーヤー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

九日 土曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。崇仁親王・同妃はデンマーク国・スウェーデン国・ノルウェー国訪問より今晩帰国した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 日曜日 菊栄親睦会に御臨席のため、午前十時御出門、天皇と共に埼玉獵場に行啓される。幹事の故雍仁親王妃勢津子・賀陽恒憲・伏見朝子のお出迎えをお受けになり、先着の皇太子・正仁親王・貴子内親王・崇仁親王ほかと御対面になる。ついで鴨猟を試みられ、大鴨一羽を捕獲される。それより御食堂において御会食になる。御食後、庭園にて参集者と卓球などをして過ごされる。午後二時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、菊栄親睦会録、供御日録、宮内庁庁報

十一日 月曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のカナダ国特命全権大使トーマス・クレイトン・デイヴィス及び同夫人、新任の米国特命全権大使ダグラス・マッカーサー二世及び同夫人、キューバ国特命全権公使ホセ・ガルシア・モンテス・イ・アングロ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、贈賜録、外交贈答録、供御日録、宮内庁庁報

十二日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分御出門、十一時三十分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

これより先、フランス語の元進講奉仕者マリー・シモーヌ・ルヌーの誕生日に際し、同人に下賜され

る猪亥は同人の干支に当たるの戯画の制作を前田青邨に御用命になる。この日、侍従入江相政を遣わされ、絵画制作

に関する諸事勤勞につき、前田に金一封及び菓子を賜う。○女官長日記、贈賜録、読売新聞

十六日 土曜日 この日、浄土真宗本願寺派本願寺築地別院において全国戦争犠牲者援護会主催の全

国戦没者慰霊大法要執行につき、天皇・皇后より同会に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午前から午後にかけて、貴子内親王と共に、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。

夕刻、天皇と共に、日本鳥類保護連盟会長山階芳麿・同夫人寿賀子の拜謁をお受けになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十日 水曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時三十分皇居に還啓される。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 午前、謁見所において、ローガン・マッコイ夫人マーガレットを御引見になる。

その節、同人よりアメリカヤマボウシの銀製花ブローチの献上をお受けになる。同人は大正十三年以来米国ペンシルベニア州フィラデルフィア市日本奨学生委員会委員長として多年にわたり日本人女子の米国留学の斡旋・世話に尽力するとともに、これを通じ日米親善にも貢献した。なお、同会はマッコイ夫人の祖母が津田梅子と協力して設立した組織にして、その運営には元皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニング等も関与し、同会の奨学金により留学した主な者には、松田道子、河井道、鈴木歌子、星野あい、一柳まき等がいる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

二十三日 土曜日 午前、東久邇成子及び同子息信彦参内につき、天皇と共に表拝謁の間において、御対面になる。なお、この度信彦の慶応義塾幼稚舎卒業につき、去る二十一日に天皇・皇后よりお品料・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十五日 月曜日 午前九時三十分御出門、天皇と共に新宿区戸山の学習院に行啓され、学習院女子高等科・女子中等科卒業式に御臨席になる。御着後、便殿において、院長安倍能成より高等科卒業の貴子内親王の学習模様及び学校の現況をお聞きになる。天皇が卒業生名簿の奉呈をお受けになった後、式場に臨まれ、中等科及び高等科卒業生への卒業証書授与等を御覧になる。式終了後、展覧室において学生の書画等の成績品を御覧になり、十一時三十分還啓される。なお、天皇・皇后より高等科卒業の貴子内親王に万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、贈賜録、宮内庁序報、学習院百年史

二十六日 火曜日 午後、貴子内親王と共に、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 水曜日 国立近代美術館・朝日新聞社の共催による「20世紀のデザイナー—ヨーロッパとアメリカ—」展を御鑑賞になるため、午前九時五十六分御出門、国立近代美術館に行啓される。御着後、館長岡部長景の先導、同館次長今泉篤男・同館運営委員山田智三郎<sup>共立女子大学教授</sup>の説明にて、一階において家具を御覧になった後、二階において現代への展開と題し、アール・ヌーボーや古典形態の復活などに関連した仕事を展示したコーナー、また現代の展望というテーマにて機械美術を御覧になる。三階において引き続き現代への展望として家具・椅子などを御覧になる。ついで四階の館長室において、

文部大臣灘尾弘吉・岡部館長の拜謁をお受けになり、隣室<sup>次長</sup>に展示された上村松園筆「母子」、菊池契月筆「涅槃」などの日本画を岡部館長の説明にて御覧になる。終わって十一時九分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

午後、御進講室において、近く修道院に入る三条西澄子<sup>御妹三条西信子の息女</sup>・四条淑子<sup>同</sup>より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 木曜日 日本赤十字社第六回通常代議員会に御臨席のため、午前十時十三分御出門、日本赤十字社本社に行啓される。御着後、便殿において同社名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。ついで衆議院議長益谷秀次、参議院議長松野鶴平、厚生大臣神田博、日本赤十字社社長島津忠承、副社長葛西嘉資、同石坂泰三の拜謁をお受けの後、式場に出御される。島津社長による開会の辞に続き、名誉総裁として有功章、特別社員章を各総代の十二名に御親授になる。終わって次のお言葉を賜う。

第六回通常代議員会に臨み、日ごろ熱心に赤十字のために活動している人々に親しく接することのできましたことは、まことにうれしく思います。

日本赤十字社は、本年をもつて創立八十年に達し、その長い月日の間に数多くの有益な事業をとおして、つねに人道的任務を果たすために努力してきましたが、今後は更に社の基礎をかためて事業の進展をはかり、各国の赤十字社と手を携えて世界の平和と人類の福祉に貢献しなければならぬと思います。

社員並びに役職員は、心を新たにして使命の達成に一層努力し、国民の期待に副うよう望んで止

昭和三十三年四月

みません。

島津社長の奉答、神田厚相の挨拶が終わって、式場を後にされる。総裁室において、国際赤十字関係の外国人六名の拜謁をお受けになる。その後、玄関前広場において記念写真撮影に同席される。十一時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁序報、日本赤十字社史稿

川合玉堂邸に御使として侍従入江相政を遣わされ、川合に病氣お尋ねとして、野菜等を賜う。また御自身の絵画も入江に携帯させ講評させられる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 金曜日 午後、楽部職員による管弦楽演奏を御鑑賞のため、楽部にお出ましになる。先着の貴子内親王と共に、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」序曲、ハイドン作曲交響曲「驚愕」等をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、楽事録

#### 四月

一日 月曜日 午後、御進講室において、貴子内親王と共に、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

これより先、モナコ国公女キャロリーヌ・ルイズ・マルグリットが一月二十三日に誕生した旨を通知する同国大公レーニエ三世の親書<sup>一月二十</sup><sub>四日付</sub>が寄せられる。これに対し、天皇と連名にて祝意を表する答

簡<sup>本日</sup>付<sup>付</sup>を發せられる。○外交慶弔録

二日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所において、日本政府の招請により来日の訪日チリ国使節団長

オスヴァルド・サント・マリ・ソルコ 同国外務大臣  
兼鉱業大臣 及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任の英国特命全權大使エスラー・デニングのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、贈賜録、外交贈答録、賜与録、供御日誌、宮内庁庁報

三日 水曜日 午前、神武天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

四日 木曜日 午前、天皇と共に謁見所において、米國基督教児童福祉会会長J・カルヴィット・クラーク及び同夫人を御引見になる。ついでイラン国經濟大臣エブラヒーム・カーシャーニ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・水薬師寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○女官長日記、贈賜録

五日 金曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、日本スケート連盟会長竹田恒徳の拝謁をお受けになる。竹田は、先般米國で開催された世界フィギュア・スケート選手権大会に参加のため選手団と共に渡米し、先月二十八日帰国した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、読売新聞

六日 土曜日 岐阜県において行われる昭和三十二年度植樹行事に御臨場、併せて岐阜・愛知両県内の産業施設等を御視察のため、天皇と共に両県に行啓される。午前九時御出門になり、東京駅より岐阜駅を経て、午後四時御泊所万松館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和三十三年四月

誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、天皇后兩陛下をお迎えして

七日 日曜日 午前九時五十三分御泊所万松館を天皇と共に御出発、揖斐郡谷汲村の植樹行事植栽地に御到着になる。お手植え地において、国土緑化推進委員会委員長益谷秀次、同委員会顧問河井弥八、岐阜県知事武藤嘉門の介添えをお受けになり、天皇に続きスギ三本を植樹される。次に御播種地の谷汲中学校に向かわれ、御着後、校門外の御播種圃場において、天皇はスギの種を、皇后は国土緑化推進委員会副委員長徳川宗敬の介添えにてヒノキの種をお手播きになる。終わって岐阜学院<sup>教護施設</sup>、岐阜県農事試験場を御視察になり、午後四時十五分御泊所万松館にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、天皇后兩陛下をお迎えして

この日明治記念館においてバザーを開催する常磐会に、切り花<sup>百三十本</sup>等を賜う。○女官長日記、贈賜録

八日 月曜日 午前九時御泊所万松館を天皇と共に御出発、岐阜県製紙工業試験場、フェザー安全剃刀株式会社関工場を御視察になり、終わって御泊所に戻られ、御昼食をとられる。午後は岐阜市民センター内の岐阜県物産展示会場、川島紡績株式会社正木工場を御視察の後、四時三十三分御泊所万松館にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、天皇后兩陛下をお迎えして

元別当工藤壮平昨七日死去につき、盛菓子・切り花を賜う。十二日には天皇・皇后より祭染料を賜う。工藤は大正十二年宮内省御用掛兼内大臣府御用掛、昭和五年内大臣秘書官となり、十三年に別当<sup>山階</sup>に任じられる。また小野鷺堂に学んだ書家としても知られ、皇后及び宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百

合子等に書を指導する。○女官長日記、恩賜録、贈賜録

九日 火曜日 午前九時御泊所万松館を天皇と共に御出発、大垣養老華園、大日本紡績株式会社大垣化学工場を御視察になる。午後は岐阜県陶磁器試験場、合名会社上山製陶所を御視察になり、その後、多治見駅より御乗車、岐阜県より愛知県に入られ、名古屋駅に御下車、四時十八分御泊所ホテル丸栄に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、天皇皇后両陛下をお迎えして

十日 水曜日 午前九時三十五分御泊所ホテル丸栄を天皇と共に御出発、熱田神宮に御到着になり、天皇に続き、正殿階下の御座において拝礼される。一旦御泊所に戻られ、お召し替えの後、トヨタ自動車工業株式会社を視察される。終わって午後四時十二分御泊所蒲郡ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十一日 木曜日 昭憲皇太后祥月御命日につき、午前中は外出をお控えになる。午後一時八分御泊所蒲郡ホテルを天皇と共に御出発、興服産業株式会社興和光器製作所、大草海岸堤防を御視察になる。三時三十五分御泊所蒲郡ホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

この日、オーストラリア国首相ロバート・ゴードン・メンジス及び同夫人が国賓として来日につき、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を東京国際空港へ差し遣わされる。○典式録、外賓接待録、宮内庁庁報、外交記録

十二日 金曜日 午前十一時十八分御泊所蒲郡ホテルを天皇と共に御出発になり、蒲郡駅より東京駅

昭和三十三年四月

を経て、午後四時二十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

**十三日** 土曜日 天皇と共に表北の間において、国賓として来日のオーストラリア国首相ロバート・ゴードン・メンジス及び同夫人のため、宮中午餐を催される。御食後、表東二の間において御歓談になる。その際、同首相夫人より皇后に献上の羊毛製マツトが披露される。後刻、同首相夫妻参内の御答礼のため、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を白金迎賓館へ差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答録、贈賜録、供御日録、宮内庁庁報

**十五日** 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、北白川房子の拝謁をお受けになる。終わって表西の間において松影会宮内省・宮内府・宮内庁  
元部局長以上の親睦会、会員の拝謁をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

侍従入江相政を病中の川合玉堂の許に遣わされ、菓子・スープレのほか、お品を賜う。○女官長日記

**十六日** 火曜日 結核予防「明るい健康展」厚生省、財団法人結核予防会、  
朝日新聞厚生文化事業団共催に御臨場のため、午前九時四十六分

御出門、日本橋三越本店に行啓される。御着後、結核予防会総裁故雍仁親王妃勢津子・厚生大臣神田博ほかのお出迎えをお受けになる。七階の会場内では、結核予防会専務隈部英雄の説明にて結核の実態、結核治療法の模型、スライド、グラフなどを巡覧され、結核の早期発見など結核のすべてを示した図解を御覧になる。会場出口において、結核検診優良市町村被表彰者にお言葉を賜い、十時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 午前、天皇と共に謁見所において、元ドイツ連邦共和国国立高分子化学研究所長ヘルマン・シュタウディングノーベル化学受賞者及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

この日、オーストラリア国首相ロバート・ゴードン・メンジス及び同夫人が帰国につき、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を東京国際空港へ差し遣わされる。○典式録、外賓接待録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 午前、内廷庁舎において、エスター・ビドル・ローズより英語の進講をお聴きになる。終わって、ローズ近日賜暇帰国につき、岐阜よりお持ち帰りのお品を同人に賜う。また、元皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニングに賜うお品をローズに託される。○女官長日記、女官日誌  
これより先、エチオピア国皇后より御贈進のお写真昨秋同国皇帝が来日された際に御贈進をお約束を御覧になり、皇后から謝意を同国皇后に伝えるよう御下命がある。この日、宮内庁長官より外務大臣に、この旨が通知される。○外交

贈答録

十九日 金曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、身体障害者福祉法施行七周年記念大会に当たり、厚生大臣より表彰される身体障害者で自立更生し他の模範となる者、及び身体障害者の更生援護に功労のあった者等に御会釈を賜う。厚生大臣神田博の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 午前、花蔭亭近くにお出ましになり、毛利誠子元山口藩主家当主毛利元道夫人の拝謁をお受けになる。毛利は、山口県より皇居清掃の奉仕団を引率し、この日作業終了につき退出する。○女官長日記、女官日誌

昭和三十三年四月

二十二日 月曜日 社団法人日本看護協会創立十周年記念式に御臨席のため、午前九時二十二分御出門、東京体育館に行啓される。御着後、式場に出御され、壇上において崇仁親王妃百合子のお出迎えをお受けになる。日本看護協会会長林塩の式辞に続き、厚生大臣表彰、日本看護協会会長表彰を御覧になる。ついで衆議院議長益谷秀次、参議院議長松野鶴平の祝辞に続き、次のお言葉を賜う。

日本看護協会創立十周年記念式に臨み、保健婦、助産婦及び看護婦の皆さんに親しく接することのできましたことをうれしく思います。

看護事業は、深い人類愛に基く尊い仕事でありますから、会員の皆さんは今後一層協力一致してその職に励み、多くの人々の信頼と感謝を得るよう努力することを希望します。

林会長の奉答をお聞きの後、式場を後にされ、十時十六分還啓される。○女官長日記、女官日記、幸啓録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社春季霊壺奉安祭に各都道府県代表<sup>沖繩を含む</sup>として参列の遺族等に御会釈になり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、典式録、宮内庁庁報

御進講室において、山口玉糸より指導をお受けになり、吹上御苑のツバキなどをお描きになる。○女官長日記、女官日記

二十三日 火曜日 午前十時四分天皇と共に御出門になり、靖国神社に行啓される。御着後、天皇に続き、本殿の御拝座において御拝礼になる。十時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、

侍従職日記、内舎人日記、幸啓録、神宮及神社諸件、宮内庁庁報、官報、靖国神社社務日記、靖国神社百年史

国賓としてパキスタン国内閣総理大臣フセイン・シャヒード・スワルデイ来日につき、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を東京国際空港に差し遣わされる。○外賓接待録、典式録、宮内庁序報

二十四日 水曜日 午後、楽部にお出ましになり、毎日新聞社の招きにてフランス国より来日したパ  
リ「木の十字架」少年合唱団の演奏を御鑑賞になる。終わって御休所において、引率者始め演奏者に  
御握手、お言葉を賜う。また同合唱団に御紋付銀花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、賜与録

二十五日 木曜日 午前、謁見所において、ペルー国特命全権公使フリオ・フェルナンデス・ダヴィ  
ラ及び同夫人並びに息女、ポルトガル国特命全権公使エミリオ・パトリシオ及び同夫人をそれぞれ御  
引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁序報

二十六日 金曜日 午前、内廷庁舎において、この度神宮大官司に就任した元皇太后宮大夫坊城俊良  
の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に表北の間において、国賓のパキスタン国首相フセイン・シャヒード・スワルデイのため、  
宮中午餐を催される。御食後、表東二の間において御歓談になり、同首相より皇后に献上の織物及び  
銀製食器セット等が披露される。後刻、同首相参内の御答礼のため、天皇・皇后の御使として式部官  
長原田健を白金迎賓館に差し遣わされる。また三十日の同首相帰国に際しても、天皇・皇后の御使と  
して式部官長を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典  
式録、外賓参内録、外交贈答録、供御日録、宮内庁序報

二十七日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。御着後、正仁親王及  
び参会の鷹司和子のお出迎えをお受けになり、この日初めて同会の指導に参殿の土屋文明の拝謁をお

受けになり、ついで正岡子規の歌についての話、会員の詠歌についての評をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 月曜日 天皇誕生日につき、午前、表拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、皇太子始め皇族、元皇族・元王族、御縁故者の拝賀を、続いて元女官等の拝賀を順次お受けになる。

正午、御進講室において内宴を催され、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御会食になる。午後四時、天皇と共に表西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、外国交際官等が出席する。なお、天皇誕生日に当たり、皇后より天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、供御日録、宮内庁庁報

三十日 火曜日 昭和三十三年度赤十字募金運動の実施に当たり、天皇・皇后より日本赤十字社に御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

### 五月

二日 木曜日 午後、内廷庁舎において山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

六日 月曜日 午前、表拝謁の間において、米国より帰国の特命全権大使谷正之及び同夫人、国際連合日本政府代表部より帰国の特命全権大使加瀬俊一及び同夫人、米国に赴任の特命全権大使朝海浩一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

社団法人日本助産婦会創立三十周年記念式に御臨席のため、午後一時十七分御出門、日比谷公会堂に行啓される。御着後、御休所において崇仁親王妃百合子と御対面になり、ついで厚生大臣神田博・日

本助産婦会会長横山フクの拝謁をお受けになる。それより式場に出御される。横山会長の式辞に続き、厚生大臣表彰、日本助産婦会会長表彰を御覧になる。ついで衆議院議長代理杉山元治郎副議長、参議院議長松野鶴平の祝辞に続き、次のお言葉を賜う。

日本助産婦会創立三十周年記念式に臨み、親しく皆さんに接することのできましたことをうれしく思います。

助産婦のつとめは、母子の生命をまもり、その健康を指導する尊い仕事でありますから、今後一層互に協力してその職に励み、多くの人々の信頼にこたえるよう努力することを希望します。

横山会長の奉答の後、式場を後にされ、二時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、

宮内庁序報

七日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

謁見所において、近く東南アジア仏教大会に出席のため挨拶に参内の大谷光紹御妹智子の息の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

八日 水曜日 午前、謁見所において、今般英国に帰国の元東京女学館高等学校教諭ドロセア・エリザベス・トロットを御引見になる。同人は、明治四十三年に来日して東京女学館教師となり、一度帰国したが昭和二十二年再来日し、同校の教師をこの年三月まで務めた。在日四十一年にわたり我が国の女子教育に尽力した。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁序報

九日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕糸試験場前橋支場長桑野恒雄より今般設

置の御養蚕所の電気温床器についての説明をお聞きになり、現場を御覧になる。○女官長日記、女官日誌  
十日 金曜日 午前九時三十三分天皇と共に御出門、中央区晴海町の日本国際見本市会場に行啓され、  
各国の展示品等を御覧になる。終わって十一時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮元宮内府御用掛より漢文の進講をお聴きになる。『孟子』

について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、加藤虎之亮関係資料

十二日 日曜日 母の日につき、午後、内廷西玄関前において、東京都主催の「母の日」大会に参会  
した者のうち、約七百名に御会釈を賜う。代表者沼田鯛子東京都母子福祉連合会、助産婦より花束と挨拶をお受けになる。

これに対し、花束贈呈への謝意と共に、母の日を機に心を新たに修養につとめ、健康で立派な母  
として次代を背負う子供を育てることを希望する旨のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、典式録

皇太子の招待をお受けになり、三時五十一分天皇と共に御出門、東宮仮御所に行啓される。御着後、  
二階において御歓談になり、それより庭を御散策になる。ついで食堂において、天皇及び皇太子・正  
仁親王・貴子内親王・東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司和子と御夕餐を御会食になる。八時四十五分還  
啓される。なお母の日に当たり、皇太子・正仁親王・貴子内親王より皇后にレコード二十九枚が贈ら  
れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、供御日録、宮内庁庁報

十三日 月曜日 午前、表拝謁の間において、今般カナダ国へ赴任の特命全権大使萩原徹の拝謁をお  
受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所において、国際復興開発銀行総裁ユージン・ロバート・ブ

ラック及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

エチオピア国第二皇子ハラール公マコネン去る十二日薨去につき、天皇・皇后より同国皇帝・皇后に弔電を発せられる。これに対し十七日答電が寄せられる。また天皇・皇后より霊前へ花環を贈られる。

○女官長日記、賜与録、外交慶弔録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

十六日 木曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、李垠及び同夫人方子の拝謁をお受けになる。

この度兩名は、子息玖のマサチューセッツ工科大学<sup>T M I</sup>卒業に際して渡米につき、挨拶のため参内した。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

午後、楽部にお出ましになる。先着の鷹司和子と御対面の後、スメタナ作曲歌劇「売られた花嫁」序曲、ハイドン作曲交響曲第九十二番「オックスフォード」等をお聴きになる。貴子内親王も途中より陪聴する。○女官長日記、女官日誌、楽事録

十七日 金曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、重要雑録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に表拝謁の間において、貞明皇后例祭に参列の九条道秀<sup>貞明皇后の御甥</sup>・同夫人成子の拝謁を

お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

御進講室において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官

日誌

十八日 土曜日 午前十時十四分御出門、天皇と共に東京体育館に行啓され、民生委員制度四十周年記念全国社会福祉大会に御臨席になる。十一時二十一分還啓される。この行啓に当たり、皇后より次の御歌を全国民生委員に賜う。

さちうすき人の杖とも柱ともなりていたはる人そたふとき

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

二十日 月曜日 午前九時五十三分御出門になり、天皇と共に多摩東陵<sup>大正天皇</sup>・多摩東陵<sup>貞明皇后</sup>に行啓される。

陵所に御着後、天皇に続き、多摩東陵、ついで多摩東陵を御拝礼になる。御休所において御昼食を取られた後、農林省林業試験場浅川分室に立ち寄られる。降雨のため日蔭沢御散策はお取りやめとなり、御休所前テラスにおいて、東京営林署東京経営区にて採集された植物を御覧になる。午後三時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 この日、日本バラ会展<sup>日本バラ会主催、この日より二十</sup>にバラを御出品になる。二十五日に

も日本バラ会にバラを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、日本ばら会創立四〇周年記念誌、読売新聞

二十三日 木曜日 午後、内廷庁舎において、鷹司和子・池田厚子と共に、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十四日 金曜日 午前、内廷庁舎において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、同所主任宮崎清の説明にてお手掃きの小石丸等を御覧になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十五日 土曜日 午前、呉竹寮にお出ましになり、貴子内親王及び池田厚子と御対面になる。その後、天皇も臨御され、御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十七日 月曜日 午前、謁見所において、新任のインド国特命全権大使C・S・ジャー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

この度スイス国へ赴任の特命全権大使奥村勝蔵及び同夫人、フィリピン国へ赴任の特命全権大使湯川盛夫及び同夫人、並びにトルコ国より帰国の特命全権大使上村伸一及び同夫人の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 火曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後一時三分御出門、椿山荘に行啓される。御着後、同会理事長伏見朝子ほかのお出迎えをお受けになり、御休所において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子・北白川房子・東久邇聡子と御対面になる。ついで伏見理事長の先導にて前庭テラスに移動され、会員一同による「金剛石」の合唱をお聴きになる。続いて余興となり、花柳寿輔、同錦之助ほかによる舞踊「連獅子」を御覧になり、終わって会員一同とお茶を召されながら御歓談になる。三時過ぎより皇族のほか会員と共に庭内を散策され、茶席にて会員の点茶をお召し上がりになる。四時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十九日 水曜日 天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員をお召しになり、午餐の御陪食を賜う。皇太子・正仁親王始め二十二方が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

昭和三十三年六月

典式録、宣召録、菊栄親睦会録、供御日録、宮内庁序報

三十一日 金曜日 午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮の漢文の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、加藤虎之亮関係資料

## 六月

一日 土曜日 午前、御文庫において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、先頃の風気の際の賜物についての御礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

午後、義宮御殿にお出ましになる。お出迎えの正仁親王及び先着の鷹司和子と共に黄心樹歌会に臨まれる。この日は窪田空穂による会員の歌の評をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

三日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分御出門、十一時三十六分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

五日 水曜日 午前九時十分御用邸を御出門になり、天皇と共に江ノ島水族館に行啓され、この年開館したマリナランド、ついで水族館を御覧になる。午後零時三十分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録

六日 木曜日 午後、参邸の山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録  
十二日 水曜日 午前九時三十二分御用邸を御出門、天皇と共に三浦市三崎漁港に行啓される。御着後、魚市場内を通られ、荷揚げ等を御覧になる。ついで城ヶ島大橋の建設状況を御覧になる。終わつ

て十一時十五分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報、官報

十三日 木曜日 午前十時天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時二十九分皇居に還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

十四日 金曜日 去る十一日、インド国特命全権大使C・S・ジャー及び同夫人より特製バナラス産スカーフ二枚の献上をお受けになる。これに対し、同夫妻への謝意がこの日付にて式部官長を通じ伝達される。このスカーフは去る五月十日、日本国際見本市行幸啓の際、インド部を御訪問になった記念として届けられた。○外交贈答録

十五日 土曜日 午前、表拝謁の間において、長野県知事林虎雄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌

表拝謁の間において、フィリピン国より来日のフェルナンド・カンポス及び同夫人<sup>同国大統領カルロス・P・ガルシアの息女</sup>を

御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁序報

謁見所において、長野県商工部長北島仙一始め三名の拝謁をお受けになり、紅葉山御養蚕所製の糸にて織り上げられた反物を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

十七日 月曜日 御風気のため、この日日本赤十字社において行われる第十六回フーレンス・ナイチンゲール記章の授与式への御臨席をお取りやめになる。名誉副総裁故雍仁親王妃勢津子が臨席し、大阪赤十字社病院看護婦監督長島久子・元全生園看護婦長三上チヨに記章が授けられる。なお、次のお言葉が伝えられる。

昭和三十三年六月

このたび、長島久子、三上チヨの二人の方々に対して、赤十字国際委員会から、看護婦として世界最高の榮譽であるフローレンス・ナイチンゲール記章がおくられましたことは、長い間の献身的奉仕の賜でありまして、お二人の榮譽はもとより、わが国としてもまことに喜ばしいことであります。どうか今後もお一層この道につくされ、後進の指導に当られるようお願いいたします。また看護婦のみなさんがこの二人の方々を模範として、立派な看護婦としての教養を高めます。広く内外の人々の信頼と感謝を受けるよう努められることを、希望してやみません。

○女官長日記、女官日誌、幸啓録、日本赤十字社社史稿

十八日 火曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、イラン国皇妹ファテメー・パハラヴィー及び同夫君リー・ヴィンセント・ヒリヤーと御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓接待録、外賓参内録、外交贈答録、贈賜録、宮内庁序報

十九日 水曜日 午前、表拝謁の間において、ユーゴスラビア国より帰国の特命全権公使広瀬節男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁序報

二十一日 金曜日 午後、内廷庁舎において、新任のスーダン国特命全権公使サイエド・ラハムタラ・アブダラを御引見になる。終わって、天皇と共に表北の間において、この度離任のカンボジア国特命全権大使ニエク・トゥロン、新任のインド国特命全権大使C・S・ジャー及び同夫人、スーダン国公使のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、贈賜録、

外交贈答録、供御日誌、宮内庁序報

二十四日 月曜日 天皇と共に表北の間において、この度離任の米国極東軍総司令官陸軍大将ライマン・ルイス・レムニッツァー及び同夫人のため、午餐を催される。御食後、お茶の席にてレムニッツァー夫人に銀製御紋付花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、贈賜録、供御日録、宮内庁庁報

二十七日 木曜日 午前、表拝謁の間において、ビルマ国特命全権大使ウ・タン・シェイン及び同夫人、新任のトルコ国特命全権大使スレイヤ・アンデリマンをそれぞれ御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

午後、鷹司和子と共に内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。途中より貴子内親王も加わる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 金曜日 午前、内廷庁舎において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

朝融王妃知子女王十年式年祭につき、女官小川梅子を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされる。天皇・皇后より霊舎に菓子・野菜を、墓所に柿をお供えになる。また、皇后より霊舎に切り花をお供えになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十九日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、鷹司和子・貴子内親王と共に黄心樹歌会に臨まれる。四賀光子より、歌の講義、正仁親王や会員の歌の講評をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

三十日 日曜日 午前、天皇と共に呉竹寮にお出ましになる。御着後、松の間において貴子内親王と御対面になり、新調のピアノ等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和三十三年七月

七月

一日 月曜日 午前、天皇と共に表拝謁の間において、米國太平洋軍司令官海軍大将フェリックス・B・スタンプ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

二日 火曜日 日本芸術院会員文化勲章受章者帝室技芸員川合玉堂去月三十日死去につき、御使として侍従入江相政をその邸に遣わされ、切り花・盛菓子を賜う。十月七日には築地本願寺において百箇日法要執行につき、川合の靈前に切り花を賜う。川合は、昭和十九年より皇后の絵画指導に尽力した。

○女官長日記、女官日誌、賜与録、贈賜録

三日 水曜日 午前、表拝謁の間において、今般米國に帰國の金城学院大学教授メリー・F・スマイスを御引見になる。スマイスは大正六年九月来日し金城女学校教員となつて以来、一時帰國を挟み、在日三十二年にわたり、我が国の私学振興並びに女子教育の發展に尽力した。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

午後、洋楽演奏をお聴きになるため楽部にお出ましになる。先着の鷹司和子・貴子内親王と御対面の後、楽部職員によるシューベルト作曲交響曲第七番等の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、楽事録

四日 木曜日 午前、内廷庁舎において、この度ベルギー國へ赴任する特命全權大使倭島英二及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録

五日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、内舎人日誌

天皇と共に表北の間において、この度離任のエジプト国特命全權大使オスマン・アーメッド・エベイドのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、外交贈答録、

贈賜録、供御日録、宮内庁庁報

午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。『孟子』について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、加藤虎之亮関係資料

六日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任宮崎清及び助手四名の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭横にお出ましになる。その際、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

表拝謁の間において、今般米国に帰国の青山学院女子短期大学教授アリス・チイニーを御引見になる。同人は、大正五年来日し青山学院教師となつて以来、一時帰国を挟んで在日三十七年にわたり我が国の女子教育、特に英語教育の発展に尽力した。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

八日 月曜日 地方事情を御視察のため、天皇と共に山梨県に行啓される。午前九時三十五分御出門、原宿駅より御乗車になる。甲府駅において下車され、それより社会福祉法人甲府春風寮を御視察になる。ついで中巨摩郡芦安村の野呂川林道のお野立所において、同県知事天野久より野呂川奥地開発事業の概況をお聞きになる。野呂川流域奥地に生育するカラマツ・ハイマツ等十四種の針葉樹の標本を御覧になった後、午後五時三十分御泊所常磐ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、常磐ホテル所蔵資料、山梨県行幸啓誌、山梨県行幸啓警衛記

録

昭和三十三年七月

九日 火曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所常磐ホテルを御出発、太平醸造株式会社・御坂東小  
学校藤野木分校を御視察になる。ついで御坂峠お野立所において御眺望の予定であったが、雨天によ  
り視界不良のため、晴天時の富士山の写真を御覧になった後、河口湖ホテル新館において御昼食をお  
召し上がりになる。午後、南都留郡中野村の沖新畑国有林・県立富士国立公園博物館元梨本宮  
別邸跡を御視察

になり、四時三十七分御泊所河口湖ホテル新館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供  
奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、山梨県庁所蔵資料、山梨県庁幸啓誌

タイ国第三王女去る四日誕生につき、天皇・皇后より同国王ラーマ九世プミポン・アドゥ  
ンヤデート及び同王妃シリ  
キットに祝電を發せられる。これに対し、翌十日に答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報、儀

礼軌範

十日 水曜日 午前八時二十分御泊所河口湖ホテル新館を御出発、富士山五合目にお着きになる。お  
野立所においては、視界不良の中、付近一帯を御展望になる。終わって御泊所にお戻りの途中、芙蓉  
荘において御少憩になる。御泊所河口湖ホテル新館において御昼食の後、御出発になり、大月駅より  
原宿駅に御着、午後四時二十分天皇と共に皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、  
内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、山梨県庁所蔵資料、山梨県庁幸啓誌

十二日 金曜日 天皇と共に表北の間において、この度離任のイスラエル国特命全権公使、ジョゼフ・  
アイザク・リントンのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見  
録、典式録、贈賜録、外交贈答録、供御日録、宮内庁庁報

十三日 土曜日 葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分天皇及び貴子内親王と共に御出門、十一時

三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報

**十四日** 日曜日 午前、天皇及び貴子内親王と共に、笠島において磯の生物を御採集になる。なお御出港の際、この日より警備艇が「はつかぜ」となるため、同艇の乗船警備員に御会釈を賜う。立石海岸において御昼食後、天皇とお別れになり、貴子内親王と共に陸路にて御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、供御日録

**十五日** 月曜日 体育御奨励のため日本体育協会に新調した銀製御紋付トロフィーいわゆる皇后杯を賜う。○賜与録、贈賜録、日本体育協会七十五年史

この日より仮宮殿の室名が改称され、表御座所は表御休所、謁見所は謁見の間、謁見所次室は謁見の間次室、東休所は中の間、表東一の間は東の間次室、表東二の間は東の間、表北の間は北の間、表西の間は西の間、表南一の間は南の間次室、表南二の間は南の間となる。また、内廷庁舎にある表拝謁殿の使用開始まで用いられる。○重要雑録、例規録

**十六日** 火曜日 午前、御機嫌奉伺に参邸の松岡鎮枝元久邇宮宮務監督国分三亥の妹の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

**十七日** 水曜日 過日、アルゼンチン国臨時大統領ペドロ・エウヘニオ・アランブル及び同夫人より、息女の結婚式挙行を天皇・皇后へ通知する書状が寄せられる。これに対しこの日、天皇・皇后は同夫妻への祝意伝達を宮内庁長官に仰せ付けられる。十九日には長官より外務大臣にこの旨が伝えられる。

昭和三十三年七月

○上奏モノ控簿、外交慶弔録

十八日 木曜日 午後、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

二十六日 金曜日 午後、聖園テレジアほか二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

葉山行幸啓書類綴

二十七日 土曜日 夕刻、天皇と共に拝謁の間において、参与小泉信三より皇太子の近況についての説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓書類綴

二十八日 日曜日 午後、お召しの日本画家山口蓬春の絵画指導をお受けになる。菖蒲・かいうの御絵を山口に披露され、写生についての助言などをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓書類綴

二十九日 月曜日 午後三時天皇と共に葉山御用邸を御出門、四時四十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に義宮御殿にお出ましになる。東宮仮御所改築工事のため皇太子も同御殿に滞在しており、同所において開催中の東宮職職員及び義宮付職員合同の写真コンクールを、天皇及び皇太子・正仁親王と共に御覧になる。その後御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

供御日録

去る二十五日からの豪雨により甚大な被害を受けた長崎県・熊本県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、気象百年史

三十日 火曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

三十一日 水曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午後零時三十六分御出門、四時十五分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

東宮大夫兼東宮侍従長野村行一去る二十九日死去につき、天皇・皇后より御使として侍従山田康彦を野村邸に差し遣わされ、祭糝料を賜う。これとは別に皇后より野菜を、天皇・皇后より切り花及び盛菓子<sup>赤</sup>を賜う。なお、去る十二日には病氣お尋ねとして、天皇・皇后より葡萄酒<sup>白</sup>を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、稲田周一関係資料

## 八月

一日 木曜日 午前、天皇と共に池田湿地付近にお出ましになり、那須の植物を御観察になる。以後御用邸御滞在中、折に触れて天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌

十日 土曜日 午後、参邸の山口玉糸より指導をお受けになり、屏風に花菖蒲の下絵をお描きになる。

これ以降、完成する十三日まで毎日続けられる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、贈賜録

十三日 火曜日 正午前、金粉にて葉筋を入れた花菖蒲の屏風絵を完成させられ、午後、天皇に披露される。なお、山口玉糸に、慰労のお言葉及び万那のほか、那須の土産を賜う。○女官長日記、女官日誌  
十五日 木曜日 終戦の日につき、お慎みになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌  
二十日 火曜日 午前、天皇と共に御車寄において、宮内記者会会員の拝謁をお受けになり、各記者

昭和三十三年八月

の質問にお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、天皇記者会見、朝日新聞、産経時事、読売新聞

二十一日 水曜日 午後、天皇と共に謁見所において、愛媛県知事久松定武御母久通親子の姉貞子の子息、御従兄・同夫人春

枝・同子息定成の拝謁をお受けになる。ついでこの年ブラジル国・アルゼンチン国を訪問した久松知事より、幻灯を用いた両国の説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、久松定武は語る

これより先、ドイツ連邦共和国の元国立高分子化学研究所長ヘルマン・シュタウディングー及び同夫人より、天皇に同夫妻共著『原形質研究のための高分子化学とその意義』、皇后に同夫人手製『ドイツ植物写真集』が献上される。これに対しこの日、天皇・皇后は関係機関を通じて献上者へ謝意を伝達するよう宮内庁長官に仰せ付けられる。○女官長日記、上奏モノ控簿、外交贈答録

二十二日 木曜日 午後、天皇と共に、宮内庁管理部長鈴木菊男の拝謁をお受けになる。鈴木は、欧米諸国の宮殿等の規模・様式・構造・室内意匠・装飾などを調査するため、来る八月二十七日より十一月八日まで出張する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、宮殿造営調査室並びに皇居造営事務室綴、贈賜録

二十八日 水曜日 午後、参邸の山口玉糸より指導をお受けになり、お召し物に那須の秋草をお描きになる。この日から三十一日まで邸内において、山口の指導にて那須の植物をお描きになる。完成された三十一日には、山口に御慰労のお言葉、及び那須の土産などを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舎人供奉日誌

九月

一日 日曜日 関東大震災の日につき、御散策をお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌

六日 金曜日 午後零時五十一分天皇及び正仁親王九月三日に参邸  
し本邸に宿泊・貴子内親王同と共に御出門、四時三十

分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報

栃木県庁所蔵資料

七日 土曜日 天皇と共に北の間において、国賓として来日のユーゴスラビア国連邦執行会議副議長スヴェトザル・ヴクマノヴィチのため、宮中午餐を催される。御食後、奥三の間において御歓談になり、暫くして天皇及び皇太子と共に御退出になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

典式録、外賓参内録、外交贈答録、贈賜録、供御日録、宮内庁庁報、外交記録

御進講室において、国際ペン大会出席のため来日中の元皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニングを御引見になる。○女官長日記、女官日誌

九日 月曜日 故久邇侂子一周年祭につき、午前中は静かに過ごされ、御文庫において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子・北白川房子と御対面、御機嫌伺いをお受けになる。

午後静謐に過ごされた後、四時三分御出門、豊島岡墓地の墓所に行啓される。喪主久邇朝融始め御親族のお出迎えのうちに御休所に入られ、朝融のほか、同息女の通子・英子・典子、東伏見慈洽・同夫人保子、大谷光暢・同夫人智子、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司平通・同夫人和子、池田厚子と御対面になる。ついで式場に入られ、葬儀委員長山梨勝之進の先導にて御拝座に着かれ、司祭長より玉

串をお受けになり、御拝礼になる。ついで喪主よりお礼言上をお受けになる。終わって四時三十分墓所を御出発、同四十二分還啓される。行啓に先立ち久邇邸の権舎祭に侍従小池昌雄を、豊島岡墓地の墓所祭に同徳川義寛をそれぞれ皇后宮使として差し遣わされ、拝礼させられる。また、天皇・皇后より権舎に盛菓子・榊を、墓所に榊を供えられ、皇后より墓所に野菜をお供えになる。これ以降、毎年児子の命日には、久邇邸と豊島岡墓地に御使を遣わされ、拝礼させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁序報

十日 火曜日 元皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニングをお招きになり、天皇と共に御晩餐を催される。夕刻、表御休所において皇太子・正仁親王・貴子内親王・東久邇盛厚・同夫人成子・鷹司和子・池田厚子と御対面の後、奥二の間に移られ、御会食になる。ついで奥三の間において、ヴァイニングと同人帰国後七年間の出来事などにつき御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、供御日録、宮内庁序報、Return to Japan

台風十号により鹿児島県において甚大な被害が生じたため、天皇・皇后より同県に御救恤金を賜う。

○賜与録、宮内庁序報

十三日 金曜日 午前、謁見の間において、この度久邇家顧問を辞した山梨勝之進久邇児子葬儀及び一周年祭の葬儀委員長の拝謁をお受けになる。その際、白羽二重紅葉山御養蚕所製・お品を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

御夕餐後、御文庫において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、同妃より、翌日からシルク・ギャラリーにおいて開催される作品展示会に出品の布地を紹介され、御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 月曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸の指導にて、ナイロン製ネッカチーフにスマイルをお描きになる。○女官長日記、女官日誌

十八日 水曜日 天皇と共に北の間において、国賓として来日の中華民国總統特使總統府秘書長張群のため、宮中午餐を催される。御食後、東の間において御歓談になる。暫くして天皇及び皇太子と共に御退出になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓参内録、外賓接待録、外交贈答録、供御日録、宮内庁庁報

十九日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸の指導にて、スカーフに桔梗・萩の絵を描かれる。○女官長日記、女官日誌

二十日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、去る八月三十一日に国立療養所長島愛生園長を退職した光田健輔の拝謁をお受けになる。長年救らい事業に尽力した光田に慰労のお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報、藤楓協会創立三十周年誌

二十二日 日曜日 夕刻、貴子内親王と共に内廷庁舎において、山口玉糸より指導をお受けになり、花瓶にウサギをお描きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十三日 月曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸の指導により陶器に絵を描かれ、おしろい入りにバラを、キャンディー入りにテッセンをお描きになる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 木曜日 午後、御進講室において、山口玉糸の指導にて、ナイロンのマフラーにナデシコ

昭和三十三年九月

をお描きになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 金曜日 社会福祉法人恩賜財団済生会主催の慈善有料試写会パラマウント映画株式会社・東宝株式会社協賛に御臨席のため、午後六時五十六分御出門、スカラ座東京宝塚劇場四階に行啓される。御着後、一階玄関において、済生会総

裁宣仁親王、同会会長赤木朝治、東宝株式会社社長代理馬淵威雄取締役、同社取締役森岩雄、パラマウン

ト映画株式会社日本支社長妻鳥循雄のお出迎えをお受けになる。それより総裁の先導にてお席に御着席になり、「パラマウントニュース」を、ついで映画「パリの恋人」ロジャー・イーデンス製作、スタンリー・ドーネン監督を御覧になる。

皇太子、正仁親王、貴子内親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子も陪覧する。終わって、九時三分還啓される。この度の行啓に際し、済生会に金員を賜う。○女官長日記、

女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 午後、義宮御殿の黄心樹歌会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌

三十日 月曜日 午前、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になり、天皇・皇后からの鮮鯛代料下賜についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、贈賜録

来る十月一日より昭和三十三年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十月

一日 火曜日 多嘉王二十年式年祭につき、天皇・皇后より京都久邇邸の霊殿に盛菓子を、泉涌寺山内町泉山陵墓地内の久邇宮墓地の墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

三日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸の指導にて、スカーフにナデシコと野菊をお描きになる。○女官長日記、女官日誌

四日 金曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、来る七日の後奈良天皇四百年式年祭に先立ち、国学院大学教授岩橋小弥太より後奈良天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、賜与録

午後、天皇と共に謁見の間において、ニューヨーク・タイムズ社長アーサー・ヘイス・ザルツバーガー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

七日 月曜日 午前、後奈良天皇四百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

天皇と共に北の間において、国賓のインド国首相ジャワハルラール・ネルーのため、宮中午餐を催される。御食後、東の間において御歓談になり、同首相からの献上品が披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答録、供御日録、宮内庁庁報

九日 水曜日 午前、表二の間において、新任のフィンランド国特命全権公使ラグナル・スメーツルンド及び同夫人を御引見になる。引き続き、天皇と共に表一の間において、フィンランド国公使夫妻、この度離任のタイ国特命全権大使ルアン・ピニット・アクソン及び同夫人・息女二名のため、午

昭和三十三年十月

餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、贈賜録、外交贈答録、供御日誌、宮内庁庁報

十一日 金曜日 午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。『孟子』について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、加藤虎之亮関係資料

夕刻、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と共に花蔭亭にお出ましになり、来日中の元皇太子家庭教師エリザベス・グレイ・ヴァイニング及び皇后の進講奉仕者エスター・ビドル・ローズをお招きになり、御夕餐の御陪食を賜う。御食後、御歓談になり、ヴァイニング及びローズにそれぞれお品を賜う。また、ヴァイニングにヴァイオレット・ゴールドン・グレイ<sup>エリザベスの姉</sup>宛てのお品を託される。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、供御日誌、宮内庁庁報、Return to Japan

十四日 月曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、長崎県・宮城県・福島県・千葉県・埼玉県の新嘗祭献穀者に御会釈を賜う。これ以降、この年の新嘗祭献穀者への御会釈は二十四日まで行われる。従来は天皇の御会釈のみであったが、この年より、行事等の差し支えがない限り原則として皇後も御一緒に御会釈を賜うようになり、昭和五十五年十月二十五日まで続けられる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十五日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、米国海軍作戦部長海軍大将アーレイ・アルバート・バーク及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見

録、宮内庁庁報

この日エリザベス・グレイ・ヴァイニング帰国につき、宮内庁御用掛高木多都雄に花束を託され、御使として東京国際空港に差遣される。○女官日誌

十七日 木曜日 午前、神嘗祭につき、賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

十八日 金曜日 午前、内廷庁舎において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社秋季靈璽奉安祭に各都道府県代表沖繩を含むとして参列した遺族等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報、靖国神社事務日誌

天皇と共に内廷庁舎御車寄前において、車馬管理官渋谷忠治ほか一名の説明により、この度新たに購入した御料車ロールス・ロイス並びに供奉車メルセデス・ベンツを御覧になる。ついでお一方にて御料車に乗られ、御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、皇室車両抹消車歴簿

十九日 土曜日 午前、内廷庁舎において、新任のカナダ国特命全権大使ウィリアム・フレデリック・ブル及び同夫人・息女を、ついで英国特命全権大使ダニエル・ウィリアム・ラッセルズを御引見にする。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

午後、楽部にお出ましになり、先着の皇太子・正仁親王・貴子内親王と御対面の後、トミー・モーガンのハーモニカ演奏、ジミー・コンウェイのピアノ伴奏による「火祭の踊り」「月の光」「接続曲」「ルーマニア狂詩曲」のほか、アンコール曲「浜辺の歌」を御一緒にお聴きになる。演奏後、便殿において

昭和三十三年十月

演奏者兩名の拝謁をお受けになり、モーガンには押絵追羽根の額、コンウェイには人形伊集院清子作を賜う。○女

官長日記、女官日誌

二十日 日曜日 学習院においてバザーを開催につき、女官長、女官一名を遣わされる。また、切り

花代料を常磐会に賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十一日 月曜日 午前九時五十八分天皇と共に御出門、交通博物館に行啓される。御着後、同館職員鷹司平通鷹司和子の夫ほかの説明により、鉄道記念日の記念展覧会「国鉄八十五周年記念」を御観覧になる。

終わって十一時三十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁

報、官報

二十二日 火曜日 午前、拝謁の間において、この度チェコスロバキア国へ赴任の特命全権大使木村

四郎七及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内

庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のスペイン国特命全権大使ペラヨ・ガルシア・オライ、イラン国特命全権大使ホセイ・ン・ゴーツ・ナカイ、新任のカナダ国特命全権大使ウィリアム・フレデリック・ブル及び同夫人、英国特命全権大使ダニエル・ウィリアム・ラッセルズのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、贈賜録、外交贈答録、供御日誌、宮内庁

庁報

去る十七日より千代田区有楽町のそごうデパートにて開催中の第三回全日本バラ団体競技展

読売新聞社主催、日本バラ会後援

にバラを御出品になる。○女官日誌、読売新聞

この日、本願寺築地別院において、南方同胞援護会主催の沖繩及び小笠原戦没者第十三回忌慰霊大  
要を執行につき、天皇・皇后より同会に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十五日 金曜日 静岡県において開催される第十二回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて県内  
の産業及び社会福祉の諸施設等を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前九時御出門にな  
り、東京駅より静岡県に向かわれる。最初に静岡県庁を訪ねられ、屋上より静岡市内の復興状況を御  
覧になり、三階の階段下において、県の遺族代表者にお言葉を賜う。次に静岡済生会病院並びに静岡  
療護園を御慰問になる。なお、この御慰問によせて、次の御歌がある。

なぐさめむことの葉もなしいぢけたる足にて描くをさな子を見て

それより静岡県護国神社に立ち寄られ、第一鳥居前より御拝礼になる。なお、戦後における地方の護  
国神社御拝礼は、これを嚆矢とする。ついで日本軽金属株式会社蒲原工場を視察され、午後四時二十  
七分興津町の御泊所水口屋に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供  
奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、天皇皇后両陛下をお迎えして、あけぼの集

二十六日 土曜日 午前十時十五分御泊所水口屋を天皇と共に御出発、県営草薙陸上競技場における  
第十二回国民体育大会秋季大会開会式に臨まれる。午後、静岡市立体育館において国体柔道競技を、  
学校法人雙葉学園体育館において国体バスケットボール競技を御覧になる。それより後藤伍詰株式会  
社を御視察の後、清水港岸壁のお野立所に進まれ、駿河湾を御展望になる。四時十二分御泊所水口屋  
にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十七日 日曜日 午前九時御泊所水口屋を天皇と共に御出発、県立藤枝東高等学校において国体サッカー競技を、県立掛川西高等学校において国体レスリング競技を御覧になる。同校において御昼食をとられた後、丸磐温室園芸組合を御視察になる。さらに浜松野口公園バレーボール競技場において国体バレーボール競技を御覧になった後、内外編物株式会社浜松工場を視察される。午後四時五十分浜松市の御泊所聴濤館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十八日 月曜日 午前九時御泊所聴濤館を天皇と共に御出発、県立三方原学園<sup>児童自立支援施設</sup>を御視察の後、電源開発株式会社秋葉建設所にお着きになる。それより佐久間ダムの各施設及び佐久間発電所内を視察される。秋葉建設所に寄られた後、午後四時五十分御泊所聴濤館にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

去る二十六日国体ラグビー競技中に負傷し、その後死去した山本卓<sup>愛媛代表</sup>の告別式がこの日行われ、霊前に菓子を賜う。○幸啓録

二十九日 火曜日 午前九時十分御泊所聴濤館を天皇と共に御出発、吉原市体育館において国体卓球競技を御覧になった後、社会福祉法人芙蓉会、大昭和製紙株式会社鈴川工場を御視察になる。午後は沼津市の県立沼津西高等学校体育館において国体フェンシング競技を御覧になり、株式会社芝浦機械製作所を御視察になる。午後四時三十分伊豆長岡町の御泊所三養荘に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

三十日 水曜日 午前、天皇と共に御泊所三養荘の庭を御散策になる。ついで天皇と共に裏山に登ら

れ、江川太郎左衛門の反射炉を御展望になる。御泊所にお戻りになり、御昼食の後、天皇と共に御泊所を御出発、沼津駅より東京駅を経て、午後四時二十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

三十一日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

日本バラ会展 去る二十八日より翌月三日まで日本橋白木屋にて開催 を主催する日本バラ会にバラの切り花を賜う。翌月二日にも同じくバラの切り花を同会に賜う。○女官長日記、日本ばら会創立四〇周年記念誌、読売新聞

## 十一月

一日 金曜日 午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮の漢文の進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、加藤虎之亮関係資料

三日 日曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、全日本健康優良学校児童表彰会 朝日新聞社主催、文部省・厚生省 で特選児童に選ばれた健康優良児及び全日本健康優良学校の表彰校代表等に御会釈を賜う。同会

長村山長拳 朝日新聞社取締役会長 の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

四日 月曜日 午後、天皇と共に皇居広庭において、園遊会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、園遊会録、宮内庁庁報

八日 金曜日 この日国賓としてイラク国皇太子アブドウル・イラー来日につき、午前、天皇と共に奥二の間において、イラク国駐劄特命全権公使石黒四郎より、イラク国及びヨルダン国の風土・習俗、王室について、また現在の中東情勢一般についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。『孟子』について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、加藤虎之亮関係資料

九日 土曜日 正午前、天皇と共に謁見の間において、国賓のイラク国皇太子アブドウル・イラーと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、同国王ファイサル二世より同国皇太子を通じ、皇后にアル・ハシミ勲章大綬章が贈られる。御会見後、同国からの御贈進品が披露される。ついで天皇と共に北の間において、宮中午餐を催される。この度の来訪に際し、天皇・皇后より同国皇太子に柿釉染錦草花文大皿を、同国王に色絵草花文八角鉢をそれぞれ御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、贈賜録、賜与録、供御日録、宮内庁庁報、官報

午後、義宮御殿にお出ましになり、掌典長甘露寺受長・侍従職参事東園基文をお相手にゴルフをされる。○女官長日記、女官日誌

この日長福寺久邇宮家に縁のある尼門跡及び青蓮院にて久邇侁子追悼法要を執行につき、菓子・香料をそれぞれお供えになる。○女官長日記、贈賜録

十二日 火曜日 午前、拝謁の間において、ベトナム共和国より帰国の特命全権大使小長谷綽及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

午後、拝謁の間において、本日付で東宮大夫兼東宮侍従長に任命された鈴木菊男前管理部長の拝謁をお受け

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報、官報

十三日 水曜日 午後一時二十六分御出門、豊島区目白町に今春落成した学習院同窓会館に行啓され、

常磐会の事業を御視察になる。会館に御着後、理事長伏見朝子の先導により御休所檜のに入られ、故雍

仁親王妃勢津子、崇仁親王妃百合子、北白川房子、東久邇聡子、賀陽敏子と御対面になる。ついで藤

の間にて実演の茶道を竹の間より御覧になり、引き続き竹の間、楓の間において書道・華道・盆景・

俳句展示及び製作品を御覧になる。続いて割烹室において料理実習を、また竹の間より藤の間におけ

る和裁早縫法をそれぞれ御覧になる。終わって竹の間・楓の間において、会員十回以上  
の卒業生・役員十一回から二十  
回以上の評議員

講師約三十名にそれぞれお言葉を賜う。ついで御休所にて皇族・元皇族・御同級生約十名等と実習料

理のサンドウィッチほかの茶菓をお召し上がりになり、二階のすみれの間において、手芸の製作品を

御覧になった後、橘の間・桐の間におけるバレエの練習を橘の間より御覧になる。四時三十五分還啓

される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

内廷庁舎に貴子内親王と御一緒にお出ましになり、宮内庁総合美術展を御覧になる。御出品の絵画三

点を含め、各展示品を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌

十五日 金曜日 午前、内廷庁舎において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴き

になる。○女官長日記、女官日誌

日本赤十字社創立八十周年記念赤十字大会に御臨席のため、午後一時十五分天皇と共に御出門、日比

谷公会堂に行啓される。御着後、便殿において名譽副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで厚生大臣堀木謙三・社長島津忠承の拝謁をお受けになる。

それより式場に臨まれ、天皇のお言葉等に続き、被表彰者総代の松井義重日本赤十字社理事・上田米蔵有功章受章特別社員・

市川清矩山形県支部西村山地区河北町分区長・大西駒広香川県支部三豊地区仁尾町分区長の四名に名譽総裁として表彰状を御親授になる。社長よ

り表彰等の後、式場を御退場になり、二時六分還啓される。なお、同大会挙行に際して、同社殉職救護員及び一般役職員物故者慰霊祭が行われるに当たり、生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報、日本赤十字社社史稿、事業年報（日本赤十字社）

十六日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌

十八日 月曜日 午後、御進講室において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌

十九日 火曜日 午前、御進講室において、今般伊勢に出発する北白川房子神宮祭主の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十二日 金曜日 午前、内廷庁舎において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 月曜日 午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された厚生省関係功労者等に御会釈を賜う。厚生大臣堀木謙三の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十六日 火曜日 午前、謁見の間において、京都在住の旧堂上会総代清岡長言の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

御進講室において、川村学園創立者川村文子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、去る二十一日に結婚した賀陽邦寿・同夫人邦子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より同夫妻へ洋服地及び万那料をそれぞれに賜う。これに先立ち、結婚に当たり天皇・皇后より賀陽恒憲邦寿の父へ清酒及び鮮鯛代料を、邦寿に白羽二重をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

天皇と共に拝謁の間において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌  
午後、天皇と共に花蔭亭通用門外において、全国更生保護大会において法務大臣より表彰された更生保護事業功労者等に御会釈を賜う。保護司高田貞治の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十八日 木曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。御昼餐後、天皇と共に御文庫において、元皇后宮女官等より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十九日 金曜日 午前、御文庫において、尾上柴舟歌人・書家の遺墨を御覧になる。午後、内廷庁舎において、東洋大学名誉教授加藤虎之亮より『孟子』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、加藤虎之亮関係資料

十二月

二日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分御出門、十一時三十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

五日 木曜日 午後、拝謁の間において、ポーランド国へ赴任の特命全権大使太田三郎及び同夫人、ビルマ国へ赴任の原馨及び同夫人、エチオピア国へ赴任の特命全権公使徳永太郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、典式録、拝謁録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

八日 日曜日 夕刻、拝謁の間において、天皇及び昨日より葉山滞在中の皇太子・正仁親王・貴子内親王と共に、海上保安庁長官島居辰次郎より挨拶をお受けになる。ついで同所において、この年七月二十五日、測量船「拓洋」に天皇及び正仁親王が御乗船の際の記録映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

九日 月曜日 この日午後、去る六日死去の九条良叙貞明皇后の御弟の葬儀・告別式が挙行につき、女官今城誼子を非公式に御差遣になる。去る七日、霊前に天皇・皇后より盛菓子、皇后より切り花を賜う。

○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

十日 火曜日 午後二時一分葉山御用邸を天皇と共に御出門、三時四十二分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸より指導をお受けになり、シロサザンカ等を生される。○女官長日記、女官日誌

十三日 金曜日 午前、内廷庁舎において、侍従入江相政より『源氏物語』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

この度インド国へ赴任の特命全権大使那須皓及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。皇太子以下十九方の皇族・元皇族等が出席する。御食後、表三の間においてお茶を供され、御歓談になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、菊栄親睦会録、供御日録、宮内庁庁報

来る十六日より五日間にわたり都下各医療施設等の参加を得て、歳末無料健康相談を実施する東京都に、金一封を賜う。○女官長日記、賜与録、宮内庁庁報

十四日 土曜日 午前、内廷庁舎において、新任のエジプト国特命全権大使ムースタファ・ユーセフ、ポーランド国特命全権大使タデウシユ・ゼブロフスキー及び同夫人、エチオピア国特命全権公使ゴイトム・ペトロスをそれぞれ御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

十六日 月曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 天皇と共に表一の間において、新任のトルコ国特命全権大使スレイヤ・アンデリマン、エジプト国特命全権大使ムースタファ・ユーセフ、エチオピア国特命全権公使ゴイトム・ペトロスのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、供御日録、

宮内庁庁報

午後、天皇と共に正仁親王留守中の義宮御殿へお出ましになり、義宮付職員・東宮職職員の合同写真  
展覧会を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

先般、カンボジア国を訪問した内閣総理大臣岸信介を通じ、同国王ノロドム・スラマリットより天  
皇・皇后に銀製茶器が贈られる。これに対し、この日、天皇・皇后からの謝意を同国王に伝達する  
よう依頼する旨が、宮内庁長官より外務大臣に通知される。○女官長日記、外交贈答録

十八日 水曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、宮殿造営調査につき管理部長として去る八月  
二十七日より十一月八日まで欧米諸国へ出張した東宮大夫兼東宮侍従長鈴木菊男より、欧米視察箇所  
の概要及び各国王室に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、  
進講録

十九日 木曜日 午前、内廷庁舎において、エスター・ビドル・ローズより英語の進講をお聴きにな  
る。終わって、この年の最終進講につき、御前にてお品を賜う。○女官長日記、女官日誌

午後、貴子内親王と共に楽部にお出ましになり、トマ作曲歌劇「ミニヨン」序曲、ドヴォルザーク作  
曲交響曲第九番「新世界より」第二楽章等の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、楽事録

二十日 金曜日 午前、内廷庁舎において、この度メキシコ国より帰国の特命全権大使久保田貫一郎  
及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮内庁庁報  
午後、天皇と共に謁見の間において、前米国統合参謀本部議長海軍大将アーサー・ウィリアム・ラド  
フォード及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、  
宮内庁庁報

二十一日 土曜日 事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また日本赤十字社病院及び恩賜財団済生会病院の救助収容患者に手拭い一筋ずつを賜う。さらに天皇・皇后より日本赤十字社に事業御補助金を賜う。なお、歌道御奨励の思召しをもって、この月、皇后より向陽会に対して恒例の賜金がある。○女官長日記、例規録、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報、日本赤十字社社史稿

二十三日 月曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。ついで天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と御文庫において御昼餐を御会食になり、御食後、お揃いで元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十四日 火曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 水曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午前、謁見の間において、新任のチェコスロバキア国特命全権大使ラディスラフ・シモヴィツチ及び同夫人、レバノン国特命全権公使マホームド・バンナ及び同夫人を順次御引見にする。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

午後、義宮御殿にお出ましになり、黄心樹歌会に臨まれる。終わって同御殿における宴席に、天皇及び正仁親王・鷹司和子と共に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十七日 金曜日 参与の小泉信三・坪井忠二・松平信子・勝沼精蔵・加藤武男を天皇と共に招き

昭和三十三年十二月

になり、表一の間において午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典  
式録、宣召録、供御日録

二十九日 日曜日 歳末につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、故雍仁親王妃始め皇族・元皇  
族十四方より祝詞言上を、ついで宮内庁長官始め総代より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官  
日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

昭和三十三年（西曆一九五八年） 五十五歳

一月

一日 水曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に拝謁の間において、皇太子、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子の祝賀をお受けになり、ついで北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・外国交際官等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、天皇と共に、元皇族、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報

二日 木曜日 天皇と共に皇居広庭において、午前三回と午後六回の計九回、新年の一般参賀をお受けになる。一回目の参賀お出ましの後、天皇と共に表三の間において、元宮内庁長官及び元側近奉仕者・元部局長の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報、官報

三日 金曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

新年につき、天皇と共に拝謁の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

四日 土曜日 雍仁親王五年式年祭につき、皇后宮使として、秩父宮邸の靈殿に侍従山田康彦を、豊島岡墓地内の墓所に侍従徳川義寛を差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より靈殿に盛菓子・榊を、墓所に榊を、写真に切り花・果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、贈賜録、宮内庁庁報

五日 日曜日 午前、天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日の雍仁親王五年式年祭についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 火曜日 新年につき、午前、御進講室において、恩師及び御学友・御同級生の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、天皇と共に拝謁の間において、元女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

八日 水曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。日本学士院会員小宮豊隆より「世阿弥の能楽理論」、一橋大学教授中山伊知郎より「日本経済の特質」、岡山大学教授坪井誠太郎より「岩石学上から見た微量元素」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、講書始録、儀式録、宮内庁庁報、官報

九日 木曜日 午前、拝謁の間において、この度メキシコ国へ赴任の特命全権大使千葉皓及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「雲」

であり、皇后宮御歌は次のとおり。

### 皇后宮御歌

つぎつぎにかたちをかへて白雲のあを空とほくながれゆく見ゆ

儀終了後、天皇と共に旧北御車寄付近において、預選者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、歌会始録、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に御文庫において、寒中御機嫌奉伺のため参殿の北白川房子の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十一日 土曜日 午前、御進講室において、元皇太后宮女官高松千歳子・元皇太后宮職御用掛岩倉棧子の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

午後、義宮御殿にお出ましになり、カルタ会に臨まれる。皇太子始め皇族・元皇族等が参集する。天皇も途中から同会に臨まれる。また、同御殿において御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌

十二日 日曜日 御文庫において、天皇及び皇太子・貴子内親王と御昼餐を御会食になる。以後、この年も皇太子始め皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌

十三日 月曜日 午前、内廷庁舎において、山口玉糸と書き初めを行われる。○女官長日記、女官日誌  
天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時三十三分御出門になり、四時十分御用邸に御到着にな

昭和三十三年一月

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

この日、松平充子御母久蓮  
梶子の姉が死去し十日服喪されることとなったが、天皇の仰せにより、内廷において

は服喪期間中も通常どおりお過ごしになる。なお、松平充子の霊前に切り花・野菜を、葬儀に際して盛菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、皇親録、贈賜録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午前、エスター・ビドル・ローズの英語の進講をお聴きになる。以後、この年を通じて、しばしばエスター・ビドル・ローズより英語の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

二十四日 金曜日 午後二時一分天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時四十一分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

二十八日 火曜日 天皇と共に表一の間において、新任のポーランド国特命全権大使タデウシ・ゼブロフスキー及び同夫人、チエコスロバキア国特命全権大使ラディスラフ・シモヴィツチ及び同夫人、レバノン国特命全権公使マホームード・バンナ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十九日 水曜日 午前、拝謁の間において、この度インド国より帰国の特命全権大使吉沢清次郎及び同夫人、パナマ国へ赴任の特命全権公使二宮謙及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

午後、山口玉糸をお召しになり、かねてお描きになっていた『枕草子』の絵をお見せになる。○女官長日記、女官日誌

## 二月

五日 水曜日 午前、楽部へお出ましになり、先着の皇太子・鷹司和子と共に第七回フランス国政府派遣文化使節として来日のジャン・フルニエによるヴァイオリン演奏、及び同夫人ジネット・ドワイアンによるピアノ演奏をお聴きになる。終わって御休所において同夫妻を御引見になり、御握手を賜う。なお夫妻にそれぞれ御紋付青磁花瓶を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、賜与録

久邇英子朝融王第四王女、御姪 昨年成年に達するにつき、午後、天皇と共に御文庫において、久邇朝融御兄及び英子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より英子に白羽二重を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

七日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三分御出門になり、十一時四十分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十三日 木曜日 午後、近くドイツ連邦共和国に出発の聖心愛子会会員加藤ユステイチア以下の修道女八名の拝謁をお受けになり、励ましのお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓録

十四日 金曜日 午後二時天皇と共に葉山御用邸を御出門になり、三時四十分還啓される。○女官長日記

昭和三十三年三月

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 午前、拝謁の間において、この度英国より帰国の特命全権大使西春彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、ドイツ連邦共和国学術会議会員リヒャルト・クーン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十四日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、国際通貨基金専務理事ペール・ヤコブソン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報  
この日、天皇・皇后より体育御奨励のため、日本軟式庭球連盟に銀製御紋付トロフィー二個を賜う。  
当該トロフィーは、天皇より昭和二十三年八月に、皇后より昭和二十五年九月に下賜されたが、経年による褪色・毀損のため、過日、同連盟よりその返納とこれに代わるトロフィーの交付願いが出された。この度のトロフィーは、従来の真鍮銀メッキから銀製に改められる。○賜与録

### 三月

二日 日曜日 貴子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に内廷庁舎において、同内親王と御対面になる。ついで天皇及び貴子内親王と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官

等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三日 月曜日 午前、天皇と共に東の間において、文化財保護委員会委員長河井弥八、及び社団法人日本工芸会理事長西沢笛畝、文化財保護委員会小山富士夫、同杉原信彦の拝謁をお受けになる。ついで小山・杉原・西沢の説明にて宮殿裝飾用の工芸品十八点を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 木曜日 この日、満五十五歳のお誕生日を迎えられる。

午前、拝謁の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで西の間において、皇太子始め皇族、元皇族、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、拝謁の間において御縁故者及び元皇太后宮女官等、続いて元宮内庁長官及び元側近奉仕者の拝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の奉拝を、皇后御進講室において元皇后宮女官・元女官等の拝賀をお受けになる。

午後、皇后御進講室において元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授野口勝枝・同松島彝及び御学友・御同級生六名の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、儀式録、典式録

この日、国賓ラオス国内閣総理大臣スーヴァナ・プーマ及び同夫人来日につき、天皇・皇后より御使として式部官長原田健を東京国際空港に差し遣わされる。○外賓接待録、典式録、宮内庁庁報、外交記録

七日 金曜日 天皇と共に北の間において、国賓ラオス国内閣総理大臣スーヴァナ・プーマ及び同夫人のため、宮中午餐を催される。後刻、同国内閣総理大臣夫妻参内に対する御答礼のため、天皇・皇

後の御使として式部官長原田健を白金迎賓館に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、外賓接待録、外賓参内録、典式録、宮内庁庁報

八日 土曜日 祐子内親王三十年式年祭につき、午後一時二十四分御出門になり、天皇と共に豊島岡墓地に行啓される。御着後、祐子内親王の墓所を天皇に続き御拝礼になる。ついで故雍仁親王妃勢津子のお出迎えをお受けになり、雍仁親王墓を天皇に続き御拝礼になる。終わって二時十六分還啓される。なお、これに先立ち、この日午前、祐子内親王三十年式年祭が行われ、女官原田リツを同墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より同墓所に盛菓子及び榊をお供えになる。夕刻、同式年祭に当たり、天皇と共に御文庫において、皇太子、正仁親王、故雍仁親王妃、宣仁親王妃喜久子、北白川房子、東久邇聡子、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司平通・同夫人和子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、幸啓録、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十一日 火曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のドイツ連邦共和国特命全権大使ハンス・クロル及び同夫人、イタリア国特命全権大使クリストフォロ・フラカッシー・ラツテイ・メントーネ及び同夫人、コロンビア国特命全権公使エドワルド・ロドリゲス・カスチリヨをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

この日、千代田区の九段会館において、厚生省主催によるフィリピン方面戦没者追悼式執行につき、天皇・皇后より生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時五分御出門になり、十一時三十九分

御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 夕刻、近く赴任のドミニカ国駐劄特命全權大使小長谷緯及び同夫人、アルゼンチン国駐劄特命全權大使津田正夫及び同夫人、ベネズエラ国駐劄特命全權大使広瀬節男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、拝謁録、典式録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 午前十時三十三分天皇と共に葉山御用邸を御出門になり、午後零時十分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十一日 金曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十二日 土曜日 常磐会主催救らい慈善観劇会に御臨席のため、正午御出門、明治座へ行啓される。

常磐会理事長伏見朝子ほかのお出迎えをお受けになり、二階の観覧席において、先着の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、「青春問答」三幕を御覧になる。

それより一旦御休所に入られ、明治座社長新田松江及び出演の喜多村緑郎・花柳章太郎・水谷八重子の拝謁をお受けになる。再び席にお戻りになり、「残菊物語」四幕を御覧になる。今般明治座新築につき、第二幕が終わった際、明治座二階廊下付近を御巡覧になる。舞台終了後、午後四時四十三分還御される。なお、この度の行啓に当たり、常磐会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓

昭和三十三年三月

録、宮内庁庁報

天皇と共に御文庫において、来る四月十三日より二十六日までフランス国・ベルギー国を訪問する宣仁親王・同妃喜久子、並びに皇太子・正仁親王・貴子内親王、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌、典式録、

宮内庁庁報

二十四日 月曜日 午後、謁見の間において、新任のスペイン国特命全權大使アントニオ・ヴィリヤシエロス・イ・ベニト及び同夫人、イラン国特命全權大使アバス・アラム、アルゼンチン国特命全權大使ロドルフォ・ガルシア・アリアス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、

謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 昭和三十一年度学習院大学卒業式に御臨席のため、午前九時十五分天皇と共に御出門、同大学に行啓される。御着後、便殿において同大学理学部を卒業する正仁親王と御対面になる。式場に臨まれ、卒業学生総代及び正仁親王への卒業証書授与等を御覧になる。十一時十七分還啓される。翌二十七日、天皇・皇后より学校法人学習院に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に表御座所において、この日学習院大学理学部を卒業した正仁親王よりお礼言上をお受けになる。夕刻、天皇及び正仁親王、並びに皇太子・貴子内親王と共に御文庫において、お祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮侍従日誌

二十七日 木曜日 日本赤十字社第七回通常代議員会に御臨席のため、午前十時十四分御出門、日本

赤十字社に名誉総裁として行啓される。御休所において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、衆議院議長益谷秀次・参議院議長松野鶴平・厚生大臣堀木鎌三・日本赤十字社社長島津忠承・同社副社長石坂泰三・同葛西嘉資の拜謁をお受けになる。それより式場<sup>講堂</sup>に臨まれ、島津社長の開会の辞に続いて、金色有功章受章者総代三名、章銀の有功章受章者総代三名、金色特別社員章受章者総代三名、章銀の特別社員章受章者総代三名にそれぞれ各章並びに章記を御親授になり、次のお言葉を賜う。

第七回通常代議員会に臨み、かねて赤十字のために熱心に尽力している皆さんに親しく接することのできましたことを、まことに嬉しく思います。

日本赤十字社は、創立以来今日に至るまで長い年月の間、幾多の有益な事業を行い、赤十字の理想とする人道的任務の達成に努力してきましたが、さきに赤十字社連盟の執行委員に選任され、その国際的地位が一段と高められたのを機会に、社員並びに役員は、心を新たにし、内は事業の基礎を固めて、常に国民の期待に副うよう努めるとともに、外は各国赤十字と提携して、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう望んでやみません。

終わって社長の奉答をお受けになり、堀木厚生大臣の挨拶の後、御退場になる。総裁室において国際赤十字関係の外国人十名に御会釈を賜い、写真場において出席社員と記念撮影をお受けになり、十一時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十八日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、ブラジル国経済開発銀行総裁ルーカス・ローペス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内

昭和三十三年四月

庁序報

天皇と共に表三の間において、学習院長安倍能成始め、正仁親王の修学関係者約六十名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十一日 月曜日 午前、天皇と共に内廷庁舎の御廊下において、去る七日御引見のラオス国内閣総理大臣スーヴァナ・プーマより天皇に献上された青銅製太鼓を御覧になり、その由来等につき侍従徳川義寛の説明をお聞きになる。○侍従日誌、外交贈答録

天皇と共に表一の間において、新任のスペイン国特命全権大使アントニオ・ヴィリヤシエロス・イ・ベニト及び同夫人、イラン国特命全権大使アバス・アラム、アルゼンチン国特命全権大使ロドルフォ・ガルシア・アリアス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

#### 四月

一日 火曜日 日本赤十字社及び財団法人結核予防会共催の特別招待観劇会に御臨席のため、午後七時十一分御出門、東京宝塚劇場に行啓される。御着後、二階お席にお着きになり、宝塚歌劇星組によるグランドレビュー「花詩集」を御覧になる。皇太子・正仁親王・貴子内親王・故雍仁親王妃勢津子が陪覧する。九時十分還啓される。この度の行啓につき、日本赤十字社・財団法人結核予防会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁序報

三日 木曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、

御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

四日 金曜日 午前、天皇と共に御文庫において、来る十三日よりフランス国及びベルギー国訪問に出発する宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、儀礼規範

内廷庁舎において、この度ドミニカ共和国より帰国の特命全権大使吉田賢吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

五日 土曜日 大分県において行われる昭和三十三年年度植樹行事に御臨場、併せて山口・大分・宮崎・鹿児島・熊本・福岡各県内の地方事情を御視察のため、大分県始め六県に天皇と共に行啓される。午前八時四十五分御出門、原宿駅より神戸駅を経て、午後六時十分神戸市の御泊所オリエンタルホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

六日 日曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所オリエンタルホテルを御出発、神戸駅より御乗車になり、下関駅へ向かわれる。途中、岡山駅において御停車の際、車中にて池田隆政・同夫人厚子と御対面になる。下関駅にて御下車になり、午後七時九分御泊所春帆楼に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、両陛下をお迎えして

元侍従武官長奈良武次この日満九十歳を迎えるにつき、侍従入江相政を同人邸に差し遣わされ、天皇・皇后より菓子を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

七日 月曜日 午前九時天皇と共に御泊所春帆楼を御出発、安徳天皇陵にお着きになり、天皇に続き

同陵を御拝礼になる。ついで隣接する赤間神宮に移られ、天皇に続き御拝礼になる。それより日本道路公団関門トンネル管理事務所に御到着になり、この年三月九日に開通したトンネルの模型を御覧になった後、エレベーターにて地下約七十メートルの人道入口まで降りられる。御見学の後、下関水族館を御視察になる。終わって関門トンネル専用道路を経由して福岡県に入られ、門司市文化会館にお着きになり、屋上より市内の戦後の復興状況を御覧になる。次に門司港駅より御乗車になり、大分県の鶴崎駅にて下車され、住友化学工業株式会社大阪製造所鶴崎工場、さらに大分市立荷揚町小学校を御視察になる。なお、農薬を生産・研究する鶴崎工場においては稲の害虫であるニカメイガの幼虫やツマグロヨコバイを顕微鏡にて御観察になり、荷揚町小学校においては児童による討論の様子を御覧になる。午後四時五十五分別府市の御泊所白雲山荘に御到着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報、兩陛下をお迎えして、兩陛下と大分県のすがた

八日 火曜日 午前十時十分天皇と共に御泊所白雲山荘を御出発、国立別府保養所を御訪問になる。

御視察の際、身体障害者の更生に特に御関心をお示しになり、編み物の練習をしていた下半身不随の女性にお言葉を賜う。ついで植樹行事が開催される志高湖に隣接する植栽地に向かわれる。御着後、

お野立所に進まれ、大分県知事木下郁・国土緑化推進委員会委員長益谷秀次衆議院議長・同会顧問河井弥八

の介添えをお受けになり、天皇に続きスギの苗木三本をお手植えになる。それより大分県温泉熱利用農業研究所に移られ、同所の御播種場において、天皇はクロマツ・イチヨウを、皇后は国土緑化推進委員会副委員長徳川宗敬の介添えにてヒノキ・イチヨウを御播種になる。御昼餐後、同施設の温室・植物展示棚を視察される。次に財団法人別府整枝園を御視察になり、途中、歩行練習中の児童等に励

ましのお言葉を賜う。午後三時二十分御泊所白雲山荘にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

九日 水曜日 午前九時十五分天皇と共に御泊所白雲山荘を御出発、大分市の高崎山自然動物園を御見学になる。それより大分駅・宮崎駅を経て宮崎神宮にお着きになり、神殿に進まれ天皇に続き御拝礼になる。ついで同神宮社務所脇の境内御播種地において、天皇はクロマツを、皇后は県林業者代表島津久厚の介添えをお受けになりアカマツを御播種になる。終わって午後三時五十分御泊所の宮崎観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十日 木曜日 午前九時二十五分天皇と共に御泊所宮崎観光ホテルを御出発、宮崎県産業奨励館、宮崎県児童福祉園、宮崎県農業試験場、航空大学校を順次御視察になる。児童福祉園においては、報道陣のフラッシュに怯えた児童をあやされる。航空大学校を御発の直後、隣接する宮崎空港エプロンにおいて催された児湯郡西都町有志による郷土芸能「臼太鼓踊」を、車中より御覧になる。次に宮崎県庁にお着きになる。庁舎屋上より宮崎市内の戦災からの復興状況を視察される。御昼餐後、宮崎駅より鹿児島駅を経て、午後四時三十分鹿児島市の御泊所岩崎谷荘に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓記念誌、行幸啓誌

十一日 金曜日 この日は昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中は御泊所において天皇と共に過ごされ、外出を控えられる。この間、天皇と共に、元公爵島津忠重御叔父、島津興業株式会社社長及び同夫人伊楚子元宮内府御用掛並びに元皇后宮女官長島津治子の拝謁をお受けになる。

午後一時十分、雨の中御泊所岩崎谷荘を天皇と共に御出発になり、鹿児島県庁を御訪問になる。同所

において県政資料を御覧になり、ついで鹿児島県観光物産館、絹織物大島紬を生産する株式会社久野商店、社会福祉法人鹿児島県援護会が経営する仁風寮、製綿業を営む山形屋産業合名会社を順次御視察になる。久野商店においては大島紬の泥染めの工程をつぶさに御覧になり、染色の釜の泥について御質問になる。終わって四時十五分御泊所岩崎谷荘にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内

舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十二日 土曜日 午前十時二十分天皇と共に御泊所岩崎谷荘を御出発、城山公園にて鹿児島市内を御展望になった後、展望台の横にある、大正九年に当時皇太子であった天皇がお手植えになったイチウの木と、同十二年に皇后<sup>良子</sup>女<sup>王</sup>がお手植えになったイチウの木を御覧になり、その生長をお喜びになる。次に鹿児島大学において各学部の研究成果を示す展示を御覧になり、ついで日本専売公社鹿児島地方局を御視察になる。御昼餐後、寺山公園に移られる。霧雨により御展望をお取りやめになり、直ちに御播種地において、天皇はウシネマツを、皇后は鹿児島緑化推進委員会委員長大坪静夫の介添えをお受けになりカワベマツの種をお播きになる。次に鹿児島県鹿児島種畜場、尚古集成館を御視察になる。尚古集成館においては故久邇<sup>御</sup><sub>母</sub><sup>子</sup>の生前の写真に目を留められる。ついで隣接する磯島津別邸内を御覧になる。殊に故久邇<sup>御</sup><sub>母</sub><sup>子</sup>が幼少時に居住した部屋、大正十二年に当時御婚約中であつた皇后<sup>良子</sup>女<sup>王</sup>が御両親と一緒にお手植えになった庭園内のマツなどを御覧になる。お帰りの際、門前において島津家関係者一同に御会釈を賜い、御自ら天皇に御紹介になる。午後五時三分御泊所岩崎谷荘にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

十三日 日曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所岩崎谷荘を御出発、鹿児島駅より熊本県の松橋駅に御到着、ついで熊本県松橋療護園・宇土町水稲早期栽培地・熊本県産業館を順次御視察になる。熊本県松橋療護園においては、レース編みをする少女の手の火傷についてお尋ねになり、労りのお言葉を賜う。午後四時二十五分御泊所の熊本県知事公舎に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十四日 月曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所熊本県知事公舎を御出発、昭和二十八年六月の水害で最も被害の大きかった熊本市内の子飼橋付近より復旧状況を御覧になる。ついで社会福祉法人リデル・ライト記念養老院を御訪問になる。貞明皇后がらい病患者に寄せて詠まれた御歌の歌碑を御覧になった後、収容者を慰問される。その後、立田山頂上御展望所において熊本市街を御展望になり、昨年七月の水害からの復興状況を御覧になる。さらに熊本県蚕種協同組合、水前寺公園を巡られ、知事公舎にお戻りになる。蚕種協同組合においては、五齢蚕の雄雌鑑別を実演中の女性に、熱心に御質問になる。

午後一時三十分、天皇と共に再び知事公舎をお発ちになり、阿蘇郡長陽村乙ヶ瀬のお手植地にお着きになり、熊本県知事桜井三郎及び同県議会議長二神勇雄の介添えをお受けになり、天皇に続きスギの苗をお手植えになる。終わって三時四十分御泊所の阿蘇観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、社会福祉法人リデル・ライト記念老人ホーム所蔵資料、熊本県蚕種協業組合所蔵資料、熊本県庁所蔵資料、熊本市役所所蔵資料

十五日 火曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所阿蘇観光ホテルを御出発、阿蘇火口駅より阿蘇山

中岳火口壁上まで御徒歩にて登られる。噴火口を御覧になり、続いてさらに高所に登られ、火口内の噴煙などを御覧になる。午後零時十分御泊所阿蘇観光ホテルに戻られる。午後は御静養のため天皇と共に御泊所に御滞在になり、今回の行幸啓に随行する宮内記者会会員の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十六日 水曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所阿蘇観光ホテルを御出発、赤水駅より福岡県小倉駅を経て、午後三時五分、福岡県林業試験場小倉分場に御到着になる。同所を視察され、同所玄関前に天皇と共にお出ましになり、それぞれイチョウ一本をお手植えになる。ついで市内でベニヤ板の製板を行う段谷産業株式会社、戸畑市の八幡製鉄株式会社八幡製鉄所戸畑工場を御視察になる。終わって五時十分御泊所西日本工業クラブ会館に御到着になる。御夕食後、御泊所二階ベランダより、戸畑市民による県指定無形文化財「祇園大山笠」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、供御録、宮内庁庁報、官報

十七日 木曜日 午前九時二十分天皇と共に御泊所西日本工業クラブ会館を御出発、戸畑駅より筑前新宮駅を経て、糟屋郡和白町の福岡特殊ガラス工場、ついで福岡市の福岡県福岡公共職業補導所を御視察になる。終わって午後零時三分御泊所博多帝国ホテルに御到着になる。御昼餐後、お一方にて株式会社電気ビルで開催の日本赤十字社九州七県支部連合社員大会並びに御親授式に名誉総裁として御臨席になる。御休所において名誉副総裁故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、厚生大臣堀木謙三・日本赤十字社社長島津忠承及び九州七県の各支部長の拝謁をお受けになる。ついで式場にお出ましになり、支部長代表土屋香鹿<sup>福岡県知事</sup>の式辞に続き、金色有功章受章者総代七名、章銀の有功章受章者総代七

名、特別社員章拝受者総代一名にそれぞれ各章・章記を御親授になる。社長特別表彰に続き、次のお言葉を賜う。

日本赤十字社九州七県連合社員大会に臨み、日頃から赤十字の事業に熱心に努力している皆さんに親しく接することができて、まことに嬉しく思います。

関係七県支部の事業は、年々充実してきましたが、国民の期待に副つて赤十字の使命を果たすためには、更に一般の深い理解と支援とを得て、事業の進展を期さなければならぬと思います。

この際、関係者一同の一段の努力を望んでやみません。

終わって支部長代表の奉答をお受けになり、特別表彰者総代の答辞、島津社長の挨拶・堀木厚生大臣の祝辞の後、御退場になる。再び式場にお出ましになり記念撮影をお受けになり、御泊所にお戻りになる。

三時三十分、天皇と共に御泊所を御出発になり、西公園展望所より博多湾を御展望になる。終わって四時二十分御泊所博多帝国ホテルにお戻りになる。それより天皇と共に七階ホールの博多人形製作実演場において、製作過程を御覧になる。その際、皇后は絵の具のぼかし等についてお尋ねになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

十八日 金曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所博多帝国ホテルをお発ちになり、板付空港に向かわれる。御着後、同所において福岡県を訪問中の故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、御一緒にお召し機にて同空港を御出発になる。東京国際空港に御到着の後、午後零時五十分皇居に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十一日 月曜日 午前、拝謁の間において、この度英国へ赴任の特命全権大使大野勝巳並びに同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

午後、拝謁の間において島津忠重及び同夫人伊楚子の拝謁をお受けになり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十二日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、昨年成年に達した北白川道久<sup>永久王第一王子</sup>及び北

白川房子<sup>道久の祖母</sup>の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より道久に万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に北の間において、国賓トルコ国首相アドナン・メンデレスのため、宮中午餐を催される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、外賓参内録、典式録、宮内庁庁報、外交記録

天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社春季霊璽奉安祭に各都道府県代表<sup>沖繩を含む</sup>として参列した

遺族等に御会釈を賜い、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

宣召録、典式録、宮内庁庁報、靖国神社社務日誌

二十五日 金曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、身体障害者福祉法施行八周年記念大会に当たり、厚生大臣から表彰された身体障害者で自立更生し他の模範となる者、及び身体障害者の更生援護に功労のあった者等に御会釈を賜う。厚生事務次官田辺繁雄より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表三の間において、松影会<sup>宮内省・宮内府・宮内庁元部局長以上の親睦会</sup>会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十六日 土曜日 夕刻、天皇と共に御文庫において、この日フランス国及びベルギー国訪問より帰国の宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、旅行の話を種々お聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 火曜日 天皇誕生日につき、午前、拝謁の間において宮内庁長官始め総代、皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者の拝賀を、続いて元女官等の拝賀を順次お受けになる。

正午、御進講室において内宴を催され、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御会食になる。貴子内親王が同席する。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、外国交際官等が出席する。なお、天皇誕生日のお祝いとして、お手製の短冊とお手染めの帛紗をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 昭和三十三年度赤十字募金運動の実施に当たり、御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。なお、昭和三十五年以降、毎年続けられてきた日本赤十字募金運動は、この年をもって廃止される。○賜与録、宮内庁庁報

## 五月

一日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸より指導をお受けになり、オオデマリを写生される。○女官長日記、女官日誌

昭和三十三年五月

六日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所へお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日本政府の招待により来日中のアラブ連盟事務総長モハメッド・アブデル・ハーレック・ハスーナ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、外交記録

天皇と共に東の間において、衆参両議院の招待により来日中のブラジル国訪日国会議員団团长田村幸重同国下  
院議員始め同国国會議員及び同夫人計十二名を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

この日法華寺において光明皇后千二百年御忌法要執行につき、天皇・皇后より盛菓子・香華料を賜う。

○女官長日記、贈賜録、賜与録

九日 金曜日 午前九時五十六分天皇と共に御出門、日本橋高島屋に行啓され、日本経済新聞社及び日本陶磁協会共催の「日本陶磁史名品展」を御覧になる。十一時二十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十日 土曜日 午後、天皇と共に花蔭亭通用門外において、この度皇宮警察本部長より表彰された永年勤続功労者、同じく前年度以前に表彰された永年勤続功労者ほかに御会釈を賜う。坂下護衛署長私市良一より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。これ以後、毎年皇宮警察職員の永年勤続功労者に御会釈を賜うことが恒例となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典

式録、宮内庁庁報

この度結核予防事業について財団法人結核予防会総裁故雍仁親王妃勢津子より表彰された者等四十三名に旧北御車寄門内において御会釈を賜う。厚生省公衆衛生局長山口正義より挨拶をお受けになり、次のお言葉を賜う。

結核予防事業に優良な成績を収めた市町村として表彰を受けられた事を喜ばしく思ひます

結核の撲滅は国民保健の上からまことに大切な仕事ですから今後とも益々力を致されるよう望みます

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十一日 日曜日 午後、内廷西玄関において、東京都主催「母の日」大会参会者約六百名に御会釈を賜い、代表者三浦梅子よりカーネーションの花束の献上をお受けになり、次のお言葉を賜う。

皆さんからの見事なお花を有難う。

どうか、体を大切に修養につとめて良い母となり次の時代を担ふ健康で明るい子供を育てて下さい。

また母の日につき、皇太子・正仁親王・貴子内親王より皇后にお品を贈られる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、日経新聞

十三日 火曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、故元侍従職御用掛寺崎英成夫人グエンの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

大聖寺において六世無礙心院宮後土御門天皇皇女 四百五十年、九世宝昌院宮正親町天皇皇女 三百五十年、二十三世勝妙楽院

宮中御門天皇皇女 百五十年の遠忌法要執行につき、同寺に盛菓子・香華料を下賜される。○女官長日記、贈賜録

日本ばら展へ御出品のため、日本バラ会にバラの切り花を下賜される。十五日・十八日にも切り花を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 水曜日 午後、紅葉山御養蚕所へお出ましになり、蚕の生育状態を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 木曜日 第五十四次国際オリンピック委員会総会に参列の委員及び関係者等のため、午後五時より天皇と共に北の間において宮中茶会を催される。同委員会委員のデンマーク国王族アクセル、同委員のイラン国皇弟ゴラム・レザー・パハラヴィー、同委員会会長アベリー・ブランドージ、同委員東竜太郎同委員会総会準備委員会委員長及び同夫人ほかが出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、謁見録、外賓接待録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のユーゴスラビア国特命全権大使ラザール・ラチノヴィチ及び同夫人を招かれ、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に拝謁の間において、イラン国皇帝接伴委員長寺岡洪平の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

来る十九日のイラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィー御来日に先立ち、天皇と共に奥二の間において、前イラン国駐劄特命全権大使山田久就外務次官より同国事情についての進講をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、進講録、宮内庁庁報

十七日 土曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、拝謁の間において、来る六月七日よりブラジル・ペルー両国を訪問する崇仁親王・同妃百合子の首席随員日高信六郎<sup>外務省研修所長</sup>及び随員黒田実<sup>式部官</sup>・天羽美代<sup>式部職出仕</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、国賓のイラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、天皇にパハラヴィー勲章大綬章及び同頸飾が贈られる。なお、皇后には、十二月十六日にセブン・プラネッツ勲章が贈られる。また、皇帝より天皇・皇后にそれぞれ御贈進の品があり、皇后には絨毯が贈られる。

天皇と共に北の間において、イラン国皇帝のため宮中晚餐を催される。御晚餐の後、西の間において舞楽「太平楽」「納曽利」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東京侍従日誌、外賓参内録、イラン国皇帝御来訪関係、宮内庁庁報、官報

二十一日 水曜日 東京国立博物館・朝日新聞社共催によるペルシャ美術展覧会開会式に御臨場のため午前十時三十分御出門、天皇と共に東京国立博物館に行啓される。貴賓室においてイラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーと御挨拶を交わされた後、同展覧会開会式に臨まれる。終わって本館二階の第十一室から第十五室及び特別第三室に展示された古代ペルシャの工芸品などを御巡覧になる。特に、拡大鏡を用いて細密画を詳細に御覧になる。午後零時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、イラン国皇帝御来訪関係、宮内庁庁報、官報、東京国立博物館百年史、朝日新聞

この日、国賓マラヤ連邦首相トウンク・アブドウル・ラーマン・プトウラ及び同夫人の来日に当たり、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を東京国際空港に差し遣わされる。○外賓接待録、典式録、宮内庁庁報、外交記録

二十二日 木曜日 午後四時三十分、天皇と共に北の間において、イラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーのため、宮中茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、イラン国皇帝御来訪関係、宮内庁庁報、官報

二十三日 金曜日 天皇と共に北の間において、国賓のマラヤ連邦首相トウンク・アブドウル・ラーマン・プトウラ及び同夫人のため、宮中午餐を催される。なお、この度の来日に際し、同首相を通じて、マラヤ連邦元首・同妃及び同国セラランゴール州スルタン<sup>副元首</sup>より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には元首の妃ラジャ・ペルマイスリ・アゴングより布地<sup>金糸入り服地</sup>の御贈進がある。

後刻、同首相夫妻参内に対する御答礼のため、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を同首相の宿所帝国ホテルに差し遣わされる。また、二十六日には、天皇・皇后より同首相に御紋付銀製花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報、外交記録

午後、謁見の間において、法華寺門跡の久我高照の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録  
天皇と共に御文庫において、来る六月七日よりブラジル国・ペルー国を訪問する崇仁親王・同妃百合子、並びに皇太子・正仁親王・貴子内親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、儀礼軌範

二十四日 土曜日 第三回アジア競技大会開会式に御臨席のため、午後二時十九分御出門、天皇と共に

に国立競技場に行啓される。便殿において、イラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーと御挨拶を交わされた後、御一緒に開会式に臨まれる。五時十四分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

イラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィー御主催の御晩餐に御出席のため、七時四十七分御出門、天皇と共に光輪閣に行啓される。十時十六分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

二十六日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記

二十七日 火曜日 マラヤ連邦首相トウンク・アブドゥル・ラーマン・プトウラ及び同夫人帰国につき、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を東京国際空港に差し遣わされる。○外賓接待録、典式録、宮内庁庁報、外交記録

二十八日 水曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後一時五分御出門、椿山荘へ行啓される。御休所において故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子・北白川房子・東久邇聡子・梨本伊都子・伏見朝子・賀陽敏子と御対面の後、会場にお出ましになり、余興として木村和子による舞囃子「杜若」、武原はんによる舞踊「松の寿」を御覧になる。また、楽焼の皿に花の絵付けを行われる。庭を御散策になり、出演者ほかに御会釈を賜う。四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日記、内舎人日記、幸啓録、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、藍綬褒章を授与された文部省関係功

昭和三十三年六月

労者等に御会釈を賜う。麻布学園理事長細川潤一郎の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

午後、内廷庁舎において、山口玉糸より指導をお受けになり、野アザミの絵をお描きになる。○女官長

日記、女官日誌

三十日 金曜日 午後三時十九分天皇と共に御出門、東京体育館屋内プール及び国立競技場に行啓され、第三回アジア競技大会の水泳及びホッケー競技を御覧になる。屋内プール貴賓席において、女子並びに男子の四百メートル自由形決勝ほかを御覧になる。ついで国立競技場に移られ、貴賓席においてインド対パキスタンのホッケー競技の前半戦を御覧になる。五時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

三十一日 土曜日 天皇と共に表一の間において、イラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーのため、宮中午餐を催される。なお、天皇・皇后より、皇帝に金銀彩飾壺<sup>富本憲吉作</sup>及び牡丹印金錦クツシヨンを、皇弟に御紋付銀製花瓶を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、イラン国皇帝御来訪関係、外交贈答録、宮内庁庁報

## 六月

一日 日曜日 イラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーより天皇・皇后に、日本国滞在中にお受けになった款待に対する礼電が寄せられる。翌二日、天皇・皇后より答電を寄せられる。○外賓接

待録、宮内庁庁報、官報

二日 月曜日 天皇と共に表一の間において、皇太子始め菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮侍従日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四日 水曜日 午前、天皇と共に御進講室において、崇仁親王・同妃百合子来る七日ブラジル国及びペルー国訪問に出発につき御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀礼規範  
天皇と共に表一の間において、この度離任のフィリピン国特命全権大使フェリノ・ネリ及び同夫人、新任のドイツ連邦共和国特命全権大使ウィルヘルム・ハース及び同夫人、イスラエル国特命全権公使アミエル・エミール・ナジャール及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

五日 木曜日 午後二時一分御出門、大宮御所へ行啓される。昭和二十七年五月十九日に貞明皇后霊代奉遷の儀が行われた際に宮内庁庁舎へ移された貞明皇后の写真を、権殿であった場所に安置される。ついで元皇太后宮女官高松千歳子・同大原慶子の拝謁をお受けになり、四時十一分還啓される。○女官

長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

六日 金曜日 午前九時四十五分天皇と共に御出門、日本橋三越本店に行啓され、郵政省など六団体共催による第十回「伸びゆく電波と電気通信展」を御覧になる。各団体の関係展示を巡られ、順次御覧になる。十一時二十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本放送協会報

午後、御進講室において、来る八日ブラジル国へ出立の大谷光紹と御対面になる。光紹に万那料を下賜される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

十日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、李垠及び同夫人方子の拝謁をお受けになる。同夫妻は米国より一昨日日本に戻り、御機嫌奉伺のため参内した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

天皇と共に北の間において、川端龍子の宮殿裝飾用絵画富士に桜を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十一日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、上蔭を終えた蚕及び天蚕を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになり、正仁親王と共に黄心樹歌会水無月十五番歌合に御臨席になる。天皇及び貴子内親王は途中から出席される。終わって同御殿における立食パーティーに臨まれ、歌合出席者と御歓談の後、御文庫に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

十六日 月曜日 午後、楽部へお出ましになる。先着の久邇朝融、鷹司平通・同夫人和子と御対面になり、ついで参着の皇太子・貴子内親王と御対面になる。直ちに演奏室に入られ、ガスパール・カサドのチェロ演奏、ヘルムート・バルド及び原智恵子のピアノ演奏により、ベートーヴェン作曲「魔笛の主題による七つの変奏曲」、シューマン作曲「トロイメライ」、リムスキー・コルサコフ作曲「熊蜂は飛ぶ」などをお聴きになる。演奏終了後、便殿においてスペイン国特命全権大使並びに演奏者三名

を御引見になる。各演奏者に賜物がある。また、この日特に招待を受けたエスター・ビドル・ローズ、寺崎グエン及び同息女の拝謁もお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十七日 火曜日 午前、御進講室において元侯爵山内豊景夫人禎子<sup>貞愛親王第一王女</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十八日 水曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時十七分御出門、午後零時五十分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十九日 木曜日 午前、天皇と共に八幡温泉から澄空亭付近まで御散策になる。以後、御用邸御滞在中、連日天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

二十三日 月曜日 御散策前、天皇と共に御車寄において、参邸の那須町長益子仁助、同町会議長大森三四郎に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者ほかに御会釈を賜う。

○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

二十七日 金曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午後零時五十分御出門、四時二十五分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 午前、謁見の間において、今般夫人が来日したトルコ国特命全權大使スレイヤ・アンデリマン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、甯子内親王・寛仁親王・宜仁親王・容子内親王・憲仁親王参殿につき御対面になり、崇仁親王・同妃百合子のブラジル国・ペルー国訪問の記録映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七月

一日 火曜日 第三回ユニセフ協力募金運動を実施中の財団法人日本ユニセフ協会に、御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二日 水曜日 午前、内廷庁舎において、この度インドネシア国へ赴任する特命全権大使黄田多喜夫及び同夫人、ベトナム共和国へ赴任する特命全権大使久保田貫一郎及び同夫人、ユーゴスラビア国へ赴任する特命全権大使加瀬俊一及び同夫人、アフガニスタン国へ赴任する特命全権大使仲内憲治及び同夫人、マラヤ連邦へ赴任する特命全権大使林馨及び同夫人の拝謁を順次お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

デンマーク国特命全権大使カルル・クルーゼ夫人カンマ昨日死去につき、天皇・皇后より式部副長を同大使官邸に差し遣わされ、霊前へ生花を供えさせられる。これに対し、後日同大使より宮内庁長官宛てに礼状<sup>七月二十一日付</sup>が寄せられる。○外交贈答録、賜与録、贈賜録

三日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

四日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任宮崎清及び助手四名の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭前にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、グアテマラ国国會議員リオネル・シスニエガ・オテロ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

天皇と共に謁見の間において、今般離任のアルゼンチン国特命全權大使ロドルフォ・ガルシア・アリアス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

謁見の間において、今般夫人が来日したアラブ連合共和国特命全權大使ムースタファ・ユーセフ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁序報

十一日 金曜日 放送事業を御視察のため、午前九時五十六分御出門、天皇と共に千代田区内幸町の日本放送協会に行啓される。放送会館御着後、各スタジオ等を巡られ、邦楽放送テスト、国際放送、テレビ学校放送テスト、テレビドラマテスト等を御覧になり、さらにNHKホールにおいて、洋楽放送テストとして演奏されたNHK交響楽団によるヨハン・シュトラウス二世作曲「皇帝円舞曲」をお聴きになる。十一時二十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

十二日 土曜日 午前、内廷庁舎において北白川房子<sup>神宮祭主</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

昭和三十三年七月

侍従職日誌

十四日 月曜日 午後、内廷庁舎において山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に御文庫において、去る十二日ブラジル・ペルー両国訪問より帰国した崇仁親王・同妃百合子と御夕食を御会食になる。御食後、正仁親王も加わり、去る四月十七日に行幸啓された福岡特殊ガラス工場のカラー映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十五日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時四分御出門、十一時四十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報

十六日 水曜日 午前、天皇と共にお召し船はたぐもにて名島にお出ましになる。以後、御用邸御滞在、しばしば天皇に伴われ海上にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴

二十三日 水曜日 午後、天皇と共に、宮内庁長官宇佐美毅・東宮大夫鈴木菊男・侍従職御用掛小泉信三<sup>与参</sup>の拝謁をお受けになり、約一時間三十分にわたり皇太子妃選考の説明をお聞きになる。なお、

翌二十四日、日本新聞協会加盟の各社により、皇太子妃選考の正式発表までの自主的報道規制が決定される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、朝日新聞社史、毎日新聞百年史、

新聞年表、毎日新聞

二十四日 木曜日 御夕食後、天皇及び皇太子・正仁親王と共に、日本鳥類保護連盟理事長山階芳麿

元皇族及び同夫人の拝謁をお受けになり、山階理事長よりフィンランド国ヘルシンキにおいて開催された第十一回国際鳥類保護会議と国際鳥学会議出席の際の模様につきお聞きになり、理事長持参のスライド等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓書類綴、山階芳麿の生涯、朝日新聞

二十六日 土曜日 学習院女子部・短期大学体育館兼講堂建設の資として、この日、学校法人学習院に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十八日 月曜日 午前、山口玉糸より指導をお受けになり、絹地にサクラの絵をお描きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌

二十九日 火曜日 午後三時三分、天皇及び皇太子十八日・正仁親王十九日と共に葉山御用邸を御出門になり、四時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓書類綴、宮内庁庁報

三十日 水曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

## 八月

一日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時二十五分御出門、午後一時御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二日 土曜日 午前、天皇と共に三沢橋・新千篠園方面に御散策になる。以後、那須御用邸御滞在中

昭和三十三年九月

はしばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十三日 水曜日 午後、この度デンマーク国へ赴任する特命全權大使田付景一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、拝謁録、典式録、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十五日 金曜日 午後、天皇・皇后は宮内庁長官宇佐美毅の拝謁をお受けになり、皇太子と正田美智子との結婚の話を進めることをお許しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、皇室会議録、毎日新聞

この日、千代田区の九段会館において大東亜戦争殉国者顕彰慰霊祭祭典委員会主催による慰霊祭執行につき、天皇・皇后より同委員会に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 午前、山口玉糸より指導をお受けになり、去る七月二十八日に続き絹地にサクラの絵をお描きになる。なお、二十日・二十一日・二十二日にも、山口の指導により絵を描かれる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓書類綴、贈賜録

## 九月

一日 月曜日 関東大震災の日につき、外出を控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

九日 火曜日 久邇侁子の祥月命日につき、お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌

十二日 金曜日 午後零時五十一分、天皇と共に那須御用邸を御出発、四時二十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓書類綴、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十三日 土曜日 午前十時二分御出門、豊島岡墓地に行啓される。御休所において久邇朝融と御対面になった後、祐子内親王墓所の拝座において御拝礼になり、玉串をお供えになる。ついで久邇家墓所に移られ、邦彦王及び侃子の墓所にそれぞれ御拝礼になり、玉串をお供えになる。十時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 日本橋高島屋及び国立近代美術館にて開催中の川合玉堂遺作展を御覧になるため、午前九時五十分御出門、先に第二会場の高島屋に行啓される。川合玉堂遺作展委員会委員児玉希望の説明にて各作品を御巡覧になる。その後、第一会場の国立近代美術館に御移動になる。御休所において、文部大臣灘尾弘吉、国立近代美術館館長岡部長景、玉堂の子息川合真一・同修二、遺作展委員会会長高橋誠一郎の拝謁をお受けになり、近代美術館事業課長河北倫明<sup>遺作展</sup>委員の説明にて各作品を順次御覧になる。終わって御休所に戻られ、川合修二より玉堂のスケッチブックについて説明をお聞きになる。午後零時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のフィリピン国特命全権大使マニユエル・A・アディヴァ及び同夫人・息女二名を御引見になる。続いて、イタリア国特命全権大使マウリリオ・コッピニ

昭和三十三年九月

及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、義宮御殿にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十二日 月曜日 元宮中顧問官小笠原長生去る二十日死去につき、天皇・皇后より祭叢料を賜う。

○恩賜録、贈賜録

二十三日 火曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十四日 水曜日 インド国大統領ラジendra・プラサド近く国賓として来日につき、午前、天皇

と共に奥二の間において同国大統領接伴委員長吉沢清次郎元インド国駐劄特命全權大使より進講をお聴きになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

二十五日 木曜日 天皇と共に表一の間において、新任のフィリピン国特命全權大使マニユエル・

A・アデイヴァ及び同夫人、イタリア国特命全權大使マウリリオ・コッピニ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

夕刻、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 金曜日 午前、天皇と共に表御座所において、式部官長原田健狩野川台風より台風二十二号の影響

のためインド国大統領来訪が一日延期される旨の説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、外賓参内録、幸啓録

二十八日 日曜日 午前十時三十五分、天皇と共に謁見の間において、昨二十七日国賓として来日したインド国大統領ラジendra・プラサドと御会見になる。

夜、天皇と共に西の間において、インド国大統領のため、宮中晚餐を催される。引き続き、宮中夜会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、重要雑録、供御録、供御日録、宮内庁庁報、官報、外交記録、儀礼軌範

二十九日 月曜日 午前、御進講室において、北白川房子<sup>神宮祭主</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

三十日 火曜日 正午前、天皇と共に御文庫において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になり、天皇・皇后からの鮮鯛代料下賜についてのお礼言上をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。その後、和子と共に、御苑内の台風被害の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

台風二十二号により甚大な被害が発生した静岡県・神奈川県・東京都に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、東京都庁所蔵資料

来る十月一日より昭和三十三年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

## 十月

一日 水曜日 午前、拝謁の間において、新任の皇宮警察本部長井上康夫及び前皇宮警察本部長原田章の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、台風二十二号による皇居外濠土堤決壊箇所<sup>の</sup>御視察のため、御微行により自動車にて乾門を御

出門、半蔵門の前をお通りになり、車中より濠端の決壊箇所を御覧になる。その後、坂下門より御入門、御文庫にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録

三日 金曜日 午後七時四十九分天皇と共に御出門、光輪閣に行啓され、インド国大統領ラジェンドラ・プラサド主催の晩餐に御出席になる。十時十六分還啓される。この度の来訪に当たり、インド国大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には象牙化粧セット・印度織物大が贈られる。また、

天皇・皇后より大統領に綴錦梅水禽の図を、同夫人に紙塑人形ペネロベの愛、天平模様絹裂地、桜模様絹裂地御養蚕所製品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

官報、外交記録

四日 土曜日 午後、義宮御殿にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

六日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、米国防長官ニール・H・マツケルロイ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、楽部にお出ましになり、久邇侘子御母、元糸竹会会長追悼のために催された糸竹会の法楽演奏をお聞きになる。久邇朝融・東伏見保子御弟東伏見慈治の夫人が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

七日 火曜日 午前九時五十分、天皇と共に御出門、多摩陵大正天皇陵・多摩東陵貞明皇后陵に行啓される。御着後、天皇に続き、多摩陵を、ついで多摩東陵を御拝礼になる。午後二時五分還啓される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

九日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸の指導をお受けになり、那須で写生された水車の

絵をお描きになる。十六日にも山口をお召しになり、この絵の続きをお描きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

天皇と共に御文庫において、先般ブラジル国・ペルー国より帰国した崇仁親王・同妃百合子、及び皇太子、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と御夕餐を御会食になる。御食後、崇仁親王・同妃持参の両国訪問の記録映画を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、供御日録、供御録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、翌十一日の文徳天皇千百年式年祭に先立ち、東京大学教授桃裕行より文徳天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十一日 土曜日 午前、文徳天皇千百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十二日 日曜日 学習院においてバザー開催につき、常磐会に切り花代料を下賜される。○女官長日記、贈賜録

十四日 火曜日 午前、拝謁の間において、御機嫌奉伺のため参内した京都在住旧堂上会総代の梅園篤彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十五日 水曜日 午前九時二十分天皇と共に御出門、東京国立博物館に行啓され、オランダ国立クラ・ミユラー美術館及び読売新聞社の共催にて開催中の「ファン・ゴッホ展」を御覧になる。東京国立博物館普及課長代理嘉門安雄の説明により、ゴッホの少年期のデッサンからベルギー時代・ハーグ

時代・ヌエネン時代・パリ時代・アルル時代など年代順に代表作を御覧になる。なお、二階会場において「アルルのはね橋」「緋桃」「ひまわり」等を御覧になった際、生前ゴッホが認められなかったことを気の毒である旨を仰せになり、またゴッホの絵の手法についてお尋ねになる。十一時三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京国立博物館百年史、読売

新聞

賀陽治憲<sup>恒憲王第  
二王子</sup>この日結婚につき、天皇・皇后より賀陽恒憲に清酒並びに鮮鯛代料を、治憲に白羽二

重を賜う。○女官長日記、贈賜録

十六日 木曜日 正午過ぎ、表二の間において新任のソビエト連邦特命全権大使ニコライ・トロフィモヴィッチ・フェドレンコ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見

録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、ソビエト連邦特命全権大使ニコライ・トロフィモヴィッチ・フェドレンコ及び同夫人、並びにこの度離任のノルウェー国特命全権大使ヘルスレーブ・フォークト及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、

宮内庁庁報

十七日 金曜日 午前、神嘗祭につき、御文庫より神宮を御遙拝になる。ついで賢所において、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に旧北御車寄門内において、靖国神社秋季靈璽奉安祭に各都道府県代表<sup>沖繩を  
含む</sup>として参列した遺族等に御会釈を賜う。引き続き、天皇と共に、大蔵大臣及び日本銀行総裁から表彰され、さ

らに文部大臣の表彰を加授された優良「こども銀行」受賞代表者等に御会釈を賜い、大蔵省貯蓄推進本部長森永貞一郎大蔵事務次官の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、

宣召録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表御座所において、宮内庁長官宇佐美毅・侍従長三谷隆信・侍従次長稲田周一・侍従徳川義寛より、貴子内親王の結婚についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、稲田周一関係資料

十八日 土曜日 富山県において開催される第十三回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて富山・石川・岐阜各県内の産業及び社会福祉の諸施設等を御視察のため、天皇と共に富山・石川・岐阜三県に行啓される。午前九時三十分御出門になり、原宿駅より富山駅を経て、午後六時四十分富山市の御泊所電気ビルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、

宮内庁庁報、官報、富山県公文書館所蔵資料、富山路の御旅

十九日 日曜日 午前九時四十分、天皇と共に御泊所電気ビルを御出発、富山県庁にお着きになる。屋上より市内の戦災復興状況及び立山連峰、呉羽山を御眺望になり、さらに県特産品を御覧になり、特に安達其峰富山市歌塚町作の鶴の香合を手にとられ、また越中緋について御質問になる。それより第十三回国民体育大会秋季大会開会式場の県富山陸上競技場に向かわれ、開会式に御臨席になる。ついで隣接する県富山球場において国体高校野球の試合徳島商業高等学校対済々黌高等学校を御覧になる。富山県護国神社に御参拝の後、上新川郡富南村の社会福祉法人ルンビニ園を御訪問になる。次に同郡大山町の大川寺公園馬術競技場において国体一般総合馬術競技・野外競技などを御覧になり、午後四時四十三分御泊所電気ビ

昭和三十三年十月

ルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、富山県公文書館所蔵資料、富山路の御旅

二十日 月曜日 午前九時二十五分天皇と共に御泊所電気ビルを御出発、不二越鋼材工業株式会社を御視察になる。その際、機械の並ぶ工場において従業員に怪我はないかとお尋ねになり、また顕微鏡にてベアリングのボールの精度を御覧になる。ついで中新川郡上市町の株式会社池田模範堂を御視察になり、特に手作業の丸薬作りに興味を示される。それより国体ウエイトリフティング競技会場である滑川市公会堂にお着きになり、ヘビーウエイト級の競技を御覧になる。隣接する滑川市役所において御昼食後、魚津市の市立村木小学校を御視察になり、屋上において、昭和三十一年九月の大火からの復興状況を御展望になる。次に黒部市の吉田工業株式会社黒部工場を視察され、YKK印スライドファスナーの特色などをお尋ねになる。午後三時三十五分、下新川郡宇奈月町の御泊所延楽に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、富山県公文書館所蔵資料、富山路の御旅

二十一日 火曜日 午前九時十五分天皇と共に御泊所延楽を御出発、黒部駅より富山駅を経て、富山大学を御訪問、各学部の研究報告をお聞きになる。ついで射水郡大門町の呉羽紡績株式会社庄川工場を御視察になる。御昼食後、新湊市の放生津保育園をお訪ねになり、子供たちによる新聞紙細工を御覧になる。ついで高岡市の東化工株式会社高岡工業所、さらに伏木港を御視察になる。終わって午後四時十分、氷見市の御泊所誉一山荘に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓

録、宮内庁庁報、官報、富山県公文書館所蔵資料、富山路の御旅

二十二日 水曜日 午前九時三十五分天皇と共に御泊所誉一山莊を御出発、国体相撲競技会場の高岡古城公園相撲場において一般団体決勝を御覧になる。ついで砺波市の富山県農業試験場砺波園芸分場を御視察になる。その際、チューリップの促成開花の花芽の発育経過について関心を示され、特にその冷蔵法について御下問になる。西礪波郡石動町の富山県西礪波事務所において御昼食後、石動小学校グラウンドにおいて国体ホッケー競技一般女子決勝を御観戦になる。次に石動駅より石川県の七尾駅を経て、七尾港を御視察になり、午後四時五分、和倉温泉の御泊所加賀屋に御到着になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、富山県公文書館所蔵資料、石川県庁所蔵資料、富山県農業試験場砺波園芸分場所蔵資料、富山路の御旅

二十三日 木曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所加賀屋を御出発になる。和倉駅より穴水駅を経て、輪島市立三井中学校にお着きになる。お野立所においてアテヒノキアスナロの林相を双眼鏡にて御展望になる。

次に輪島市鴨ヶ浦に向かわれる。御着後、海女の貝類採取の実演を御覧になり、次に輪島港を御眺望になる。ついで輪島市役所において御昼食後、工芸家前大峰による輪島漆器の沈金彫実演などの製造工程、また漆器美術工芸品を御覧になる。特に漆器の表面に卵の殻を砕いて埋める方法や、美しい蒔絵の色の出し方について御下問になる。続いて輪島市長永井元雄よりこの年七月の水害状況についてお聞きになった後、同所を御発、穴水駅より和倉駅を経て、午後四時十五分、御泊所加賀屋にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十四日 金曜日 午前九時二十分天皇と共に御泊所加賀屋を御出発、石川県立七尾農業高等学校を御視察になる。その際、牛に害を与える寄生虫の卵の写真を熱心に御覧になる。終わって徳田駅より

昭和三十三年十月

金沢駅を経て、石川県庁において御昼食の後、物産品・農機具類を御覧になる。次に金沢市内の倉庫精練株式会社西金沢工場を御視察になる。その際、加工前と加工後のベンベルグサテンの生地を手にとられ、その違いを天皇にお話しになる。それより兼六園に隣接する成巽閣において、各室及び明治天皇行幸絵巻などの展示品を御覧になる。続いて兼六園に移られ、園内を御巡覧になる。終わって石川県護国神社に御参拝になり、社会福祉法人梅光会、さらに金沢大学医学部を御視察になる。午後五時二十七分金沢市湯涌温泉の御泊所白雲楼に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、

幸啓録、宮内庁庁報、官報、石川県庁所蔵資料、石川県立七尾農業高等学校所蔵資料、財団法人成巽閣所蔵資料、社会福祉法人梅光会所蔵資料、金沢大学行幸啓記録

二十五日 土曜日 午前、天皇と共に御泊所白雲楼の大広間において、九谷焼・加賀友禅の工芸作業実演、その他美術品等を御覧になる。後刻、お一方にて再び大広間において再度作品等を御覧になり、友禅染の染料について御下問になる。午後は降雨のため、予定していた御泊所裏山の御散策をお取りやめになり、御泊所において御休養になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 日曜日 午前九時十五分天皇と共に御泊所白雲楼を御出発、金沢駅より下呂駅を経て、益田郡下呂町の岐阜県立整肢学園を御訪問になる。午後三時四十五分下呂温泉の御泊所湯之島館に御到着になる。その後、岐阜県知事松野幸泰より、この年七月下旬の下呂萩原地区における水害状況についてお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岐阜県庁所蔵資料

二十七日 月曜日 午前八時三十分天皇と共に御泊所湯之島館を御出発、下呂駅より御乗車になり、東京駅に御着後、午後四時二十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十八日 火曜日 午後、謁見の間において、故フィリピン国大統領ラモン・マグサイサイ夫人、故フィリピン国文部大臣グレゴリオ・エルナンデス夫人を御引見になる。兩名は世界一周旅行の途中、日本に立ち寄った。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、米國財務長官ロバート・B・アンダーソン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報、

外交記録

三十日 木曜日 救らい事業奨励の慈善興行として財団法人藤楓協会が主催する特別招待観劇会に天皇と共に御臨席のため、午後六時三十六分御出門、東京宝塚劇場に行啓される。劇場のお席に着かれ、宝塚歌劇星組の公演「光明皇后」及び「三つのワルツ」を御鑑賞になる。正仁親王・貴子内親王、宣仁親王<sup>藤楓協会総裁</sup>・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子が同席する。終わって、八時五十三分還啓される。この

度の行幸啓に際し、天皇・皇后より財団法人藤楓協会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十一日 金曜日 午後、楽部にお出ましになり、エンリコ・マイナルデイのチェロ、カルロ・ゼツキのピアノ演奏をお聴きになる。久邇朝融が陪聴する。終わって、御休所においてイタリア国特命全權大使及び同夫人を御引見になり、続いて演奏者兩名を御引見になる。さらに、吉田音楽事務所所長吉田昇の拝謁をお受けになる。なお、演奏者兩名に御紋付青磁花瓶を下賜される。○女官長日記、女官日誌、賜与録

昭和三十三年十一月

十一月

一日 土曜日 午後、御文庫において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、去る三十日の藤楓協会主催の特別招待観劇会への行幸啓につきお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二日 日曜日 日本ばら展へ御出品のため、日本バラ会にバラの切り花を下賜される。四日にも切り花を下賜される。○女官長日記、侍従職日誌

三日 月曜日 午後、天皇と共に早春亭において、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催から特選児

童に選ばれた健康優良児及び全日本健康優良学校の表彰校代表等に、御会釈を賜う。同会長村山長拳朝日新聞社取締役会長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

四日 火曜日 この度本殿遷座を終えた明治神宮に天皇と共に御参拝のため、午前十時四分御出門になる。御着後、天皇に続き御拝礼になる。ついで御休所において、宮司鷹司信輔・権宮司伊達巽の拝謁をお受けになる。終わって、十一時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に花蔭亭通用門外において、第二回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援を受賞した中学生・高校生等に御会釈を賜う。読売新聞社代表取締役副社長高橋雄豹より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、読売新聞

五日 水曜日 午後、天皇と共に皇居広庭において、園遊会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、園遊会録、典式録、宮内庁庁報

六日 木曜日 午前、謁見の間において、ガール・スカウト世界連盟事務局長レスリー・ホワットレーを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

午後、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

七日 金曜日 午後、藍綬褒章・黄綬褒章・紫綬褒章を授与された厚生省関係功労者等に、旧北御車寄門内において、天皇と共に御会釈を賜う。厚生大臣橋本竜伍より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

九日 日曜日 午後、パレス乗馬倶楽部主催の東京馬術大会を御覧になるため、天皇及び正仁親王と共に旧主馬寮広場にお出ましになる。同広場貴賓席において東京馬術大会会長竹田恒徳・同副会長鈴木木一元侍従次長の拝謁をお受けになり、続いて馬術を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録

十日 月曜日 午前、内廷庁舎において、川合修二川合玉堂子息に御絵をお見せになる。○女官長日記、女官日誌

十一日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、カナダ国大蔵大臣ドナルド・M・フレミング及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報  
天皇と共に表一の間において、この度離任のラオス国特命全権大使ティアオ・カマオ王族及び同妃、新任のカンボジア国特命全権大使シム・ヴァル及び同夫人、インドネシア国特命全権大使R・A・アスマウン及び同夫人を招かれ、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見

昭和三十三年十一月

録、典式録、宮内庁庁報

十三日 木曜日 午後、内廷庁舎において、山口玉糸より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌、内舎人日誌

十六日 日曜日 菊栄親睦会に天皇と共に御臨席のため、午前十時三十六分御出門、港区の綱町三井倶楽部に行啓される。幹事の崇仁親王より、賀陽治憲・同夫人朝子の結婚、及び北白川道久の成年による入会の報告をお聞きになり、崇仁親王・同妃百合子がブラジル・ペルー両国訪問の際に撮影した八ミリ映画を御覧になる。食堂その他において模擬店形式のお食事、庭において会員による余興をそれぞれお楽しみになる。終わって同所を御発、東宮仮御所にお立ち寄りになり、天皇及び皇太子・正仁親王・貴子内親王と御夕餐を御会食になる。午後八時四十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、菊栄親睦会録、宣召録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 都立白鷗高等学校創立七十周年記念式典に御臨席のため、午前九時四十三分御出門、同校に行啓される。御到着後、文部事務次官稲田清助ほかのお出迎えをお受けになり、御休所において東京都知事安井誠一郎・東京都教育委員会教育長木下一雄・白鷗高等学校長両角英運の拝謁をお受けになる。それより式場にお出ましになり、次のお言葉を賜う。

今日の式典に臨んで、親しく皆さんに接することができましたのを、まことに喜ばしく思います。

本校が、女子教育について、長い歴史を持ち、多大の貢献をして来ましたことは、世人の記憶に残るところであります。戦後の新しい制度の下にあつても、よく色々の困難に打ち克つて、

男女生徒の育成に力を尽していることを、心から嬉しく思います。

今後更に、関係者一同が互に協力して、ますます教育の成果を高めるよう、努力することを望んでやみません。

学校長の奉答、校歌合唱をお聴きになった後、式場を御退出になる。それより展示室において生徒による説明を受けつつ、同校七十年史、研究発表の展示、作品等を御覧になる。十一時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十日 木曜日 日比谷公会堂において举行される日本赤十字社関東山静支部連合社員大会に御臨場、ついで帝国ホテルにおけるお茶の会に御臨席のため、午後一時十五分御出門、日比谷公会堂に行啓される。御休所において名誉副総裁崇仁親王妃百合子の挨拶をお受けになり、ついで日本赤十字社社長島津忠承・同副社長葛西嘉資・同石坂泰三・東京都支部長安井誠一郎・茨城県支部長友末洋治・埼玉県支部長大沢雄一・神奈川県支部長内山岩太郎の拝謁をお受けになる。それより式場に臨まれ、名誉総裁として金色有功章受章者総代、章銀の有功章受章者総代、特別社員章受章者総代各九名にそれぞれ各章並びに章記を御親授になる。社長特別表彰に続き、次のお言葉を賜う。

日本赤十字社関東及び山梨静岡の支部連合社員大会に臨み、日頃から、赤十字の事業に熱心に尽力されている皆さんに、親しく接することができましたことを、まことにうれしく思います。

関係支部の事業は、年とともに発展のあと著しいものがありますが、赤十字の重要な使命を果たすためには、各地方の人々の一層の深い理解と支援とを得て、ますます社の基礎を固め、事業を伸ばしてゆかなければならないと思います。

昭和三十三年十一月

この際、関係者の一段の工夫と努力とを希望いたします。

終わって、安井東京都支部長の奉答をお受けになる。式場御退場の後、帝国ホテルに移られ、お茶の会にお出ましになる。言上の間において日本赤十字社各支部長よりそれぞれ言上をお受けになった後、お茶の会会場にお出ましになり、安井東京都支部長より挨拶をお受けになり、約六百五十名とお茶と共にされる。三時五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十一日 金曜日 午前九時十九分天皇と共に御出門、東京都美術館に行啓され、第一回日本美術展覧会を御鑑賞になる。展示会場において各種作品を御覧になり、十時四十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、官報

午後、今般文化功労者となった安藤幸を内廷庁舎にお召しになり、安藤のヴァイオリン演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

夕刻、天皇と共に御文庫において、宮内庁長官宇佐美毅の拝謁をお受けになり、正田家訪問についての報告をお聞きになる。この日、長官は正田家に赴き、皇太子と正田美智子との婚約につき、同家がその申し入れを受けた旨を天皇・皇后及び皇太子にお伝えしたこと、来る二十七日に皇室会議を開くことを同家に伝えた。○侍従日誌、上奏モノ控簿、毎日新聞、読売新聞

二十六日 水曜日 文部省主催の盲聾教育八十周年記念式典に御臨席のため、午前十時五十六分御出門、天皇と共に千代田区の九段会館に行啓される。式典に臨まれ、十一時四十九分還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、内廷庁舎において東洋大学名誉教授加藤虎之亮元宮内府御用掛の進講をお聴きになる。加藤は、先般紫綬褒章受章につき皇后より賜物があり、これに対するお礼の漢詩を作り献上した。この日はこの漢詩の内容についての進講となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、加藤虎之亮関係資料

二十七日 木曜日 午前、東の間において、皇太子が正田美智子と婚姻することについて議決を求め皇室会議が開催される。宮内庁長官宇佐美毅が議案の説明を行い、正田美智子を皇太子妃として最もふさわしい方と考え、皇太子の意思を伺い、八月中旬に天皇・皇后のお許しを得て、同月下旬、正田家に内々に申し入れたこと、正田家は事の意外に驚き固辞したのであるが、話し合いの結果、十一月十三日に同家より内諾を得たこと、正田家に申し入れてから内諾を得るまでの二箇月半の間、美智子本人はもとより正田家の心労が極めて大きかったことなどが述べられるとともに、美智子及び正田家についての紹介がなされる。長官による説明の後、質疑応答を経て、全会一致をもって議案が可決される。皇室会議の終了後、御文庫において侍従次長稲田周一の拝謁をお受けになり、会議の結果の報告をお受けになる。午後、天皇と共に拝謁の間において皇太子と御対面になり、皇太子妃内定のお礼言上をお受けになる。皇太子の退出後、天皇と共に同所において、正田英三郎・同夫人富美子、並びに美智子の拝謁をお受けになる。その際、お礼言上をお受けになり、天皇・皇后よりお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇室会議録、重要雑録、皇太子明仁親王殿下御結婚記録、宮内庁庁報、官報、稲田周一関係資料、入江相政日記

天皇と共に御文庫において、東久邇稔彦・同夫人聡子、東久邇盛厚・同夫人成子、鷹司和子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。ついで御一緒に、皇太子婚約を祝うテレビ放送を御覧になる。○

昭和三十三年十二月

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十八日 金曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代、元皇子傅育官桑折英三郎、女官長始め女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に御文庫において、皇太子婚約のお祝いのため参殿した故雍仁親王妃勢津子・北白川房子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 土曜日 皇太子婚約内定につき、インドネシア国大統領より天皇・皇后に祝電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

## 十二月

一日 月曜日 午前、天皇と共に奥二の間において、フィリピン国駐箚特命全權大使湯川盛夫より同国事情についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮内庁庁報

国賓として来日するフィリピン国大統領カルロス・P・ガルシア及び同夫人レオニラ・D・ガルシアをお出迎えのため、午後三時二十一分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓される。空港行事に臨まれた後、白金迎賓館まで皇后は大統領夫人と御同乗になる。五時三十七分還啓される。この日、皇后より大統領夫人に生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、

宮内庁庁報、官報、外交記録

二日 火曜日 午前十時三十五分、天皇と共に謁見の間において、フィリピン国大統領カルロス・P・ガルシア及び同夫人と御会見になる。

夜、天皇と共に西の間において、大統領夫妻のために宮中晚餐を催される。引き続き、北の間において宮中夜会を催される。この度の来訪に際し、フィリピン国大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはレースが贈られる。また、天皇・皇后より大統領に屏風<sup>四季の草花</sup>を、大統領夫人に染錦花

瓶<sup>十二代酒井田柿右衛門作、捻割丸紋図</sup>及び桜模様絹裂地<sup>紅葉山御養蚕所製</sup>を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、外賓参内録、重要雑録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、外交記録

憲仁親王着袴につき、天皇・皇后より同親王に鮮鯛代料及び御台人形代料を、崇仁親王・同妃百合子に五種交魚代料を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

三日 水曜日 午後七時十五分天皇と共に御出門、光輪閣に行啓され、フィリピン国大統領カルロス・P・ガルシア主催の晚餐に御出席になる。大統領夫妻と御会食の後、フィリピンの民族舞踊等を御覧になり、九時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、

官報、外交記録

元宮内府御用掛加藤虎之亮昨二日死去につき、天皇・皇后より祭染料を賜う。また、皇后より靈前に切り花・菓子をお供えになる。加藤は、漢文学者として、大正十五年より皇太子妃の漢文学御修学に奉仕した。○女官長日記、恩賜録、贈賜録

四日 木曜日 午前、天皇と共に旧北御車寄門内において、我が国において二十年以上社会福祉事業に従事している外国人功労者等に御会釈を賜う。厚生大臣橋本竜伍より挨拶をお受けになり、天皇に

続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

六日 土曜日 フィリピン国大統領カルロス・P・ガルシア及び同夫人帰国につき、天皇と共にお見送りのため、午前八時一分御出門、東京国際空港に行啓される。空港行事に臨まれた後、九時三十七分還啓される。後日、フィリピン国大統領夫人レオニラ・D・ガルシアより皇后に礼状<sup>十二月九日付</sup>が寄せられ、翌年一月二十八日付にて答簡を御発送になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

幸啓録、外賓参内録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

七日 日曜日 御風気御用心のため、この日より十一日まで御仮床に就かれ、さらに十二日以降も度々お床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

八日 月曜日 御風気のため、新任のタイ国特命全権大使チツチャノック・クリダコーン及び同夫人、マラヤ連邦特命全権大使リー・ティアン・ケン及び同夫人・息女、パナマ国特命全権公使ヒルベルト・スクレ及び同夫人の御引見をお取りやめになる。なお、パナマ国特命全権公使夫人よりお見舞いの花束が献上される。○女官長日記、女官日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

十日 水曜日 先日来の御風気のため、この日予定されていたフランス国国務大臣アンドレ・マルロー及び同夫人の御引見にはお出ましにならないこととされる。○謁見録、典式録

十二日 金曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のインド国特命全権大使C・S・ジャール及び同夫人、デンマーク国特命全権大使カール・クルーゼ、新任のタイ国特命全権大使チツチャノック・クリダコーン及び同夫人、マラヤ連邦特命全権大使リー・ティアン・ケン及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

来る十五日から五日間にわたり都下各医療施設等の参加を得て歳末無料健康相談を実施する東京都に  
対し、金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 夕刻、賢所御神楽につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十六日 火曜日 午前、謁見の間において、イラン国特命全権大使アバス・アラムを御引見になり、

同国より御贈進のセブン・プラネッツ勲章の捧呈をお受けになる。翌十七日、天皇・皇后から同国皇  
帝モハンマド・レザー・パハラヴィーに礼電をお送りになる。この御引見は九日に実施予定であつた  
が、皇后の御風気のため、この日に延期された。なお、天皇には、去る五月二十日に同国皇帝と御会  
見になった際に、パハラヴィー勲章大綬章及び同頸飾が贈られた。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎  
人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

正午、天皇と共に表一の間において、皇太子始め菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐の御陪食を賜  
う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、菊栄親睦会録、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 葉山御用邸に天皇と共に行啓のため、午前十時四分御出門、十一時四十分御用邸に  
御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内

庁庁報

二十日 土曜日 午前より御仮床に就かれる。二十二日には天皇が皇居に還幸されるが、皇后は御体  
調を考慮され、引き続き二十七日まで御用邸に御滞在になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

昭和三十三年十二月

二十二日 月曜日 事業御補助のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。また、皇后より財団法人結核予防会に金一封を賜う。このほか御奨励並びに古技保存の思召しにより、皇后より向陽会に金一封を賜う。さらに日本赤十字社病院救助収容患者並びに恩賜財団済生会病院救助収容患者合計八千二百二名に対し、手拭い一筋ずつを下賜される。○賜与録、贈賜録、例規録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 この日、皇太子の誕生日につき、御静養中の葉山御用邸から電話にて、皇太子にお祝いをお伝えになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 木曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。

夕刻、同御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二十七日 土曜日 午前十時三十一分葉山御用邸を御出門、午後零時九分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、崇仁親王・同妃百合子始め皇族・元皇族・元王族より歳末の祝詞言上をお受けになる。引き続き、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に拝謁の間において、日本オリンピック委員会委員竹田恒徳の拝謁をお受けになり、同人の欧州訪問の成果につきお聞きになる。同人は、先般日本オリンピック委員会委員として欧州を歴訪し、オリンピック東京大会開催に向けて招致活動を行い、今般帰国した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌

去る二十七日鹿兒島県大島郡瀬戸内町において火災により甚大な被害発生につき、天皇・皇后より同  
県に御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 火曜日 午前、天皇と共に御文庫において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子よ  
り歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌